

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	1
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	1学期	1	2	2
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	3
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	4
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	5
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
		1年			
	可能性としての歴史 小林 道彦	2学期	2	2	7
		2年			
	家族の再生 小野 憲昭	2学期	2	2	8
		2年			
文化と政治 神原 ゆうこ	2学期	2	2	9	
	2年				
言語と認知 漆原 朗子 他	1学期	2	2	10	
	2年				
共生社会論 伊野 憲治	2学期	2	2	11	
	2年				
戦争と平和 戸蒔 仁司	2学期	2	2	12	
	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	1学期	1	2	13	
	1年				
共同体と身体 伊原木 大祐	2学期	2	2	14	
	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	15
		1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII	2学期	1	2	16
	中島 俊介	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	17
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	18
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・ヘルスI	1学期	1	2	19
	加倉井 美智子	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	20
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	21
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・ヘルスII	2学期	1	2	22
	加倉井 美智子	1年			
	自己管理論	2学期	1	2	23
	生田カツ工、稲月正	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	24
	眞鍋 和博	1年			
	キャリア・デザイン	1学期	1	2	25
	見館 好隆	1年			
コミュニケーションと思考法	2学期	1	2	26	
眞鍋 和博	1年				
プロフェッショナルの仕事	1学期	2	2	27	
見館 好隆	2年				
大学論・学問論	1学期	1	2		
休講	1年				
法律の読み方	2学期	1	2	28	
小野 憲昭 他	1年				
社会調査	2学期	1	2	29	
稲月 正	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズI (サッカー)	1学期	1	1	30
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズI (テニス)	1学期	1	1	31
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI(バスケットボール)	1学期	1	1	32
	原田 守治	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	33
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	34
	美山 泰教	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	35
	鯨 吉夫	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール)	1学期	1	1	36
	高西 敏正	1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン)	1学期	1	1	37
	徳永 政夫	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	38
	磯貝 浩久	1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	39
	原田 守治	1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール)	2学期	1	1	40	
原田 守治	1年				
フィジカル・エクササイズII (バレーボール)	2学期	1	1	41	
美山 泰教	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	42	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン)	2学期	1	1	43	
鯨 吉夫	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー)	2学期	1	1	44	
磯貝 浩久	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ)	2学期	1	1	45
	加倉井 美智子	1年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	46
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	47
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	48
	小野 憲昭	1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー)	1学期	1	2	49
	戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	50
	神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	51
	徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	52
	小野 憲昭	1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー)	1学期	1	2	53
	戸蒔 仁司	1年			
教養基礎演習II	2学期	1	2	54	
眞鍋 和博 他	1年				
教養演習AI	1学期	2	2	55	
神原 ゆうこ	2年				
教養演習AI (防衛セミナー)	1学期	2	2	56	
戸蒔 仁司	2年				
教養演習AI	1学期	2	2	57	
小野 憲昭	2年				
教養演習AII	2学期	2	2	58	
神原 ゆうこ	2年				
教養演習AII (防衛セミナー)	1学期	2	2	59	
戸蒔 仁司	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII 小野 憲昭	2学期	2	2	60
		2年			
	教養演習BI 小野 憲昭	1学期	3	2	61
		3年			
	教養演習BI 神原 ゆうこ	1学期	3	2	62
		3年			
	教養演習BI(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	63
		3年			
	教養演習BII 小野 憲昭	2学期	3	2	64
		3年			
	教養演習BII 神原 ゆうこ	2学期	3	2	65
		3年			
	教養演習BII(防衛セミナー) 戸蒔 仁司	1学期	3	2	66
		3年			
プロジェクト演習I 見館 好隆	2学期	2	2	67	
	2年				
プロジェクト演習II 見館 好隆	1学期	3	2	68	
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし 竹川 大介 他	1学期	1	2	69
		1年			
	地球の生いたち 長井 孝一	2学期	1	2	70
		1年			
	現代人のこころ 田島 司	1学期	1	2	71
		1年			
	私たちと宗教 佐藤 真人	2学期	1	2	72
	1年				
思想と現代 伊原木 大祐	1学期	1	2	73	
	1年				
ものがたりと人間 休講		1	2		
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	文化と表象 真鍋 昌賢	2学期	1	2	74
		1年			
	言語とコミュニケーション 休講	2学期	1	2	
		1年			
	文学を読む 休講	1学期	1	2	
		1年			
	戦争と人間 戸蒔 仁司 他	1学期	1	2	75
		1年			
	現代正義論 重松 博之	2学期	1	2	76
		1年			
	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	77
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	78
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	79
		1年			
	障がい学 伊野 憲治 他	2学期	1	2	80
		1年			
	共生の作法 山本 光英、法学部教員	2学期	1	2	81
		1年			
北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	82	
	1年				
企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	83	
	1年				
つながりの人間学 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁	1学期	1	2	84	
	1年				
現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	85	
	1年				
現代社会の諸問題 山本 光英、法学部法律学科教員	2学期	1	2	86	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	87
		1年			
	国際社会論 稲月 正	1学期	1	2	88
		1年			
	国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	89
		1年			
	民族・エスニシティ問題 久木 尚志 他	1学期	1	2	90
		1年			
	開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	91
		1年			
	グローバル化する経済 前田 淳 他	2学期	1	2	92
		1年			
	テロリズム論 戸蒔 仁司	2学期	1	2	93
		1年			
	国際社会と日本 中野 博文	1学期	1	2	94
		1年			
	歴史の読み方I 八百 啓介	1学期	1	2	95
	1年				
歴史の読み方II 小林 道彦	1学期	1	2	96	
	1年				
そのとき世界は 小林 道彦 他	2学期	1	2	97	
	1年				
戦後の日本経済 迎 由理男	2学期	1	2	98	
	1年				
都市と農村の生活文化史 福間 裕爾	1学期	1	2	99	
	1年				
ものとの人間の歴史 中野 博文	1学期	1	2	100	
	1年				
人物と時代の歴史 新村昭雄 (文)、三宅博之 (法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1学期	1	2	101	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 浅羽 修丈	1学期	2	2	102
		2年			
	情報表現 浅羽 修丈	2学期	2	2	103
		2年			
	プログラミング基礎 中尾 泰士	2学期	2	2	104
		2年			
	プログラミング基礎 中尾 泰士	1学期	2	2	105
		2年			
■外国語教育科目	英語I 下條 かおり	1学期	1	1	106
		律政群 1 - A			
	英語I 葛西 宏信	1学期	1	1	107
		律政群 1 - B			
	英語I 永末 康介	1学期	1	1	108
		律政群 1 - C			
	英語I 石田 由希	1学期	1	1	109
		律政群 1 - D			
	英語I 安丸 雅子	1学期	1	1	110
		律政群 1 - E			
	英語I 野上 良子	1学期	1	1	111
		律政群 1 - F			
	英語I 酒井 秀子	1学期	1	1	112
		律政群 1 - G			
	英語I 木梨 安子	1学期	1	1	113
		律政群 1 - I			
英語II ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	114	
	律政群 1 - A				
英語II 永末 康介	2学期	1	1	115	
	律政群 1 - B				
英語II 葛西 宏信	2学期	1	1	116	
	律政群 1 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語II 石田 由希	2学期	1	1	117
		律政群 1 - D			
	英語II 安丸 雅子	2学期	1	1	118
		律政群 1 - E			
	英語II 下條 かおり	2学期	1	1	119
		律政群 1 - F			
	英語II 酒井 秀子	2学期	1	1	120
		律政群 1 - G			
	英語II 木梨 安子	2学期	1	1	121
		律政群 1 - I			
	英語III ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	1	1	122
		律政群 1 - A			
	英語III デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	123
		律政群 1 - B			
	英語III ジャマール・ミラー	1学期	1	1	124
		律政群 1 - C			
	英語III アレクサンダー・ボードナー	1学期	1	1	125
		律政群 1 - D			
英語III クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	126	
	律政群 1 - E				
英語III ホセ・クルーズ	1学期	1	1	127	
	律政群 1 - F				
英語III デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	128	
	律政群 1 - G				
英語III 船方 浩子	1学期	1	1	129	
	律政群 1 - I				
英語IV リズ・クレシーニ	2学期	1	1	130	
	律政群 1 - A				
英語IV デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	131	
	律政群 1 - B				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語IV	ジャマール・ミラー	2学期	1	1	132
				律政群 1 - C		
	英語IV	アレクサンダー・ボードナー	2学期	1	1	133
				律政群 1 - D		
	英語IV	クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	134
				律政群 1 - E		
	英語IV	ホセ・クルーズ	2学期	1	1	135
				律政群 1 - F		
	英語IV	デビット・ニール・マクレーラン	2学期	1	1	136
				律政群 1 - G		
	英語IV	船方 浩子	2学期	1	1	137
				律政群 1 - I		
	英語V	薬師寺 元子	1学期	2	1	138
				律政群 2 - A		
	英語V	三宅 啓子	1学期	2	1	139
				律政群 2 - B		
	英語V	木梨 安子	1学期	2	1	140
				律政群 2 - C		
英語V	漆原 朗子	1学期	2	1	141	
			律政群 2 - D			
英語V	十時 康	1学期	2	1	142	
			律政群 2 - E			
英語V	安丸 雅子	1学期	2	1	143	
			律政群 2 - F			
英語V	村田 希巳子	1学期	2	1	144	
			律政群 2 - G			
英語V	大塚 由美子	1学期	2	1	145	
			律政群 2 - I			
英語VI	アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	146	
			律政群 2 - A			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VI 三宅 啓子	2学期	2	1	147
		律政群2 - B			
	英語VI 木梨 安子	2学期	2	1	148
		律政群2 - C			
	英語VI 薬師寺 元子	2学期	2	1	149
		律政群2 - D			
	英語VI 十時 康	2学期	2	1	150
		律政群2 - E			
	英語VI 安丸 雅子	2学期	2	1	151
		律政群2 - F			
	英語VI 村田 希巳子	2学期	2	1	152
		律政群2 - G			
	英語VI 大塚 由美子	2学期	2	1	153
		律政群2 - I			
	英語VII デビッド・アンソニー・コフリン	1学期	2	1	154
		律政群2 - A			
	英語VII ホセ・クルーズ	1学期	2	1	155
		律政群2 - B			
	英語VII アレクサンダー・ボードナー	1学期	2	1	156
		律政群2 - C			
英語VII ロバート・マーフィ	1学期	2	1	157	
	律政群2 - D				
英語VII ケネス・ギブソン	1学期	2	1	158	
	律政群2 - E				
英語VII アルバート・オスカー・モウ	1学期	2	1	159	
	律政群2 - F				
英語VII マーニー・セイディ	1学期	2	1	160	
	律政群2 - G				
英語VII 薬師寺 元子	1学期	2	1	161	
	律政群2 - I				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VIII デビッド・アンソニー・コフリン	2学期	2	1	162
		律政群 2 - A			
	英語VIII ホセ・クルーズ	2学期	2	1	163
		律政群 2 - B			
	英語VIII アレクサンダー・ボードナー	2学期	2	1	164
		律政群 2 - C			
	英語VIII ロバート・マーフィ	2学期	2	1	165
		律政群 2 - D			
	英語VIII ケネス・ギブソン	2学期	2	1	166
		律政群 2 - E			
	英語VIII アルバート・オスカー・モウ	2学期	2	1	167
		律政群 2 - F			
	英語VIII マーニー・セイディ	2学期	2	1	168
		律政群 2 - G			
	英語VIII 薬師寺 元子	2学期	2	1	169
		律政群 2 - I			
	中国語I 野村 和代	1学期	1	1	170
		律群 1年			
	中国語II 野村 和代	2学期	1	1	171
	律群 1年				
中国語III 李 東輝	1学期	1	1	172	
	律群 1年				
中国語IV 李 東輝	2学期	1	1	173	
	律群 1年				
中国語V 野村 和代	1学期	2	1	174	
	済営人律政群 2年				
中国語VI 野村 和代	2学期	2	1	175	
	済営人律政群 2年				
中国語VII 馮 雅蓮	1学期	2	1	176	
	済営人律政群 2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	中国語VIII 王 晨	2学期	2	1	177
	済営人律政群 2年				
	朝鮮語I 金 貞淑	1学期	1	1	178
	済営群 1年				
	朝鮮語II 金 貞淑	2学期	1	1	179
	済営群 1年				
	朝鮮語III 金 光子	1学期	1	1	180
	済営群 1年				
	朝鮮語IV 金 光子	2学期	1	1	181
	済営群 1年				
朝鮮語V 金 貞愛	1学期	2	1	182	
済営比人律政群 2年					
朝鮮語VI 金 貞愛	2学期	2	1	183	
済営比人律政群 2年					
朝鮮語VII 金 貞淑	1学期	2	1	184	
済営比人律政群 2年					
朝鮮語VIII 金 貞淑	2学期	2	1	185	
済営比人律政群 2年					
■専門基幹科目	地域学入門 伊野 憲治 佐木 隆三 他 地域創生学群教員	1学期	1	2	186
	1年				
	コミュニティ論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	1	2	
	1年				
	市民活動概論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	1	2	
	1年				
	キャリア学概論 見館 好隆/地域創生学群	2学期	1	2	187
1年					
市民活動実践論 西田 心平/地域創生学群	1学期	2	2	188	
2年					
北九州社会論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2		
2年					

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	地域文化論	1学期	2	2	189
	神原 ゆうこ/地域創生学群	2年			
	危機管理論	2学期	2	2	190
	戸蒔 仁司/地域創生学群	2年			
	キャリア形成論	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	システム活用	1学期	2	2	191
	廣渡 栄寿/地域創生学群	2年			
	まちづくり計画	1学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	192
	伊野 憲治/地域創生学群	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	193
	廣渡 栄寿/地域創生学群	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	194
	佐藤 貴之/地域創生学群	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	195
	中島 俊介/地域創生学群	2年			
	地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	196
	神山 和久/地域創生学群	2年			
地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	197	
片岡 寛之/地域創生学群	2年				
地域創生実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	198	
西田 心平/地域創生学群	2年				
地域創生実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	199	
伊野 憲治/地域創生学群	3年				
地域創生実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	200	
廣渡 栄寿/地域創生学群	3年				
地域創生実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	201	
佐藤 貴之/地域創生学群	3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門基幹科目	地域創生実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	202
	中島 俊介/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	203
	神山 和久/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	204
	片岡 寛之/地域創生学群	3年			
	地域創生実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	205
	西田 心平/地域創生学群	3年			
	スポーツ・ボランティア実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	206
	徳永 政夫/地域創生学群・上村 英樹/非常勤講師	2年			
	スポーツ・ボランティア実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	207
	徳永 政夫/地域創生学群・長野 史尚/非常勤講師	3年			
	障害者スポーツ実習I	1・2学期 (ペア)	2	2	208
	内田 若希/地域創生学群	2年			
	障害者スポーツ実習II	1・2学期 (ペア)	3	2	209
	内田 若希/地域創生学群	3年			
地域創生基礎演習 A	1学期	1	2	210	
伊野 憲治 他 地域創生学群教員	1年				
地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	211	
伊野 憲治 他 地域創生学群教員	1年				
地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	212	
廣渡 栄寿/地域創生学群	1年				
地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	213	
佐藤 貴之/地域創生学群	1年				
地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	214	
徳永 政夫/地域創生学群	1年				
地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	215	
内田 若希/地域創生学群	1年				
地域創生基礎演習 B	2学期	1	2	216	
真鍋 和博 他 地域創生学群教員	1年				

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 C 伊野 憲治/地域創生学群	1学期	2	2	217
		2年			
	地域創生基礎演習 C 廣渡 栄寿/地域創生学群	1学期	2	2	218
		2年			
	地域創生基礎演習 C 佐藤 貴之/地域創生学群	1学期	2	2	219
		2年			
	地域創生基礎演習 C 徳永 政夫/地域創生学群	1学期	2	2	220
		2年			
	地域創生基礎演習 C 内田 若希/地域創生学群	1学期	2	2	221
		2年			
	地域創生基礎演習 D 伊野 憲治/地域創生学群	2学期	2	2	222
		2年			
	地域創生基礎演習 D 廣渡 栄寿/地域創生学群	2学期	2	2	223
		2年			
	地域創生基礎演習 D 佐藤 貴之/地域創生学群	2学期	2	2	224
		2年			
地域創生基礎演習 D 徳永 政夫/地域創生学群	2学期	2	2	225	
	2年				
地域創生基礎演習 D 内田 若希/地域創生学群	2学期	2	2	226	
	2年				
相談援助演習 1 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	1学期	2	2		
	2年				
相談援助演習 2 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	2学期	2	2		
	2年				
相談援助演習 3 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	1学期	3	2		
	3年				
相談援助演習 4 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	2学期	3	2		
	3年				
相談援助実習 坂本 毅啓/地域創生学群	集中	3	6	227	
	3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門基幹科目	相談援助実習指導 1	1学期 (ペア)	3	2	
	夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	3年			
	相談援助実習指導 2	2学期	3	1	
	夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	228
	伊野 憲治/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	229
	廣渡 栄寿/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	230
	佐藤 貴之/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	231
	徳永 政夫/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	232
	内田 若希/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	233
	伊野 憲治/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	234
	廣渡 栄寿/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	235
	佐藤 貴之/地域創生学群	3年			
地域創生演習 B	2学期	3	2	236	
徳永 政夫/地域創生学群	3年				
地域創生演習 B	2学期	3	2	237	
内田 若希/地域創生学群	3年				
地域創生演習 C	1学期	4	2		
平成24年度から開講	4年				
地域創生演習 D	2学期	4	2		
平成24年度から開講	4年				
卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ペア)	4	4		
平成24年度から開講	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域コーディネート論 西田 心平/地域創生学群	2学期	1	2	238
	1年				
	地域調査論 神山 和久/地域創生学群	1学期	2	2	239
	2年				
	NPO論 楢原 真二 他	1学期	1	2	240
	1年				
	政治過程論 濱本 真輔	2学期	1	2	241
	1年				
	公共政策論 楢原 真二	1学期	2	2	242
	2年				
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	243
	2年				
	政策過程論 申 東愛	1学期	2	2	244
	2年				
	公共経営論 狭間 直樹	2学期	2	2	245
	2年				
	都市経営論 古賀 哲矢	2学期	2	2	246
	2年				
	都市経済論 古賀 哲矢	1学期	2	2	247
	2年				
福祉政策論 狭間 直樹	1学期	2	2	248	
2年					
都市環境論 三宅 博之	1学期	2	2	249	
2年					
景観まちづくり論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2		
2年					
福祉環境デザイン論 内田 晃	1学期	2	2	250	
2年					
まちづくり実践論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	3	2		
3年					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門科目	ものづくりマネジメント論	2学期	2	2	
	休講 昼夜交互開講科目	2年			
	法学総論	1学期	1	2	251
	堀田 泰司	1年			
	日本国憲法原論	1学期	1	2	252
	植木 淳	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	253
	植木 淳	1年			
	民法総則	1学期 (ペア)	1	4	254
	中山 布紗	1年			
	民法概論I	1学期	2	2	
	夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	2年			
	民法概論II	2学期	2	2	
	夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	2年			
	社会法総論	2学期	2	2	255
	柴田 滋	2年			
	刑法犯罪論	2学期 (ペア)	2	4	256
	山本 光英	2年			
	刑法犯罪各論I	1学期	3	2	257
	山本 光英	3年			
刑法犯罪各論II	2学期	3	2	258	
大杉 一之	3年				
法と犯罪I	1学期	3	2		
夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	3年				
法と犯罪II	2学期	3	2		
夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	3年				
憲法機構論	1学期	2	2	259	
森脇 敦史	2年				
行政法総論	1学期 (ペア)	2	4	260	
岡本 博志	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	行政争訟法 岡本 博志	2学期	3	2	261
		3年			
	物権法 矢澤 久純	1学期	2	2	262
		2年			
	家族法 小野 憲昭/地域創生学群	1学期	2	2	263
		2年			
	会社法I 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	会社法II 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	企業取引法I 今泉 恵子	2学期	3	2	264
		3年			
	企業取引法II 前越 俊之	2学期	3	2	265
		3年			
	知的財産法 木村 友久	1学期	3	2	266
		3年			
	情報公開・個人情報保護法 森脇 敦史	1学期	3	2	267
		3年			
	現代日本経済入門A 前田 淳	1学期	1	2	268
		1年			
現代日本経済入門B 柳井 雅人	2学期	1	2	269	
	1年				
経済学入門A 後藤 宇生	1学期	1	2	270	
	1年				
経済学入門A 魏 芳	1学期	1	2	271	
	1年				
経済学入門B 田中 淳平	1学期	1	2	272	
	1年				
経済学入門B 安岡 匡也	1学期	1	2	273	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	274
		1年			
	マネジメント論基礎 浦野 恭平	2学期	1	2	275
		1年			
	企業論基礎 山岡 敏秀	2学期	1	2	276
		1年			
	企業論基礎 山岡 敏秀	2学期	1	2	277
		1年			
	簿記論I 白石 和孝	1学期	1	2	278
		1年			
	簿記論I 岡部 勝成	1学期	1	2	279
		1年			
	簿記論II 白石 和孝	2学期	1	2	280
		1年			
	簿記論II 任 章	2学期	1	2	281
		1年			
	統計学I 林田 実	1学期	1	2	282
		1年			
	統計学II 林田 実	2学期	1	2	283
		1年			
数学 吉田 祐治	1学期	1	2	284	
	1年				
経営統計 吉田 祐治	2学期	1	2	285	
	1年				
地域経済I 田村 大樹	1学期	2	2	286	
	2年				
地域経済II 田村 大樹	2学期	2	2	287	
	2年				
金融論I 休講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	金融論II	2学期	2	2	
	休講	2年			
	国際経済論I	1学期	2	2	288
	魏 芳	2年			
	国際経済論II	2学期	2	2	289
	魏 芳	2年			
	経営戦略	2学期	2	2	290
	浦野 恭平	2年			
	産業組織論I	1学期	2	2	291
	後藤 宇生	2年			
	産業組織論II	2学期	2	2	292
	後藤 宇生	2年			
	財政学I	1学期	3	2	293
	安岡 匡也	3年			
	財政学II	2学期	3	2	294
	安岡 匡也	3年			
	人事管理論	2学期	2	2	295
	福井 直人	2年			
	生産マネジメントA	1学期	3	2	296
	北 真収	3年			
生産マネジメントB	2学期	3	2	297	
北 真収	3年				
情報マネジメントA	1学期	3	2		
休講	3年				
情報マネジメントB	2学期	3	2		
休講	3年				
中小企業論	1学期	3	2		
休講	3年				
環境経済学	1学期	3	2		
休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	コンピュータシステム	2学期	1	2	298
	武藤 直彦	1年			
	財務会計論I	1学期	2	2	299
	西澤 健次	2年			
	財務会計論II	2学期	2	2	300
	西澤 健次	2年			
	プログラミングI	1学期	1	2	301
	隈本 覚	1年			
	プログラミングII (新JAVA)	1学期	2	2	302
	平山 克己	2年			
	データ構造	2学期	2	2	303
	隈本 覚	2年			
	データ解析	2学期	2	2	304
	中村 知靖	2年			
	データベース	1学期	2	2	305
	池田 欽一	2年			
	システムデザイン	1学期	2	2	306
	佐藤 貴之/地域創生学群	2年			
	情報管理	2学期	3	2	307
	池田 欽一	3年			
システム設計I	1学期	3	2	308	
平山 克己	3年				
システム設計II	2学期	3	2	308	
休講	3年				
情報ネットワーク	1学期	3	2	309	
隈本 覚	3年				
オペレーションズ・リサーチ	1学期	3	2	310	
齋藤 朗宏	3年				
現代社会と福祉 1	1学期	1	2	311	
河嶋 静代	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	現代社会と福祉 2 小賀 久	2学期	1	2	312
		1年			
	福祉国家論 狭間 直樹	2学期	1	2	313
		1年			
	地域福祉の理論と方法 1 深谷 裕/地域創生学群	1学期	2	2	314
		2年			
	地域福祉の理論と方法 2 渡辺 良司	2学期	2	2	315
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 石塚 優/地域創生学群	1学期	2	2	316
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 石塚 優/地域創生学群	2学期	2	2	317
		2年			
	児童福祉論 河嶋 静代	1学期	2	2	318
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 河嶋 静代	2学期	2	2	319
		2年			
	障害者福祉論 小賀 久	2学期	2	2	320
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 小賀 久	1学期	2	2	321
		2年			
相談援助の基盤と専門職 1 坂本 毅啓/地域創生学群	1学期	1	2	322	
	1年				
相談援助の基盤と専門職 2 坂本 毅啓/地域創生学群	2学期	1	2	323	
	1年				
介護概論 1 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	1学期	3	2		
	3年				
介護概論 2 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	2学期	3	2		
	3年				
低所得者に対する支援と生活保護制度 藤敷 貴治	2学期	2	2	324	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	保健医療サービス 来田 時子	1学期	2	2	325
		2年			
	権利擁護と成年後見制度 小賀 久	1学期	2	2	326
		2年			
	心理学概論 田中 信利 他	2学期	1	2	327
		1年			
	観光社会学 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	2学期	1	2	328
		1年			
	発達心理学 税田 慶昭	1学期	2	2	328
		2年			
	老年心理学 石塚 優/地域創生学群	2学期	2	2	329
		2年			
	教育心理学 村上 太郎	2学期	2	2	330
		2年			
	スポーツ心理学 内田 若希/地域創生学群	1学期	2	2	331
		2年			
	対人心理学 田島 司	1学期	3	2	332
		3年			
	カウンセリング論 中島 俊介/地域創生学群	2学期	3	2	333
		3年			
コミュニケーション論 森永 今日子	1学期	3	2	334	
	3年				
臨床心理学 田中 信利	1学期	3	2	335	
	3年				
心理療法論 中島 俊介/地域創生学群	2学期	3	2	336	
	3年				
リハビリテーション論 夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	1学期	3	2	337	
	3年				
人体の構造と機能及び疾病 小野 二六一	1学期	2	2	337	
	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門科目	医学一般2	2学期	3	2	
	夜のみ開講科目 夜のみ開講科目	3年			
	ボランティア活動論	1学期	1	2	338
	西田 心平/地域創生学群	1年			
	ボランティア活動実践論	1学期	2	2	339
	西田 心平/地域創生学群・伊野 憲治/地域創生学群	2年			
	ボランティア活動運営論	1学期	3	2	340
	西田 心平/地域創生学群・伊野 憲治/地域創生学群	3年			
	スポーツ指導論	1学期	1	2	341
	徳永 政夫/地域創生学群・君原 健二/特任教員	1年			
	障害者スポーツ指導論	2学期	1	2	342
	内田 若希/地域創生学群	1年			
	スポーツ・ボランティア指導論	2学期	1	2	343
	徳永 政夫/地域創生学群	1年			
	スポーツ・ボランティア各論	1学期	2	2	344
	上村 英樹	2年			
	コミュニティスポーツ論	2学期	2	2	
	休講	2年			
	障害者スポーツ各論	2学期	2	2	345
	内田 若希/地域創生学群	2年			
身体適応論	2学期	3	2	346	
高西 敏正	3年				
身体スポーツ論	2学期	3	2	347	
加倉井 美智子	3年				
トレーニング論	1学期	3	2	348	
徳永 政夫/地域創生学群	3年				
健康科学	1学期	3	2	349	
高西 敏正	3年				
社会調査の基礎	1学期	2	2	350	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	相談援助の理論と方法 1 藤藪 貴治	1学期	2	2	351
		2年			
	相談援助の理論と方法 2 松川 素子	2学期	2	2	352
		2年			
	相談援助の理論と方法 3 藤田 博久	1学期	2	2	353
		2年			
	福祉行財政と福祉計画 難波 利光	1学期	2	2	354
		2年			
	福祉サービスの組織と経営 中園 紀明	2学期	2	2	355
		2年			
	社会保障 坂本 毅啓/地域創生学群	2学期	2	2	356
		2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 小林 道彦	1学期	1	2	357
		1年			
	家族を問う 小野 憲昭	2学期	1	2	358
		1年			
	人間と文化 神原 ゆうこ	1学期	1	2	359
		1年			
	ことばの科学 漆原 朗子	1学期	1	2	360
		1年			
	国際学入門 伊野 憲治	1学期	1	2	361
		1年			
	教養としての平和学 戸蒔 仁司	2学期	1	2	362
		1年			
	可能性としての歴史 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	家族の再生 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	文化と政治 (昼のみ開講)		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
言語と認知 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
共生社会論 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
戦争と平和 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
生活世界の哲学 伊原木 大祐	2学期	1	2	363	
	1年				
共同体と身体 (昼のみ開講)		2	2		
(昼のみ開講)	2年				
■スキル科目	メンタル・ヘルスI 中島 俊介	1学期	1	2	364
		1年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■スキル科目	メンタル・ヘルスII 休講	2学期	1	2	365
		1年			
	フィジカル・ヘルスII 内田 若希	2学期	1	2	365
		1年			
	自己管理論 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	365
		1年			
	キャリア・デザイン (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	365
		1年			
	コミュニケーションと思考法 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	365
		1年			
	プロフェッショナルの仕事 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		2	2	365
		2年			
	大学論・学問論 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	365
		1年			
法律の読み方 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	365	
	1年				
社会調査 稲月 正	2学期	1	2	366	
	1年				
フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 徳永 政夫	1学期	1	1	367	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 休講	2学期	1	1	367	
	1年				
■教養演習科目	教養基礎演習I (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	367
		1年			
	教養基礎演習II (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	367
		1年			
	教養演習A I (昼のみ開講) (昼のみ開講)		2	2	367
		2年			
	教養演習A II (昼のみ開講) (昼のみ開講)		2	2	367
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習BI		3	2	
	(昼のみ開講)	3年			
		(昼のみ開講)			
	教養演習BII		3	2	
	(昼のみ開講)	3年			
		(昼のみ開講)			
	プロジェクト演習I		2	2	
	(昼のみ開講)	2年			
	(昼のみ開講)				
プロジェクト演習II		3	2		
(昼のみ開講)	3年				
	(昼のみ開講)				
■テーマ科目	自然学のまなざし	1学期	1	2	
	休講	1年			
	地球の生いたち	2学期	1	2	368
	長井 孝一	1年			
	現代人のこころ	1学期	1	2	
	休講	1年			
	私たちと宗教		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
		(昼のみ開講)			
	思想と現代	1学期	1	2	369
	伊原木 大祐	1年			
	ものがたりと人間		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
		(昼のみ開講)			
	文化と表象		1	2	
	(昼のみ開講)	1年			
	(昼のみ開講)				
言語とコミュニケーション		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
	(昼のみ開講)				
文学を読む	1学期	1	2		
休講	1年				
戦争と人間		1	2		
(昼のみ開講)	1年				
	(昼のみ開講)				
現代正義論	2学期	1	2		
休講	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か 中道 壽一	1学期	1	2	370
		1年			
	人権論 柳井 美枝	1学期	1	2	371
		1年			
	ジェンダー論 力武 由美	1学期	1	2	372
		1年			
	障がい学 休講	2学期	1	2	
		1年			
	共生の作法 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	北九州学 小野 憲昭	2学期	1	2	373
		1年			
	企業と社会 山岡 敏秀	1学期	1	2	374
		1年			
	つながりの人間学 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	現代社会と倫理 伊原木 大祐	1学期	1	2	375
		1年			
	現代社会の諸問題 休講	2学期	1	2	
		1年			
現代の国際情勢 金 鳳珍	1学期	1	2	376	
	1年				
国際社会論 休講	1学期	1	2		
	1年				
国際紛争と国連 戸蒔 仁司	1学期	1	2	377	
	1年				
民族・エスニシティ問題 (昼のみ開講) (昼のみ開講)		1	2		
	1年				
開発と統治 三宅 博之 他	1学期	1	2	378	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	グローバル化する経済	2学期	1	2	
	休講	1年			
	テロリズム論		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	国際社会と日本	1学期	1	2	
	休講	1年			
	歴史の読み方I	1学期	1	2	379
	小林 道彦	1年			
	歴史の読み方II	1学期	1	2	
	休講	1年			
	そのとき世界は		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
	戦後の日本経済		1	2	
	(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年			
都市と農村の生活文化史	1学期	1	2	380	
福間 裕爾	1年				
ものと人間の歴史		1	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	1年				
人物と時代の歴史	1学期	1	2	381	
新村昭雄 (文)、三宅博之 (法)、乗口眞一郎、山崎勇治	1年				
■情報教育科目	エンドユーザコンピューティング	2学期	1	2	382
	廣渡 栄寿	1年			
	データ処理	1学期	1	2	383
	中尾 泰士	1年			
	データ処理	1学期	1	2	384
	廣渡 栄寿	1年			
情報表現		2	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	2年				
プログラミング基礎		2	2		
(昼のみ開講) (昼のみ開講)	2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	ビジネス英語I デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	385
	群 1年				
	ビジネス英語II デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	386
	群 1年				
	ビジネス英語III ジョセフ・ディレンシュナイダー	1学期	2	1	387
	群 2年				
	ビジネス英語IV ホセ・クルーズ	2学期	2	1	388
	群 2年				
■専門基幹科目	地域学入門 伊野 憲治 佐木 隆三 他 地域創生学群教員	1学期	1	2	389
	1年				
	コミュニティ論 石塚 優/地域創生学群	2学期	1	2	390
	1年				
	市民活動概論 西田 心平/地域創生学群	2学期	1	2	391
	1年				
	キャリア学概論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	1	2	
	1年				
	市民活動実践論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	2	2	
	2年				
	北九州社会論 神山 和久/地域創生学群	2学期	2	2	392
	2年				
	地域文化論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	2	2	
	2年				
	危機管理論 休講 昼夜交互開講科目	2学期	2	2	
2年					
キャリア形成論 真鍋 和博/地域創生学群	2学期	2	2	393	
2年					
システム活用 廣渡 栄寿/地域創生学群	2学期	2	2	394	
2年					
まちづくり計画 片岡 寛之/地域創生学群	1学期	2	2	395	
2年					

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門基幹科目	地域創生実習I	1・2学期(ペア)	2	2		
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年				
	地域創生実習II	1・2学期(ペア)	3	2		
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年				
	スポーツ・ボランティア実習I	1・2学期(ペア)	2	2		
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年				
	スポーツ・ボランティア実習II	1・2学期(ペア)	3	2		
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年				
	障害者スポーツ実習I	1・2学期(ペア)	2	2		
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年				
	障害者スポーツ実習II	1・2学期(ペア)	3	2		
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年				
	地域創生基礎演習A	伊野 憲治 他 地域創生学群教員	1学期	1	2	396
			1年			
	地域創生基礎演習B	深谷 裕/地域創生学群	2学期	1	2	397
			1年			
	地域創生基礎演習B	中島 俊介/地域創生学群	2学期	1	2	398
			1年			
	地域創生基礎演習B	神山 和久/地域創生学群	2学期	1	2	399
			1年			
地域創生基礎演習B	片岡 寛之/地域創生学群	2学期	1	2	400	
		1年				
地域創生基礎演習B	西田 心平/地域創生学群	2学期	1	2	401	
		1年				
地域創生基礎演習C	中島 俊介/地域創生学群	1学期	2	2	402	
		2年				
地域創生基礎演習C	神山 和久/地域創生学群	1学期	2	2	403	
		2年				
地域創生基礎演習C	片岡 寛之/地域創生学群	1学期	2	2	404	
		2年				

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 C 西田 心平/地域創生学群	1学期	2	2	405
		2年			
	地域創生基礎演習 D 中島 俊介/地域創生学群	2学期	2	2	406
		2年			
	地域創生基礎演習 D 神山 和久/地域創生学群	2学期	2	2	407
		2年			
	地域創生基礎演習 D 片岡 寛之/地域創生学群	2学期	2	2	408
		2年			
	地域創生基礎演習 D 西田 心平/地域創生学群	2学期	2	2	409
		2年			
	相談援助演習 1 石塚 優/地域創生学群	1学期	2	2	410
		2年			
	相談援助演習 1 深谷 裕/地域創生学群	1学期	2	2	411
		2年			
	相談援助演習 2 石塚 優/地域創生学群	2学期	2	2	412
		2年			
	相談援助演習 2 深谷 裕/地域創生学群	2学期	2	2	413
		2年			
相談援助演習 3 石塚 優/地域創生学群	1学期	3	2	414	
	3年				
相談援助演習 3 深谷 裕/地域創生学群	1学期	3	2	415	
	3年				
相談援助演習 4 石塚 優/地域創生学群	2学期	3	2	416	
	3年				
相談援助演習 4 深谷 裕/地域創生学群	2学期	3	2	417	
	3年				
相談援助演習 5 平成24年度から開講	1学期	4	2	418	
	4年				
相談援助実習指導 1 坂本 毅啓/地域創生学群	1学期 (ペア)	3	2	418	
	3年				

地域創生学群 地域創生学類 (2011年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門基幹科目	相談援助実習指導 2	2学期	3	1	419
	坂本 毅啓/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	420
	中島 俊介/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	421
	神山 和久/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	422
	片岡 寛之/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	423
	西田 心平/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	424
	小野 憲昭/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	425
	中島 俊介/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	426
	神山 和久/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	427
	片岡 寛之/地域創生学群	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	428
西田 心平/地域創生学群	3年				
地域創生演習 B	2学期	3	2	429	
小野 憲昭/地域創生学群	3年				
地域創生演習 C	1学期	4	2		
平成24年度から開講	4年				
地域創生演習 D	2学期	4	2		
平成24年度から開講	4年				
卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ペア)	4	4		
平成24年度から開講	4年				
■専門科目	地域コーディネイト論	2学期	1	2	430
	西田 心平/地域創生学群	1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域調査論 神山 和久/地域創生学群	1学期	2	2	431
		2年			
	NPO論 榎原 真二 他	1学期	1	2	432
		1年			
	政治過程論 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
	公共政策論 休講	1学期	2	2	
		2年			
	地方自治論 森 裕亮	1学期	2	2	433
		2年			
	政策過程論 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	公共経営論 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	都市経営論 昼間開講科目	2学期	2	2	
		2年			
	都市経済論 昼間開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	福祉政策論 狭間 直樹	1学期	2	2	434
		2年			
都市環境論 休講	1学期	2	2		
	2年				
景観まちづくり論 片岡 寛之/地域創生学群	2学期	2	2	435	
	2年				
福祉環境デザイン論 休講 昼夜交互開講科目	1学期	2	2		
	2年				
まちづくり実践論 南 博	1学期	3	2	436	
	3年				
ものづくりマネジメント論 吉村 英俊	2学期	2	2	437	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	法学総論 徳永 達哉	1学期	1	2	438
		1年			
	日本国憲法原論 休講	1学期	1	2	
		1年			
	憲法人権論 植木 淳	2学期	1	2	439
		1年			
	民法総則 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	民法概論I 休講	1学期	2	2	
		2年			
	民法概論II 休講	2学期	2	2	
		2年			
	社会法総論 柴田 滋	2学期	2	2	440
		2年			
	刑法犯罪論 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1学期 (ペア)	2	4	
		2年			
	刑法犯罪各論I 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	刑法犯罪各論II 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
法と犯罪I 大杉 一之	1学期	3	2	441	
	3年				
法と犯罪II 大杉 一之	2学期	3	2	442	
	3年				
憲法機構論 植木 淳	1学期	2	2	443	
	2年				
行政法総論 福重 さと子	2学期 (ペア)	2	4	444	
	2年				
行政争訟法 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	物権法	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年			
	家族法	1学期	2	2	445
	小野 憲昭/地域創生学群	2年			
	会社法I	1学期	3	2	446
	高橋 衛	3年			
	会社法II	2学期	3	2	447
	高橋 衛	3年			
	企業取引法I	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	企業取引法II	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	知的財産法	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	情報公開・個人情報保護法	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	現代日本経済入門A	1学期	1	2	
	休講	1年			
	現代日本経済入門B	2学期	1	2	
	休講	1年			
経済学入門A	1学期	1	2	448	
牛房 義明	1年				
経済学入門B	1学期	1	2	449	
後藤 尚久	1年				
マネジメント論基礎	2学期	1	2	450	
西村 香織	1年				
企業論基礎	2学期	1	2	451	
中間 信博	1年				
簿記論I	1学期	1	2	452	
池口 慶一	1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■専門科目	簿記論II		2学期	1	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目		1年			
	統計学I	林田 実	1学期	1	2	453
			1年			
	統計学II		2学期	1	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目		1年			
	数学	吉田 祐治	1学期	1	2	454
			1年			
	経営統計		2学期	1	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目		1年			
	地域経済I	田村 大樹	1学期	2	2	455
			2年			
	地域経済II		2学期	2	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目		2年			
	金融論I	後藤 尚久	1学期	2	2	456
			2年			
	金融論II		2学期	2	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目		2年			
	国際経済論I	魏 芳	1学期	2	2	457
			2年			
国際経済論II		2学期	2	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目		2年				
経営戦略	浦野 恭平	2学期	2	2	458	
		2年				
産業組織論I	後藤 宇生	1学期	2	2	459	
		2年				
産業組織論II		2学期	2	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目		2年				
財政学I	休講	1学期	3	2		
		3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目	財政学II	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	人事管理論	2学期	2	2	460
	福井 直人	2年			
	生産マネジメントA	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	生産マネジメントB	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	情報マネジメントA	1学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	情報マネジメントB	2学期	3	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	461
	別府 俊行	3年			
	環境経済学	1学期	3	2	462
	牛房 義明	3年			
	コンピュータシステム	2学期	1	2	463
	泉 英明	1年			
	財務会計論I	1学期	2	2	464
	西澤 健次	2年			
	財務会計論II	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年			
	プログラミングI	1学期	1	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1年			
プログラミングII (新JAVA)	1学期	2	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年				
データ構造	2学期	2	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年				
データ解析	2学期	2	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	データベース 池田 欽一	1学期	2	2	465
		2年			
	システムデザイン 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1学期	2	2	
		2年			
	情報管理 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	システム設計I 平山 克己	1学期	3	2	466
		3年			
	システム設計II 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2学期	3	2	
		3年			
	情報ネットワーク 休講	1学期	3	2	
		3年			
	オペレーションズ・リサーチ 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1学期	3	2	
		3年			
	現代社会と福祉 1 河嶋 静代	1学期	1	2	467
		1年			
	現代社会と福祉 2 深谷 裕/地域創生学群	2学期	1	2	468
		1年			
	福祉国家論 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2学期	1	2	
		1年			
地域福祉の理論と方法 1 深谷 裕/地域創生学群	1学期	2	2	469	
	2年				
地域福祉の理論と方法 2 休講	2学期	2	2		
	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 1 休講	1学期	2	2		
	2年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 休講	2学期	2	2		
	2年				
児童福祉論 昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	2学期	2	2	
	休講	2年			
	障害者福祉論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度	1学期	2	2	470
	小賀 久	2年			
	相談援助の基盤と専門職 1	1学期	1	2	471
	坂本 毅啓/地域創生学群	1年			
	相談援助の基盤と専門職 2	2学期	1	2	472
	坂本 毅啓/地域創生学群	1年			
	介護概論 1	1学期	3	2	473
	因 利恵 他	3年			
	介護概論 2	2学期	3	2	474
	因 利恵 他	3年			
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	475
	柴田 滋	2年			
	保健医療サービス	1学期	2	2	
	休講	2年			
	権利擁護と成年後見制度	1学期	2	2	476
	河原 一雅	2年			
心理学概論	2学期	1	2		
休講	1年				
観光社会学	2学期	1	2	477	
	1年				
発達心理学	1学期	2	2	478	
税田 慶昭	2年				
老年心理学	2学期	2	2		
休講	2年				
教育心理学	2学期	2	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■専門科目	スポーツ心理学	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年			
	対人心理学	1学期	3	2	
	休講	3年			
	カウンセリング論	2学期	3	2	479
	中島 俊介/地域創生学群	3年			
	コミュニケーション論	1学期	3	2	
	休講	3年			
	臨床心理学	1学期	3	2	480
	田中 信利	3年			
	心理療法論	2学期	3	2	481
	中島 俊介/地域創生学群	3年			
	リハビリテーション論	1学期	3	2	482
	増本 賢治	3年			
	人体の構造と機能及び疾病	1学期	2	2	483
	村田 直子	2年			
	医学一般2	2学期	3	2	484
	非常勤講師 松尾 和枝 他	3年			
	ボランティア活動論	1学期	1	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1年			
ボランティア活動実践論	1学期	2	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年				
ボランティア活動運営論	1学期	3	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	3年				
スポーツ指導論	1学期	1	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1年				
障害者スポーツ指導論	2学期	1	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1年				
スポーツ・ボランティア指導論	2学期	1	2		
昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	スポーツ・ボランティア各論	1学期	2	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年			
	コミュニティスポーツ論	2学期	2	2	485
	中西 純司	2年			
	障害者スポーツ各論	2学期	2	2	
	昼のみ開講科目 昼のみ開講科目	2年			
	身体適応論	2学期	3	2	486
	高西 敏正	3年			
	身体スポーツ論	2学期	3	2	
	休講	3年			
	トレーニング論	1学期	3	2	487
	徳永 政夫/地域創生学群	3年			
	健康科学	1学期	3	2	
	休講	3年			
	社会調査の基礎	1学期	2	2	488
		2年			
	相談援助の理論と方法 1	1学期	2	2	489
	藤藪 貴治	2年			
	相談援助の理論と方法 2	2学期	2	2	490
	松川 素子	2年			
相談援助の理論と方法 3	1学期	2	2		
休講	2年				
福祉行財政と福祉計画	1学期	2	2	491	
難波 利光	2年				
福祉サービスの組織と経営	2学期	2	2	492	
中園 紀明	2年				
社会保障	1学期	2	2	493	
坂本 毅啓/地域創生学群	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

使用しません。レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

可能性としての歴史【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「歴史にイフは禁物」とよく言われるが、本当にそうなのか？安易なイフの設定はたしかに禁物だが、イフを上手に導入すれば、歴史の失われた可能性が見えてくるだろう。この講義では、おもに日本外交史を講義する中で、いくつかのイフを導入して、日本近代史の別の可能性をみなさんとともに考えていこうと思う。なお、「歴史と政治」「歴史の読み方II」を受講していただいた方が、講義の理解はより深まります。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)など。適宜、講義の中で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日清戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【陸奥宗光】
- 3回 日露戦争 - 戦争回避の可能性はなかったのか？【小村寿太郎】
- 4回 もし、伊藤博文が暗殺されなかったら - 韓国併合回避の可能性はあったか？ - 【山県有朋】
- 5回 もし、明治天皇がもっと長生きしていたら - 2大政党制の誕生 - 【桂太郎】
- 6回 もし、シーメンス事件が発覚しなかったら？ - 大隈内閣と21カ条要求 - 【山本権兵衛】
- 7回 もし、原敬が暗殺されなかったら？ - 政党政治による軍部支配 - 【田中義一】
- 8回 もし、加藤高明が急死しなかったら？ - 外交政策の安定化 - 【護憲三派内閣】
- 9回 もし、若槻礼次郎内閣が崩壊しなかったら？ - 満州事変は失敗していた？ - 【石原莞爾】
- 10回 もし、2・26事件が起こらなかったら？ - 日中戦争回避の可能性 - 【高橋是清】
- 11回 もし、1940年夏にフランスがドイツに勝利していたら？(日独伊三国同盟)【ヒトラー】
- 12回 もし、鈴木貫太郎内閣がポツダム宣言を受諾しなかったら？(太平洋戦争)【本土決戦】。
- 13回 もし、西郷隆盛が亡くならなかったら【西南戦争】【藩閥政府】。
- 14回 歴史にifは必要だ！
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※学生諸君の理解度に鑑みて、講義内容を若干変更する可能性があります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。最低限、高校教科書レベル+αの予習を毎回やってきて下さい。そのための文献は適宜指示します。

履修上の注意 /Remarks

相当量の板書をするので、ノートはこまめにとること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族の再生 【昼】

担当者名 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代家族の状況、家族の形成、再生の試みを紹介しながら今後の家族の行方を探り、家族の可能性、家族とともに生きることを考えてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに-ガイダンス
- 2回 家族を見つめる①
- 3回 家族を見つめる②
- 4回 家族を見つめる③
- 5回 家族モデルを考える①
- 6回 家族モデルを考える②
- 7回 家族モデルを考える③
- 8回 家族の危機を回避する①
- 9回 家族の危機を回避する②
- 10回 家族の危機を回避する③
- 11回 家族の危機を回避する④
- 12回 家族の危機を回避する⑤
- 13回 家庭裁判所の利用を考える①
- 14回 家庭裁判所の利用を考える②
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

文化と政治【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の対立がしばしば政治的な問題となり、その解決のために異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義はそのための基礎的な考え方を身につけることを目的とする。講義の前半は、「文化を知ること」そのものが持つ政治性について講義を行い、後半はその応用として、文化と政治が結びついて立ち現われる具体的な場面に注目して講義を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しないが、以下の参考文献（参考までにどの学部にもふさわしいか記しているが）各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくこと。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 青木保ほか（編）1997 『民族の生成と論理（岩波講座文化人類学5）』 岩波書店（文・外）
- 青木保ほか（編）1997 『紛争と運動（岩波講座文化人類学6）』 岩波書店（法・文・外）
- 岩竹美加子 1996 『民俗学の政治性』 未来社（文・群）
- ジョセフ・E・ステイグリッツ 2002 『世界を不幸にしたグローバリズムの正体』 徳間書店（経・外）
- 陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社（法・文・外・群）
- デヴィッド・ヘルド 2002 『グローバル化とは何か』 法律文化社（経・法・外・群）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか
- 第2・3回 自文化を知ることの政治性：ナショナリズムと文化
- 第4回 自文化を知らないことの政治性：先住民・少数民族の文化に関して
- 第5・6回 異文化を知ることの政治性：「未開の人々」へのエキゾチズム
- 第7回 異文化を知らないことの政治性：人権の概念は世界共通か？
- 第8回 中間試験 / 講義前半のまとめ・講義後半の導入
- 第9回 文化的「他者」への憎悪のメカニズム：ナショナリズム・エスノナショナリズム
- 第10・11・12回 共生のための政治
- 第13・14回 記憶の政治学と文化
- 第15回 まとめ：ネイションとエスニシティの時代を超えて

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験30%、期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

第8回目に中間試験を行うが、中間試験を受けていない学生は期末試験を受けることができないので注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文化と政治の問題は学際性の強い分野です。自分の専門の興味関心と結び付けながら、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

ナショナリズム、エスノナショナリズム、グローバリゼーション、多文化共生

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / Credits 2単位 / 1学期 / Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に認知言語学)、認知科学、心理学の側面から学際的に考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序 (漆原・全員)
- 第2回 視覚と言語1 (未定)
- 第3回 視覚と言語2 (未定)
- 第4回 視覚と言語3 (未定)
- 第5回 ことばはどのように身につけられるのか：言語習得 (漆原)
- 第6回 ことばはどのように失われるのか：失語症・失文法 (漆原)
- 第7回 ことばはどのように処理されるのか：文法と脳科学 (漆原)
- 第8回 前半のまとめ (漆原)
- 第9回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子1 (日高)
- 第10回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子2 (日高)
- 第11回 ことばはなぜヒトに特有なのか：言語と遺伝子3 (日高)
- 第12回 特別講義 (外部講師)
- 第13回 文の形と意味をつなぐもの：文法形式と意味の類像性 (杉山)
- 第14回 左右の区別がなかったら？：ことばと思考・言語相対論 (杉山)
- 第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション (全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への姿勢・取り組み...20% 課題...16% × 5
 外部講師を含む5名の担当教員の課題をすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫って生きたい。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】。
- 第3回～第6回：異文化共存の方法、オリエンタリズムの克服方法【一元論的理解VS.多元論的理解】【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回～第12回：具体的事例「自閉症児者との共存・共生」
- 第13回～14回：文化相対主義の可能性と限界【文化相対主義】【反文化相対主義】【反反文化相対主義】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義受講に当たっては、「国際学入門」[担当：伊野]や「障がい学」[担当：伊野・狭間]を既に受講していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と平和【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次ビジョン科目「教養としての平和学」からさらに進んで、戦争とは何かを体系的に考えてみることをねらいとします。「教養としての平和学」を履修済みの人はもちろん、まだ履修したことのない人の受講も大歓迎です。一言で言えば、「戦争とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 安全保障とは何か
- 3回～6回 第1テーマ 20世紀の戦争I～世界大戦
 - A.戦争と平和(戦争を学ぶ必要性、戦争の定義、戦争と平和)
 - B.戦争の経歴(絶対主義時代の戦争、革命戦争、近代戦争)
 - C.両大戦の特徴(総力化、イデオロギー化、全面化)
 - D.戦争の変質(勢力均衡、アメリカの戦争観)
- 7回～10回 第2テーマ 20世紀の戦争II～核兵器の時代
 - A.原爆の出現(開発、完成、投下)
 - B.核兵器の種類と威力
 - C.核兵器出現に伴う変化
 - D.代理戦争(国際内戦)
 - E.核兵器の役割(抑止概念、抑止条件、相互確証破壊)
- 9回～10回 第3テーマ 21世紀の戦争I
 - A.冷戦終焉と「安全保障の終焉」?(「歴史の終焉?」「文明の衝突?」)
 - B.米国の脅威認識(911、国土安全保障戦略、ブッシュドクトリン、民主主義の拡大)
- 11回～14回 第4テーマ 21世紀の戦争II
 - A.「テロとの戦争」
 - B.破綻国家と人道的介入
 - C.正戦論の復権
 - D.対アフガニスタン武力行使の評価
 - E.イラク戦争
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし。ただし、「教養としての平和学」「国際紛争と国連」「テロリズム論」「戦争と人間」「国際社会と日本」などを受講しておく、さらに深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験は、いずれも難度の高いものであることをあらかじめ認識しておくこと(昨年度は約2~3割の受講者が不合格となっている)。単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

共同体と身体 【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間が自分(たち)の体について抱いている観念は、歴史を通じて必ずしも一貫しているわけではない。身体に対するイメージは、その人間が生きている時代の共同体によって微妙に変化してゆく。

この授業では、共同体と身体という二つの「体」がどのように関係してきたのかを精神的な観点から考察する。継続的な受講により、生活世界と自己とのつながりが以前よりもはつきりと理解できるようになるだろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○B・スネル『精神の発見——ギリシア人におけるヨーロッパ的思考の発生に関する研究』(新井靖一訳)、創文社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 日本的身体のイメージI
- 3回 日本的身体のイメージII
- 4回 近代社会の勃興と心身二元論
- 5回 古代ギリシャの身体観I(プラトンからホメロスへ)
- 6回 古代ギリシャの身体観II(ソポクレス)
- 7回 古代ギリシャの身体観III(通時的総括)
- 8回 キリスト教共同体と身体
- 9回 中間考査(2回~8回の内容確認テストを実施)
- 10回 映画の中の身体I
- 11回 映画の中の身体II
- 12回 文学作品の中の身体
- 13回 現代社会と身体問題の変容I
- 14回 現代社会と身体問題の変容II
- 15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

内容確認テスト...40% 期末レポート...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱われる内容は、1年生向けビジョン科目「生活世界の哲学」の続編である。

「生活世界の哲学」、もしくは担当者による「倫理学」の授業をすでに受けている場合は、本講義についていくのが比較的容易なはずである。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

昨年度は課題提出に際していくつかの深刻な不正が発覚したため、今年度から本授業はより一層厳格かつ厳密な成績評価法に変更している。それゆえ、この授業に登録予定の諸君には、ダンテ『神曲』の中から以下の有名な言葉を贈っておきたい。

「Lasciate ogne speranza, voi ch'intrate. (ここに入るあなたがたは一切の希望を捨てよ。)」

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス(心の健康)を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な人格を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」を前提として、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

教科書 /Textbooks

テキスト 特になし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック【とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。ライフスタイルとは。ライフスタイル診断。【アドラー心理学】
 - 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
 授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
 実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ライフ・スキル

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習) ソフト・ トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義) ストレッチの理論
- 5回 (実習) ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義) ふとる・ やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習) 軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義) フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習) 球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習) 球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義) これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義) これからの運動②【体力の維持・ 向上】、【継続性】
- 13回 (講義) レッツ・ スポーツ【計画・ 企画】
- 14回 (実習) レッツ・ スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 生田カツ工、稲月正

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

青年期である大学生は自我意識が高まる時期であり、初めて一人暮らしをする学生にとっても、自己決定に基づく健康的で自立した生活することは容易なことではない。これからは、様々な角度から自己管理についての正しい知識と、自分を守り人にも役立つ健康の意識を高め、実践力を身につけることが大切である。今回の自己管理論は、各分野におけるプロフェッショナルの実体験や知識を学び、社会人になっても大いに役立ち、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりをめざす。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第 1 回 自己管理I総論【保健師】：自己管理に必要な青年期の心身両面からの問題を総論する。
- 第 2 回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とは何か。被害にあわないための具体的な自己防衛法を学び生活に役立てる。
- 第 3 回 自己管理II体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す。
- 第 4 回 若者にもっとも大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的な栄養の知識を身につける。
- 第 5 回 歯と口の健康を保つセルフケア【歯科医師】：歯及び口腔のセルフケアを学び豊かな人生を送るための基礎を養う。
- 第 6 回 薬と健康【薬剤師】：薬の効果、サプリメントなど健康のための薬の知識を学ぶ。
- 第 7 回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ。
- 第 8 回 自己管理III心の健康【保健師】：心と身体の関係から起こる疾病の予防や対策を学ぶ。
- 第 9 回 健康な体と感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ。
- 第 10 回 救急法I【消防士】：救急法I、IIは講義と救急救命の実技を組み合わせで行う。
- 第 11 回 救急法II応急手当の方法、心肺蘇生法の手順など、事故・災害時での身の守り方、人命救助の具体的方法を学習する。
- 第 12 回 障害とノーマラージュエーション【作業療法士】：障害者の自立生活を支援するための資源、サービス、情報など身近な事柄として紹介する。
- 第 13 回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害・ハラスメント防止などの知識と予防対策を学ぶ。
- 第 14 回 自己管理まとめ【保健師】：小試験・ポイント・記述などで総合的に理解を深める。

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②まとめ(小試験・ポイント・記述など)：40%、①②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1 1回目の総論で「自己管理のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語をしない。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は正直に自己管理授業用の欠席届を提出する。
- 5 救急法の実技時には、上靴、スラックスなど着用する。
- 6 最終回の「自己管理まとめ」授業は小試験のため必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業内のレポート...30% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、

- ①様々な業界や企業、そして働き方など社会について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る
- ③初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動や公務員試験、教員試験、大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、経験学習)
- 6回 自分を知る③ (自分の対人特性、自分の強みを伸ばす、自分の弱みを受け入れる)
- 7回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 9回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 10回 地域活動とインターンシップ (地域活動やインターンシップ経験した先輩とのディスカッション)
- 11回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 12回 就職活動を知る① (就職活動や公務員試験を体験した先輩とのディスカッション)
- 13回 就職活動を知る② (実際の就職試験を体験、その他面接など選考方法)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特別な準備は必要ありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

履修上の注意 /Remarks

必修ではありませんが、将来の進路のために大学生生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」が本講義いずれかを履修することをお勧めします。また、毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターンシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー

コミュニケーションと思考法【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でポイントになります。また、複雑化・成熟化した社会では、単に言われたことをこなすのではなく問題を発見し解決に導いていくための『考える力』が求められます。授業の前半では、講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングしていきます。後半では、仕事をする上で重要な思考法についてその基礎を学びます。

教科書 /Textbooks

コミュニケーションに関するテキストを使用します。別途告知します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 全体ガイダンス	【授業の目的、授業のルール】
2回 会話とストレートトーク	【コミュニケーションとは、大切さ】
3回 言動の基本、伝え方	【話力とは、聞き手に心を開いて話をする】
4回 話し方に心理学を応用する(1)	【行動パターンによるコミュニケーション】
5回 話し方に心理学を応用する(2)	【良い人間関係を作るコミュニケーション】
6回 話し方に心理学を応用する(3)	【日常会話、スピーチ、プレゼンテーション】
7回 対応マナー	【どう話すのか、話す時の立ち振る舞い】
8回 電話対応	【電話・手紙のマナー】
9回 敬語を上手に使い話力を高める	【敬語の使い方】
10回 話し方 TPO	【シチュエーションを考える】
11回 プレゼンテーションをやってみる	【考えをまとめて発表する】
12回 思考法(1)	【ロジカルシンキング、演繹法、帰納法】
13回 思考法(2)	【ロジカルシンキング、ロジックツリー】
14回 思考法(3)	【クリティカルシンキング】
15回 まとめ	【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。しかし、抽選に当たったにも関わらず、授業に参加しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、論理的思考法、帰納法、演繹法、クリティカルシンキング

プロフェッショナルの仕事【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立ち頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの仕組み ②仕事の現実と成長する秘訣 ③将来のヒントを学びます。

<進め方> 講演者の企業や仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<期待される効果> 将来の自分の進路がイメージできない人は、様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くヒントを得ることができます。また、企業や団体の第一線でいきいきと輝いて働いている社会人の話を聴くことで、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解できます。

なお、企業・団体は先方の都合もあり毎年変わります。事情によってはビデオ上映の場合もあります。

以下は2010年度の実績です。

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。企業・団体によっては会社案内などを当日配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

以下書籍はその参考例です。

○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所

○中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社

○モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社

見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2～14回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

第15回 まとめ

※2010年度の実績

ジェイコム北九州、リクルート、北九州市役所、門司港ホテル、スターフライヤー、デンソー九州、日本生命、朝日新聞社、東芝物流、コクヨ、ナフコ、山口銀行

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講演者が所属する企業・団体および仕事について必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※1学期の「キャリア・デザイン」を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

※本務でお忙しい中、本学の学生のために、わざわざ来学していただいている講演です。よって、以下の4項目は特別な事情があるときを除き厳守してください。①遅刻厳禁 ②携帯操作厳禁(マナーモードでバッグの中に) ③脱帽 ④飲食禁止

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
キャリア・スキル

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の実在形式】【法源】【罪法定主義】
- 5回 刑法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 民事判例を読む①【判例】【先例】【認定事実】
- 7回 民事判例を読む②【判例研究の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 8回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 9回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 10回 民法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 11回 民法の視点から社会を読む②【相続】【遺言】【失権】
- 12回 刑法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 13回 刑法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 14回 民法と刑法の交錯する世界を読む【民事責任】【慰謝料】【制裁】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 期末試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'11』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、テニスの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(1)
- 3回 ストロークの基礎練習(フォアハンド)(2)
- 4回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(3)
- 5回 ストロークの基礎練習(バックハンド)(4)
- 6回 サービスの基礎練習(1)
- 7回 サービスの基礎練習(2)
- 8回 ボレーやスマッシュの基礎練習(1)
- 9回 ボレーやスマッシュの基礎練習(2)
- 10回 ルール・戦術の説明
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI(バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 フライト練習(1) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 3回 フライト練習(2) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 4回 フライト練習(3) <ハイクリアー、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ>
- 5回 サーブ練習<ショートサービス、ロングサービス>
- 6回 攻めと守りのコンビネーション練習(1)
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(2)
- 8回 ルール説明(1) <シングルス>
- 9回 ルール説明(2) <ダブルス>
- 10回 シングルスゲーム(1)
- 11回 シングルスゲーム(2)
- 12回 ダブルスゲーム(1)
- 13回 ダブルスゲーム(2)
- 14回 ダブルスゲーム(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関する諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バレーボールの基礎(1) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 3回 バレーボールの基礎(2) <パス編>(オーバーパス・アンダーパス)
- 4回 バレーボールの基礎(3) <サーブ編>
- 5回 バレーボールの基礎(4) <サーブ編>
- 6回 バレーボールの基礎(5) <アタック編>
- 7回 バレーボールの基礎(6) <アタック編>
- 8回 バレーボールの基礎(7) <ルール編> ルールの習得
- 9回 バレーボールの応用(1) フォーメーション
- 10回 バレーボールの応用(2) ゲーム展開
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 基本技術(フライト)の学習(1)
- 4回 基本技術(フライト)の学習(2)
- 5回 基本技術(フライト)の学習(3)
- 6回 基本技術(サービス)の学習
- 7回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(1)
- 8回 基本技術(フライトのコンビネーション)の学習(2)
- 9回 ルールの説明
- 10回 ゲームの練習
- 11回 リーグ戦形式の試合(1)
- 12回 リーグ戦形式の試合(2)
- 13回 リーグ戦形式の試合(3)
- 14回 リーグ戦形式の試合(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 ストロークの基礎練習 (フォアハンド・バックハンド)
- 3回 フライトの基礎練習 (1) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 4回 フライトの基礎練習 (2) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 5回 フライトの基礎練習 (3) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 6回 フライトの基礎練習 (4) (クリアー・ドロップ・スマッシュ・ドライブ・ヘアピン)
- 7回 サービスの基礎練習
- 8回 ラリーゲームでの応用練習 (クリアー・ドロップ・ヘアピンのコンビネーション)
- 9回 ルール・戦術の説明
- 10回 攻めと守りのコンビネーション練習
- 11回 シングルスゲーム (1)
- 12回 シングルスゲーム (2)
- 13回 ダブルスゲーム (3)
- 14回 ダブルスゲーム (4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
スキル科目
ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 原田 守治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バスケットボールの実技をとって、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 受講上の注意
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1、3対2)(1)
- 6回 応用練習(2対1、3対2)(2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(1)
- 10回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド、速攻など)(2)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)・(2-1-2)
- 12回 ゲーム(2) マンツーマンディフェンス
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バレーボールの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <アンダーサーブ、オーバーサーブ、フローターサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス、オーバーパス>
- 5回 パス練習(2) <アンダーパス、オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド、センター>
- 8回 アタック練習(2) <サイド、センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1)
- 12回 ゲーム(2)
- 13回 ゲーム(3)
- 14回 ゲーム(4)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修に関しての諸注意およびガイダンス
- 2回 基本的なインサイドステップのシュートパス練習
- 3回 トラッピングからのパス練習
- 4回 リフティング
- 5回 ミニゲーム (1) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 6回 ミニゲーム (2) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 7回 ミニゲーム (3) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 8回 ミニゲーム (4) チームごとにテーマを持たせてのミニゲーム
- 9回 ルール説明
- 10回 ゲーム (1)
- 11回 ゲーム (2)
- 12回 ゲーム (3)
- 13回 ゲーム (4)
- 14回 ゲーム (5)
- 15回 スキル獲得の確認テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の展開方法や履修についての諸注意およびガイダンス
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト(1)
- 5回 基本的な打ち方とフライト(2)
- 6回 応用組み合わせ練習(1)
- 7回 応用組み合わせ練習(2)
- 8回 ゲーム展開の展開方法と審判法の習得
- 9回 戦術の説明
- 10回 ゲーム(1)
- 11回 ゲーム(2)
- 12回 ゲーム(3)
- 13回 ゲーム(4)
- 14回 ゲーム(5)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、サッカーの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(1)
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の修得とゲーム(2)
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(1)
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の修得とゲーム(2)
- 9回 サッカーの戦術の修得と試合(1)
- 10回 サッカーの戦術の修得と試合(2)
- 11回 審判法の修得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 スキル科目
 ラーニング・スキル

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、レクリエーションスポーツ種目も含め、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、受講上の注意
- 2回 バレーボール(1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン(1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球(2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール(1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール(2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス(1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス(2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目(1)
- 13回 選択種目(2)
- 14回 選択種目(3)
- 15回 スキル獲得の確認(選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門： 本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、身近な現象について論じているテキスト『下流社会第2章』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、議論の行い方、論点の見つけ方を学び、後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000～4000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

三浦展 2007 『下流社会 第2章：なぜ男は女に“負けた”のか』光文社新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：大学の授業とは / ノートの取りかた
第2回 思考を発展させる読書のしかた：本を探しかたと読書ノートの活用について
第3回 レジュメの作りかた
第4・5・6・7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
テキスト：三浦展 『下流社会 第2章』
第8・9回 レポートの書きかた
第10・11・12・13・14回 レポート構想報告
第15回 文章を推敲する：レポートの相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第15回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・出席者の報告、レポート添削と再提出のプロセスを重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。
- ・現代社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習I【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
 キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習IIもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習II」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習II」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練： 教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行う。具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、より関心の近い受講者同士のグループワークやディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げることを試みる。その成果を活かし、学期末にはIのレポートをブラッシュアップすることを目指す。この演習を通して、ひとつのテーマについてじっくり取り組むという、研究の基礎的な姿勢を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：研究の入り口としての考えるを深める作業
- 第2・3回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評
- 第4・5回 グループワークの説明 / 視点を広げるためのミニ・ワークショップの企画
- 第6・7・8回
ミニ・ワークショップの実行(グループワーク)
- 第9・10・11回
テキスト輪読と議論
- 第12・13・14回
レポート構想報告
- 第15回 文章を推敲する：レポート相互添削

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言など)50%
 レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

グループワークでは、場合によっては授業時間以外もメンバーとの打ち合わせが必要になることがあります。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とするが、教養基礎演習IIのみ受講したい者は、必ず事前に相談すること(受講のためのレポート課す場合がある)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

共同作業を通して、自分の能力を最大限引き延ばすことは、大学を出てからも必要です。積極的な授業参加を期待します。

キーワード /Keywords

グループワーク、多角的視野、レポートの書き方

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
 スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養基礎演習Iもあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』(必ず購入)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養基礎演習I」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけではなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接遇スキルを学び磨いていく講義です。

「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接遇スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思います。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養演習 AI 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える①：本演習では、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性を考えたい。漠然と卒業論文で（インタビュー調査、参与観察などの）質的調査をとりいれてみたいと考えている学生は多いと思うが、はたしてその興味関心にアプローチするのに質的調査は適切だろうか。本演習では、社会調査法のみを学ぶのではなく、その前段階として質的調査を研究にどのように活かすかから学ぶことを目的とする。

教科書 /Textbooks

佐藤郁哉 2006 『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』 新曜社
 ※このほか、受講者の関心に合わせて民族誌を2冊程度読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
 ※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：本演習の目的
 第2回 質的調査についての基本的説明
 第3・4・5・6・7・8回 民族誌を2冊程度輪読し、質的調査の特性について議論する。
 （第1回の出席者の関心に応じて読む民族誌を選択する。候補としては、佐藤郁哉『暴走族のエスノグラフィー』、ジェニファー・ロバートソン『踊る帝国主義』、工藤正子『越境の人類学』など）
 第9・10・11回 これまで読んだ民族誌が記述される裏側を考察する。
 テキスト：佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版：書を持って街へ出よう』
 第12・13・14回 実習：記憶を語ること、記録されること
 （インタビュー調査、参与観察の手法からわかることとその限界を考察する。）
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、期末レポート50%、その他の提出物25%
 第12・13・14回の実習欠席者は単位を出さないで注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習参加者には、輪読のテキストについて各自で読書ノートを取ることが求められる。具体的な説明は第1回で行う。

履修上の注意 /Remarks

実習の成果を教養演習AIIでフィードバックするので、教養演習AIIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 受講する段階で明確な研究関心を持っている必要は特にありませんが、演習を通して研究関心を見つけようとする意志は持ってください。
- ・ グループワークを取り入れるので、受講者同士が積極的に協力関係をつくることを期待します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AII」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、内容に応じて積極的に情報検索をしてみてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 A II もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AII 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会へのアプローチ法を考える②：本演習では、教養演習 AI を踏まえて、質的調査から何を知ることができるのか、その可能性をさらに考えたい。演習の前半では教養演習 AI でとirkんだ実習の経験を踏まえ、研究対象や問題設定に応じて、インタビューや観察をより効果的に行うための質的調査の方法を学ぶ。演習の後半では、これまでの演習のまとめとして、自分の興味関心に適した質的調査を行うためのデザインの仕方を検討する。

教科書 /Textbooks

箕浦康子（編）1999 『フィールドワークの技法と実際』 ミネルヴァ書房
 谷岡一郎 2000 『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』 文藝春秋
 ※このほか受講者の関心に合わせて民族誌をもう1冊読む。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐藤郁哉 2002 『フィールドワークの技法：問いを育てる、仮説をきたえる』 新曜社
 ※そのほか必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1・2・3回 聞き取りや観察の方法について：教養演習 AI のレポートから
 第4回 実習（再）：記憶を語ること、記録されること
 第5回 調査をデザインするために：エスノグラフィーと調査者の立場のいくつかのパターン
 第6・7回 マイクロエスノグラフィーの手法について
 テキスト：箕浦康子（編）『フィールドワークの技法と実際』
 第8・9・10回 日常世界を分析するエスノグラフィー（輪読と議論）
 （受講者の関心にに応じて読む民族誌を選択する。候補としては、A.R. ホックシールド2000『管理される心』、ロバート・J・スミス『須恵村の女たち』など。）
 第11・12・13回 事前準備のために（輪読と議論）
 テキスト：谷岡一郎『「社会調査」のウソ：リサーチ・リテラシーのすすめ』
 第14・15回 まとめとレポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の報告25%、中間レポート25%、期末レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第4回のあとに、インタビューや観察を用いた質的調査についての中間レポートを課します。教養演習 AI の復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

教養演習 AI を受講していること。やむを得ない事情で教養演習 AII のみの受講を希望する者は必ず事前に相談すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文、ゼミ論文などに、質的調査を取り入れてみたいと考える学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

質的調査、民族誌、

教養演習 AII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習AI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習AI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習AI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

北九州の発見学として平成19年度から開講している「北九州学」。この科目の講義内容、講義計画を教員と学生により共同企画するゼミです。講義内容に関わる情報の収集・調査、北九州地域に興味と関心がある方に、学部を問わずに参加していただきたいと思っています。本年度は、平成23年度開講予定の「北九州の政治行政」、平成24年度開講予定の「北九州の経済」をテーマに講義計画を策定します。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示しますが、積極的に情報検索を試みてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 情報収集・調査
- 3回 情報収集・調査
- 4回 報告・検討・討論
- 5回 情報収集・調査
- 6回 情報収集・調査
- 7回 報告・検討・討論
- 8回 情報収集・調査
- 9回 情報収集・調査
- 10回 報告・検討・討論
- 11回 情報収集・調査
- 12回 情報収集・調査
- 13回 報告・検討・討論
- 14回 報告・検討・討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの積極的参加度... 20% 活動内容... 20% 活動報告レポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要に応じて現地調査や見学、関係者へのインタビューも実施していただきます。情報収集も自ら進んで行うよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

* 教養演習 AI もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習BI【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄 『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄 『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨 『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなるとと思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習 B I 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

国家と社会についての重要文献読解：卒業論文の執筆を来年に控え、専門性の高い論文を読み始めた学生が、論文を読み進めるにあたってぶつかる壁のひとつは、文中に引用される古典文献を理解することであると思われる。本演習では、メインテキストである『社会とは何か』を読み進めつつ、言及されている論点の一つである国家と社会に関する引用古典文献を読み進めることを試みる。この作業を通して、原典に当たりながら論文を読み、考察することの重要性を実感してもらおう。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』中公新書
 ユルゲン・ハーバーマス1994 『公共性の構造転換：市民社会の一カテゴリーについての探究（第2版）』細谷貞雄、山田正行（訳）未来社
 ベネディクト・アンダーソン 2007 『定本 想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや（訳）書籍工房早山

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

- 第1回 導入(1)：演習の説明
- 第2回 導入(2)：社会と国家の概念について背景説明
- 第3回 『社会とは何か』1章
- 第4回 『社会とは何か』2章
- 第5・6・7・8回 『公共性の構造転換』
- 第9回 『社会とは何か』3章
- 第10回 『社会とは何か』4章
- 第11・12・13・14回 『想像の共同体』
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の報告50%、提出物50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多少難解なテキストを含むので、受講者の理解度を確保するために読書ノートの提出を義務付ける。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIIも続けて受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

哲学思想の基礎を踏まえて論じられている文献を独力で読みこなすのは大変ですが、人文社会科学系の研究には重要なことです。上記のテーマに興味のある学生の出席を歓迎します。

キーワード /Keywords

社会、国家、公共性、ナショナリズム

教養演習BI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BII」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。ただし、1~2回は高級幹部(1佐・将補の司令クラス)を招聘し、講演会に充てたい。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習BI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、将来、自衛隊の幹部候補生試験を受ける可能性のある者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 B II 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法判例を素材として、家族に関する法律問題解明の方法を検討するとともに、問題発生の原因や要因を探りながら、問題を根本的に解決するために私たちはどうしたらよいかを一緒に考えて見ようと思っています。

教科書 /Textbooks

水野紀子他編著『家族法判例百選〔第7版〕』有斐閣（2008年10月）2,400円を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉 久雄 『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助=泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円。その他必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献検索の仕方
- 3回 判例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 判例研究の方法
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容... 20% 討論への積極的参加度... 20% 期末のレポート... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、法学部の学生については特に「家族法」を合わせて受講すればより一層理解が深まると思います。また、「家族を問う」、「家族の再生」を受講していることも家族の現状を理解することの助けとなると思います。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BIもあわせて受講するようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学は受講生が主体的に取り組むのでなければその成果は上がりません。自ら進んで研究報告に取り組むとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告の際には、レジユメを用意してください。

キーワード /Keywords

教養演習BⅡ【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

共同体と排除についての重要文献読解： 本演習は、教養演習BⅠの続きである。BⅠで取りあげたメイン・テキスト『社会とは何か』のもう一つの論点である、共同体と排除について、隣接する近年の文献と古典文献を関連付けながら理解を深める。この作業を通して、一つの文献から関連する他の文献へと思考を広げる訓練を行う。

教科書 /Textbooks

竹沢尚一郎 2010 『社会とは何か』 中公新書
 田辺繁治 2008 『ケアのコミュニティ』 岩波書店
 ミシェル・フーコー 1977 『監獄の誕生』 田村椒（訳）新潮社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで輪読と議論を進める。

第1回 導入：共同体と排除の概念について
 第2回 『社会とは何か』第5章
 第3・4・5・6回 『ケアのコミュニティ』
 第7・8・9・10・11・12・13回 『監獄の誕生』
 第14・15回 レポート構想報告

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、 演習中の報告50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

BⅡのみの受講を希望する場合は、開講初日までに『社会とは何か』の第1章から4章まで読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

教養演習BⅠを受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フーコーの『監獄の誕生』は、哲学や社会学の研究者に限らず、その周辺分野の研究者にとっても重要な文献となっています。ですが、ヨ一口ツバの歴史的・思想的背景を知らずに、また彼の概念がどのような研究に用いられているのかわ知らずに、独力で理解するのはなかなか難しいです。演習を通して、数人で読むことにより、理解が深まると思います。この演習では、受け身でなく、自ら文章を読み込む意思のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

共同体・ コミュニティ・ 監視・ 排除・ 統治

教養演習BII (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
 /Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 3年次
 /Year

単位 2単位
 /Credits

学期 1学期
 /Semester

授業形態 演習
 /Class Format

クラス 3年
 /Class

対象入学年度
 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。この演習の履修希望者は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養演習BI」とセットで受講すること。
 この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。
 この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

『防衛白書』

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 この授業は、各回の「教養演習BI」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養演習BI」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。ただし、戸蒔の「教養演習AI」とセットで受講できる者が望ましい。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。また、卒業後、幹部自衛官になることを希望する者は、受講を強く勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクト演習I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたいかと、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※原則、2学期の履修登録の修正登録期間に履修登録してください。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

プロジェクト演習II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的> 教室内にとどまらず学内外の様々なプロジェクトにチームで取り組むことで、PDCAサイクルを体験し、チームワークや自己管理能力、創造力、実践力など、将来社会で働く上で必要となる力を体得します。JOB×HUNTERのように期間限定のタイプもあれば、キャリアーナのように通年行うタイプもあります。

<演習の進め方> 最初に自己分析を行い、成長させたい力と、その成長プランを作ります。そしてプロジェクトに参加し、最後に最終レポートを提出します。

<期待される効果> 将来のために、学生時代に何か「やり遂げた事実」すなわち達成感を得たい人にとって、かけがえのない経験を得ることができます。また、その経験は自らの将来をイメージするヒントになり、また将来への活動（就職活動など）にもプラスになるでしょう。

※2010年度実績：JOB×HUNTER 2012、キャリアーナ、オープンキャンパス、北九州市漫画ミュージアム、Navy Wavy（ギラヴァンツ応援プロジェクト）

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
- 第2～14回 プロジェクトに取り組みます。
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加時間、参加への姿勢、最終レポートでの総合判断となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。やる気のみです。

履修上の注意 /Remarks

- ※この演習を履修できるのは、原則2年次に『プロジェクト演習I』を履修した人です。ただし、オープンキャンパスなど期間限定のタイプは単独でも履修可能です。
- ※参加募集は随時行います。なお、参加人数には制限があります。
- ※自らプロジェクトを立ち上げたい人は是非ご相談ください。
- ※授業日は特に決まった曜日は設定しません。メンバーで相談して設定してください。
- ※教室は学生プラザのプロジェクトルームを予約して使用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プロジェクト期間中は他の課外活動との両立は難しくなりますのでご注意ください。途中でリタイアするとメンバーに迷惑をかけてしまいます。また、特に応募者が多いプロジェクトであれば、応募に外れた学生の気持ちも台無しにします。やり遂げる意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

経験から学ぶ力、キャリア、成長

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。授業とあわせて以下の本をよんでほしい。

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第一講 「今西錦司と自然学」
 - 第二講 「私とあなたの自然学」
 - 第三講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第四講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第五講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第六講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第七講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第八講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第九講 人々はどのように自然に親しんできたか - 自然の中の旅と観光
 - 第十講 人々はどのように自然を観てきたか - 自然風景の感じ方
 - 第十一講 人々はどのように自然を利用してきたか - 日本の竹文化史
 - 第十二講 人々はどのように自然を利用していけるか - 日本の竹産業と政策
 - 第十三講 人々はどのように自然の中で暮らしているか - 日本の木造民家の生活
 - 第十四講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか - 中国文化との比較
 - 第十五講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

竹川 自分が生きている世界について野に出て考えてみたかったか 50%
岩松 平常点&小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本を読んでほしい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【昼】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は社会的な存在であり、集団や社会から影響を受けて個人が成り立っていると同時に、各個人が集団や社会を成り立たせている。授業への参加が、このことを考えるきっかけになってほしい。日常生活における問題と心理学研究における問題とのつながりを理解することによって、自分、他者、集団、社会、というものの見方に深みが増すことを期待する。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、心理学とは何か
- 第2回 心をどうとらえるか
- 第3回 心の柔軟性1(進化)
- 第4回 心の柔軟性2(脳)
- 第5回 心の柔軟性3(本能)
- 第6回 人間は世界をどう理解するか1(知覚)
- 第7回 人間は世界をどう理解するか2(記憶)
- 第8回 人間は世界をどう理解するか3(学習)
- 第9回 自分を顧みる1(親子関係)
- 第10回 自分を顧みる2(自己評価、自尊心)
- 第11回 自分達を顧みる1(消費と生産)
- 第12回 自分たちを顧みる2(性と年齢)
- 第13回 集団の心理
- 第14回 社会と自己
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(数回行います)・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本で生活するわれわれの大多数は、宗教を迷信ないしは縁遠いものと受けとめているのではないだろうか。しかしながら諸外国においては、宗教は抜き差しならない切実な問題であり、社会に大きな位置を占めて人々の倫理観や思考を深く規制している。振り返ってみれば、われわれ自身も実は決して無宗教というわけではない。この授業を通して人間社会における宗教の重要性を認識してもらいたい。授業ではとりわけ日本人にとって身近な宗教についての理解を深めてもらう。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）
○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』（筑摩書房・ちくま文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要について
- 2回 問題提起—宗教とはなにか？
- 3回 宗教の諸類型と世界の諸宗教
- 4回 一神教について1（一神教の発生）
- 5回 一神教について2（ユダヤ教）
- 6回 一神教について3（キリスト教）
- 7回 日本人の「宗教」観
- 8回 仏教について1（インドの仏教）
- 9回 仏教について2（中国の仏教）
- 10回 仏教について3（日本の仏教）
- 11回 神道について1（神道の特色）
- 12回 神道について2（神道の形成）
- 13回 神道について3（神道の特色）
- 14回 日本の宗教風土
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 30% レポート... 20% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布した資料は下読みしておくこと。
レポートの作成には数冊の本を読んでもらうことになります。それなりの時間とお金を必要とします。計画的に作業を進めてレポートを提出して下さい。

履修上の注意 /Remarks

レポートを提出しない者は、期末試験を受験することができません。
レポート提出の遅延は認めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教を信じることを勧める授業ではありません。宗教というものが人間や文化にとって重要な位置を占めるものであることを理解し、日本の宗教風土の特色を理解してもらい授業です。

キーワード /Keywords

宗教 一神教 多神教 神道 仏教

思想と現代【昼】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに来る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。
本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。また、授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることを目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、現代のコマーシャル、歴史上の風刺画などをとりあげてイメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点をしばり、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 中間テスト
- 7回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 8回 映画分析①
- 9回 映画分析②
- 10回 【テーマ研究】表象を論じるためのテーマ
- 11回 戦争と表象①
- 12回 戦争と表象②
- 13回 戦争と表象③
- 14回 テーマ研究をふりかえって
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 10% 中間・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、2回の試験において十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争と人間【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「戦争」は、人類が抱え込んできた難問であり続けている。「獣」は人間のような過剰な殺戮をおこなわないという観察的事実から、過剰な殺戮・すなわち虐殺こそが人間の特色であるという見方も、不可能ではない。戦争とは、人間にとってどのような営みなのか、という根源的な問いを踏まえ、近代の総力戦以降、私たちはどのように戦争を遂行し、またどのような体験をしてきたのか、幅広く戦争という営みを見据えたい。そして人間にとっての戦争を、政治、文化、記憶と歴史そして哲学と倫理等の側面から多角的に検証し、戦争と共生のはざままで今日の我々が共有すべき問いについて考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料はプリントとして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は、複数の教員が各々の専門と関心から同一テーマに従って輪番で講義を進行させてゆく「オムニバス授業」である。政治学(戸蒔)、政治・外交史(小林)、哲学・倫理学(伊原木)を中心とし、他学部の教員も加えて授業展開してゆく予定である。授業テーマや担当者については初回授業で説明するので、必ず出席すること。参考までに、昨年度の共通テーマは「敵概念」であった。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート 80% 授業内小レポート 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房)
- 平井亮輔編『正義』(嵯峨野書院)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社)
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』(法律文化社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 本講義の構成と概説
- 第2回 現代正義論とは(続)
- 第3回 「正義」の応用問題(生命倫理と法)[~第7回まで]
脳死・臓器移植①
- 第4回 脳死・臓器移植②
- 第5回 脳死・臓器移植③
- 第6回 安楽死・尊厳死① 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義と多文化主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルティア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 狭義の現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送され、話題となったマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（○）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社、2003年）（○）
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』（南窓社、2003年）（○）
L・ダイヤモンドほか『シビリアン・コントロールとデモクラシー』（刀水書房、2006年）（○）
中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房、2006年）（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞・グローバル化と民主主義【第三の波】【市民社会】
- 第2 - 3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
- 第4 - 5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
- 第6 - 7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
- 第8 - 9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
- 第10 - 11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
- 第12 - 13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
- 第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組状況考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組 10%、小テスト... 10% レポート(任意) 10% 試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を認識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書、資料は事前に読んでおくこと。
ワークショップでのプレゼンにはパワーポイントを使用するため、プレゼンおよびパソコンPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定である。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英、法学部教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、さまざまな極めて複雑な関係から成り立っている。我々は個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考えなければならない。我々の生活が、およそ一人では成り立たない以上、他者との関係、すなわち、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係などさまざまな関係の中で成り立っていることを考えなければならない。他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なのであり、そのためにお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルール、平たくいえばマナー（作法といってよい）を知ることが必要である。今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えるのが本講座の目的である。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、規範意識とは何か（3銭の電気窃盗）（山本）
- 第2回 裁判とは何か（民事裁判、刑事裁判、行政裁判、裁判の関係者など）（岡本）
- 第3回 相隣関係とは何か（隣接する土地所有権相互の利用を調整することの意味）（福本）
- 第4回 民事小額訴訟とは何か（小池）
- 第5回 基本的人権とは何か（基本的人権と公共の福祉、法の下での平等、プライバシーの権利、国民相互間の基本的人権など）（植木）
- 第6回 社会福祉の視点から（狭間）
- 第7回 雇用とは何か（雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了）（津田）
- 第8回 犯罪とは何か（構成要件、違法、責任、罪刑法定主義）（大杉）
- 第9回 契約とは何か（法律関係の主体、契約自由の原則、契約の成立と効力、契約の履行など）（中山）
- 第10回 財産とは何か（さまざまな財産、物権と債権、財産権の保障、財産権とその制約、財産権と公共の福祉など）（中山）
- 第11回 労働者の権利と生活の保障（労働法の出現、社会法の原理、労働法の内容、争議権と公共の福祉、社会保障など）（津田）
- 第12回 生存と環境保護（公害をめぐる法規制、環境保護政策の展開、循環型社会へ向けての法規制、個人・国境・世代をこえる環境問題など）（岡本）
- 第13回 国際社会と日本（二宮）
- 第14回 Pacta sunt servanda とは何か（「契約」と「約束の違い、契約の成立から終了までのプロセス）（福本）
- 第15回（予備日）

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート（計3本）を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による（鉛筆書きは不可、パソコン・ワープロで書いたものは不可とする）。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に合わせて必要と思われる情報を収集しておくこと。復習が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全て授業に出席していなければ、レポートは書けないこととなりますので注意してください。

共生の作法【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

キーワード /Keywords

北九州学【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 1年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱離・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

つながりの人間学【昼】

担当者名 /Instructor 地域共生教育センター 坂本毅啓、石谷百合加、奥村貴仁

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

講義時に適宜紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に課す小レポート(50点)
期末レポート試験(50点)
合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

つながりの人間学 【昼】

履修上の注意 /Remarks

2011年度から初めて地域共生教育センターが担当します。詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、2010年度に開設された地域共生教育センターが提供する初めての科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、より深く地域活動をとらえて学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア観形成

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今年度より本授業の期末試験は持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代社会の諸問題【昼】

担当者名 山本 光英、法学部法律学科教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会においては、従来見られなかった問題や、従来潜在的なものであったが近年顕在的となり、議論されるようになった様々な問題がある。われわれはそのような現代的な諸問題をどのように理解し、どのように考えたら良いのであろうか。

本講座は、そのような現代において生起している様々な問題の幾つかを取り上げ、それらの正確な理解と問題解決の方向を考えることを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、裁判員制度(山本)
- 第2回 「民法(債権法)改正とその問題点」(福本)
- 第3回 「マイノリティーの人権保障—障害のある人の権利の問題を中心に—」(植木)
- 第4回 「ドメスティックバイオレンスと児童虐待」(小野)
- 第5回 「日本における法の継受」(岡)
- 第6回 「現代正義論の展望」(重松)
- 第7回 「情報公開制度の現状と課題」(岡本)
- 第8回 「M&Aとは何か」(高橋)
- 第9回 「現代型犯罪の原因と予防」(朴)
- 第10回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第11回 「現代刑事裁判の諸問題」(吉村)
- 第12回 「保険広告から見えるもの」(今泉)
- 第13回 「脳死と臓器移植」(大杉)
- 第14回 「フランチャイズ契約とその問題点」(福本)
- 第15回 (予備日)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則として、学期末に各担当教員が講義したテーマの中から3つ選択してレポート(計3本)を提出してもらい、その内容によって評価する。
- ①受講者は各講義のテーマの中から3つ指定された課題につき、レポートを計3本作成して提出すること。3本に満たないものは不可とする。
 - ②レポートの様式は問わない。ただし、各レポート2000字以上とする。
 - ③3本のレポートは別々に綴じ、各々に所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名を必ず明記すること。
 - ④3本のレポートは各100点満点として採点し、その平均点で評価する。
 - ⑤レポートは、自筆による(パソコン・ワープロを用いた記述は不可、鉛筆書きは不可とする)。
 - ⑥授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。
 - ⑦授業態度が悪いと判断される者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容に応じて情報を収集し、復習をしておくことが必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、全ての授業終了後に学籍番号に応じて指定しますから、全ての授業に出席しないと書けないことになるので注意してください。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2~3回 なぜ今、ポストコロナリズムなのか (1) (2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 榎田竜蔵論文
- 11回 第III部の1 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)、レポート3回(90%、1回30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論などを自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業のテーマは「日本における民族関係の社会的考察」である。
グローバル化の進展に伴って、定住外国人の「統合」や多文化共生の地域づくりが重要な課題となってきた。こうした課題について考えるための基礎知識を提供する。また、グローバルな現象をローカルな場（地域）において実証的に把握していく方法についても学ぶ。
授業では、まずグローバル化の現状を紹介するとともに日本への人の流れについて概説する。
ついで、日本における出入国管理の仕組み等について紹介した後、①これまで1世紀近くにわたって形成されてきた在日韓国・朝鮮人と日本人との民族関係、②近年顕著になった日系ブラジル人と日本人との民族関係について紹介し、共生社会の形成メカニズムについて考察する。

教科書 /Textbooks

なし（プリント配布）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『民族関係における結合と分離』、谷富夫編、ミネルヴァ書房
 - 『顔の見えない定住化 - 日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク』、梶田孝道・丹野清人・樋口直人著、名古屋大学出版会
 - 『在日韓国・朝鮮人の「世界」と「帝国」国家』、西成田豊著、東京大学出版会
- その他、多数あるので、講義の中で、適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマの紹介
- 第2回 グローバル化の進展と国際労働力移動【グローバル化】【エスニシティ】
- 第3回 出入国管理について【外国人登録】【出入国管理】
- 第4回 エスニシティ理論【道具主義】【原初主義】【分断労働市場】【オリエンタリズム】
- 第5回 在日韓国・朝鮮人と日系ブラジル人について【特別永住者】【定住者】【永住者】
- 第6回 日本と朝鮮半島の近現代史①（外国語学部総田先生による講義）
- 第7回 日本と朝鮮半島の近現代史②（外国語学部総田先生による講義）
- 第8回 日本と朝鮮半島の近現代史③（外国語学部総田先生による講義）
- 第9回 在日韓国・朝鮮人と日本社会①【民族関係】
- 第10回 在日韓国・朝鮮人と日本社会②【剥奪仮説】
- 第11回 日系ブラジル人と日本社会①【国境を越えた雇用システム】
- 第12回 日系ブラジル人と日本社会②【顔の見えない定住化】
- 第13回 日系ブラジル人と日本社会③【非正規雇用】【教育達成】
- 第14回 統合と多文化共生社会の形成に向けて - 国・自治体・NGOの役割
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布したプリントをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民族・エスニシティ問題【昼】

担当者名
/Instructor

久木 尚志 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ・人種に関する議論も活発化している。これらは、きわめて新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。民族・エスニシティ問題は、政治・経済・文化・社会のさまざまな領域にかかわるきわめて現代的な事柄であるが、同時に、それが現在にいたる歴史的経緯もまた重要である。この授業では、民族・エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション / アメリカ合衆国における移民・エスニシティ
- 2回 同化・統合の諸概念 【るつぽ】【サラダ・ポウル】
- 3回 黒人史と公民権運動 【アフリカ系アメリカ人】【公民権運動】
- 4回 マイノリティをめぐる政策：アフターマティブ・アクション(1)【起源】
- 5回 マイノリティをめぐる政策：アフターマティブ・アクション(2)【展開】
- 6回 自らを知る：日系アメリカ人 【強制収容】【第二次世界大戦】
- 7回 今日のエスニシティ状況 【ヒスパニック】【不法移民】
- 8回 欧州における「ネイション」と「エスニシティ」【ネイション】【エスニシティ】
- 9回 イギリスにおける民族とエスニシティ(1)【連合王国】【ロンドン同時爆破事件】
- 10回 イギリスにおける民族とエスニシティ(2)【オルダム暴動】【多文化主義】
- 11回 イギリスにおける民族とエスニシティ(3)【ブリクストン暴動】【スカーマン報告】
- 12回 イギリスにおける民族とエスニシティ(4)【サッチャー主義】【イスラム嫌い】
- 13回 フランスにおける民族とエスニシティ(1)【都市郊外暴動】【サルコジ】
- 14回 フランスにおける民族とエスニシティ(2)【ライシテ】【スカーフ問題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化とは何か、世界経済への影響、グローバル化の歴史、国や地域による違いを念頭に入れながら、グローバル化を包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

木暮太一(2010)『経済が世界—シンプルにつかめる本』明日香出版社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野田稔(監修)(2010)『ポン!とわかる日本経済』宝島SUGOI文庫。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード) ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえます。

第1回	シラバス詳細版配布、授業の説明、イントロダクション	【グローバル化】
第2回	世界で何が起きている?	【サブプライム問題】
第3回	世界で何が起きている?	ミニテスト 【WTO】 【BRICs】
第4回	商品にまつわる話	【海外進出】 【立地】
第5回	商品にまつわる話	ミニテスト 【人件費】 【為替レート】
第6回	食べ物にまつわる話	【食料自給率】
第7回	食べ物にまつわる話	ミニテスト 【エコビジネス】 【脱炭素燃料】
第8回	生活環境にまつわる話	【円高・円安】 【人件費】
第9回	生活環境にまつわる話	ミニテスト 【雇用慣行】 【労働移動】
第10回	人の力にまつわる話	【人口減少】 【貯蓄率】
第11回	人の力にまつわる話	ミニテスト 【年金】
第12回	国の持ち物にまつわる話	【自由貿易】
第13回	国の持ち物にまつわる話	ミニテスト 【多国籍企業】
第14回	お金と為替にまつわる話	【基軸通貨】
第15回	お金と為替にまつわる話	ミニテスト 【変動相場制】

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト(6、7回実施): 20~30%、学期末試験: 70~80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当部分を事前に講読しておくこと。また、必要に応じて配布されるプリントも予習・復習の際に参考にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粋主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

21世紀の日本外交の現状を概観した上で、第二次世界大戦後の日本と国際社会の関わりの変化を概観する。講義の軸となるのは三つある。第一は政治面での軸であり、アメリカによる占領改革と独立の回復、冷戦期における日米同盟の発展、そしてポスト冷戦期に進められた日本の国際的役割の再定義が、その主な内容である。第二が経済面での軸であり、アメリカと東アジア諸国との連携の上に高度経済発展を遂げたこと、そして1970年代にはいって経済大国として世界経済の安定に中心的な役割を果たすようになっていったことを取り扱う。そして、第三に文化面での軸であり、西洋思想の吸収と安定した民主主義体制の建設を検討する。このような諸側面を見ることによって歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『戦後日本外交史』新版(有斐閣 2007年)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【21世紀の日本】
- 第2回 敗戦時の日本【ポツダム宣言受諾】【占領軍進駐】【戦犯逮捕】
- 第3回 占領改革【日本国憲法制定】
- 第4回 朝鮮戦争と日米安保条約1【対日講和交渉】【冷戦のアジアへの波及】
- 第5回 朝鮮戦争と日米安保条約2【吉田茂政権】【日米安保条約制定】
- 第6回 自主外交と日本における二大政党制【鳩山一郎政権】【日ソ共同宣言】
- 第7回 岸外交と日米安保条約の改定【日米安保条約改定】【60年安保闘争】
- 第8回 池田政権と高度経済成長【所得倍増】【沖縄問題】
- 第9回 佐藤政権の時代【沖縄復帰】【ベトナム戦争】【米中接近】
- 第10回 石油ショックと日本の新しい役割1【田中角栄政権】【第一次石油ショック】
- 第11回 石油ショックと日本の新しい役割2【角福戦争】【第二次石油ショック】【日米同盟】
- 第12回 中曽根政権と自由主義的改革【中曽根政権】【貿易摩擦】
- 第13回 湾岸戦争と自民政権の崩壊【冷戦の終結】【湾岸戦争】【非自民連立政権】
- 第14回 21世紀における日本と世界【9/11とテロとの戦い】【自公政権】
- 第15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

テスト ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義の内容は国際関係の授業とあわせて学習すると、国際関係の発展をよく理解することができるようになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習復習をしっかりとください。

キーワード /Keywords

日本政治 歴史 第二次世界大戦後

歴史の読み方【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日でも「サムライ日本」「武士の情け」「武士に二言はない」という言葉にあらわれるように、日本の社会と風土の中に「武士」という存在が大きな影響を与えています。

ここでは古代における武士の登場以来、800年間におよぶ武士の歴史から、中世の武士と近世の武士のモラルの違いやわれわれが知っている「武士道」が江戸時代ではなく近代になって作られたものであることを学びます。

また我が国における近代国家の形成の意味を「廃藩置県」「国語」をキーワードとして学びます。

教科書 /Textbooks

レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
- 関幸彦『武士の誕生』(日本放送協会出版)
- 元木泰雄『武士の成立』(吉川弘文館)
- 池上英子『名誉と順応-サムライ精神の歴史社会学-』(NTT出版)
- R・ベネディクト『菊と刀』(社会思想社)
- 勝田政治『廃藩置県-「明治国家」が生まれた日』(講談社)
- 長志珠絵『近代日本と国語ナショナリズム』(吉川弘文館)他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 【武士道】の成立①新渡戸稲造の武士道
 - 3回 【武士道】の成立②『鸚鵡籠中記』と『葉隠』
 - 4回 【武士道】の成立③【名誉型個人主義】
 - 5回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 6回 『平家物語』を読む②【言葉戦】
 - 7回 武士の起源-【領主】か【職能民】か
 - 8回 東日本型武士団と西日本型武士団-源平の歴史-
 - 9回 【征夷大將軍】とは何か
 - 10回 【廃藩置県】
 - 11回 【戊辰戦争】
 - 12回 【国語】の成立①
 - 12回 【国語】の成立②
 - 13回 【国語】の成立③
 - 14回 【国語】の成立④
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の人数によって筆記試験もしくは筆記試験と毎回の授業レポートにより評価する。筆記試験と毎回の授業レポートによる場合は、原則として筆記試験50%、授業レポート50%の配分とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジユメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

旧憲法下最長の政権担当者であり、日英同盟（1902）、日露戦争（1904 - 05）、韓国併合（1910）を行った桂太郎の生涯（1847 - 1913）を中心に、幕末から大正政変までの明治の政治史を概説します。桂と言えば、「非立憲的政治家」として有名ですが、その実像はどうだったのか。この講義では、木戸孝允から「政府にとって軍隊とは一体何か」ということを学び、やがて、政党政治家に転身しようとして果たせなかった桂の運命的生涯を辿っていきます。

教科書 /Textbooks

小林道彦『日本評伝選・桂太郎』（ミネルヴァ書房、3,000円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本の大陸政策1895 - 1914』、○伊藤之雄『日本評伝選・明治天皇』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新と桂太郎
- 第3回 ドイツ留学と陸軍の建設
- 第4回 日清戦争への道
- 第5回 政治への目覚め（陸相時代）
- 第6回 伊藤博文との対決（最初の組閣）
- 第7回 日英同盟と日露戦争
- 第8回 国家目標の模索
- 第9回 桂園体制
- 第10回 原敬との駆引き（2回目の組閣）
- 第12回 現状打破への衝動
- 第13回 明治という時代の終わり - 大正政変
- 第14回 桂太郎 - 明治国家の光と影
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

桂太郎 政党政治 陸軍 大正デモクラシー

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor
小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科, 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1960年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、ベトナム、フランス、ドイツ、アメリカ、中国といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2・3回 日本(小林)【60年安保】、【所得倍増政策】
- 第4・5回 ベトナム(伊野)【ベトナム戦争】
- 第6・7回 フランス(伊原木)【パリ五月革命】
- 第8・9回 ドイツ(中道)【学生運動】
- 第10・11回 アメリカ(寺田)【公民権運動】
- 第12・13回 中国(下野)【文化大革命】
- 第14回 1970年代への展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...20%小テスト...20%レポート...60%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「感想文」を提出してもらいます。一回でも未提出があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます(課題は別途指示。1,200字×2本)。コピーは不正行為と見なします。3、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者(地域)は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題を当時のニュースビデオなどを利用して解説してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジュメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

第1回授業で参考文献を挙げます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 戦後改革
- 2回 経済復興
- 3回 産業政策の効果
- 4回 メインバンクシステム
- 5回 安定株主化
- 6回 重化学工業化
- 7回 農工間人口移動
- 8回 大衆消費社会
- 9回 エネルギー革命
- 10回 石油危機
- 11回 赤字国債
- 12回 サービス経済化と産業構造の変化
- 13回 債権大国
- 14回 アジアの成長と日本経済
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回のレジュメによってしっかり復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史 【昼】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。授業をしっかりと聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 カと近代【蒸気機関、内燃機関、原子力】
- 第3回 自動車の時代の終わり？【ICT、高付加価値生産】
- 第4回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会、トクヴィル】
- 第5回 ヘンリー・フォードとアメリカ【ヘンリー・フォード】
- 第6回 内燃機関と身体【職人文化】
- 第7回 フォード・システムと大衆【フォーディズム】
- 第8回 フォード対GM 【柔軟な大量生産システム】
- 第9回 ポスト・フォーディズムへ【ポスト・フォーディズム】
- 第10回 自動車と国家【産業政策、安全保障政策】
- 第11回 自動車と都市政治【住宅開発、道路建設、交通事故】
- 第12回 「家庭」という価値と自動車【新中間層】
- 第13回 自動車とメディア【広告、メディア】
- 第14回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

四人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、人物と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」、「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

資料を配付します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

それぞれの人物について、自伝や歴史書などを中心に読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—』(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 江戸時代、壊滅的な藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 幕府の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(70%)と平常の学習状況(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子（厩戸皇子）】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ヘアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成できるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

情報表現【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業は、Windows PCを利用して、前半ではHTMLを使ったWebページの作成、後半ではプレゼンテーションソフトを使った発表用スライドの作成、及び、発表用スライドを利用した発表を行います。本授業の目的は、文字や画像などのメディアを総動員して、多角的な情報伝達手段を習得し、それらを作成して情報発信の主体となるための技法を身に付けることです。具体的には、以下のような項目を身に付けることができます。

- ・ HTMLの文字装飾や背景色、画像・表の挿入、リンクの貼り付け等の技術を活用したWebページの作成ができるようになります。
- ・ 作成したWebページを、Webサーバへアップロードできるようになります。
- ・ Microsoft PowerPointを使って、文字装飾やスライドのレイアウト・デザインの設定、画像、図形、表、グラフ、リンクといった授業で取り扱う技術を駆使した発表用スライドを作成できるようになります。
- ・ 発表するときのポイントや注意点等が考慮された発表を行なうことができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コンピュータを用いた情報表現【マルチメディア】、【情報圧縮】
- 2回 HTMLによるWebページ作成方法【HTML】、【タグ】
- 3回 HTMLによるWebページ作成演習1【Webページの構成】
- 4回 HTMLによるWebページ作成演習2【Webページのデザイン】
- 5回 グループ作業によるWebページ作成方法【企画書】、【著作権】、【FTP】
- 6回 グループ作業によるWebページ作成実習
- 7回 グループ作業によるWebページ作成のまとめ
- 8回 プレゼンテーション用スライド作成方法【プレゼンテーションソフト】
- 9回 プレゼンテーション用スライド作成演習
- 10回 グループ作業によるスライド作成方法【ストーリー性】
- 11回 グループ作業によるスライド作成実習
- 12回 発表のポイント【発表の心構え】、【プレゼンテーション】、【説得力】、【主張ポイント】
- 13回 グループによる発表
- 14回 グループによる発表とプレゼンテーションのまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題... 90%、積極的な授業参加... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や「エンドユーザコンピューティング」を既に受講した場合は、本授業の理解がより深くなります。また、コンピュータの操作をある程度経験しておく受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のパソコン台数に制限がありますので、履修希望者数が多数の場合は、受講者数調整を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一度理解に躓くと、その先の授業についてこれなくなる可能性があります。難しく感じたり、よく分からない内容が出てきた場合は、早目に質問して、解決するようにしてください。また、本授業では、グループによる学習も導入しています。グループのメンバーでお互いに協力して学習課題を進めるよう心がけてください。

キーワード /Keywords

HTML、プレゼンテーション、マルチメディア

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくとういでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

プログラミング基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが利用しているコンピュータの中のソフトウェアは、すべてどこかの誰かが作成したプログラムによって出来ています。この授業では、「データ処理」で学習した表計算ソフトの高度な利用方法を学習し、コンピュータを思い通りに動かすプログラムを自分で作れるようになることを目指します。自分でプログラムを作成できるようになると、より賢くコンピュータを利用できるようになり、世界が広がります。

コンピュータプログラムは、機械が理解できる言葉（プログラミング言語）で書いてやる必要があります。そのため、プログラムの学習は言葉の学習に似ています。この授業で使用するプログラミング言語はVBA（Visual Basic for Application）です。この言語は、表計算ソフトExcelに付属しており、Excelが利用できる環境であればVBAが利用できるようになっています。

この授業は、パソコンを利用して授業を行います。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 表計算ソフトにおいて、マクロを利用して同じ手順を自動的に処理できるようになります。
- 現在のコンピュータが行っている情報処理の流れを理解し、論理的な思考ができるようになります。
- プログラミングの基本を知り、プログラムを自分で作成できるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 プログラムとはなにか【VBA】【マクロ】
- 2回 同じ操作をなんどもくりかえす【マクロの記録】【セキュリティ】
- 3回 プログラムの基本1：プログラミングに使う道具を知る【変数】【関数】
- 4回 プログラムの基本2：プログラムがおこなう動作を知る【演算】【メソッド】
- 5回 プログラムの処理の流れを理解する【フローチャート】
- 6回 プログラムの構造1：枝分かれする処理を行う【条件分岐】【if】
- 7回 プログラムの構造2：くりかえし処理を行う【ループ構造】【for】
- 8回 ユーザとのやりとりをデザインする【ユーザフォーム】【GUI】
- 9回 ユーザとのやりとりをプログラムする【イベント処理】
- 10回 変数の有効範囲を設定する【変数のスコープ】【配列変数】
- 11回 プログラミング課題1：サンプルプログラムを解説する
- 12回 プログラミング課題2：サンプルプログラムを変更する
- 13回 プログラミング課題3：オリジナルプログラムを作成する
- 14回 作品発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，プログラミング作品提出 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの操作（タイピング等）にある程度習熟しておくことをすすめます。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室のコンピュータ台数に制限があるため、受講者数調整を行うことがあります。
また、1年次配当科目の「データ処理」を受講しておくといでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

プログラミング初心者にも分かるように、基本的なことから授業します。

キーワード /Keywords

プログラミング マクロ フローチャート GUI

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments : 60%
Final examination : 40%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%、平常の学習状況（小テストを含む）...50%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式に慣れるために、教科書を使った問題練習をします。加えて、英字新聞・小説・絵本などを載せたハンドアウトや、映画のDVDを通して、英語の読解力・聴解力をつけます。

教科書 /Textbooks

安丸雅子ほか著『Seize the Essence of the TOEIC Test』(金星堂、2011年) ISBN 978-4-7647-3919-2

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の流れ、成績評価の説明)
- 2回 Unit 1 Daily Life【名詞・主語と動詞の一致】
- 3回 Unit 1 Daily Life【名詞・主語と動詞の一致】
- 4回 Unit 2 Eating Out & Amusement【形容詞・副詞】
- 5回 Unit 2 Eating Out & Amusement【形容詞・副詞】
- 6回 Unit 3 Cooking and Purchasing【基本時制】
- 7回 Unit 3 Cooking and Purchasing【基本時制】
- 8回 Unit 4 Traffic & Travel【進行形・完了形】
- 9回 Unit 4 Traffic & Travel【進行形・完了形】
- 10回 Unit 5 Production & Logistics【受動態】
- 11回 Unit 5 Production & Logistics【受動態】
- 12回 Unit 6 Business & Economics【分詞・分詞構文】
- 13回 Unit 6 Business & Economics【分詞・分詞構文】
- 14回 Review Test 1
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...50%、期末試験...50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

実用的な英語運用能力を測定するTOEICの出題形式と連動して作成されたテキスト"Conquering the TOEIC Test"を用い、基本的な語彙、文法をマスターしながら、リスニング・リーディング両方にわたる総合的な英語運用能力を養成していくことが授業のねらいである。

また"The New York Times" "International Herald Tribune" etc. から抜粋された社会・文化・政治経済・情報などに関する記事(テキスト"The Half-Edition of English through the News Media 2001")を読み、世界で起きている出来事に触れながら、多角的に複眼的に英語能力が培われることを意図している。

教科書 /Textbooks

Conquering the TOEIC Test (著者: 河原真也他、出版社: 朝日出版社)

The Half-Edition of English through the News Media 2011 (著者: 高橋優身他、出版社: 朝日出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 TOEIC「写真描写問題」/ News Media「読書はネットで」
- 2回 TOEIC「応答問題」/ News Media「ヨーロッパで『マンガ』大ブーム」
- 3回 TOEIC「会話問題」/ News Media「黒人が白人か? 国勢調査が選択を迫る」
- 4回 TOEIC「説明文問題」/ News Media「日本、バラグアイにPK戦負け」
- 5回 TOEIC Practice for Listening Parts
- 6回 TOEIC「短文穴埋め問題」/ News Media「マグロ取引と象牙取引」
- 7回 TOEIC「長文穴埋め問題」/ News Media「イスラム教徒に生まれて」
- 8回 TOEIC「読解問題」/ News Media「ヨーロッパの金融危機」
- 9回 TOEIC Practice for Reading Parts
- 10回 TOEIC Mini Test 1 / News Media「英国自民党、保守党と連立を考慮」
- 11回 TOEIC Mini Test 2 / News Media「あのトバイが地域経済の足を引っ張る?」
- 12回 TOEIC Mini Test 3 / News Media「メコン川流域、水不足と相互不信」
- 13回 TOEIC Mini Test 4 / News Media「イスラエルはどこもロシアだらけ」
- 14回 TOEIC Mini Test 5 / News Media「ツイッターの普及で大統領の人気急落」
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(60%)、小テスト及び課題(40%)であるが、出席状況や授業中の態度を加味し総合的に判断して決定。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は必須。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

「Seize the Essence of the TOEIC Test : TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit 1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit 2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit 2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit 3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit 3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit 4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit 4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit 5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit 5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit 6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit 6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit 1~6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点 (20%) と筆記試験 (80%) に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元ごとに単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を通して英語の基礎力（特にリスニング及びリーディング力）をつけることを目的とします。

教科書 /Textbooks

なし。毎回の授業でプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 英語力確認テスト（必ず出席のこと）
- 2回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 3回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 4回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 5回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 6回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 7回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 8回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 9回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 10回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 11回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 12回 リスニング（Part 1,2）/リーディング（Part 5）
- 13回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 14回 リスニング（Part 3,4）/リーディング（Part 6,7）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回で欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業毎に配布されたプリントで、各自復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション 基礎力 インプット Step by Step

英語II【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
This course will focus on ways to help students develop their knowledge and skills with general English as well as with kinds of specialized English used in a variety of contexts. One of the key aims is to improve their performance in general proficiency tests such as the TOEIC test. Each class will include segments for homework review, vocabulary consolidation and test preparation strategies.

教科書 /Textbooks
Successful keys to the TOEIC test 1 Goal 500 Second Edition, Atsushi Matsumoto and Mark D. Stafford, Pearson Longman, ISBN 978-4-342-55273-1

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 - Introduction and Starter Unit
- Week 2 - Unit 7 Technology
- Week 3 - Unit 8 Personnel 1
- Week 4 - Unit 8 Personnel 2
- Week 5 - Unit 9 Management 1
- Week 6 - Unit 9 Management 2
- Week 7 - Unit 10 Purchasing 1
- Week 8 - Unit 10 Purchasing 2
- Week 9 - Unit 11 Finance 1
- Week 10 - Unit 11 Finance 2
- Week 11 - Unit 12 Media 1
- Week 12- Unit 13 Entertainment
- Week 13- Unit 14 Health
- Week 14- Unit 15 Restaurants
- Week 15- Review

成績評価の方法 /Assessment Method
Diary 15%
Homework 15%
Class Tasks 20%
Final Test 50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
なし

履修上の注意 /Remarks
なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
Let's enjoy our learning experience together

キーワード /Keywords
なし

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50%、平常の学習状況（小テストを含む）...50%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題形式に慣れるために、教科書を使った問題練習をします。加えて、英字新聞・小説・絵本などを載せたハンドアウトや、映画のDVDを通して、英語の読解力・聴解力をつけます。

教科書 /Textbooks

安丸雅子ほか著『Seize the Essence of the TOEIC Test』（金星堂、2011年）ISBN 978-4-7647-3919-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(授業の流れ、成績評価の説明)
- 2回 Unit 7 Employment 【関係詞】
- 3回 Unit 7 Employment 【関係詞】
- 4回 Unit 8 Business 【接続詞・前置詞】
- 5回 Unit 8 Business 【接続詞・前置詞】
- 6回 Unit 9 Finance & Banking 【特殊構文】
- 7回 Unit 9 Finance & Banking 【特殊構文】
- 8回 Unit 10
- 9回 Unit 10 Health & Welfare 【比較】
- 10回 Unit 11 Health & Welfare 【比較】
- 11回 Unit 11 Computer & The Internet 【仮定法】
- 12回 Unit 12 Computer & The Internet 【仮定法】
- 13回 Unit 12 Media 【イディオム】
- 14回 Review Test 2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...50% 期末試験...50%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of law majors in regards to communication.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and assignments : 60%
Final examination : 40%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

「Seize the Essence of the TOEIC Test : TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit 7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit 8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit 8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit 9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit 9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit 10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit 10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit 11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit 11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit 12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit 12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit 7~12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元ごとに単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEICの各パート問題に取り組むことによって、リスニング力及びリーディング力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

なし。各授業でプリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテストを受験する学生は、授業とは別に個人のスコアにあった問題集で自習することを勧めます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
- 2回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 3回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 4回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 5回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 6回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 7回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 8回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 9回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 10回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 11回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 12回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 13回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 14回 TOEIC問題模擬 と 解答及び解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト50% + 期末テスト50%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各授業で配布されるプリント問題を復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション インプット Step by Step

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to “frame” their English conversation performance within an ‘opening---preclosing/closing’ format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

"interchange 2" (3rd. Ed.) (Cambridge University Press ¥2700 税込み) and materials prepared by the teacher

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Conversation framework [openings, preclosings + closings]; 相づち
- 2 回 oral presentations and listening test
- 3 回 Unit 1 “A Time to Remember”/Past tense/ “Used to”/writing paragraphs
- 4 回 Unit 12 “It’s Been a Long Time!”/ Past continuous/ Present Perfect Tense
- 5 回 Introductions and address systems/ oral presentations/ listening test
- 6 回 Unit 4 “I’ve Never Heard of That!”/ Simple past vs. Present Perfect tense/adverbs
- 7 回 Unit 16 “What’s Your Excuse?”/Reported Speech: requests/ making excuses
- 8 回 Invitations/ Accepting and Refusing
- 9 回 oral presentations/ listening test
- 1 0 回 Unit 3 “Time for a Change!”/ Evaluations and Comparisons/Wishes/Dreams
- 1 1 回 Unit 7 “What’s this for?”/ Infinitives and gerunds/Infinitive complements/writing
- 1 2 回 Thanking people and replying to thanks/ oral presentations/listening test
- 1 3 回 Unit 2 “Caught in the Rush”/Indirect questions from ‘Wh’ questions/ Adverbs of quantity
Unit 5 “Going Places”/ Future tense with ‘going to’ and ‘will’
- 1 4 回 Apologizing: making apologies and responding
- 1 5 回 oral presentations/ listening test; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%
Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don’t know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will improve their ability to use English for daily communication, especially when traveling overseas. For example, students should be able to book hotel rooms, order meals and check in at airports.

教科書 /Textbooks

『First Class English for Tourism 1』 (Hall & Blappert 編 Thomson出版社 ¥1,900)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 May I have your name please? (part 1)
- 3 回 May I have your name please? (part 2)
- 4 回 Talking about travel jobs (part 1)
- 5 回 Talking about travel jobs (part 2)
- 6 回 Giving and receiving directions (part 1)
- 7 回 Giving and receiving directions (part 2)
- 8 回 Opening times (part 1)
- 9 回 Opening times (part 2)
- 10 回 Booking problems
- 11 回 Confirming reservations (part 1)
- 12 回 Confirming reservations (part 2)
- 13 回 Checking in (part 1)
- 14 回 Checking in (part 2)
- 15 回 Student presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% プレゼンテーション...20% 学期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy speaking English in class. Good luck in 2011-12!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 by Jack C. Richards. Cambridge University Press. ISBN: 0-521-60203-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Past Tense
3. Wh-questions using adverbs of Quantity
4. Evaluations
5. Comparisons
6. Simple Past vs present perfect
7. Future plans
8. Giving Suggestions
9. Making Request
10. Infinitives and Gerunds
11. Apologizing and giving excuses
12. Imperatives and infinitives for giving suggestions
13. Relative clauses of time
14. Group Discussion on Given Topic
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent four or more times.

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Fluency in English
This course involves practicing two way conversations in English. The aim is to become more aware of cultural codes of speaking and to sound more natural.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Unit 1: Introductions - Starting a Conversation
Week 2: Silence and conversation. Getting someone to repeat.
Week 3: Using "but" to show contrast. Silence and conversation. Cultural codes and strategies.
Week 4: Unit 2: Daily Life. Qualifying your speech.
Week 5: Showing interest with short responses. Rounding off numbers.
Week 6: Dynamic conversations. Longer answers and implicit questions.
Week 7: Unit 3: University Life
Week 8: Echo questions.
Week 9: Unit 4: Skills. Don't be over-humble.
Week 10: How long have you been playing the piano?
Week 11: What do you think is a good way to study English?
Week 12: Unit 5: Family. Asking Personal Questions
Week 13: Having children and getting married.
Week 14: Review.
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text in advance of class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群 1 - E
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course
- 第2回Unit 1: Me and You
- 第3回Meeting new people
- 第4回Unit 2: We get along
- 第5回Talking about families
- 第6回Unit 3: Too scared to watch
- 第7回Talking about the movies you like
- 第8回Review of units 1-3
- 第9回Unit 4: Hanging out
- 第10回Talking about lifestyle
- 第11回Unit 5: Short of cash
- 第12回Talking about how we use money
- 第13回Unit 6: My new place
- 第14回Talking about where you live
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding. Training for academic presentation will be provided using a variety of topics and formats.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Orientation
- 第2回 : Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第3回 : Unit 1 and discussion in English
- 第4回 : Unit 2 focus on listening
- 第5回 : Unit 2 focus on speaking
- 第6回 : Unit 3 and discussion in English
- 第7回 : Unit 4 focus on listening
- 第8回 : Unit 4 focus on speaking
- 第9回 : Unit 5 focus on listening
- 第10回 : Unit 5 focus on speaking
- 第11回 : Unit 6 and discussion in English
- 第12回 : Unit 7 and discussion in English
- 第13回 : Unit 8 focus on listening
- 第14回 : Unit 8 focus on speaking
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Examination ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

英語III 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Essential Approach for the TOEIC Test 「TOEICテストへのニューアプローチ」 大須賀直子他著 成美堂 \2000

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre - Test及び解説
- 2回 Unit1 Arts & Amusement [名詞・代名詞]
- 3回 Unit2 Lunch & Parties [形容詞・冠詞]
- 4回 Unit3 Medicine & Health [副詞]
- 5回 Unit4 Traffic & Travel [比較]
- 6回 Unit5 Ordering & Shipping [動詞・時制]
- 7回 Unit6 Factories & Production [未来表現など]
- 8回 Unit7 Research & Development [主語と動詞の呼応・時制の一致]
- 9回 Unit8 Computers & Technology [能動態・受動態]
- 10回 Unit9 Employment & Promotions [不定詞・動名詞]
- 11回 Unit10 Advertisements & Personnel [分詞]
- 12回 Unit11 Telephone & Messages [助動詞]
- 13回 Unit12 Banking & Finance [接続詞]
- 14回 Unit13 Office Work & Equipment [関係代名詞・関係副詞]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名
/Instructor

リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次
/Year

単位
/Credits

1単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス 律政群 1 - A
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objective for this course is to allow students to gain confidence in their basic English communication skills. While speaking and listening will be emphasized in this class, components of reading and writing will also be integrated into the course. Students will learn how to "frame" their English conversation performance within an 'opening---preclosing/closing' format and learn how to respond to and solicit information using different communicative strategies.

教科書 /Textbooks

"interchange 2" [3rd Ed.] (Cambridge University Press ¥2700 税込み) and materials prepared by the teacher.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 6 "OK. No Problem!" /two-part verbs/ requests with modals/ 'Would you mind...?'
- 2 回 Unit 10 "I Don't Like Working on Weekends" /gerunds-/ clause with 'because';
Writing: paragraph---'A job you would be good at'---(three reasons for support)
- 3 回 Expressing anger & resolving conflict/ oral presentations/ listening tests
- 4 回 Unit 8 "Let's Celebrate" /relative clauses of time/ adverbial clauses of time
- 5 回 Unit 14 "So That's What It Means!" / modals & adverbs/ permission, obligation,
prohibitions/ Writing: Japanese proverbs w/ written English explanations
- 6 回 Giving compliments & replying to compliments
- 7 回 oral presentations/ listening tests
- 8 回 Unit 9 "Back to the Future" /time contrasts/ conditional sentences using if clauses
Writing: paragraph---partner interview & writing partner's hopes for the future
- 9 回 Unit 15 "What would you do?" / unreal conditional sentences w/ if clauses/ past modals
- 1 0 回 Getting people's attention and interrupting/ oral presentations/ listening test
- 1 1 回 Unit 11 "It's Really Worth Seeing" /passive tense with & w/o by /
Writing: paragraph---a country you know
- 1 2 回 Unit 13 "A Terrific Book, but a Terrible Movie" /participles as adjectives/ relative
clauses
- 1 3 回 Agreeing and disagreeing/ oral presentations/ listening test
- 1 4 回 "Explaining 'things Japanese'" + Getting information & Controlling the conversation
- 1 5 回; oral presentations/ listening test; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral Presentations: 50%; Listening quizzes: 50%

Continual assessment through homework completion, participation, partner projects (3-4 oral presentations per term) and listening quizzes. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will improve their ability to use English for daily communication, especially when traveling overseas. For example, students should be able to book hotel rooms, order meals and check in at airports.

教科書 /Textbooks

『First Class English for Tourism 1』 (Hall & Blappert 編 Thomson出版社 ¥1,900)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student presentations - summer holidays
- 2 回 Transferring calls (part 1)
- 3 回 Transferring calls (part 2)
- 4 回 Travel itineraries (part 1)
- 5 回 Travel itineraries (part 2)
- 6 回 Ordering in restaurants (part 1)
- 7 回 Ordering in restaurants (part 2)
- 8 回 Complaining about problems (part 1)
- 9 回 Complaining about problems (part 2)
- 1 0 回 Taking messages
- 1 1 回 Asking and giving directions
- 1 2 回 Changing money
- 1 3 回 Extra charges
- 1 4 回 Thanking customers and staff
- 1 5 回 Student presentations - travel plans

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% プレゼンテーション...20% 学期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy speaking English in class. Good luck in 2011-12!

キーワード /Keywords

トラベル英会話

英語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor ジャマール・ミラー / JAMAR MILLER / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

This is an English communications course that develops the four English language skills of listening, speaking, reading, and writing. The main Objective of this course is to help you improve each of these skills as presented in various different circumstances.

教科書 /Textbooks

Interchange 2 by Jack C. Richards. Cambridge University Press. ISBN: 0-521-60203-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Teacher and Student self Introductions, and course review
2. Talking about Change
3. Describing Possibilities
4. Describing Abilities
5. Talking about Personality Traits
6. Talking about Landmarks and Monuments
7. Describing Countries
8. Inquiring about one's past
9. Describing Movies
10. Body Language and Gestures
11. Speculating about the past and future
12. Reporting what people say
13. Japan's Economic Situation
14. Group Discussion on Given Topic
15. Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Speaking 35% Writing 25% Participation 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

No credit will be given to students who are absent four or more times.

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Fluency in English
This course is a continuation from the first semester. It involves practicing two way conversations in English.
The aim is to become more aware of cultural codes of speaking and to sound more natural.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Unit 6: Travel. Asking follow-up questions.
Week 2: Spoken contractions.
Week 3: Giving and receiving recommendations.
Week 4: Unit 7: Free Time
Week 5: Stressing Important Information
Week 6: Don't say "play" with friends.
Week 7: Unit 8: Money. Giving a reason for your answer.
Week 8: Spending habits. What do you spend your money on?
Week 9: How much money do you spend?
Week 10: Unit 9: Hometown. Talking about weather.
Week 11: Distinguishing yourself from others.
Week 12: What's your hometown famous for?
Week 13: Unit 10: Future. Where will you be five years from now?
Week 14: Using transitions. Living overseas and dream job.
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text in advance of class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer vacation / true or false.
- 第2回Unit 7: Time to eat
- 第3回Talking about where to eat tonight
- 第4回Unit 8: I found a job!
- 第5回Talking about part-time jobs
- 第6回Unit 9: I can't cope
- 第7回Talking about stress in your life
- 第8回Review of units 7-9
- 第9回Unit 10: What's up?
- 第10回Talking about things you love and hate
- 第11回Unit 11: Who's your type?
- 第12回Talking about dating
- 第13回Unit 12: What tomorrow brings
- 第14回Talking about your future plans
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 単位 /Credits: 1単位 学期 /Semester: 2学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class: 律政群1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語III). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Practical English communication skills developed through regular practice. While the primary focus is on verbal interaction, students will also be given training in reading and listening for general understanding.

教科書 /Textbooks

English for International Tourism (pre-intermediate): Longman

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞書を持ってくること。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : Timed speeches and Q&A
- 第2回 : Unit 8 and discussion in English (review)
- 第3回 : Unit 9 focus on listening
- 第4回 : Unit 9 focus on speaking
- 第5回 : Unit 10 and discussion in English
- 第6回 : Unit 11 focus on listening
- 第7回 : Unit 11 focus on speaking
- 第8回 : Unit 12 and discussion in English
- 第9回 : Unit 13 focus on listening
- 第10回 : Unit 13 focus on speaking
- 第11回 : Unit 14 and discussion in English
- 第12回 : Unit 15 focus on listening
- 第13回 : Unit 15 focus on speaking
- 第14回 : End of semester review
- 第15回 : Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork ... 30% Examination ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

担当教員の指示に従って準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Communication Brings Peace

キーワード /Keywords

Travel - Make friends - Have fun

英語IV 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れ、出題傾向に即して学習し、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

The Next Stage to the TOEIC Test : Intermediate 「CD-ROMで学習するTOEICテスト：中級編」 ハーバート久代他著 金星堂 \2100

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、プリント演習
- 2回 Unit1 Dining and Shopping [形容詞]
- 3回 Unit2 Computers [動詞]
- 4回 Unit3 Science and Technology [不定詞]
- 5回 Unit4 Entertainment [強調・倒置]
- 6回 Unit5 Advertisement [否定]
- 7回 Unit6 Medicine [使役]
- 8回 Unit7 Transportation [仮定法]
- 9回 Unit8 Business Trips [分詞]
- 10回 Unit9 Environment [助動詞]
- 11回 Unit10 Office Work (1) [副詞]
- 12回 Unit11 Economy [主語と動詞の一致]
- 13回 Unit12 Industry [関係詞]
- 14回 Unit13 Personnel [比較]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験(80%)、小テストによる平常点と出席状況・学習態度(20%)で総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に小テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
(1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
(2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

How to Receive a Better Score for the New TOEIC Test (松柏社)、2008年4月
「新TOEICテスト全パート得点のコツをレッスン」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集 Vol.4 (発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter 1 類似音、語彙、ビジネスレター
- 第3回 Chapter 2 Yes/No Question、語彙、記事
- 第4回 Chapter 3 プライベートな会話、品詞、広告
- 第5回 Chapter 4 部分的不一致、品詞、通知、告知
- 第6回 Chapter 5 Wh-questions、関係詞、図表
- 第7回 Chapter 6 ビジネス上の会話、関係詞、e-mail
- 第8回 Chapter 7 公共アナウンス、時制、ビジネスレター
- 第9回 Chapter 8 間接疑問文、時制、記事
- 第10回 Chapter 9 他人同士の会話、倒置構文、広告
- 第11回 Chapter 10 商業案内、倒置構文、通知、告知
- 第12回 Economic Growth
- 第13回 Automobile Society
- 第14回 小テスト (100)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート (20%)
 - ・ 出席、授業参加 (20%)
 - ・ 期末考査 (60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

以下の5項目に目標を設定してTOEICのスコアアップを目指す。より実践的な方法で学習する。
 1. 語彙を増やす 2. リスニング力を強化する 3. 文法、語法の知識を身につける
 4. 速読の能力を高める 5. 出題傾向を把握し、解答のコツを身につける

教科書 /Textbooks

“THE TOEIC TEST TRAINER Target 780” by B. A. Smith. (センテージ ラーニング、2,000円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Pre-test
- 2回 Unit 1 申し出 (名詞・代名詞・冠詞)
- 3回 Unit 2 意見 (スキャニング)
- 4回 Unit 3 可能性 (比較)
- 5回 Unit 4 お知らせ・通知・注意 (主語と動詞の一致)
- 6回 Unit 5 理由 (フレーズリーディング)
- 7回 Unit 6 提案 (分詞構文)
- 8回 Unit 7 口論 (仮定法)
- 9回 Unit 8 天気予報 (視野を広げる)
- 10回 Unit 9 依頼 (動詞)
- 11回 Unit 10 雑談 (並列法・倒置法)
- 12回 Unit 11 Wh疑問文 (スキミング)
- 13回 Unit 12 発表・話 (速読練習 総合)
- 14回 Practice Test
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ... 40%、 期末試験 ... 60%
 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に小テストや予習範囲等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、TOEIC問題を扱った教材を通して、特にリスニング及びリーディング力の向上を目指します。1学期は、TOEICスコア500点を目標とします。

教科書 /Textbooks

「TOEICテスト：オン・ターゲット」 大賀 リエ 他著 南雲堂 ￥2000
「コミュニケーション英単語 記憶術」 清水 かつぞー 著 南雲堂 ￥1050

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大量に問題が出題されるTOEICテストで目標スコアを確実に取得する実力をつけるために、授業で使用するテキストとは別にTOEIC問題をレベル別に扱った問題集(スコア500~レベル)で自己学習をしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション & 実力テスト(必ず出席のこと)
- 2回 Unit 1 各パート問題
- 3回 Unit 2 各パート問題
- 4回 Unit 3 各パート問題
- 5回 Unit 4 各パート問題
- 6回 Review
- 7回 Unit 5 各パート問題
- 8回 Unit 6 各パート問題
- 9回 Unit 7 各パート問題
- 10回 Unit 8 各パート問題
- 11回 Review
- 12回 Unit9 各パート問題
- 13回 Unit10 各パート問題
- 14回 Unit11 各パート問題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習・復習のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション インプット Step by Step

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ：法律と文化
ねらい：① 英語教材を通して、法律と文化を考える
② TOEICなどに必要とされるコミュニケーション能力の向上を図る

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方・ Unit 1
- 第2回 Unit 2
- 第3回 Unit 3
- 第4回 Unit 4
- 第5回 Unit 5
- 第6回 Unit 6
- 第7回 Unit 7
- 第8回 Unit 8
- 第9回 Unit 9
- 第10回 Unit 10
- 第11回 Unit 11
- 第12回 Unit 12
- 第13回 Unit 13
- 第14回 Unit 14
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...5% 授業への参加度...15% 期末試験...80%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に分からない語句を必ず辞書で調べておくこと。調べていない場合は参加度から減点する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業はTOEIC対策とリーディングの2本立てである。TOEIC対策のテキストでは、TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。リーディングのテキストでは地球環境問題、技術革新、医療問題など世界で起こっているトピックについて学習する。また、受講生は文章全体の論理構成を捉えながら読み進めるパラグラフ・リーディングに関するスキル習得を目指す。英語学習を「英語トレーニング」として捉え、各種音読トレーニングを行う。

教科書 /Textbooks

①A World of Change on the Web 「変貌する世界」 渡辺節子他著 南雲堂 1300円

②Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 2 「新TOEIC Test 文法・リーディング対策中級問題集」 David E. Bramley / 河合忠仁著 松柏社 1000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 ①Unit1 Ethnic Stereotypes / ②の範囲については各回の授業で指示する
- 3回 ①Unit2 Endangered Species 1
- 4回 ①Unit3 Endangered Species 2
- 5回 ①Unit4 Modern Masters of Art
- 6回 ①Unit5 Champions of Peace
- 7回 ①Unit6 Myspace and Wikipedia
- 8回 ①Unit7 Champions of Charity
- 9回 ①Unit8 Global Warming
- 10回 ①Unit9 Polar Bear on Thin Ice
- 11回 ①Unit10 Overpopulation
- 12回 ①Unit11 An Era of Adoption?
- 13回 ①Unit12 Are Diamonds Really a Girl's Best Friend?
- 14回 ①Review Test 1 (Unit1~6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)、筆記試験(60%)、提出物等(20%)としてTOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the ToEIC Test by Masako Yasumaru, Mayumi Yahiro, Malcolm Swanson, Noriko Sunagawa, NMiyuki Shibakura, Harumi Yahiro published by Kinseido

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1回 Orientation
- 2回 Daily Life
- 3回 Cooking & Purchasing
- 4回 Traffic & Travel
- 5回 Production & Logistics
- 6回 Business & Economics
- 7回 Advertising & ICT
- 8回 Health & Environment
- 9回 Health and the Environment
- 10回 Employment & Personnel
- 11回 Finances and Banking
- 12回 Finance & Banking
- 13回 Finance &
- 14回 Office Work & Correspondence
- 15回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 10% 試験 ... 90%

4回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて、予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

チャールズ・M・シュルツ氏の『スヌーピーとその仲間たち』のマンガを楽しみながら、ネイティブ・スピーカーが日常生活でよく使う英語表現を学び、文法事項を確認します。さらにディクテーション問題やライティング問題に取り組むことで、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

小中秀彦編著
Life with Snoopy : A Writing and Listening Handbook 南雲堂、2010年11月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 That ball went right by you 「自動詞」
- 3回 She wants to talk to you. 「他動詞」
- 4回 Put it on, and let me see. 「句動詞」
- 5回 School starts again tomorrow. 「基本時制」
- 6回 I'm going into Needles to try to sell one of my western paintings. 「進行形」
- 7回 Review Test I (Units 1-5)
- 8回 My Grampa and Gramma have been married for fifty years. 「完了形」
- 9回 Maybe you should try to dream about me. 「助動詞」
- 10回 How I hate waiting for the school bus! 「名詞・冠詞」
- 11回 It's easy to apologize to an answering machine. 「代名詞」
- 12回 Especially after I get my sleeve caught in the pencil sharpener. 「受動態」
- 13回 Review Test II (Units 6-10)
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20%)、復習テストや定期試験など(80%)。TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をして授業に臨みましょう。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

英語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors in regards to English communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute conversations in class and write 200 word reports as homework.

教科書 /Textbooks

World English 1: Heinle Cengage Learning

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bi-lingual is preferable. The student will also need a memory stick.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Talk about past vacation trips. Exchange Information about vacations.
- 第2回 Describe a personal experience. Talk about a discovery from the past.
- 第3回 Video Journal: Machu Picchu. Talk about plans.
- 第4回 Discuss long- and short-term plans. Make weather predictions.
- 第5回 Discuss the future. Video Journal: Solar Cooking.
- 第6回 Make comparisons. Explain preferences.
- 第7回 Talk about clothing materials. Understand and describe a process.
- 第8回 Video Journal: Traditional Silk Making. Give advice on healthy habits.
- 第9回 Suggest ways to improve bad habits. Ask about lifestyles.
- 第10回 Evaluate your lifestyle. Video Journal: The Science of Stress.
- 第11回 Talk about today's chores. Interview for a job.
- 第12回 Talk about lifetime achievements. Discuss scientific achievements.
- 第13回 Video journal: Spacewalk. Talk about managing your money.
- 第14回 Choosing how to spend your money. Our actions can have positive consequences.
- 第15回 Preventing habitat destruction. Video Journal: Missing Snows of Kilimanjaro.

成績評価の方法 /Assessment Method

Classwork and assignments: 60%

Final emamination: 40%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Student must ask questions in class. Student must be prepared to present 3 minute coneverations in class and write 200 word reports as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 啓子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1) インターネットを利用したアクティビティを通して実践的な英語学習を行う
- (2) オンラインニュースを読み、語彙を増やすとともに速読の能力を高める
- (3) TOEICの練習問題を行う

教科書 /Textbooks

“Web-enhanced Reading & Writing!: Basic Internet Skills and Online News” by Keiko Miyake (イソース、1,800円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction
- 2 回 Basic Computer Terms/ Typing-1/ Online Dictionaries-1
- 3 回 Typing-2/ Online Dictionaries-2/ Search Engines-1
- 4 回 Search Engines-2/ News Sites-1
- 5 回 News Sites-2/ Headlines-1
- 6 回 Headlines-2
- 7 回 Headlines-3/ Abbreviations and Acronyms-1
- 8 回 Abbreviations and Acronyms-2
- 9 回 The Lead-1
- 1 0 回 The Lead-2/ News Summaries-1
- 1 1 回 News Summaries-2/ The Paragraph-1
- 1 2 回 The Paragraph-2/ Transitions-1
- 1 3 回 Transitions-2/ Paraphrasing and Summarizing
- 1 4 回 Supportive Information
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト、提出物を含む) ...40%、 期末試験 ... 60%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に予習範囲や提出物等について説明する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に身につけた英語力を踏まえ、毎回のTOEIC問題模擬を通して、英語力の更なる向上を目指します。TOEIC目標スコア550点以上を目標とします。

教科書 /Textbooks

テキストなし。
TOEIC問題のプリントを各授業で配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期同様、授業での学習以外に、各個人の目標スコアに適したレベル別TOEIC問題集を使って自己学習をしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション & 実力テスト (必ず出席のこと)
2回	プリント模擬テスト & 各問題の解答確認
3回	"
4回	"
5回	"
6回	"
7回	"
8回	"
9回	"
10回	"
11回	"
12回	"
13回	"
14回	"
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 各授業模擬テスト40% + 期末テスト50% + TOEICスコア500点以上10%
欠席2回まで。遅刻2回で1回欠席とみなす。TOEIC400点未満単位取得不可。
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎日TOEIC問題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際語 コミュニケーション インプット Step by Step

英語VI【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。具体的には、「ビジネス関連の語彙や表現」に慣れること、また「TOEICの試験形式」そのものに慣れること。

- (1) 英語のReading及びListeningの能力を養う。
- (2) 英語の資格試験に必要な文法事項を学習する。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE ESSENCE OF THE TOEIC TEST (金星堂、2011年1月発行
「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 著者：安丸雅子、八尋真由美、Malcolm Swanson他

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集Vol. 3(発行：財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life (日常生活) 名詞・主語と動詞の一致
- 第3回 Unit 2 Eating Out & Amusement (外食と娯楽) 形容詞・副詞
- 第4回 Unit 3 Cooking & Purchasing (料理と買い物) 基本時制
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel (交通と旅行) 進行形・完了形
- 第6回 Unit 5 Production & Logistics (製造と運輸) 受動態
- 第7回 Unit 6 Business & Economics (ビジネスと経済) 分詞・分詞構文
- 第8回 Unit 7 Advertising & ICT (広告と情報通信技術) 不定詞・動名詞
- 第9回 Unit 8 Health & the Environment (健康と環境) 助動詞
- 第10回 Unit 9 Law & Administration (司法と行政) 代名詞・関係詞
- 第11回 Unit 10 Employment & Personnel (雇用と人事)
- 第12回 Unit 11 Finance & Banking (財務と銀行業務)
- 第13回 Unit 12 Office Work & Correspondence (社内業務と通信) その他の講文
- 第14回 小テスト (100問)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 小テスト、レポート(20%)
 - ・ 出席、授業参加(20%)
 - ・ 期末考査(60%)
- 最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、TOEIC対策とリーディングの2本立てで授業を進める。TOEIC対策のテキストでは、TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。リーディングのテキストでは地球環境問題、技術革新、医療問題など世界で起こっているトピックについて学習する。また、受講生は文章全体の論理構成を捉えながら読み進めるパラグラフ・リーディングに関するスキル習得を目指す。英語学習を「英語トレーニング」として捉え、各種音読トレーニングを行う。

教科書 /Textbooks

- ①Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 1995円
- ②A World of Change on the Web 「変貌する世界」 渡辺節子他著 南雲堂 1300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 ①Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞] / ②Gambling around the Globe
- 3回 ①Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞] / ②Our Bodies and Obesity
- 4回 ①Unit8 Health & the Environment [助動詞] / ②Growing Old--Living Long
- 5回 ①Unit8 Health & the Environment [助動詞] / ②Ever-Changing Energy
- 6回 ①Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞] / ②The Natural Way--Medicine and Trade
- 7回 ①Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞] / ②Copyright
- 8回 ①Unit10 Employment & Personnel [比較構文] / ②Veg-Out!
- 9回 ①Unit10 Employment & Personnel [比較構文] / ②HIV/AIDS around the World
- 10回 ①Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 ①Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 ①Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 ①Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 ①Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)、筆記試験(60%)、提出物等(20%)そしてTOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ¥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 村田 希巳子 / Kimiko Murata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

英語を実践的にビジネスの場で使えるようになるためには、英語の四技能を総合的に鍛えることが必要である。この授業では、TOEICにおける高得点の獲得を目標に実際の訓練を行う。

教科書 /Textbooks

新TOEICテスト全パート対応 ヴォキャブラリー徹底演習 by Satoru Huruya

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容

1 . 単語のテスト 2 . Listening 3 . 読解。

- 1 回 Lesson1
- 2 回 lesson2
- 3 回 Lesson3
- 4 回 Lesson4
- 5 回 Lesson5
- 6 回 Lesson6
- 7 回 Lesson7
- 8 回 Lesson8
- 9 回 Lesson9
- 1 0 回 Lesson10
- 1 1 回 Lesson11
- 1 2 回 Lesson12
- 1 3 回 Lesson13
- 1 4 回 Lesson14
- 1 5 回 review

成績評価の方法 /Assessment Method

単語のテスト ... 1 0 % 試験 ... 9 0 %

4 回以上の欠席は、受験資格を失う。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単語のテストの準備 CDを聞いて予習をしてくる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期に続いて、チャールズ・M・シュルツ氏の『スヌーピーとその仲間たち』のマンガを楽しみながら、ネイティブ・スピーカーが日常生活でよく使う英語表現を学び、文法事項を確認します。さらにディクテーション問題やライティング問題に取り組むことで、学んだ知識の定着を図ります。

教科書 /Textbooks

小中彦彦編著
Life with Snoopy : A Writing and Listening Handbook 南雲堂、2010年11月

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 He's going to devote the rest of his life to making his cat happy. 「形容詞」
- 2回 I was already happy. 「副詞」
- 3回 I kept worrying about school. 「分詞」
- 4回 That must have been a hard decision to make. 「不定詞」
- 5回 They hate eating in a kennel. 「動名詞」
- 6回 I read it in French. 「前置詞」
- 7回 Review Test I (Units 11-16)
- 8回 No matter how hard you pretend, a rock is still a rock. 「接続詞」
- 9回 I fall in love with any girl who smells like library paste. 「関係詞」
- 10回 The anchor person looked better when she had long hair. 「比較・否定」
- 11回 If we had a little money, we could buy some more cookies. 「仮定法」(1)
- 12回 If we had a little money, we could buy some more cookies. 「仮定法」(2)
- 13回 Review Test II (Units 6-10)
- 14回 Presentation
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(20%)、復習テストや定期試験など(80%)。TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をして授業に臨みましょう。辞書を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the first semester Units One through Six will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 1 Talking about Vacations
- 2回 Unit 1 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 2 Giving Opinions
- 4回 Unit 2 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 3 Talking about experiences
- 6回 Unit 3 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 4 Describing Places
- 8回 Unit 4 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 5 Describing Special events
- 10回 Unit 5 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 6 Giving Advice
- 12回 Unit 6 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 1 ~ 6

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Expressing Yourself in English
This course involves practicing two way conversations in English. The aim is to become more aware of cultural codes of speaking and to sound more natural.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Unit 1: Introductions - Starting a Conversation
Week 2: Silence and conversation. Getting someone to repeat.
Week 3: Using "but" to show contrast. Silence and conversation. Cultural codes and strategies.
Week 4: Unit 2: Daily Life. Qualifying your speech.
Week 5: Showing interest with short responses. Rounding off numbers.
Week 6: Dynamic conversations. Longer answers and implicit questions.
Week 7: Unit 3: University Life
Week 8: Echo questions.
Week 9: Unit 4: Skills. Don't be over-humble.
Week 10: How long have you been playing the piano?
Week 11: What do you think is a good way to study English?
Week 12: Unit 5: Family. Asking Personal Questions
Week 13: Having children and getting married.
Week 14: Review.
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Oral assignments and class participation - 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text in advance of class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題に沿って、英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力また表現したい事柄を英語で流暢に表現できるようになることをねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Love-Introductions
- 第3回 Love-Building Skills
- 第4回 Love-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Justice-Introduction
- 第7回 Justice-Building Skills
- 第8回 Justice-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Synthesis

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンテーションを準備することが宿題になることがあります。工夫を凝らして、楽しんで制作してください。
テキストブックはModule 3 まで使用します。Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題に沿って自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introductions and Orientation
- 2 回 Text Unit 1 "Weekends"
- 3 回 Text Unit 2 "Excuses"
- 4 回 Text Unit 3 "Life Events"
- 5 回 Text Unit 4 "Travel"
- 6 回 Text Unit 5 "Culture Shock"
- 7 回 Text Unit 6 "Party Time"
- 8 回 Text Unit 7 "Describing People"
- 9 回 Game Day!
- 1 0 回 Text Unit 8 "Movies"
- 1 1 回 Text Unit 10 "Big Issues"
- 1 2 回 Text Unit 13 "Keepsakes"
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class and being absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed every week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every class on how much you speak and how active you are.

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman - Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions - Picture Story Speech
- 第2回 Delivering Your Message
- 第3回 Putting Your Speech Together
- 第4回 Outlining and Writing - A Personal Experience
- 第5回 Delivery-Group 1 - A Personal Experience Speech - 1
- 第6回 Outlining and Writing - A personal Experience
- 第7回 Delivery-Group 2 - A Personal Experience - Speech 1
- 第8回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第9回 Delivery-Group 1 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第10回 Outlining and Writing - A Meaningful Object
- 第11回 Delivery-Group 2 - A Meaningful Object - Speech 2
- 第12回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第13回 Delivery-Group 1 - An Informative Speech - Final Speech
- 第14回 Speaking to Inform - Outlining and Writing - An Informative Speech
- 第15回 Delivery-Group 2 - An Informative Speech - Final Speech

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write and practice assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII【昼】

担当者名
/Instructor

マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次
/Year

単位 1単位
/Credits

学期 1学期
/Semester

授業形態 講義
/Class Format

クラス 律政群2 - G
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in using English for business and communication. Students will practice basic grammar and language skills, which will then be applied to specific business situations.

教科書 /Textbooks

There is no textbook. Curriculum is based on teacher handouts, student generated materials and class projects.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ORIENTATION / SYLLABUS REVIEW
- 2回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS
- 3回 NAMES, TITLES, & INTRODUCTIONS : EXPANSION ACTIVITY
- 4回 OCCUPATIONS & WORKPLACES
- 5回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES
- 6回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES : SPEAKING PRACTICE
- 7回 JOBS & JOB RESPONSIBILITIES : EXPANSION ACTIVITY
- 8回 NUMBERS & PRICES
- 9回 NUMBERS & PRICES : LISTENING
- 10回 COST OF LIVING
- 11回 BUSINESS COSTS & EXPENSES
- 12回 SPECIAL PROJECT : PREPARATION
- 13回 SPECIAL PROJECT : PRACTICE
- 14回 PROJECT PRESENTATION
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 45%, Homework 5%, Projects and Quizzes 30%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Notebook and dictionary

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VII 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)すぐれた文学作品の持つ、ストーリー性の高さ、内容の面白さ、巧みな語彙表現を通して英語のスキルを磨いていく。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)特に英語の Reading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Let's Learn English from American Literature (英宝社)、2010年1月発行
『アメリカ文学から英語を学ぼう』 編注者：早瀬博範、江頭理江

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Chapter 1 Louisa May Alcott, Little Women
- 第2回 Chapter 2 Sherwood Anderson, "Paper Pills"
- 第3回 Chapter 3 Henry James, The Daisy Miller
- 第4回 Chapter 4 Charlotte Gilman, "The Yellow Wallpaper"
- 第5回 Chapter 5 O. Henry, "After Twenty Years" (I)
- 第6回 Chapter 6 O. Henry, "After Twenty Years" (II)
- 第7回 Chapter 7 Kate Chopin, The Awakening
- 第8回 Chapter 8 F. Scott Fitzgerald, Great Gatsby (I)
- 第9回 Chapter 9 F. Scott Fitzgerald, Great Gatsby (II)
- 第10回 Chapter 10 Mark Twain, Adventurers of Huckleberry Finn (I)
- 第11回 Chapter 11 Mark Twain, Adventurers of Huckleberry Finn (II)
- 第12回 Chapter 12 Edgar Allan Poe, "The Black Cat"
- 第13回 Chapter 13 Nathaniel Hawthorne, The Scarlet Letter
- 第14回 Chapter 14 Ralph Waldo Emerson, Nature
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ レポート、小テスト (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・アンソニー・コフリン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students in this course will study the four language skills. They will go systematically through the exercises in the textbook as the teacher sees fit. Each unit will take one whole class and part of another. The final 1/2 of the second class will be devoted to a dialog test, in which each student will memorize the dialog and then make small changes in it.

教科書 /Textbooks

Smart choice Book 2 by Ken Wilson published by Oxford University Press

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N/A

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

The course will be taught as follows. During the second semester Units Seven through Twelve will be completed, along with corresponding dialogs from the test booklet written and distributed by the teacher at the beginning of the semester. Fifty percent of the final grade will be based on dialog tests given every other week and the other fifty percent will come from an average the grammar review and cumulative dialog test give at the end of the course.

- 1回 Unit 7 Making Complaints
- 2回 Unit 7 completed & Dialog Test
- 3回 Unit 8 Describing preferences
- 4回 Unit 8 completed & Dialog Test
- 5回 Unit 9 Telling stories
- 6回 Unit 9 completed & Dialog Test
- 7回 Unit 10 Making Speculations
- 8回 Unit 10 completed & Dialog Test
- 9回 Unit 11 Talking about Past Habits
- 10回 Unit 11 completed & Dialog Test
- 11回 Unit 12 Explaining Possibilities
- 12回 Unit 12 completed & Dialog Test
- 13回 Grammar Review Test
- 14回 Preparation for Cumulative Dialog Quiz
- 15回 Cumulative Dialog Quiz Units 7 ~ 12

成績評価の方法 /Assessment Method

Students' marks will be made up of an average of marks from dialog quizzes, speeches, written grammar review tests etc. Unexcused absence and late arrival for class will affect the final mark.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

N/A

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 律政群 2 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語VII). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.
The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speed
- Week 4 Repeat
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Speaking on Topics
- Week 7 Control Techniques
- Week 8 Control Techniques
- Week 9 Workarounds
- Week 10 Charting
- Week 11 Charting
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor アレクサンダー・ボードナー / Alexander Bodnar / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Expressing Yourself in English
This course is a continuation of the first semester. It involves practicing two way conversation in English.
The aim is to become more aware of cultural codes of speaking and to sound more natural.

教科書 /Textbooks

Richmond, Stephen et al. Conversations in Class. Alma Publisher. 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Unit 6: Travel. Asking follow-up questions.
Week 2: Spoken contractions.
Week 3: Giving and receiving recommendations.
Week 4: Unit 7: Free Time
Week 5: Stressing Important Information
Week 6: Don't say "play" with friends.
Week 7: Unit 8: Money. Giving a reason for your answer.
Week 8: Spending habits. What do you spend your money on?
Week 9: How much money do you spend?
Week 10: Unit 9: Hometown. Talking about weather.
Week 11: Distinguishing yourself from others.
Week 12: What's your hometown famous for?
Week 13: Unit 10: Future. Where will you be five years from now?
Week 14: Using transitions. Living overseas and dream job.
Week 15: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Written assignments and oral participation 70% Exam 30%
No credit will be given to students who are absent four or more times.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Read text in advance of class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題に沿って、英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力また表現したい事柄を英語で流暢に表現できるようになることをねらいとする。
2学期は加えてパラグラフライティングの技能を身につける。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2
※Book 2 は 1 学期に使用したものと別本です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Happiness-Introductions
- 第 3 回 Happiness-Building Skills
- 第 4 回 Happiness-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Religion-Introduction
- 第 7 回 Religion-Building Skills
- 第 8 回 Religion-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Synthesis

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各20% (計3回) 試験(essay) 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プレゼンテーションを準備することが宿題になることがあります。工夫を凝らして、楽しんで制作してください。
テキストブックはModule 3 まで使用します。Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課題に沿って自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。
アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。
文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Communication and fluency training for daily communication in English.

教科書 /Textbooks

WorldView 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation “My Summer”
- 2 回 Text Unit 15 “Sports”
- 3 回 Text Unit 18 “Mysteries”
- 4 回 Text Unit 19 “Shopping”
- 5 回 Text Unit 21 “Long Life”
- 6 回 Text Unit 22 “Job Share”
- 7 回 Game Day!
- 8 回 Text Unit 24 “Take a Risk”
- 9 回 Text Unit 26 “On the Go”
- 1 0 回 Christmas Lesson
- 1 1 回 Text Unit 27 “Behave Yourself”
- 1 2 回 Text Unit 28 “Jobs”
- 1 3 回 Test Preparation
- 1 4 回 Speaking Test
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Active participation in class...33.33% Homework...33.33% Final Test...33.33%

Being late to class or absent will lower your grade. Being absent more than 3 times will result in you failing the course.

No late homework will be accepted.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework must be completed every week before class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please be active and try to speak in class. You will be graded every week on how much you speak and on how active you are in class.

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are speaking, reading and writing English. The class is taught in English and is designed to meet the needs of Law majors' in regards to public speaking.

教科書 /Textbooks

Speech Communication Made Simple. Paulette Dale - James C. Wolf - Pearson Longman- Third Edition (the student will also need a memory stick)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1) Course and Introductions
- 第2回 Introduction to Persuasive Speaking
- 第3回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第4回 Delivery - Group 1 - Speech 1
- 第5回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第6回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第7回 Delivery - Group 2 - Speech 1
- 第8回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第9回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第10回 Delivery - Group 1 - Speech 2
- 第11回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第12回 Persuasive Speech - Outlining and Writing
- 第13回 Delivery - Group 2 - Speech 2
- 第14回 Final Speech - Group 1
- 第15回 Final Speech - Group 2

成績評価の方法 /Assessment Method

60% Class Work and 40% Final Exam

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write and practice assigned speech.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop critical thinking and express the pros and cons of various topics using appropriate discussion and debate language skills.

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 SYLLABUS REVIEW AND CLASSROOM ENGLISH
- 2回 "HOW WAS YOUR SUMMER?" : SIMPLE PAST TENSE REVIEW
- 3回 "HOW WAS YOUR SUMMER?" : WH- QUESTIONS
- 4回 GIVING OPINIONS : SIMPLE AGREEING / DISAGREEING
- 5回 GIVING OPINIONS : FREQUENCY ADVERBS AND ADVERBS OF DEGREE
- 6回 DISCUSSION AND DEBATE LANGUAGE
- 7回 SCHOOL UNIFORM DISCUSSION
- 8回 SCHOOL UNIFORM DEBATE / PRESENTATION
- 9回 CELL PHONE DISCUSSION
- 10回 CELL PHONE DEBATE / PRESENTATION
- 11回 NEW TOPIC DISCUSSION
- 12回 NEW TOPIC DEBATE / PRESENTATION
- 13回 GROUP PROJECT : DEBATE PREPARATION
- 14回 GROUP PROJECT : DEBATE PRACTICE
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 45%, Homework 5%, Quizzes and Presentations 30%, Final Examination 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Notebook and dictionary

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語VIII 【昼】

担当者名 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群2 - 1
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)パラグラフレベル、更にパッセージレベルといったより大きな単位で、英語の速読のトレーニングに取り組む。
- (2)多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
- (3)英語のReading及びListeningの能力を養う。

教科書 /Textbooks

Power Reading 2 - Reading in Paragraphs 土屋武久、Bill Benfield他 (成美堂)、2010年1月発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Unite 1 English Rakugo (Reading Skill in Focus: Predicting)
- 第2回 Unite 2 Silent CEOs (Reading Skill in Focus: Phrase Reading)
- 第3回 Unite 3 Cappadocia (Reading Skill in Focus: Increasing WPM)
- 第4回 Unite 4 Eco-cars (Reading Skill in Focus: Finding Main Ideas)
- 第5回 Unite 5 Finance for Kids (Finding Main Ideas at the Passage Level)
- 第6回 Unite 6 Jazz (Scanning for Words)
- 第7回 Unite 7 Britain's National Trust (Scanning for Information)
- 第8回 Unite 8 How Fast Can Humans Run (Skimming for the Central Ideas)
- 第9回 Unite 9 Pitfalls of Statistics (Skimming for Point of View)
- 第10回 Unite 10 Hot Spring (Vocabulary Building)
- 第11回 Unite 11 Abraham Lincoln (Understanding Text Organization1: Time Oder)
- 第12回 Unite 12 Eating Oil (Understanding Text Organization2: Cause & Effect)
- 第13回 Unite 13 We Love Sitcoms (Understanding Text Organization3)
- 第14回 Unite 14 Regenerative Medicine (Evaluating Facts & Opinions)
- 第15回 Sum up the main points of the text in conclusion

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 出席、発表 (20%)
- ・ レポート、小テスト (20%)
- ・ 期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ・ 英和辞典、和英辞典持参のこと。
- ・ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

履修上の注意 /Remarks

教科書を忘れた場合は、授業開始前に必ずコピーをしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 <試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州
- 14回 前期のまとめ
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律群1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の各都市の状況について理解します。

教科書 /Textbooks

『中国秀』 < 試用本 > (『中国秀』 編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ ・ 60% 小テスト・ ・ 20% 日常の授業への取り組み・ ・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 李 東輝
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律群1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』<試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 発音の総合練習
- 5回 第四課 初めまして
- 6回 第四課 初めまして、練習問題
- 7回 第五課 搭乗・入国
- 8回 第五課 搭乗・入国、練習問題
- 9回 第六課 レストランにて
- 10回 第六課 レストランにて、練習問題
- 11回 第七課 交通
- 12回 第七課 交通、練習問題
- 13回 第八課 観光
- 14回 第八課 観光、練習問題
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 李 東輝
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律群1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『中国秀』<試用本> (『中国秀』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 銀行にて
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルにて
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 趣味
- 10回 第十三課 趣味、練習問題
- 11回 第十四課 語り合い
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて
- 14回 第十五課 搭乗手続き・免税店にて、練習問題
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・小テスト50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)一年次に学びましたが、日本人にとって比較的把握が困難な文法事項を再確認し、定着させます。
 (2)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)また中国の様々な現代事情について理解を深めます。
 (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新‘漢流’生活-』(張国璐・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文法確認【結果補語】【方向補語】
- 2回 文法確認【様態補語】【可能補語】
- 3回 文法確認【把構文】【被構文】
- 4回 文法確認【比較表現】【複文】
- 5回 小テスト
- 6回 第一課 80後と90後 本文【複文】【副詞】【可能補語】
- 7回 第一課 80後と90後 会話
- 8回 第一課 80後と90後 練習問題 小テスト
- 9回 第二課 いまどきの大学生 本文【助動詞】【複文】【動作の回数】
- 10回 第二課 いまどきの大学生 会話
- 11回 第二課 いまどきの大学生 練習問題 小テスト
- 12回 第三課 若者と住宅問題 本文【語気助詞】【助動詞】【結果補語】
- 13回 第三課 若者と住宅問題 会話
- 14回 第三課 若者と住宅問題 練習問題 小テスト
- 15回 前期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)長文読解や練習問題を通して、語彙力を増やし、中級レベルの文法と自然な言い回しを習得できます。(「読む・書く」面の強化)
- (2)中国の様々な現代事情について理解を深めます。
- (3)本文や会話のCDを聞く、練習することにより、「聞く・話す・読解」面の強化もはかります。

教科書 /Textbooks

『ときめき中国-ぼくらの新'漢流'生活-』(張国璠・池上貞子著)朝日出版社 2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書(CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第四課 中国人とお金 本文【副詞】【部分否定】【状態の持続】【助動詞】【結果補語】
- 2回 第四課 中国人とお金 会話
- 3回 第四課 中国人とお金 練習問題 小テスト
- 4回 第五課 金持ちだから 本文【副詞】【助動詞】【存在・所有】【複文】
- 5回 第五課 金持ちだから 会話
- 6回 第五課 金持ちだから 練習問題 小テスト
- 7回 第六課 中国人の面子 本文【助動詞】【強調】【二重目的語】
- 8回 第六課 中国人の面子 会話
- 9回 第六課 中国人の面子 練習問題 小テスト
- 10回 第七課 あるハリー族 本文【過去の経験】【様態補語】【前置詞の在】
- 11回 第七課 あるハリー族 会話
- 12回 第七課 あるハリー族 練習問題 小テスト
- 13回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 本文【助動詞】【複文】
- 14回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 会話
- 15回 第八課 ジェネレーション・ギャップ 練習問題 小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 馮 雅蓮 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
(2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務類』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 挨拶・紹介 フレーズ 1～3
- 2回 挨拶・紹介 フレーズ 4～6
- 3回 挨拶・紹介 フレーズ 7～9
- 4回 挨拶・紹介 フレーズ 10～12
- 5回 事務用品の使用 フレーズ 13～15
- 6回 事務用品の使用 フレーズ 16～18
- 7回 スケジュールの手配 フレーズ 19～21
- 8回 スケジュールの手配 フレーズ 22～24
- 9回 スケジュールの手配 フレーズ 25～28
- 10回 場所の確認 フレーズ 29～31
- 11回 場所の確認 フレーズ 32～34
- 12回 称賛・褒め称える フレーズ 35～39
- 13回 連絡 フレーズ 40～42
- 14回 連絡 フレーズ 43～45
- 15回 招請・宴席への招待 フレーズ 46～48

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 王 晨 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
 (1)会話文の練習などを通して、正しい発音をしっかり定着させます。
 (2)ビジネスに必要な語彙を増やし、業務の様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。

教科書 /Textbooks

『体験汉语100句・公務类』中国・高等教育出版社(褚佩如 等)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 招請・宴席への招待 フレーズ49～52
- 2回 招請・宴席への招待 フレーズ53～56
- 3回 感謝 フレーズ57～59
- 4回 クレーム・催促 フレーズ60～63
- 5回 クレーム・催促 フレーズ64～67
- 6回 要求・務め フレーズ68～70
- 7回 要求・務め フレーズ71～73
- 8回 要求・務め フレーズ74～77
- 9回 アポイント・変更 フレーズ78～80
- 10回 アポイント・変更 フレーズ81～83
- 11回 アポイント・変更 フレーズ84～87
- 12回 問い合わせ フレーズ88～90
- 13回 問い合わせ フレーズ91～94
- 14回 お別れ・見送り フレーズ95～97
- 15回 お別れ・見送り フレーズ98～100

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50% 暗誦テスト・・・30% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語VIII 【昼】

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音【基本母音】
- 3回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 4回 基本子音(平音)とその発音【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音【派生母音1】
- 8回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化【音の変化】
- 12回 辞典を引いてみよう【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～です/ですか】
- 14回 自己紹介【指定詞の丁寧形】【～といたします】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト・態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

金貞愛 他 『しっかり初級韓国語』白水社 (2008年4月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 3回 これは何ですか【指示代名詞】【体言否定】【助詞1】
- 4回 このコンピュータは誰のものですか【人称・所有代名詞】【助詞2】
- 5回 トイレはどこにありますか【存在の有無】【助詞3】
- 6回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 7回 それから何をしますか【用言の基本形・丁寧形】【助詞4】
- 8回 二日間予約したいですが【漢数詞】【年月日の言い方】
- 9回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 10回 今、何時ですか【固有数詞】【時間・年齢の言い方】
- 11回 土曜日には会社に行きません【用言の否定形】
- 12回 海に行きたいです【願望形】
- 13回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 14回 とてもうれしかったです【過去形】【助詞5】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・小テスト・態度...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な単語をテーマ別に分類している『暮らしの単語集 韓国語』(野間秀樹・ナツメ社)を薦める。

履修上の注意 /Remarks

予習・復習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営群1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階ではハングル文字と発音を正確に習得することを目指す。ハングル文字はまるで記号のようにみえるが、実はとても科学的かつ合理的に作られている文字であり、パズルのように子音と母音を組み合わせれば容易に覚えらる。この講義では一言会話とともに、ハングルを見て正確に声に出して読めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ！韓国語』（金順玉・阪堂千津子、白水社）定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』（小学館）定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本文字について【基本母音と基本子音①】
- 2回 書き方と発音【基本子音と基本子音②】
- 3回 書き方と発音【激音と濃音】【合成母音字】
- 4回 バッチム【終声①】
- 5回 バッチム【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 単語と音の変化【その他の発音法則】
- 9回 尋ねる時の表現（～ですか？）【指定詞の丁寧形①】
- 10回 自己・物を紹介する時の表現①（～です、～ではありません）【指定詞の丁寧形②】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現②（～といいます）
- 12回 存在の有無を尋ねる時の表現（～がありますか？～いますか？）
【存在詞のうちとけた丁寧形①】【場所をあらわす助詞】
- 13回 存在の有無を尋ねる時の表現（～に～があります。います）
【存在詞のうちとけた丁寧形②】【時を表す単語および助詞】
- 14回 物・場所を尋ねる時の表現（～は何ですか？～はどこですか？）
【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日常会話程度の短いダイアログを覚えて、対話形式で話すことができる。初級テキストにあげる朝鮮語の基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようにする。また、日本語に訳すことができるようにする。

教科書 /Textbooks

『新チャレンジ!韓国語』(金順玉・阪堂千津子、白水社) 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』(小学館) 定価8,000円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回前期のまとめ
- 2 回「これは何ですか?」①【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 3 回「これは何ですか?」②【指示代名詞】【疑問代名詞】【指定詞の打ち解けた丁寧形】
- 4 回「日曜日に何をしますか?」①【曜日】【助数詞】【動詞・形容詞のうちけた丁寧形】
- 5 回「日曜日に何をしますか?」②【漢数詞】【時間】【月日】【電話番号】
- 6 回「何が好きですか?」①【動詞・形容詞の否定形①】
- 7 回「何が好きですか?」②【動詞・形容詞の変則】
- 8 回「週末に何をしましたか?」①【動詞の過去形】【時を表す単語】
- 9 回「週末に何をしましたか?」②【願望表現】【形容詞の過去形】
- 10 回「一週間の予定」【接続詞①】【確認表現】
- 11 回「明日は何をするつもりですか?」①【意思表現】【推測表現】
- 12 回「明日は何をするつもりですか?」②【進行や状態の継続表現】【接続詞②】
- 13 回「スープが冷たくておいしいです」①【動詞・形容詞の否定形②】【逆説表現】
- 14 回「スープが冷たくておいしいです」②【並列表現】【比較表現】
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・30% 授業中の参加意欲及び発言状況・・・20% 定期試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

課題への取り組み、小テストに向けた復習を十分に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)
『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 3回 何を食べましょうか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 4回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(1)
- 5回 電話番号を教えてください【理由の表現】【否定文】(2)
- 6回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(1)
- 7回 趣味は何ですか【仮定・連体形】(2)
- 8回 ビデオ上映
- 9回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(1)
- 10回 仁寺洞にはどのように行きますか【道を尋ねる表現】【地下鉄の路線図を読む】(2)
- 11回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(1)
- 12回 風邪はすっかり治ったんですか【前置き・禁止・可能の表現】【病気に関する表現】(2)
- 13回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(1)
- 14回 連休に何をするつもりですか【予定の表現】【譲歩・同時進行の表現】(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

初級レベルでは学習しなかった、より高度な会話や文章の読解を目指す。1学期に引き続き、主として表現・文法の学習を中心とし、その学習を効果的に行うため、会話や読解、作文練習などに力を入れる。

教科書 /Textbooks

『韓国語を学ぶ 中級』（李昌圭、朝日出版社、2,300円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典(必携)

『朝鮮語辞典』（小学館、8,000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(1)
- 3回 雨が結構降っているみたいですね【推測の表現】【引用・伝聞の表現】(2)
- 4回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(1)
- 5回 プルゴギを作ることができますか【注文に関する表現】【提案と勧誘の表現】(2)
- 6回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(1)
- 7回 このズボン、履いてみてもいいですか【理由の表現】【否定文】(2)
- 8回 韓国文化とのふれあい
- 9回 テーマに沿って自由会話(1)
- 10回 テーマに沿って自由会話(2)
- 11回 発表(1)
- 12回 発表(2)
- 13回 発表(3)
- 14回 発表(4)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席および授業態度... 20% 小テストおよび宿題... 30% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『ちょこっとチャレンジ!』白水社(2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 3回 お名前なんとおっしゃいますか?【インタビューする】
- 4回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 5回 朝子といいますが、日本から来ました。【自己紹介をする】
- 6回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 7回 魚は焼かないでください。【きまりを言う】
- 8回 花火を見にいこうと思います。【チャレンジ】
- 9回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 10回 ファンの集いに行くことにしました。【約束をする】
- 11回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 12回 道を渡って左にずっと行ってください。【道案内をする】
- 13回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 14回 ファンの集いへ行ってみたんですけど...【感想を言う】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう!

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業では、会話練習を中心に行い、朝鮮語による表現力と基礎的な日常会話の運用能力を高めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他 『ちょこっとチャレンジ!』 白水社 (2011年3月)、2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自由会話【夏休みの出来事】
- 2回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 3回 少し安くしてください。【買い物をする】
- 4回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 5回 私の気持ちですから受け取ってください。【プレゼントをする】
- 6回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 7回 咳がひどくて眠れませんでした。【体の具合を言う】
- 8回 いちど行ってみてください。【チャレンジ】
- 9回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 10回 字幕を見ながら勉強します。【勉強の仕方を話す】
- 11回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 12回 今日は来られないそうです。【話を伝える<間接話法>】
- 13回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 14回 久しぶりに来てみて、どうですか？【思い出を話す】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・課題・小テスト...40% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、先週のできことを発表してもらう。
予習が必須なので必ず予習をすること。

履修上の注意 /Remarks

授業中、発表や発言が多く求められるので、授業に積極的に参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく話しましょう！

キーワード /Keywords

地域学入門【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 佐木 隆三 他 地域創生学群教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域には複合的な問題が存在し、地域の再生と創造に対する一元的な解決方法はありません。このため、自分の専門や興味・関心とは異なる分野における地域の具体的な課題と、その課題に対する取り組みについて理解し、幅広い視野を身につけることが重要です。

地域学入門では、地域とは何か、総合的理解とは何かといった、地域を学ぶにあつての基本的概念、理論的背景を学習します。あわせて、地域の抱える具体的な課題と市民の関わり方について、その概略を理解します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域とは何か
- 2回 地域の総合的な理解
- 3回 地域学入門の考え方
- 4回 地域創生とマネジメント①
- 5回 地域創生とマネジメント②
- 6回 地域創生とマネジメント③
- 7回 地域創生とマネジメント④
- 8回 地域創生とボランティア①
- 9回 地域創生とボランティア②
- 10回 地域創生と文学
- 11回 地域創生と情報
- 12回 地域創生と福祉①
- 13回 地域創生と福祉②
- 14回 地域創生と福祉③
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な視点から地域について説明を行います。柔軟かつ幅広い視野を得るべく、学習をすすめてください。授業中にディスカッションの時間を設けます。積極的な発言を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア学概論【昼】

担当者名 見館 好隆/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

<目的>
代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、自らのキャリア発達に繋がります。

<進め方>
グループワーク主体です。講義は短時間です。
①来週までに予習する。
②予習した内容を議論する。
③キャリアの基本的な理論を学ぶ。
④レポートの下書きをする。
⑤下書きを語り合い、改善・修正する。
⑥レポートを仕上げる。
⑦次回の予習の課題をメモする。

<期待される効果>
学群の実習はもちろん、課外活動やアルバイトも含めたさまざまな経験を自らの成長に活かす方法が得られると思います。また、将来の自分のキャリアを描くヒントも得られると思います。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(キャリアとは?)
- 2回 キャリア・デベロップメント
- 3回 働く個性・仕事へのこだわり
- 4回 働く理由・ワークモチベーション
- 5回 一皮むけた経験・トランジション
- 6回 経験からの学習・PDCAサイクル
- 7回 計画された偶発性・セレンディピティ
- 8回 企業文化・経営理念
- 9回 企業内人材育成
- 10回 成人教育学(大人の学び)
- 11回 大学生のキャリア(大学生活・就職活動)
- 12回 労働支援関連施設のフィールドリサーチ
- 13回 労働支援関連施設のフィールドリサーチ
- 14回 労働支援関連施設の調査発表
- 15回 まとめ(最終レポート)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

キャリア学概論【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ※1学期の『キャリア・デザイン』を受講していることが望ましい。
- ※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって課外活動で欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業を通してさらに大学生活を充実したものしたい、という意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、成長

市民活動実践論【昼】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
市民活動とは何か、授業の中で私たちなりの言葉をつかむことを目標とする。適宜ゲストを招きながら、課題、思い、展望などを共有し、議論をしながら進めていく。

教科書 /Textbooks
とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 職場・家族の変化
- 3回 地域社会の変化
- 4回 ゲスト講師の事前学習I
- 5回 講演①
- 6回 講演②
- 7回 まとめとディスカッション
- 8回 ゲスト講師の事前学習II
- 9回 講演③
- 10回 講演④
- 11回 まとめとディカッション
- 12回 ゲスト講師の事前学習III
- 13回 講演⑤
- 14回 講演⑥
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method
授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
受講者にも、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現在日本の地域社会の問題に対して、「地域の文化」を考えることはどのような意味を持つだろうか。本講義では、九州・中国地方に限らず日本各地および海外の事例を取り入れながら、地域社会とその地域の文化の結びつきについて考察を深めることを目的とする。グローバルな時代において、大学において地域貢献を学ぶ意味は、よりひろい視野から地域を捉え直すことにあるといえる。

とはいえ、地域の数だけ文化も存在するので、それらについて「知識を得る」ことが目的となるのではない。学期中に、北九州への通勤者、転入者、出身者が合同で北九州の「地域文化」について考察するグループワークを取り入れ、講義で得た知識と、現在受講者が何らかの形で関わっている北九州の事例を、相対化して考察できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。Power Pointを使用するが、それだけに頼らずノートをしっかりとること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡部一明 2009 『市民団体としての自治体』 御茶の水書房
 吉田春生 2006 『観光と地域社会』 ミネルヴァ書房
 ○マイケル・サンデル 2010 『これから「正義」の話しよう』 鬼澤忍(訳) 早川書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：地域文化論の射程は何か？
- 第2回 現代日本の地域社会に関する論点とその検討
- 第3・4回 世界の住民組織比較：コミュニティを形成する文化
- 第5回 地域の活性化とは？
- 第6・7回 観光開発と地域の生活
- 第8・9回 地域の不確定性：どこまでが「地域」か
- 第10・11回 グループワーク：北九州の地域文化を考える
- 第12回 グループワーク報告会 / 中間レポートについての指示
- 第13回 自治と市民
- 第14回 多文化共生のなかの地域社会と新たな文化
- 第15回 まとめ：地域社会を研究するにあたってのアプローチを考える

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート50%、期末試験50%
 グループワーク不参加者には単位は出さないので注意すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本講義は、北九州の地域文化について知識を得るものではありません。日本全国、世界各地の地域の事例を取り上げながら、地域と人間の関わりかたを「文化」をキーワードに考えます。講義の中で、それぞれの事例の背景は触れますが、高校レベルの地理・現代社会・世界史等の知識については適宜復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークの時期は集中的に自宅作業が必要となりますので、スケジュール管理をしっかりとってください。

キーワード /Keywords

地域社会、自治、地域文化

危機管理論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域の「危機管理」についての初歩的理解を目的とする。「危機管理」の概念に始まり、特に北部九州地域における危機の事例として、自然災害や国民保護を取り扱い、地域に発生しうる「危機」の実態を理解したい。

教科書 /Textbooks

使用しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 危機管理総論 (危機管理の定義と範囲、概念の整理、地域防災計画について)
- 第3-6回 自然災害と地域I (洪水と土砂災害)
 - ①福岡県 (北九州市) の自然条件と気象条件の特徴、紫川の特徴
 - ②台風・集中豪雨のメカニズム
 - ③各種災害のメカニズム (洪水、土石流、表層崩壊、深層崩壊、地滑り、高潮等)
 - ④過去の災害事例研究
 - ⑤平成21年、22年の集中豪雨について
- 第7-8回 自然災害と地域II (地震災害)
 - ①地震のタイプとメカニズム、マグニチュードと震度
 - ②福岡県の地質条件の特徴
 - ③地震災害について (倒壊、火災、液化化、津波等)
 - ④福岡西方沖地震について
- 第9回 自然災害と地域III (異常気象と都市災害)
 - ヒートアイランド現象、「ゲリラ豪雨」、竜巻、ダウンバースト等
- 第10回 自然災害をめぐる諸制度
 - ①災害対策基本法
 - ②激甚災害法等の関連諸制度
 - ③防災計画について
- 第11-12回 有事における対応と国民保護法
 - ①国民保護法の概説
 - ②災害対策基本法との違い
 - ③国民保護計画
 - ④武力攻撃事態と緊急対処事態
 - ⑤シミュレーション (弾道ミサイル、列車爆破、or原発災害)
- 第13-14回 大学・学生の危機管理
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% + 試験 (もしくはレポート) 70% (詳細は開講時に説明する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム活用 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 本授業では、職場内の情報化の推進役として、業務における問題点の発見や改善策の立案ができ、さらにはシステムの構築や運用にあたっての指導、活用推進ができるようなコンピュータに関する知識を習得します。

教科書 /Textbooks
 『情報処理教科書 ITパスポート』（芦屋 広太著）翔泳社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 企業と法務
 - 3回 経営戦略
 - 4回 システム戦略
 - 5回 開発技術
 - 6回 プロジェクトマネジメント
 - 7回 サービスマネジメント
 - 8回 基礎理論
 - 9回 コンピュータシステム
 - 10回 マルチメディア
 - 11回 ヒューマンインターフェース
 - 12回 データベース
 - 13回 ネットワーク
 - 14回 セキュリティ
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 レポート ... 30%
 授業中に実施する小テスト ... 30%
 日常の授業への取り組み ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 授業開始前に、「データ処理」と「エンドユーザコンピューティング」の授業内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks
 ほぼ毎週、レポートを提出してもらいます。そのレポートに基づいた質疑応答を繰り返しながら、授業を展開します。きちんと理解しているか、ほぼ毎回、小テストを実施します。しっかりとした予習と復習が必要です。
 また、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画や授業内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 伊野 憲治/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内の小中学校でのスクールボランティア活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動、自閉症児を対象とした療育キャンプの企画・実施など。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 オリエンテーション
2～4回 実習前指導
5～13回 実習(実習期間中に中間報告を含む)
12～15回 前期実習の振り返り、報告
16～19回 後期実習前指導
20～27回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
27～30回 後期実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本実習では、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけること、③地域で活動していくために必要な情報処理技術を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks

『改訂4版 PMプロジェクト・マネジメント』(中嶋 秀隆)日本能率協会マネジメントセンター

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『新版プロジェクトマネジメント標準 PMBOK入門』(広兼 修著)オーム社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【一般的な心構え】
- 2回～ 5回 事前研修
- 6回～ 15回 前期実習【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】【情報処理技術】
- 16回～ 17回 前期実習・活動の振り返り
- 18回～ 27回 後期実習【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】【情報処理技術】
- 28回～ 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
 その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「地域創生基礎演習A」、「地域創生基礎演習B」で学習したことを復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振る舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に命じておいてください。
 この実習では、正規の実習時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期等の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。実習の進行状況に応じて、実習計画や実習内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、実習中にお伝えします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生力、PMBOK、データ処理

地域創生実習I【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本実習では、地域マネジメントコースで行われている地域創生実習と並行して、情報技術を利用したプロジェクトを企画立案から実施までの一連の流れとして体験します。地域と関わるプロジェクトを通じて、様々な能力(特に情報共有、プレゼンテーション、役割理解と相互支援、企画力、倫理観)を伸ばすことを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要な資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

実習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～ 4回 前期実習に関する基礎講義
- 5回～ 13回 前期実習
- 14回、15回 前期実習の振り返り
- 16回～ 18回 後期実習に関する基礎講義
- 19回～ 27回 後期実習
- 28回、29回 後期実習の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生実習Iでは、地域で求められる活動の実施、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks

なし。

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」子安増生編 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回 ~ 事前研修
- 5回
- 6回 ~ 前期実習 【地域創生力】 【実習先での臨地学習】 【指導を受け学習】 【課題解決】
- 15回
- 16回 ~ 前期実習・活動の振り返り
- 17回
- 18回 ~ 後期実習 【地域創生力】 【実習先での臨地学習】 【指導を受け学習】 【課題解決】
- 27回
- 28回 ~
- 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があってこそ、自分たちが活動できるということです。

加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。

成績評価の方法 /Assessment Method

評価の観点は、学習のねらいで述べたように、①地域の方々との交流を深められたか。②実習中に、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考え、実践できたか。③社会人基礎力として必要な「地域創生力」を身につけることができたか。以上の3点から総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域における実習は、地域の方々にとっては負担や迷惑になってしまう側面もあります。常に勉強させていただいているという姿勢を忘れないこと。加えて、学生と言えど、地域で活動するということは「責任」が発生します。欠席などの事前の連絡など、社会人としてのルールや言葉遣いやマナーなどの振る舞いに気をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生実習I【昼】

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 神山 和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回 ~ 事前研修
- 5回
- 6回 ~ 前期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
- 15回
- 16回 ~ 前期実習・活動の振り返り
- 17回
- 18回 ~ 後期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
- 27回
- 28回 ~
- 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況・・・50% その他の実習への積極的な参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 実習は、正規の授業外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回 ~ 事前研修
- 5回
- 6回 ~ 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 15回
- 16回 ~ 前期実習・活動の振り返り
- 17回
- 18回 ~ 後期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】【企画】
- 27回
- 28回 ~ 後期実習・活動の振り返り
- 29回
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況・・・50%
その他の実習への積極的な参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があってこそ、自分たちが活動できるということです。

加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振る舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。

この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習I【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生実習Iでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回 ~ 事前研修
- 5回
- 6回 ~ 前期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
- 15回
- 16回 ~ 前期実習・活動の振り返り
- 17回
- 18回 ~ 後期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
- 27回
- 28回 ~
- 29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があってこそ、自分たちが活動できるということです。加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するという事です。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 伊野 憲治/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
各自に課せられた実習内容に沿って、事前学習、実習計画の作成、実習、中間振り返り、実習、最終振り返り、報告というプロセスで、実践力の養成に努める。
主とした実習内容は、市内の小中学校でのスクールボランティア活動、療育センター・施設等におけるボランティア活動、自閉症児を対象とした療育キャンプの企画・実施など。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 オリエンテーション
2～4回 実習前指導
5～13回 実習(実習期間中に中間報告を含む)
12～15回 前期実習の振り返り、報告
16～19回 後期実習前指導
20～27回 実習(実習期間中に中間振り返りを含む)
27～30回 後期実習の振り返り、報告

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本実習では、2年次の経験と学習を深め、より主体的な形で地域創生活動にかかわっていきます。特に、情報分野における知識や技術を活用して、地域が抱える問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②積極的かつ主体的に行動するために必要な「地域創生力」を身につけること、③地域で活躍していくために必要な情報分析能力を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事前準備・目標設定
- 2回～13回 前期実習【地域創生力】【課題解決】【企画】【マネジメント】【情報分析能力】
- 14回～15回 前期実習・活動の振り返り
- 16回～27回 後期実習【地域創生力】【課題解決】【企画】【マネジメント】【情報分析能力】
- 28回～29回 後期実習・活動の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50%
その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「地域創生基礎演習A」、「地域創生基礎演習B」、「地域創生基礎演習C」、「地域創生基礎演習D」、「地域創生実習I」で学習したことを復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振る舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に命じておいてください。
この実習では、正規の実習時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期等の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。実習の進行状況に応じて、実習計画や実習内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、実習中にお伝えします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生力、PMBOK、データ分析

地域創生実習II 【昼】

担当者名 佐藤 貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
本実習では、地域創生実習I、地域創生基礎演習A、B、C、Dで学んだ知識を有機的に結合し、各自に課せられたプロジェクトの企画立案から振り返りまでの一連の流れを自立的に実施できることを目指します。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
実習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～ 4回 前期実習に関する基礎講義
- 5回～ 13回 前期実習
- 14回、15回 前期実習の振り返り
- 16回～ 18回 後期実習に関する基礎講義
- 19回～ 27回 後期実習
- 28回、29回 後期実習の振り返り
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域創生実習Iで養われた地域創生基礎力の上にさらに自分の主体性と自発性をもって、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような活動を通じて、①地域交流をさらに深め、自分にできることを、主体的に考え自発的に実践すること、②地域創生学群の学生として求められる「地域創生力」をさらに身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 「心が活きる教育に向かって...幸福感を紡ぐ心理学・教育学」子安増生編 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
 2回 ~ 事前研修
 5回
 6回 ~ 前期実習 【地域創生力】【実習先での臨地学習】【指導を受け学習】【課題解決】
 15回
 16回 ~ 前期実習・活動の振り返り
 17回
 18回 ~ 後期実習 【地域創生力】【実習先での臨地学習】【指導を受け学習】【課題解決】
 27回
 28回 ~
 29回 後期実習・活動の振り返り
 30回 まとめ

地域においての実習は、地域の方々にとっては負担や迷惑になってしまうこともあります。ですから地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を堅持して、加えて、地域で活動するために養った地域創生実習Iでの言葉遣いやマナーなどの振る舞いをさらに深化発展させるのはもちろんのこと、責任ある行動や主体的、自発的な行動を心がけて下さい。

成績評価の方法 /Assessment Method
 評価の観点は、学習のねらいで述べたように、①地域の方々との交流をさらに深められたか。②実習中に、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを主体的、自発的に考え、実践できたか。③社会人基礎力として必要な「地域創生力」を身につけることができたか。以上の3点から総合評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 重ねての注意になりますが、地域における実習は、地域の方々にとっては負担や迷惑になってしまう側面もあります。常に勉強させていただいているという姿勢を忘れないこと。加えて、学生と言えど、地域で活動するということは「責任」が発生します、欠席などの事前の連絡など、社会人としてのルールや言葉遣いやマナーなどの振る舞いに気をつけること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 神山 和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回
 ~ 前期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】

13回
 14回
 ~ 前期実習・活動の振り返り

15回
 16回
 ~ 後期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】

27回
 28回
 ~

29回 後期実習・活動の振り返り
 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況・・・50% その他の実習への積極的な参加・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 実習は、正規の授業外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1・2学期(バ
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回
～ 前期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
- 13回
- 14回
～ 前期実習・活動の振り返り
- 15回
- 16回
～ 後期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
- 27回
- 28回
～ 後期実習・活動の振り返り
- 29回
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況・・・ 50%
 その他の実習への積極的な参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れてください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。

加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振る舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。

この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生実習IIでは、地域で必要とされる活動の実施、イベントの企画、ボランティアへの参加など、地域が抱える様々な問題や課題の解決に向けた活動を展開します。そのような様々な活動を通じて、①地域の方々との交流を深め、自分には何ができるのか、何をしなければならないのかを考えること、②社会人として必要な「地域創生力」を身につけることが、この実習の目的です

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回
 - ～ 前期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
- 13回
- 14回
 - ～ 前期実習・活動の振り返り
- 15回
- 16回
 - ～ 後期実習 【地域創生力】 【チームでの協働】 【課題解決】 【企画】
- 27回
- 28回
 - ～ 後期実習・活動の振り返り
- 29回
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、主たるテーマを含め、各自年間を通じて全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア実習I【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫/地域創生学群・上村 英樹/非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1・2学期(バ
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

スポーツボランティア実習Iでは性差や年齢に応じてスポーツを工夫し、スポーツの楽しみ方を探ると共に自分自身やグループにおいてルールを考案することや、また、メンバーの意見や発表を聞く態度などにも重点を置き今後の実習の基礎となるものとする。また、2学期では考案したスポーツ種目のルールなどを小学校低学年の子供たちにグループ単位で実際に指導する。

教科書 /Textbooks

資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1学期(グループ単位にて)	2学期(個人において)
1 回ガイダンス	1 回ガイダンス
2 回スポーツルールの作成 1	2 回学校のスポーツ指導 1
3 回スポーツルールの作成 2	3 回学校のスポーツ指導 2
4 回スポーツルールの作成 3	4 回学校のスポーツ指導 3
5 回スポーツルールの発表 1	5 回学校のスポーツ指導 4
6 回スポーツルールの発表 2	6 回学校のスポーツ指導 5
7 回スポーツルールの発表 3	7 回指導の反省
8 回発表 1 のチェック・サポート	8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
9 回発表 2 のチェック・サポート	9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
10 回発表 3 のチェック・サポート	10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1	11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2	12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3	13 回指導の反省 1
14 回指導の反省	14 回指導の反省 2
15 回まとめ	15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
 また、実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア実習II【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫/地域創生学群・長野 史尚/非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

スポーツボランティア実習IIはスポーツボランティア実習Iをふまえ幅広い年齢層やスポーツ種目に合わせた形で実際の指導や講習などを積極的に行っていく。スポーツボランティア実習Iのグループ学習から、個人の資質を高めることに重点を置き、地域のスポーツ指導やキッズスポーツ指導などを年間をとおして行う。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1学期(グループ単位にて)	2学期(個人において)
1 回ガイダンス	1 回ガイダンス
2 回スポーツルールの作成 1	2 回学校のスポーツ指導 1
3 回スポーツルールの作成 2	3 回学校のスポーツ指導 2
4 回スポーツルールの作成 3	4 回学校のスポーツ指導 3
5 回スポーツルールの発表 1	5 回学校のスポーツ指導 4
6 回スポーツルールの発表 2	6 回学校のスポーツ指導 5
7 回スポーツルールの発表 3	7 回指導の反省
8 回発表 1 のチェック・サポート	8 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1
9 回発表 2 のチェック・サポート	9 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2
10 回発表 3 のチェック・サポート	10 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3
11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 1	11 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 4
12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 2	12 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 5
13 回学校・あるいは地域のスポーツ指導 3	13 回指導の反省 1
14 回指導の反省	14 回指導の反省 2
15 回まとめ	15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み... 40% 指導力... 30% レポート提出... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

インドアの場合、アウトドアの場合、それぞれのシューズや服装など学群生らしい態度で臨むこと。
また、実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏季や冬季の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習I【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1・2学期(バ
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ」-これは、障害者スポーツの最高峰・パラリンピックの創始者であるグッドマン博士の言葉である。障害者が運動・スポーツを通して心身の可能性や自己価値に気づき、人生の満足度を高めるための指導のあり方を、実技を通して学習する。本実習では、障害に応じた運動・スポーツやレクリエーションなど様々な実技を体験する。また、自分たちでプログラムを作成し、実施・評価も行う。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 車いすの基本操作 【組み立て方】【スラローム】【バリア】【マップ作成】
 - 3～4回 ふうせんバレーボール 【肢体障害の体験】
 - 5回 マップの作成と発表 【バリア】
 - 6回 マップの体験と評価 【バリア】
 - 7～8回 車いすで運動・スポーツ① 【テニス】
 - 9～10回 車いすで運動・スポーツ② 【バスケットボール】
 - 11～12回 視覚障害の体験 【ジョギング】【伴走】【縄跳び】【ボール遊び】
 - 13回 障害者アスリート講演・実技体験
 - 14回 ビデオ鑑賞 【レポート作成】
 - 15回 前半のまとめ
 - 16回 前半の復習と後半のガイダンス
 - 17～18回 高齢者疑似体験 【視野】【可動域】【ジョギング】【ふうせんバレーボール】
 - 19～20回 レクリエーションスポーツ 【軽スポーツ】【身体遊び】
 - 21～22回 バドミントン 【上肢・下肢障害の体験】【車いすの体験】
 - 23～24回 バレーボール 【シッティング・バレーボール】【卓球バレー】
 - 25～26回 アダプテッド・スポーツプログラムの作成 【グループ実習】
 - 27回 アダプテッド・スポーツプログラムの実施・評価
 - 28回 障害者アスリート講演・実技体験
 - 29回 ビデオ鑑賞 【レポート作成】
 - 30回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習(平常の授業)への取り組み...50% 課題(レポートなど)...20% その他の実習への積極的な参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。
 実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

内田担当分の地域創生基礎演習C・Dに並行して出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ実習II 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、障害者スポーツでは「Adapted(適用・応用)」という考えが浸透している。これは、対象者に合わせてルールや道具を変え、指導を行うことが基礎となる。本実習では、様々な障害を理解し、対象者に合わせてルールを変更したり、道具を検討したりしながら、最適な運動・スポーツプログラムの立案・実施を行う実践力を養うことを目指す。また、全国障害者スポーツ大会の実施競技についても理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ボッチャ【重度障害者】【脳性まひ】
- 3回 陸上競技①【車いす競技】【スラローム】
- 4回 陸上競技②【投てき】【伴走】
- 5回 卓球①【聴覚障害の体験】【肢体障害の体験】
- 6回 卓球②【サウンドテーブルテニス】
- 7回 フライングディスク【視覚障害の体験】【肢体障害の体験】
- 8回 ミニ障害者スポーツ大会【運営】
- 9回 トレーニングの指導法【残存機能】【介助】
- 10～11回 アダプテッド・スポーツプログラムの作成【個人で立案】
- 12～13回 アダプテッド・スポーツプログラムの実施・評価
- 14回 障害者アスリート講演・実技体験
- 15回 前半のまとめ
- 16回 実習プロジェクトに向けたオリエンテーション
- 17回 実習プロジェクト【企画・立案】
- 18～28回 実習プロジェクト
- 29回 障害者アスリート講演・実技体験
- 30回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学内実習(平常の授業)への取り組み...50% 課題(レポートなど)...20% その他の実習への積極的な参加...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。
実習は、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に取り組んでもらいます。また、上記テーマを含め、各自全体として4つ以上の「実習」に取り組んでもらいます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 A 【昼】

担当者名 伊野 憲治 他 地域創生学群教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Aは、地域創生学群での学習や実習を行う際に必要な知識や技術、マナーを習得することを目標とします。また、この演習を通じて、地域創生学群において学習を進めていく上での心構えを身に付けたり、将来に対する目標や自分の進むべき道を模索していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【一般的な心構え】、【指導的実習】
- 2回 学生生活プランニング①【目標設定と共有】
- 3回 学生生活プランニング②【ポートフォリオ指導】
- 4回 マナー①【社会人・学生としてのマナー】
- 5回 マナー②【調査・実習・校外活動におけるマナー】
- 6回 マナー③【情報機器の操作におけるマナー】
- 7回 デザイン技法①【チラシ・ポスターの作り方】
- 8回 文書作成①【エッセイの書き方】
- 9回 文書作法②【調査書・実践報告書の書き方】
- 10回 デザイン技法②【チラシ・ポスター作成実習】
- 11回 文書作成③【実践レポートの書き方】
- 12回 テーマごとのディスカッション
- 13回 学生生活プランニング③【自己の学習管理と目標の見つめなおし】
- 14回 演習・実習の振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

2年次以降に「地域創生実習I」を履修予定の学生には、上記テーマとは別に、土曜日や日曜日などの正規の演習時間外に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の演習時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。詳しくは、第1回目のときに説明します。遅刻・欠席をしないこと。どうしても遅刻・欠席せざる得ない場合は、事前に、担当教員に連絡をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 他 地域創生学群教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップを、グループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度 ... 50 %
 積極的な演習への参加 (指導的実習プログラムへの取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 正規の授業時間外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度...50%
 積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
 地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。

履修上の注意 /Remarks
 地域マネジメントコースの学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 佐藤 貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度...50%
 積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
 地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。

履修上の注意 /Remarks
 地域マネジメントコースの学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Bでは地域創生基礎演習Aにおいて各人の学びの方向性の決定を受けて、各指導者教員のゼミに所属します。当ゼミでは今後必要とされる基本的知識やスキルを学ぶほか、各人の課題を設定した上、2年時から始まるスポーツボランティア実習の目的・具体的計画を策定する。ゼミでの議論を通じて、その目的や具体的計画を練り直し、目的を明確にする。あわせて、実習に必要とされる基本的知識とスキルをロールプレイングを体験しながら具体的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のねらい、進め方
- 2回 実習の計画
- 3回 コミュニケーション 1
- 4回 コミュニケーション 2(他者との関係)
- 5回 コミュニケーション 3(クラスメイトを知る)
- 6回 コミュニケーション 4(自己を知る)
- 7回 コミュニケーション 5(他人を知る)
- 8回 コミュニケーションの事例研究1
- 9回 コミュニケーションの事例研究2
- 10回 コミュニケーションの3Vの法則の理解
- 11回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(子供の理解)
- 12回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(地域の理解)
- 13回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 14回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降にスポーツボランティア実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 当ゼミでは、2年次から始まる障害者スポーツ実習に必要とされる基本的知識やスキルを学び、実習に備える。主にコミュニケーションワークを軸に学習していく。また、プレゼンテーション能力の養成も目指す。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】はキーワード)
 1回 ガイダンス
 2回 コミュニケーションワーク①【ラポールの形成】
 3回 コミュニケーションワーク②【情報伝達】
 4回 コミュニケーションワーク③【ノンバーバル】
 5回 コミュニケーションワーク④【コンセンサス】
 6回 コミュニケーションワーク⑤【ホスピタリティ】
 7回 コミュニケーションワーク⑥【協働作業】
 8回 プレゼンテーションの行い方
 9回 プレゼンテーションの計画
 10回 プレゼンテーションの準備
 11~13回 プレゼンテーション
 14回 障害者スポーツ実習に向けた目標・計画の策定
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度... 50%
 積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。
 2年次以降に障害者スポーツ実習を履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 真鍋 和博 他 地域創生学群教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度...50%
 積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
 地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。

履修上の注意 /Remarks
 地域マネジメントコースの学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

自閉症など発達障害のある人への支援、特に構造化の考え方や具体的方法の基礎を学び、議論していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～5回 構造化の基本的考え方
- 6回～7回 関連アセスメント方法
- 8回～13回 実践と再構造化
- 14回・15回 反省とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

正規の授業時間外に個別の学習テーマ・実習が与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、アルゴリズムの基礎として、アルゴリズムと流れ図を中心に学習します。これにより、プロジェクトの計画立案を行う際に必要な思考方法を学びます。
また、社会的状況を正しく把握するために、社会調査の方法を学習します。これにより、アンケート調査を行う際に必要な知識を学びます。

教科書 /Textbooks

『かんたんアルゴリズム解法 - 流れ図と擬似言語 - 第2版』（大滝みや子）リックテレコム
『社会調査法入門』（盛山和夫）有斐閣ブックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション①【アルゴリズムと処理手順、流れ図】
- 3回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション②【評価、数値計算】
- 4回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション③【文字列処理】
- 5回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション④【配列】
- 6回 アルゴリズムのまとめ
- 7回 社会調査法に関する発表とディスカッション①【社会調査の目的】
- 8回 社会調査法に関する発表とディスカッション②【量的調査と質的調査】
- 9回 社会調査法に関する発表とディスカッション③【調査と研究の進め方】
- 10回 社会調査法に関する発表とディスカッション④【社会調査の企画】
- 11回 社会調査法に関する発表とディスカッション⑤【ワーディング】
- 12回 社会調査法に関する発表とディスカッション⑥【調査票の構成のしかた】
- 13回 社会調査法に関する発表とディスカッション⑦【サンプリング】
- 14回 社会調査法に関する発表とディスカッション⑧【調査の実施とデータファイルの作成】
- 15回 社会調査法のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「エンドユーザコンピューティング」、「データ処理」、「社会調査」、「プログラミングI」、「地域創生基礎演習A」、「地域創生基礎演習B」を既に受講した場合は、本演習の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その発表した内容について議論していきます。受講生の発表の準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、演習中にお伝えします。
また、地域創生実習Iと連動して、演習を展開します。このため、正規の演習時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アルゴリズム、フローチャート、社会調査、アンケート

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 佐藤 貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、情報システムの設計、実装に直接関係するアルゴリズムの基礎を学習します。これにより、問題解決の手順の評価や効率的な実施手順の構築ができるようになります。さらに、アルゴリズムの概念を利用して、ソフトウェアの開発を目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～8回 アルゴリズムの基礎
- 9回 アルゴリズムのまとめ
- 10回～14回 ソフトウェア開発
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。「エンドユーザコンピューティング」、「データ処理」、「プログラミング」、「システム活用」、「システムデザイン」を学習することによって理解が深まります。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

スポーツ（身体活動）をとおして社会貢献を果たすために実際に行われている事例について文献検索等をとおして有効性かつ問題点について議論していく。運動・スポーツを手段とした地域貢献についてどのような事例があるのか探し、その事例をまとめていく上での疑問点や考えをディスカッションする。

教科書 /Textbooks

資料配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 関心のある事例をあげてみる
- 2回 スポーツ指導者について
- 3回 スポーツをとおした地域貢献について
- 4回 スポーツをとおした地域貢献についての問題点について
- 5回 スポーツをとおした地域貢献についての情報収集 1
- 6回 スポーツをとおした地域貢献についての情報収集 2
- 7回 スポーツをとおした地域貢献についての情報収集 3
- 8回 発表
- 9回 発表
- 10回 発表
- 11回 全体ディスカッション
- 12回 全体ディスカッション
- 13回 全体ディスカッション
- 14回 個人のふりかえり
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
積極的な演習への取り組み・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回各自で配布された資料などは持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生基礎演習Cにおいては、障害者スポーツ実習Iで浮上してきたさまざまな問題をゼミの場に提示し、議論を通じながら、その解決方法について考えていく。また、実習ごとの目標設定とその評価、ふり返り学習による好ましい言動の強化・不適切な言動の修正、チームワークやコミュニケーションについての気づきのフィードバックを行い、障害者スポーツで求められる援助行動を支える社会的スキルの向上を目指す。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】はキーワード)
 1回 ガイダンス
 2～12回 実習のふり返りとディスカッション
 13回 障害者アスリートとのディスカッション
 14回 プレゼンテーション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度... 50% 積極的な演習への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 伊野 憲治/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

自閉症など発達障害のある人への支援、特にコミュニケーション指導法の理論や具体的方法の基礎を学び、議論していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションとは何か①
- 3回 コミュニケーションとは何か②
- 4回 アセスメント方法
- 5回 心理療法的アプローチの限界と新たな展開
- 6回 応用行動分析学的手法の考え方①
- 7回 応用行動分析学的手法の考え方②
- 8回 応用行動分析学的手法の考え方③
- 9回 応用行動分析学的手法を用いた具体的指導法①
- 10回 応用行動分析学的手法を用いた具体的指導法②
- 11回 その他の指導法①
- 12回 その他の指導法②
- 13回 その他の指導法③
- 14回 その他の指導法④
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

正規の授業時間外に個別の学習テーマ・実習が与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、アルゴリズムの基礎として、幾つかの処理方法を学習します。これにより、プロジェクトを進める上で必要なアルゴリズム論的思考方法を学びます。
また、社会調査を行って得られる調査データの基本的な分析方法を学習します。これにより、回収されたアンケートを分析する際に必要な知識を学びます。

教科書 /Textbooks

『かんたんアルゴリズム解法 - 流れ図と擬似言語 - 第2版』（大滝みや子）リックテレコム
『社会調査法入門』（盛山和夫）有斐閣ブックス

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション①【順次処理】
- 3回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション②【選択処理】
- 4回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション③【多重選択処理】
- 5回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション④【繰返し処理】
- 6回 アルゴリズムに関する発表とディスカッション⑤【多重繰返し処理】
- 7回 アルゴリズムのまとめ
- 8回 社会調査法に関する発表とディスカッション①【分布と統計量】
- 9回 社会調査法に関する発表とディスカッション②【検定の考え方】
- 10回 社会調査法に関する発表とディスカッション③【平均の検定と差の検定】
- 11回 社会調査法に関する発表とディスカッション④【クロス表と相関係数】
- 12回 社会調査法に関する発表とディスカッション⑤【回帰分析】
- 13回 社会調査法に関する発表とディスカッション⑥【質的研究】
- 14回 社会調査法に関する発表とディスカッション⑦【確率】
- 15回 社会調査法のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「エンドユーザコンピューティング」、「データ処理」、「社会調査」、「プログラミングI」、「地域創生基礎演習A」、「地域創生基礎演習B」、「地域創生基礎演習C」を既に受講した場合は、本演習の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その発表した内容について議論していきます。受講生の発表の準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、演習中にお伝えします。
また、地域創生実習Iと連動して、演習を展開します。このため、正規の演習時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アルゴリズム、フローチャート、社会調査、アンケート

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 佐藤 貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生実習Iで経験した事柄や問題を持ち帰り、人とのディスカッションを通じて、問題解決の糸口を見つけることを目指します。また、社会的状況を正しく把握するため、社会調査の手法や現象の解析手法を学習します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上での有用性の検討が可能になることを目指します。

教科書 /Textbooks

演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～ 3回 実践活動の検証とフィードバック
- 4回～ 11回 社会調査
- 12回～ 14回 フィールドワーク
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に、担当教員に連絡してください。「エンドユーザコンピューティング」、「データ処理」、「システム活用」、「システムデザイン」、「社会調査」を履修することによって理解が深まります。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生基礎演習Dでは卒業論文・卒業実践報告の作成にむけ、どのようにテーマを見つけていくのか。また、文献調査や関係者からの聞き取り調査などを行う。

教科書 /Textbooks
 資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 関心のある事例をあげてみる
 - 2回 スポーツ指導者について
 - 3回 スポーツをととした地域貢献について 1
 - 4回 スポーツをととした地域貢献について 2
 - 5回 スポーツをととした地域貢献について 3
 - 6回 スポーツ実施者の問題点について 1
 - 7回 スポーツ実施者の問題点について 2
 - 8回 スポーツ実施者の問題点について 3
 - 9回 データの収集 1
 - 10回 データの収集 2
 - 11回 データの収集 3
 - 12回 データの分析 1
 - 13回 データの分析 2
 - 14回 データの分析 3
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・ 50%
 積極的な演習への参加・・・ 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 配布されたプリント等は毎回持参すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生基礎演習Cから引き続き、実習ごとの目標設定とその評価、ふり返し学習による好ましい言動の強化・不適切な言動の修正、チームワークやコミュニケーションについての気づきのフィードバックを行い、障害者スポーツで求められる援助行動を支える社会的スキルの向上を目指す。また、障害者スポーツ実習Iにおけるアダプテッド・スポーツのロールプレイを通して得られた課題を検討し、実践の場への応用を考えていく。加えて、3年次に行われる障害者スポーツ実習IIの目標・計画を策定する。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】 はキーワード)
 1回 ガイダンス
 2～9回 実習のふり返しとディスカッション
 10～12回 実習のアダプテッド・スポーツプログラムの検討・評価
 13回 障害者アスリートとのディスカッション
 14回 プレゼンテーション
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度... 50% 積極的な演習への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 6単位
 学期 /Semester 集中
 授業形態 /Class Format 実習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育内容に基づいて構成される実習科目である。そのため、社会福祉施設及び機関での現場実習での学びについて、次に掲げる3点を大きなねらいとする。

- ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
- ②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
- ③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

連携科目「相談援助実習指導 1・2」において、随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実習時間は180時間である。
 社会福祉施設・機関において、23日間（1日8時間）の実習を行う。
 実習内容は職場実習、職種実習、ソーシャルワーク実習から構成される。
 実習期間中は、実習先での実習指導者及び担当教員による指導、そして大学にて実施する帰校日指導を受ける。
 詳細については、「相談援助実習指導 1」にて説明をする。

成績評価の方法 /Assessment Method

実習先による実習評価（50点）+ 教員による実習評価（50点）= 100点
 なお、本科目は「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」との連携科目であり、いずれかみの単位認定は行わない。そのため、本科目の実習評価が合格点に達していても、連携科目のいずれかが1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉施設や機関での実習となる。当然のことながら、社会人としての基本的マナーなどではできるように自己学習に励んでいただきたい。

履修上の注意 /Remarks

- 本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。
- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
 - ②同年度に「相談援助実習指導 1」及び「相談援助実習指導 2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士を取得するための重要な科目です。現場での実習で皆さんが困らないように、全力でサポートします。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

高機能自閉症やアスペルガー障害など発達障害のある人への支援、特に自己認知指導法の考え方や具体的方法の基礎を学び、議論していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～4回 自己認知とは何か
- 5回～10回 自己認知の具体的指導法
- 11回～14回 感情のコントロール法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

正規の授業時間外に個別の学習テーマ・実習が与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 廣渡 栄寿/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、失敗がなぜ起こるのかについて学習します。また、マネジメントの基礎と原則についても学習します。これにより、起こりえるヒューマンエラーを事前に予想しつつ、プロジェクトを計画的に進めることができるようになるための必要な考え方、行動の仕方について学びます。

教科書 /Textbooks

『ヒューマンエラーを防ぐ知恵 ミスはなくなるか』（中田 亨著）化学同人
『マネジメント論』（選定中、授業中に指示します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ヒューマンエラーに関する発表とディスカッション①【ヒューマンエラー】
- 3回 ヒューマンエラーに関する発表とディスカッション②【事故の発生原因】
- 4回 ヒューマンエラーに関する発表とディスカッション③【問題の捉え方】
- 5回 ヒューマンエラーに関する発表とディスカッション④【ヒューマンエラー解決法】
- 6回 ヒューマンエラーに関する発表とディスカッション⑤【ヒューマンエラー防止法】
- 7回 ヒューマンエラーに関する発表とディスカッション⑥【ヒューマンエラー防止活動】
- 8回 ヒューマンエラーのまとめ
- 9回 マネジメントに関する発表とディスカッション①【目的】
- 10回 マネジメントに関する発表とディスカッション②【マーケティング】
- 11回 マネジメントに関する発表とディスカッション③【マネジャーの役割】
- 12回 マネジメントに関する発表とディスカッション④【生産性】
- 13回 マネジメントに関する発表とディスカッション⑤【イノベーション】
- 14回 マネジメントに関する発表とディスカッション⑥【組織構造】
- 15回 マネジメントのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「エンドユーザコンピューティング」、「データ処理」、「社会調査」、「プログラミングI」、「地域創生基礎演習A」、「地域創生基礎演習B」、「地域創生基礎演習C」、「地域創生基礎演習D」、「地域創生実習I」を既に受講した場合は、本演習の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その発表した内容について議論していきます。受講生の発表の準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、演習中にお伝えします。
また、地域創生実習IIと連動して、演習を展開します。このため、正規の演習時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヒューマンエラー、マネジメント、マーケティング、イノベーション

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 佐藤 貴之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習で経験した事柄や問題を持ち帰り、人とのディスカッションを通じて、地域が抱える課題の発見を目指します。また、最新の情報技術を実際のフィールドに適用するフィールド情報学について学習します。最終的には、今後の研究実践活動を行なう上で具体的なテーマや方向性を作ることを目指します。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODクシヨN
 2回～ 9回 フィールド情報学の学習
 10回～ 14回 研究実践活動テーマの検討
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。「エンドユーザコンピューティング」、「データ処理」、「プログラミング」、「システム活用」、「システムデザイン」を学習することによって理解が深まります。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords
 フィールド情報学

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指して国のスポーツ振興基本計画と北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた本市のスポーツ振興計画概要にある定義や効用あるいは現状を踏まえ学生自身の経験や興味のある種目を選択し基本編、応用編、ゲームまでのカリキュラムを作成する。その年度によって計画が大きく変更されることは大いに予想されます。各年度に特徴をもった年間計画（長期的指導プラン）や数か月単位ごとに行う（短期的指導プラン）・シーズンスポーツも含めて計画していく。

教科書 /Textbooks

資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回；参加者全員による年間計画の話し合い・・・ 1
- 2回；参加者全員による年間計画の話し合い・・・ 2
- 3回；個人やグループで行える種目を考える・・・ 1
- 4回；個人やグループで行える種目を考える・・・ 2
- 5回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 1
- 6回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 2
- 7回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 3
- 8回；短期的指導プランについてのディスカッション・・・ 4
- 9回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 1
- 10回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 2
- 11回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 3
- 12回；長期的指導プランについてのディスカッション・・・ 4
- 13回；組織の在り方を議論する
- 14回；組織の在り方を議論する
- 15回；2学期へのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的な取り組みや態度・・・ 60%
達成度・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

常日頃の取り組みを大切に、配布資料やファイルなどは必ず持参し日々の心がけを大切にしてください。スポーツ指導は、配慮や指示を間違えれば大変な事故などにつながりかねません。自らの姿勢を正して取り組みましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生演習Aでは、各人の興味関心にあわせて、「障害者スポーツにおける課題・支援」「障害者アスリートへの心理学的支援」などに関する文献講読や議論、事例検討を行う。また、障害者スポーツ実習での学習・経験を踏まえ、問題意識を明確にし、その解決に向けた実践研究や調査のための基礎的手法の学習も行う。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～9回 文献講読演習および事例検討
- 10～13回 実践研究および調査の基礎【データ収集】【統計処理】
- 14回 障害者アスリートとのディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度... 50% 積極的な演習への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 伊野 憲治/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
高機能自閉症やアスペルガー障害など発達障害のある人への支援、特にソーシャルスキルトレーニングの具体的方法の基礎を学び、議論していきます。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～4回 ソーシャルスキルとは何か
- 5回～14回 ソーシャルスキルの具体的指導法
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
正規の授業時間外に個別の学習テーマ・実習が与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 廣渡 栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本演習では、リスクとコストを正しく知るための統計的思考法について学習します。これにより、データ分析を行った結果を相手に正しく伝えることの難しさを理解するとともに、正しく伝えるための考え方とコミュニケーションの仕方を学びます。

教科書 /Textbooks

『リスク・リテラシーが身につく統計的思考法』（ゲルト・ギーゲレンツァー著、吉田 利子訳）早川書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 リスク・リテラシーに関する発表とディスカッション①【不確実性】
- 3回 リスク・リテラシーに関する発表とディスカッション②【リスク】
- 4回 リスク・リテラシーに関する発表とディスカッション③【相対リスク】
- 5回 リスク・リテラシーに関する発表とディスカッション④【一度限りの出来事】
- 6回 リスク・リテラシーに関する発表とディスカッション⑤【条件付確率】
- 7回 リスク・リテラシーに関する発表とディスカッション⑥【表現方法】
- 8回 リスク・リテラシーに関する発表とディスカッション⑦【メリットとコスト】
- 9回 リスク・リテラシーに関する発表とディスカッション⑧【事例研究】
- 10回 リスク・リテラシーのまとめ
- 11回 統計的思考法に関する発表とディスカッション①【フランクリンの法則】
- 12回 統計的思考法に関する発表とディスカッション②【リスクに対する無知】
- 13回 統計的思考法に関する発表とディスカッション③【コミュニケーション】
- 14回 統計的思考法に関する発表とディスカッション④【合理的な考え方】
- 15回 統計的思考法のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「エンドユーザコンピューティング」、「データ処理」、「社会調査」、「プログラミング」、「地域創生基礎演習A」、「地域創生基礎演習B」、「地域創生基礎演習C」、「地域創生基礎演習D」、「地域創生演習A」、「地域創生実習I」を既に受講した場合は、本演習の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

本演習では、各自の担当箇所を発表してもらい、その発表した内容について議論していきます。受講生の発表の準備や理解度に応じて、演習計画や演習内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、演習中にお伝えします。
また、地域創生実習IIと連動して、演習を展開します。このため、正規の演習時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リスク・リテラシー、統計的思考法

地域創生演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生実習I、IIで経験した事柄や問題を持ち帰り、人とのディスカッションを通じて、各学生が取り組んでいる実践や研究の課題発見と具体的な改善案の提示を目指します。最終的には、今後の研究実践活動の具体的なテーマに対する基礎的知識の習得と詳細な実施計画の立案を目指します。

教科書 /Textbooks
 演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 演習中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODakション
 2回～10回 学生の研究テーマに対する書籍の輪読
 11回～14回 研究テーマの先行研究論文を読む
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 他の学生と共同で調査、議論、作業を行います。遅刻、欠席をしないように気をつけてください。どうしても遅刻、欠席せざるを得ない場合は、事前に担当教員に連絡してください。「エンドユーザコンピューティング」、「データ処理」、「プログラミング」、「システム活用」、「システムデザイン」を学習することによって理解が深まります。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

生涯スポーツ社会の実現を目指して国のスポーツ振興基本計画と北九州市スポーツ振興審議会の提言に基づいた本市スポーツ振興計画概要にある定義や効用あるいは現状を踏まえ学生自身の経験や興味のある種目を選択し基本編、応用編、ゲームまでのカリキュラムを作成したものをを用いて実際に指導にあたる。

教科書 /Textbooks

資料を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回；幼児期の体を動かす、運動の楽しさを考える
- 2 回；幼児期の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 3 回；幼児期の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 4 回；小学生の体を動かす、運動の楽しさを考える
- 5 回；小学生の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 6 回；小学生の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 7 回；中学生の体を動かす、(体育・スポーツ活動) の楽しさを考える
- 8 回；中学生の体を動かす、楽しい指導の留意点を考える
- 9 回；中学生の体を動かす、楽しい指導を考え実践の準備をする
- 1 0 回；シニアの健康を考える・・・指導の留意点
- 1 1 回；シニアの健康を考える・・・楽しい指導を考え実践の準備をする
- 1 2 回；指導演習 (1)
- 1 3 回；指導演習 (2)
- 1 4 回；指導演習 (3)
- 1 5 回；指導演習 (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的な取り組みや態度・・・ 6 0 %
達成度・・・ 4 0 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

常日頃の取り組みを大切にし、配布資料やファイルなどは必ず持参し日々の心がけを大切にしてください。
スポーツ指導は、配慮や指示を間違えれば大変な事故などにつながりかねません。自らの姿勢を正して取り組みましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域創生演習B 【昼】

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【昼】

担当者名 内田 若希/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生演習Bでは、障害者スポーツ実習での学習・経験から明らかになった問題を踏まえ、4年次での卒業論文や卒業実践のテーマ設定・計画を行う。そのために必要な文献講読や議論、事例検討を繰り返していく。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2～10回 各自の課題に合わせた文献講読および事例検討
- 11～13回 卒業論文・卒業実践の計画・討議
- 14回 障害者アスリートとのディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50% 積極的な演習への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメやワークシートを読み込み、毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域コーディネート論【昼】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域を舞台とした人と人との様々な関わり合いを、「コーディネート」という視点からとらえ直す。分かりやすい事例を1つ1つ授業の中で検討していきながら、「コーディネートする」とはどういうことが、みんなで考える。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「コーディネート」という視座について
 - 2回 地域社会の変化について①
 - 3回 地域社会の変化について②
 - 4回 地域社会の変化について③
 - 5回 地域社会の変化について④
 - 6回 中間まとめと課題提起
 - 7回 課題の実施
 - 8回 地域再生とコーディネート
 - 9回 福祉とコーディネート
 - 10回 まちづくりとコーディネート
 - 11回 受講生からの提起①
 - 12回 受講生からの提起②
 - 13回 地域の「私」「公」「共」①
 - 14回 地域の「私」「公」「共」①
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では、テーマに即してレジюмеや資料を配布する。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジюмеを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域調査論 【昼】

担当者名 /Instructor 神山 和久/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義は、地域社会で起こる事象を対象として、地域の問題発見とその解決のために実施される「地域調査」について、より実践的な知識を習得することがねらいです。
 このため、調査結果がどのように報告され活用されるのかについても具体的に解説します。主な内容は、「まちづくり」をメインテーマとし、継続的に実施される行政の世論調査や消費者の意識行動調査などを取り上げる予定です。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。授業の中で資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて参考文献を紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 はじめに -地域調査はなぜ必要か
 - 2回 調査の分類-調査方法はたくさんあるけれど
 - 3回 統計資料から読めること-データを見て考えよう【官庁統計】
 - 4回 データ読み取りに際しての注意事項① 【基準値のあやまり】【小数の法則】
 - 5回 データ読み取りに際しての注意事項② 【人間的なあやまり】【ヒューリスティクス】
 - 6回 世論調査について① - 質問文作成の要領と注意点 【ステレオタイプ】
 - 7回 世論調査について② - 質問文作成ルールの復習 【レポート】
 - 8回 世論調査について③ - 質問文のあやまりと完全性の限界
 - 9回 世論調査について④ - 調査実施手順 【RDD】
 - 10回 地域調査事例とその読み方 ① 【まちづくり調査事例】
 - 11回 地域調査事例とその読み方 ② 【標本適合度】
 - 12回 地域調査事例とその読み方 ③ 【重要度・満足度調査】
 - 13回 地域調査事例とその読み方 ④ 【検定】【順位法】
 - 14回 地域調査事例とその読み方 ⑤ 【多変量解析】【因子分析】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の授業への取り組み...30% 期末レポート(ミニレポート含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 授業のなかで小テストを行います。また、実際にデータ分析(電卓使用)してもらったこともあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識
- 3回 第1回講演会
- 4回 福祉NPO(1)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(2)-社会福祉法人
- 7回 第3回講演会
- 8回 環境NPO(1)
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(2)
- 11回 第5回講演会
- 12回 まちづくりNPO(1)
- 13回 第6回講演会
- 14回 まちづくりNPO(2)
- 15回 講義のまとめおよびレポートについての説明

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、環境NPO、まちづくりNPO

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業では、政治制度、政治に参加する人々への理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 -』有斐閣、2009年。
伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 民主政治の諸制度(1)
- 第3回 民主政治の諸制度(2)
- 第4回 政治文化
- 第5回 マスメディア
- 第6回 政治参加・投票行動
- 第7回 政治家
- 第8回 政党
- 第9回 利益団体
- 第10回 官僚制
- 第11回 首相
- 第12回 地方政治(1)
- 第13回 地方政治(2)
- 第14回 政治体制
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (70%)、日常の授業への取り組み (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名
/Instructor

檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにある。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにした。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えている。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのである。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えている。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからである。受講者には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通じてそうした問題意識をもつことを望む。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。毎回、プリント教材を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および受講者へのアンケート
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策
- 4回 子どもの貧困(1)・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困(2)・・・日本における子どもの貧困の現状を考える
- 6回 子どもの貧困(3)・・・子どもの貧困をどうするか、大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困(4)・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 循環型社会(1)・・・導入、リサイクルは環境に優しいのか？
- 9回 循環型社会(2)・・・容器包装リサイクル法
- 10回 循環型社会(3)・・・家電リサイクル法
- 11回 介護保険(1)・・・導入
- 12回 介護保険(2)・・・現状分析
- 13回 介護保険(3)・・・問題点とその検討
- 14回 介護保険(4)・・・介護保険の改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50%、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、小用紙を配布し講義内容に対する質問・意見のある学生には、書いてもらい成績評価に加える。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配付するレジュメ、参考資料、論文、新聞記事等をしっかり読んで、次の授業に参加すること。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を変更する予定であるので、第一回目の講義には必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、循環型社会、介護保険

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free rider)・ 政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。
- ②政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 : Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 (Policy Window) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ③政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係]について理解してもらう。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』 (早川純一外著 学陽書房 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 ¥2,940)
- 『政治過程論』 (伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 ¥2,625)
- 『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 ¥3,568)
- 『政策過程分析入門』 (草野厚著 東京大学出版会 ¥2,625)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例 : 川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、ビデオ)
- 4回 政策過程の理論 1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析 1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論 2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論 3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析 2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表I
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策I (政府間関係、利益誘導政治)
- 12回 政府間関係と自治体の政策II (地方の変革・ 事例 : 名古屋市)
- 13回 本のレポート発表
- 14回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 15回 関心のある政策 (個別事業) を選び、その政策過程を分析、検討

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト・ ポスター発表-30%、本のレポートと発表-20%、 期末試験-50% (レポートの未提出者・ 発表をしてない学生は期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ゼミ生の活動・ 授業内容については、
 ゼミホームページ <http://shinzemi.wiki.fc2.com/>
 申 ホームページ <http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm>
 を参照し、準備する。

政策過程論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公私、公共政策、政策の決定、実施、政策調整、終了、アクターの参加、メディアの役割、ガバナンス

公共経営論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に公共サービス再編成を対象とし、市場原理・企業的経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

教科書 /Textbooks
 教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 NPM (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 PFI
- 第6回 「教育編④図書館」 PFIの問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「道路編①」 道路のしくみ
- 第10回 「道路編②」 道路公団民営化
- 第11回 「道路編③」 道路の必要性
- 第12回 「道路編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 非正規職員
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末レポート・・・100%
 毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末レポート得点から2点程度減点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 私語は厳しく注意します。

履修上の注意 /Remarks
 私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

厳しい変革の時代を生き抜くために、企業は経営方針、意思決定の仕組み、組織の運営方法を大転換している。地方公共団体においても、政策の選択と集中によって都市経営方針を明確にし、戦略的な経営が行われるように、簡素で効率的な行政を進める行政改革・組織改革と職員の意識改革を進めている。

この講義では、地方自治体が、都市機能を高め、都市の自律的發展を目指して改革している組織・人的資源管理の現状や在り方について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
 (大学のホームページから受講者自身がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 武藤博巳編著『自治体経営改革』自治体改革2 (2004) ぎょうせい
- 天野巡一編著『職員・組織改革』自治体改革6 (2004) ぎょうせい
- 大住荘四郎『NPMによる行政革命 - 経営改革モデルの構築と実践』(2003) 日本評論社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経営論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 地方自治制度と地方分権
- 4回 地方自治体の組織と権能
- 5回 都市経営と政策
- 6回 都市経営と行政計画
- 7回 都市経営と行財政改革
- 8回 地方自治体の組織原理の変化
- 9回 新しい都市経営の基本姿勢
- 10回 新しい組織管理
- 11回 新しい人的資源管理
- 12回 地方公務員の雇用環境の変化
- 13回 新しい都市経営の主体【第三セクター、指定管理者】
- 14回 新しい都市経営の主体【PFI、PPP】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地方自治に関心を持ち、地域社会の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 哲矢 / Tetsuya Koga / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

激変する日本社会の中で、地方自治体は、住民・企業・団体等の様々なニーズに応じて都市機能を高め、住民福祉の向上や地域経済の活性化を図る財政運営を行っている。

この講義では、都市を取り巻く世界や日本の動きを理解した上で、地方自治体の財政がどのような仕組みで運営されているのか、その課題は何かを学ぶ。

併せて、技術系企業の活動にどのような変化が出てきているのかを知り、都市経済の活性化のためにどのような政策が必要かを学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを提供する
 (大学のホームページから受講者がダウンロードすること)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 和田八束ほか編『現代の地方財政(第3版)』(2004)有斐閣ブックス
- 神野直彦編著『地方財政改革』自治体改革8(2004)ぎょうせい
- 森一夫著『日本の経営-会社と人間のあるべき関係』(2004)日経文庫
- 寺本義也ほか著『技術経営の挑戦』(2004)ちくま新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 都市経済論とは何か
- 2回 地方自治体を取り巻く環境変化
- 3回 日本の経済状況と地方自治体の財政状況
- 4回 地方財政制度の概要
- 5回 国家財政と地方財政
- 6回 地方自治体の予算制度
- 7回 地方財政の収入構造
- 8回 地方税制度と課題
- 9回 地方交付税制度と課題
- 10回 その他の歳入と課題、自治体の歳出構造
- 11回 地方財政制度の課題と今後の方向
- 12回 都市における企業活動の変化と都市経済
- 13回 技術経営の変化
- 14回 技術移転
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞の経済記事などを丹念に読み、日々の経済の動きを知るように努めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理（行政計画、政策評価、人事・組織・予算管理）など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化）
- 第9回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
 毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

介護や障害者福祉に関心をもっておいください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

回収された家庭からのゴミはどう処理されるのか？ また、街路樹の落ち葉の清掃、家庭からの排水の行方、水道水の水源など一般生活に必要な知識を私たちはもちえてません。本授業では、基礎的な都市の環境保全や環境教育を学びます。中でも九州の学生に知っておいてもらいたいのは、環境問題の原点とも言われる水俣病です。そのことも毎年実施している私のゼミ及び「政策科学入門I」の環境学習研修旅行の記録を通して学習します。ペットボトルに入ったミネラル・ウォーターが本当にうまいと感じるのか、感じるとすればなぜなのかなど実際に水を飲む「利き水大会」といった環境教育アクティビティを多用します。環境モデル都市北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。

教科書 /Textbooks

その都度資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- * 日本環境学会編集委員会編『新・環境科学への扉』有斐閣コンパクト、2001年
- * 栗原彬『証言 水俣病』岩波新書、2000年
- * 北九州市環境局『北九州市の環境 平成20年度版』（北九州市役所HP掲載）
- * 原田正純『水俣病講義』日本評論社、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらいの説明：：簡単な環境意識度チェック 【環境意識】
- 第2回 環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育） 【ESD】
- 第3回 三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告 【環境学習旅行】
- 第4回 水俣病とは？ 水俣学とは？ 多角的検証 【水俣病】
- 第5回 日本の環境政策の歴史と課題 【環境政策】
- 第6回 北九州市の環境の現状 【北九州市】
- 第7回 廃棄物管理 その原理と現状～一般廃棄物について 【廃棄物管理】
- 第8回 廃棄物管理 ～産業廃棄物、3Rとコンポストをめぐって 【3R】 【コンポスト】
- 第9回 下水処理をめぐって～下水処理の原理 【水質汚濁】
- 第10回 下水処理をめぐって～途上国インドのし尿処理問題 【途上国のし尿問題】
- 第11回 上水道：：（アクティビティ=きき水比べ） 【おいしい水】
- 第12回 大気汚染～汚染の原理と現状 【大気汚染】
- 第13回 大気汚染～身近な生活からの実験を通して 二酸化炭素吸収度の算定 【CO2計測】
- 第14回 環境保全・環境教育に取り組む人々=エコツーリズムに関わろう！【エコツーリズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢...20% 小課題の提出 ... 20% 期末試験 ... 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

時々の小課題の実施

履修上の注意 /Remarks

授業2回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ2回目の授業の欠席は避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境保全は楽しむことの中で実践できればいいと考えています。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード /Keywords

E S D、各自の環境目標、環境教育アクティビティ

福祉環境デザイン論 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 本講義では、成熟社会における今後のまちづくりのあり方を、広く福祉・環境の側面から捉え、公共空間、住宅、交通施設などを対象に、バリアフリーや環境に配慮したデザインの背景、意義及びその手法についての基礎的知識を学ぶことを目的とします。建築・土木の専門用語も多数出てきますが、国内外の事例を交えながら分かりやすく概説します。

教科書 /Textbooks
 なし（適宜、レジュメや参考資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○田中直人編『福祉のまちづくりキーワード事典』学芸出版社
 ○土木学会編『日本の交通バリアフリー理解から実践へ』学芸出版社

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス（福祉環境デザインとは）【バリアフリー】、【ユニバーサルデザイン】
 - 2回 人間の行動能力と空間【障がい者】、【高齢者】
 - 3回 公共空間のデザインI（道路、歩道等）【有効幅員】、【段差】、【勾配】
 - 4回 公共空間のデザインII（広場、公園、緑地等）【スロープ勾配】、【公開空地】
 - 5回 公共空間のデザインIII（公共施設、商業施設等）【ハートビル法】、【多機能トイレ】
 - 6回 北九州市におけるバリアフリーのまちづくり
 - 7回 居住空間のデザイン【ライフスタイル】、【バリアフリー住宅】
 - 8回 情報機能のデザイン【サイン】、【情報案内】、【色と光】
 - 9回 公共交通のデザインI（交通施設）【交通バリアフリー法】、【駅】
 - 10回 公共交通のデザインII（車両）【交通バリアフリー法】、【交通システム】、【LRT】
 - 11回 公共交通のデザインIII（交通とまちづくり）【タウンモビリティ】、【コンパクトシティ】
 - 12回 世界の交通まちづくり
 - 13回 住民参加によるまちづくりの合意形成手法【ワークショップ】、【市民参加】
 - 14回 地域運営手法による住民自らのまちづくり【まちづくり協議会】、【維持管理】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験で評価します

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 授業への積極的参加を求めます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【昼】

担当者名 /Instructor 堀田 泰司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義は、これから法学を学ぶ学生が法律の全体像を把握することをねらいとします。具体的な事件を解決するための手段である法律の基礎を体系的に理解することによって、法を身近なものとし、法に主体的に関わるための法の知識と考え方を修得します。

教科書 /Textbooks
 伊藤真 著 『伊藤真の法学入門』 日本評論社 定価 (1500円 + 税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 村田彰 編 『リーガルスタディ - 法学入門』 定価 (3150円) ○

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 講義ガイダンス、法とは何か
 - 2回 法と規範、法規範の特質と機能
 - 3回 日本における法の歴史と法意識
 - 4回 法学の学び方 1(法解釈と価値判断)
 - 5回 法学の学び方 2(法を学ぶことの意義、リーガルマインドについて)
 - 6回 憲法と法
 - 7回 法と正義
 - 8回 法的安定性
 - 9回 法の体系、法の種類
 - 10回 法の目的と価値基準
 - 11回 法の解釈と基準
 - 12回 日本の裁判制度と判例
 - 13回 法律の勉強
 - 14回 法律文書の書き方、法情報の調べ方
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 定期試験...70% 平常の学習状況(小テスト、ミニツツペーパーを含む)...30%の配分の評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 問題意識を持って授業に臨まれば理解がより深まりますので、予習、復習をして授業に出席してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の国家・社会の基本法である「憲法」の意義・概要について学ぶことによって、一人の人間として、あるいは主権者たる市民として、思索・行動する上での何らかのてがかりにさせていただきたい。講義全体のキーワードは【立憲主義】と【民主主義】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法の意義 - 【国家権力の授権と制限】
- 第2回 憲法の展開 - 【近代から現代、そして未来へ】
- 第3回 人権総論① - 【人権の保障と制限】
- 第4回 人権総論② - 【裁判所による人権保障】
- 第5回 統治機構総論① - 【国民主権】
- 第6回 統治機構総論② - 【権力分立】
- 第7回 統治機構総論③ - 【日本の政治制度】
- 第8回 平和主義論① - 【憲法9条の制定・意義】
- 第9回 平和主義論② - 【平和主義の現実と未来】
- 第10回 平和主義論③ - 【憲法9条と裁判所】
- 第11回 地方自治 - 【新しい地方自治の姿と課題】
- 第12回 象徴天皇制 - 【天皇制の継続と断絶】
- 第13回 憲法保障 - 【憲法保障・憲法改正・憲法変遷】
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①
- 第12回 社会権②
- 第13回 人身の自由
- 第14回 参政権
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 中山 布紗 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

民法は、家族や財産、契約といった、社会生活における身近な人間関係の中で形成される基本的な「権利」や「義務」について定めた法律です。民法典は、5つの編(総則・物権・債権・親族・相続)に分かれています。民法総則はその1番目にあたる編で、残り4編の通則的事項を抽出した規定が配列されています(1条~174条の2)。民法とりわけ総則編の条文は、抽象的な内容であることに加え、普段耳慣れない難しい用語もたくさん出てきますので、一見とつきにくいと思われることでしょう。しかし、民法総則は、民法全体を貫く基本的な原理について定めた条文群ですから、今後、民法の具体的な内容について学習するための「パスポート」的な役割を果たします。

この講義では、民法の原理・原則、法律用語の意味をひとつひとつ確認しながら、「法的なものの考え方」を身に付けてもらうことを目的とします。法的なものの考え方とは、「いかにして他人を説得させることができるか。」という観点から、結論に至る妥当な理由付けを紡ぎだすことです。皆さんも、学んだ知識を、具体的な事案(紛争)を解決するための道具として使いこなせるように努力してください。

教科書 /Textbooks

- ①佐久間毅『民法の基礎<1>総則(第3版補訂)』(有斐閣、2009年、3150円)。
- ②中田裕康ほか編『民法判例百選1・総則・物権(第6版)』(有斐閣、2009年、2200円)。
- ③六法(出版社は問わない。ただし、定期試験には判例なし六法(書き込みなし)の持参のみ許可する。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス-民法総則とは何か / 講義の狙いと注意
- 第2回 人①- 権利能力の始期と終期 / 胎児の権利能力 / 同時死亡の推定
- 第3回 人②- 失踪宣告
- 第4回 法律行為の分類と内容確定 / 意思主義と表示主義
- 第5回 制限行為能力者制度①
- 第6回 制限行為能力者制度②
- 第7回 意思表示の瑕疵①心裡留保 / 虚偽表示
- 第8回 意思表示の瑕疵②錯誤
- 第9回 意思表示の瑕疵③詐欺・強迫
- 第10回 強行規定と任意規定 / 公序良俗違反
- 第11回 無効と取消し
- 第12回 代理総論 / 有権代理論
- 第13回 無権代理論①
- 第14回 無権代理論②表見代理 - 代理権授与の表示による表見代理
- 第15回 無権代理論③表見代理 - 権限超越の表見代理
- 第16回 無権代理論④表見代理 - 代理権消滅後の表見代理 / 表見代理規定の競合
- 第17回 無権代理論⑤代理権濫用
- 第18回 無権代理人の責任
- 第19回 無権代理と相続
- 第20回 代理のまとめ
- 第21回 条件と期限
- 第22回 法人①
- 第23回 法人②
- 第24回 時効①
- 第25回 時効②
- 第26回 時効③
- 第27回 民法の基本原則 - 権利濫用・信義則
- 第28回 民法94条2項類推適用論①
- 第29回 民法94条2項類推適用論②
- 第30回 民法事例問題の解き方 / 法律的に「論じる」ことの意義

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験により評価します(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法総則【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義には、先に挙げた指定教科書等①、②、③すべて（三点セット）を毎回持参すること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の社会生活は、基礎法である民法だけでなく、それに加えて広範な社会法によって規律されている。現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。近年の経済社会の変動を背景にして、福祉国家の発展のために、社会法に寄せられる国民の期待には大きなものがある。この授業では、人権が尊重される民主的な福祉社会、安心して暮らせる豊かな社会、相互の尊重で支えられる共生社会ないし包摂的社会など、現代社会における人々の社会生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法およびそれぞれの法分野の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライベートイゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 2学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

刑法総論の基本的概念を理解し、重要問題を考察するとともに、法学的な思考力を身につけることを目的とする。講義全体のキーワードは、刑法的思考力を身につけるということである。

教科書 /Textbooks

山中敬一著『刑法概説(総論)』(成文堂)2008年10月、2500円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ジュリスト別冊芝原・西田・山口編『刑法判例百選(総論 [第5版])』(有斐閣)平成15年4月、2105円+税
立石二六編『刑法総論30講』(成文堂)平成19年3月(出版予定)、2800円+税
齊藤誠二編『演習ノート刑法総論(全訂第3版)』(法学書院)平成15年3月
船山・清水・中村編『ケースメソッド刑法総論』(不磨書房)平成15年3月、2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】内はキーワード
第1回～第2回 刑法典の沿革、犯罪論の基本。【刑法の意義】、【犯罪】
第3回～第4回 学派の争い【主観主義刑法理論】、【客観主義刑法理論】
第5回～第6回 罪刑法定主義とその派生原則【類推解釈】、【遡及処罰の禁止】、【慣習法の排斥】、【絶対的不定期刑・不定期刑の禁止】、【構成要件の明確性】、【実体的デュープロセス】
第7回 犯罪の分類【結果犯】【単純行為犯】【実質犯】【形式犯】【侵害犯】【危険犯】 【即成犯】【状態犯】【継続犯】
第8回 犯罪論の体系【行為】【構成要件】【違法】【責任】
第9回～第10回 行為論【作為】、【不作為】、【作為犯】、【不作為犯】、【因果関係】
第11回～第12回 構成要件論【構成要件】、【認識根拠説】、【実在根拠説】
第13回～第14回 違法論【違法の本質】、【結果無価値】、【行為無価値】、【可罰的違法性】、【許可された危険】
第15回～第17回 違法性阻却事由【正当行為】、【正当防衛】、【緊急避難】、【自救行為】、【被害者の同意】
第18回～第20回 責任論【責任能力】、【故意】、【事実の錯誤】、【法律の錯誤】、【過失】、【原因において自由な行為】
第21回～第22回 未遂論【実行の着手】、【離隔犯】、【間接正犯】、【不能犯】、【中止犯】
第23回～第26回 共犯論【共犯学説】、【共犯の処罰根拠】、【共同正犯】、【教唆犯】、【従犯】、【共犯独立性説】、【共犯従属性説】、【共犯と身分】
第27回～第29回 共犯の諸問題【承継的共犯】、【片面的共犯】、【必要的共犯】、【不作為と共犯】、【結果的加重犯と共犯】、【共犯と錯誤】、【共犯と中止犯】、【予備の共犯】
第30回 罪数論【本来の一罪】、【科刑上一罪】、【包括一罪】、【併合罪】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(学期末試験100%)で評価する。授業態度が悪い場合、減点の対象とする場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：法学、刑法犯罪各論、刑事訴訟法を履修すると本講座の学習が効率的になります。法学はすべての法律学を学習する上で基本になる科目ですし、また、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は同じ刑事法に属する科目ですから、強く関連しているからです。法学は本講座を履修する前に、刑法犯罪各論、刑事訴訟法は本講座を履修した後かまたは同時に履修するとよいでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義に出席しなければ理解はできない。レジュメを手にしただけでは絶対に刑法を理解することはできない。また、予習・復習をしなければ講義についていけない。当たり前のことを当たり前にやる必要があります。刑法は生易しい学問ではありません。

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 /Instructor 山本 光英 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「刑法犯罪各論」は、刑法典における個別の犯罪類型の成立要件を学ぶものです。各犯罪を規定する条文の解釈を学び、具体的事例を検討することで、法的思考力を身につけることを目的としています。「刑法犯罪各論I」は、個人的法益に対する罪の一部および国家的法益に対する罪の一部を学びます。

教科書 /Textbooks

山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂、2008年10月）2500円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別冊ジュリスト『刑判判例百選II〔各論〕第6版』（有斐閣、2008年3月）2400円＋税
立石二六編著『刑法各論30講』（成文堂、2006年4月）2800円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 犯罪各論の基礎
- 2～4回 生命に対する罪【殺人】【自殺関与】
- 5～7回 身体に対する罪【傷害】【同時傷害】【暴行】【傷害致死】【墮胎】【遺棄】
- 8～9回 自由に対する罪【脅迫】【逮捕監禁】【略取誘拐】【強姦】【強姦致死傷】【強制わいせつ】【強制わいせつ致死傷】
- 私生活の平穩に対する罪【住居侵入】【秘密侵害】
- 10～11回 名誉・信用に対する罪【名誉毀損】【侮辱】【信用毀損】【業務妨害】
- 12回 国家の存立に対する罪【内乱】【外患誘致】【私戦予備陰謀】
- 13～14回 国家の作用に対する罪①【公務執行妨害】【逃走】【犯人蔵匿・隠避】【証拠隠滅】【偽証】【虚偽告訴】【職権濫用】
- 国家の作用に対する罪②【収賄】【贈賄】

* 受講生の理解度等の理由により、講義の進捗状況が変化することがあるので注意のこと。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100％）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は当然のこと、関係判例を参考文献に挙げた『判例百選』で読んでおくこと。また、自発的に他の文献を読んでおくことが望ましい。
「刑法犯罪論」を履修しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

とにかく予習・復習しなければ、理解はできない。

キーワード /Keywords

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義が対象とする刑法各論は、殺人罪や窃盗罪といった、個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域である。刑法犯罪各論IIにおいては、刑法犯罪各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪、及び社会的法益に対する罪を取り上げる。具体的事例をもとに、刑法各論の基本概念及び各犯罪類型の要件解釈論を検討して、その重要問題を考察するとともに、法的思考力を習得することを目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。テキストの選択は受講者の任意に委ねる。
各自が使用する基本書（著者を問わない。）及び最新の六法を必携のこと。
（参考）山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 井田良『刑法各論（新 論点講義シリーズ2）』（弘文堂・2007.05）
- 立石二六（編著）『刑法各論30講』（成文堂・2006.04）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1回～2回 財産罪(1)財産罪の基礎・窃盗罪、毀棄隠匿罪
- 3回～5回 財産罪(2)強盗罪、事後強盗、強盗致死傷罪
- 6回～8回 財産罪(3)詐欺罪・恐喝罪、詐欺罪の諸類型
- 9回～10回 財産罪(4)横領罪、背任罪、盗品関与罪
- 11回～12回 公共危険罪 騒乱罪、多衆不解散罪、放火罪・失火罪（放火罪の基礎、焼損、公共危険など）、出水罪、水利妨害罪、往来妨害罪
- 13回～14回 公共の信用に対する罪 文書偽造罪（文書偽造罪の基礎、文書概念、偽造概念、作成者と名義人など）、通貨偽造罪、有価証券偽造罪
- 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪、重婚罪、賭博罪、死体損壊・遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジユメを配布する予定である。講義に臨んでしっかりとノートを取ることはもちろんのこと、予習（基本書の該当箇所を熟読してから講義に臨む。）・復習（講義ノートを整理して、不足事項を基本書で補う。）を十分に行うようにしよう。

履修上の注意 /Remarks

この科目を受講する前に、前提とされる「刑法犯罪論」及び「刑法犯罪各論I」を受講しておくこと。
この講義を受講した後に、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」及び「刑事司法政策I・II」を受講することを勧める。また、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、種々の考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

刑法犯罪各論II 【昼】

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法各論 犯罪論

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor 森脇 敦史 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、日本国憲法が定める統治機構を概観する。55年体制成立後初の本格的な政権交代とその後の混乱、「ねじれ国会」における審議のあり方、冷戦終結に伴う国際秩序の激変は、現行制度の限界を示しているともいわれるが、一方で世代を超えたコミットメントとしての憲法が、現実政治に対して変化を求めているとも理解できる。授業では現実政治の動向にも触れつつ、憲法がいかんにして動的かつ安定した統治を設計しうるのかを検討することとしたい。

教科書 /Textbooks

大隈義和・大江正昭『憲法学へのいざない』（青林書院・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○高橋和之他編『憲法判例百選II（第5版）』（有斐閣・2007年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス.....権力分立、法治主義
- 第2回 明治憲法の歴史と日本国憲法の制定
- 第3回 国民主権.....主権の意味、政党、象徴天皇制
- 第4回 国会（1）.....国会の地位・組織、「立法」の概念
- 第5回 国会（2）.....国会の活動、国会・議院の権能
- 第6回 内閣（1）.....議院内閣制、「行政」の概念
- 第7回 内閣（2）.....行政権の組織と権能、内閣と行政各部の関係
- 第8回 裁判所（1）.....裁判所の組織、司法権の独立
- 第9回 裁判所（2）.....司法権の意義・範囲・限界
- 第10回 違憲審査制.....違憲審査の種類・主体・方法、違憲審査基準
- 第11回 財政、地方自治.....財政民主主義、地方自治の法的性格、住民の地位
- 第12回 平和主義（1）.....戦争放棄と戦力の不保持
- 第13回 平和主義（2）.....冷戦終結後の安全保障体制
- 第14回 憲法保障.....国家緊急権、抵抗権、憲法改正
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日々のニュースには目を通しておくこと。

キーワード /Keywords

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期 (ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ「行政を規律する法システムの基本原理」

今日の行政の活動はわれわれの生活の隅々にまで及び、われえあれの生活自体もまた行政の活動に大きく依存している。そのような行政の活動を規律する法システムとしての行政法の基本原則について学ぶことがこの講義の内容である、具体的には、法律による行政統制の基本原則、行政の組織と機関、行政の活動過程の統制、行政活動における市民（私人）の権利保障、行政活動の実効性を確保する手段等がその内容である。

教科書 /Textbooks

手島孝他編『新基本行政法学』（2011年予定、法律文化社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I (第五版)』（2006年、有斐閣）
- 同上 『行政判例百選II (第五版)』（同上）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 第1回 行政法とはどのようなものか | 第16回 行政行為・行政処分の意義 |
| 2回 行政法の成立とその構造 | 17回 行政行為・行政処分の効力 |
| 3回 行政法の法源 | 18回 行政行為・行政処分の瑕疵 |
| 4回 行政法の法源 (その2) | 19回 行政契約 |
| 5回 法律による行政の原理 | 20回 行政指導 |
| 6回 法律による行政の原理 (その2) | 21回 行政計画 |
| 7回 行政手続法 | 22回 行政調査 |
| 8回 行政手続法 (その2) | 23回 行政活動の実効性確保手段の意義 |
| 9回 行政主体の意義と種類 | 24回 行政上の強制執行 |
| 10回 行政機関 | 25回 行政罰 |
| 11回 行政組織 | 26回 即時強制 |
| 12回 権限の委任と代理 | 27回 その他の手段 |
| 13回 行政機関相互の関係 | 28回～30回 まとめ |
| 14回 行政の行為形式論 | |
| 15回 行政立法 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90% 課題10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法は応用的科目であるから、憲法、民法、刑法を履修していること（履修中を含む。）が望ましい。専門科目であるから、当然ながら、予習・復習がないと理解は困難である。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論は、国家補償法、行政訴訟法、地方自治法等の他の行政法科目を履修するために必要不可欠な科目である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / OKAMOTO Hiroshi / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 行政活動に対する不服や不満を解決する手続としての行政上の不服申立ておよび違法な行政活動の是正と救済を求める手続としての行政訴訟について理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks
 手島孝・中川義朗編『基本行政法学〔第3版〕』（2005年、法律文化社）
 ※行政法総論で使用した教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○小早川光郎ほか編『行政判例百選II〔第5版〕』（2006年、有斐閣）
 ○塩野宏『行政法II〔第四版〕』（2005年、有斐閣）
 ○宇賀克也『行政法概説II』（2006年、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 行政上の不服申立て制度の概要
- 2回 不服申立ての提起
- 3回 不服申立ての審理
- 4回 不服申立ての裁決
- 5回 行政訴訟総説
- 6回 行政事件の種類
- 7回 抗告訴訟(1) 抗告訴訟の種類
- 8回 抗告訴訟(2) 取消訴訟の訴訟要件
- 9回 抗告訴訟(3) 取消訴訟の審理
- 10回 抗告訴訟(4) その他の抗告訴訟
- 11回 抗告訴訟(5) 判決と仮の救済
- 12回 当事者訴訟
- 13回 民衆訴訟
- 14回 機関訴訟
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験 80% 課題 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 行政法総論を履修済みであることが望ましい。
 当然ながら予習・復習が必要である。
 (復習のための課題提出を求める。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

物権法 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 私たちが生活をするに際しては、どうしても様々な物資が必要となります。そして、それらの物資を対象とする権利が物権であると言えます。この講義では、民法の中で、物権について規定している「物権編」について学習します。

教科書 /Textbooks
 有斐閣のSシリーズの物権

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要があれば指示します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 ガイダンス。民法の学び方。民法には何が書いてあるか。
 - 2回 【物権】とは (【債権】との違い)
 - 3回 【物権法定主義】
 - 4回 【不動産物権変動】 その1
 - 5回 不動産物権変動その2
 - 6回 不動産物権変動その3
 - 7回 不動産物権変動その4
 - 8回 【動産物権変動】
 - 9回 【占有権】、【所有権】、【相隣関係】、【制限物権】
 - 10回 【担保】とは。【債権者平等の原則】
 - 11回 【留置権】、【先取特権】、【質権】
 - 12回 【物上代位】
 - 13回 【法定地上権】、【用益権】との調整
 - 14回 【共同抵当】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 レポート 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 六法は必ず持参すること。物権法の学習にあたっては、「民法総則」の学習をすることが望まれる。

履修上の注意 /Remarks
 受講にあたっては、筆記作業を厭わないことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 特になし。

キーワード /Keywords
 物権

家族法 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講説親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社（2007年8月）3,000円、水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣（2008年10月）2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化 3,800円、○二宮周平『家族法（第2版）』新世社 3,100円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻】【婚約】【内縁】
- 3回 婚姻制度②【婚姻】【婚約】【内縁】
- 4回 婚姻制度③【婚姻】【婚約】【内縁】
- 5回 離婚制度①【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 6回 離婚制度②【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 7回 離婚制度③【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 8回 親子制度①【実子】【養子】【親権】【後見】
- 9回 親子制度②【実子】【養子】【親権】【後見】
- 10回 親子制度③【実子】【養子】【親権】【後見】
- 11回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 12回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 13回 法定相続制度②【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 14回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」を既に履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することを勧めます。

講義には必ず六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象となる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶発的なリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引に「限定」されます。

そして、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の基本的枠組みを理解することにあります。火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する法律問題や犯罪を取り上げながら、保険法の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。六法については、平成22年度版以降であることが必要です。毎回、必ず持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略、以下の順に進めますが、受講生の理解度等により進度が変わりうることをご了解願います。(【】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約における告知義務 (1) 告知義務制度の背景・告知者とその相手方
- 第6回 保険契約における告知義務 (2) 告知義務の内容・告知事項
- 第7回 保険契約における告知義務 (3) 告知義務違反の効果
- 第8回 保険契約における告知義務 (4) 事例研究とまとめ
- 第9回 損害保険契約 【被保険利益】
- 第10回 損害保険契約 【保険代位】
- 第11回 各種の損害保険契約一個別の問題【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第12回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第13回 保険契約における事情変更・失効
- 第14回 保険者(保険会社)の免責と約款における免責条項の有効性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 80%、授業の理解度を把握するために随時実施する小テストの結果を含む日常的授業への参加度... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」を合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるか並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

配布される資料は、必ず、ファイリングした上で、前回以前に受領したのもも持参の上、講義を受けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠償保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法II【昼】

担当者名 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをする事も増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法(とりわけ私法)は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動してただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名そしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち(振出人、受取人、所持人等)の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法III - 手形・小切手(第3版)」(有斐閣Sシリーズ・2006年)2000円。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- ①体系書：川村正幸「手形・小切手法(第3版)」(新世社・2005年)、関俊彦「金融手形小切手法(新版)」(商事法務研究会・2003年)。
②判例：落合誠一編「手形小切手判例百選(第6版)」(別冊ジュリスト173号)(有斐閣・2004年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(1)【有価証券】
第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか(2)【証拠証券、免責証券、金券】
第5回 手形・小切手を振り出してみる(1)【原因関係、商業手形、融通手形】
第6回 手形・小切手を振り出してみる(2)【手形署名、手形行為、手形理論】
第7回 手形・小切手を振り出してみる(3)【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
第8回 手形・小切手を振り出してみる(4)【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
第9回 手形・小切手を振り出してみる(5)【手形要件】
第10回 手形・小切手を振り出してみる(6)【白地手形】
第11回 手形を満期前に譲渡する(1)【裏書、裏書の連続】
第12回 手形を満期前に譲渡する(2)【人的抗弁の制限】
第13回 手形が盗まれてしまった!(1)【善意取得】
第14回 手形が盗まれてしまった!(2)【公示催告、除権決定、手形訴訟】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。

予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である(手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(できれば最新の)六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

企業取引法II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

これからの取引社会において、営業上の信用を含む知的資産がもたらす価値は更に増大するものと考えられる。「知的財産法」では、当該知的資産の全体像を、思想または感情の創作物に関わるもの・製品等の開発販売過程で創作されるもの・営業上の信用が化体されているものに大別して、権利客体の把握や侵害訴訟における各種権利の基本的機能を概説する。同時に、音楽ソフトのネットワークを利用した配信行為に代表される、情報通信技術の進展に伴う新たな課題についても検討を加え、現代の取引社会で知的財産権が関与する事象を総合的に判断する能力形成をはかる。

教科書 /Textbooks

特許庁編産業財産権標準テキスト「総合編」「特許編」「意匠編」「商標編」以上4冊は無償配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村善之著「著作権法概説」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 知的財産法の全体像と基本理念～営業上の信用を含む無形の知的財産保護法制の概要説明
2. 情報通信技術の進展と知的財産権制度～ネットワーク等の技術進展がもたらす諸問題を考える
3. 著作権法～著作物と著作者の権利(著作権、著作人格権)、著作隣接権、出版権、侵害訴訟
4. 著作権法～プログラム等の保護、放送ないしは映画の権利関係、マルチメディア作品の権利関係
5. 特許法・実用新案法～工業所有権四法(特実意商)の基本的枠組み、製品開発と産業財産権四法
特許侵害訴訟の基本、パリ条約及びその他の条約
6. 特許法・実用新案法～特許要件、発明実施概念、特許権、特許発明の同一性判断と侵害訴訟
7. 特許法・実用新案法～法定通常実施権、特許マップの作成、ライセンス契約
8. 意匠法～意匠登録要件、侵害訴訟の基本、意匠権、意匠の類否判断、ライセンス契約
9. 商標法～商標登録要件、侵害訴訟の基本、商標権、商標の類否判断と侵害訴訟、
10. 商標法～法定通常実施権、出願実務とライセンス契約
11. 不正競争防止法～不正競争行為概説、著名周知商品表示の模倣、営業秘密の不正取得等
12. 不正競争防止法～商品形態の模倣、技術的制限手段の解除等(スクランブル解除等)
13. デザイン保護法制～著作権法・意匠法・不正競争防止法の各法域における適用形態と境界領域
14. ソフトウェア保護法制～著作権法・特許法の各法域における適用形態
15. まとめ
16. 学年末定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の比重は約5割、残りはレポート等の最終提出物や授業中の発表、リフレクションカードの記述内容等、日常的学習の成果を参考にし、総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上の特許庁のホームページや最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
 パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
 最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、ウェブ上の情報も取捨選択しながら、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
 メールアドレス kimlab01@gmail.com
 スカイプID kim-lab

知的財産法 【昼】

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権の権利

情報公開・個人情報保護法【昼】

担当者名 森脇 敦史 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報公開は、民主主義国家において国民が主体的に政治に参画するために不可欠である。
また、情報化社会の進展に伴い、個人情報の有用性が高まると同時に、目的外利用や個人情報の不適切な取扱いによる権利利益の侵害リスクも高まっている。
本講義では、情報公開法・個人情報保護法（および自治体の条例）の概要と判例等の検討を行う。

教科書 /Textbooks

なし（レジユメを配布する）。六法は持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説 第5版』（有斐閣、2010年）
宇賀克也『個人情報保護法の逐条解説 第3版』（有斐閣、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス.....情報公開、個人情報保護の歴史、憲法上の位置づけ
- 2回 情報公開法（1）.....概論、【行政文書】
- 3回 情報公開法（2）.....不開示情報（【個人に関する情報】）
- 4回 情報公開法（3）.....不開示情報（【事務事業遂行情報】・【意思形成過程情報】）
- 5回 情報公開法（4）.....不開示情報（【法人等情報】、【安全・外交・公安情報】）
- 6回 情報公開法（5）.....部分開示、裁量的開示、存否応答拒否、開示手続
- 7回 情報公開法（6）.....救済手続、情報公開・個人情報保護審査会
- 8回 個人情報保護法（1）.....歴史、プライバシーと個人情報の関係
- 9回 個人情報保護法（2）.....保護対象（個人情報、個人データ、保有個人データ）、
【個人情報取扱事業者】
- 10回 個人情報保護法（3）.....【個人情報】に対する義務
- 11回 個人情報保護法（4）.....【個人データ】、【保有個人データ】に対する義務
- 12回 行政機関個人情報保護法（1）.....個人情報、保有個人情報の取扱い、個人情報ファイル
- 13回 行政機関個人情報保護法（2）.....開示・利用停止・訂正請求、救済手続
- 14回 個人情報・プライバシーの現代的問題.....住基ネット、納税者番号、監視カメラ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の授業に該当する条文を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 第二次世界大戦後から今日までの日本経済の発展の歴史を学ぶ。また、その学習を通して、今日の日本経済がどのように形作られ、どのような特徴を持つに至ったのかを説明する。

教科書 /Textbooks
 橋本寿朗ほか(2006)『現代日本経済 - 新版』有斐閣アルマ。なお、本テキストは、現代日本経済入門Bのテキストと同一である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 ※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

- 1 回現代日本経済をみる眼と戦後改革
- 2 回経済復興
- 3 回高度成長のメカニズムについての概説
- 4 回産業政策の効果
- 5 回メインバンク・システム
- 6 回安定株主化
- 7 回「民族大移動」と大量消費社会の出現
- 8 回石油危機と経済構造の転換についての概説
- 9 回赤字国債
- 10 回債権大国・経済大国への道についての概説
- 11 回プラザ合意と直接投資
- 12 回赤字国債
- 13 回バブル崩壊と日本型企業システムの転換についての概説
- 14 回不良債権問題
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 テキストの該当箇所を事前に講読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として平易に解説していく。学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになる。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

橋本寿朗他著『現代日本経済 新版』有斐閣、2006年、¥2,625

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本経済のトレンド(1)【高度成長】【重厚長大産業】【エネルギー革命】
- 2回 日本経済のトレンド(2)【安定成長】【ハイテク産業】【バブル経済】
- 3回 日本経済のトレンド(3)【構造改革】【IT産業】【中国市場】
- 4回 まとめと復習
- 5回 日本企業の国際競争力(1)【ジャストインタイム】【企業系列】
- 6回 日本企業の国際競争力(2)【自動車クラスター】【トヨタイズム】
- 7回 日本企業の国際競争力(3)【東アジア市場】【電機産業】
- 8回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】
- 9回 まとめと復習
- 10回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】
- 11回 規制緩和と企業制度改革【日本型企業システム】【構造改革】
- 12回 日本企業の組織改革【フラット化】【ICT】
- 13回 日本経済のシステム転換【新日本型ハイブリッド】【分権化】
- 14回 日本企業の新規事業展開(補論)【イノベーション】【クラスター】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代日本経済入門Aを履修することがのぞましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際競争力、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

経済学入門 A 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の一つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指す。
また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築く。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方（仮定の役割、モデル分析）
- 2回：グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3-5回：相互依存と交易について (1) 【取引のメリット・生産可能性・機会費用】
- 6-7回：相互依存と交易について (2) 【絶対優位】 【比較優位】
- 8-9回：需要と供給 (1) 【市場と競争】 【需要の弾力性】 【シフト要因】
- 10-11回：需要と供給 (2) 【供給の弾力性】 【シフト要因】
- 12-13回：市場均衡について 【価格】 【均衡】
- 14-15回：経済学再考 【市場メカニズムの働き・問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の1つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指す。
また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築く。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方（仮定の役割、モデル分析）
- 2回：グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3-5回：相互依存と交易について (1) 【取引のメリット・生産可能性・機会費用】
- 6-7回：相互依存と交易について (2) 【絶対優位】 【比較優位】
- 8-9回：需要と供給 (1) 【市場と競争】 【需要の弾力性】 【シフト要因】
- 10-11回：需要と供給 (2) 【供給の弾力性】 【シフト要因】
- 12-13回：市場均衡について 【価格】 【均衡】
- 14-15回：経済学再考 【市場メカニズムの働き・問題点】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版(最新年版(毎年出版されています))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
(【 】は講義のキーワード)
1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【景気】
4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】【国民負担率】
12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】【予算】
14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
15回 まとめ
(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後には各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学のはじめの一歩となる講義科目ですので講義内容をしっかりと理解して下さい。講義内容をしっかりと理解するためには講義に出席するだけでなく、指定されたテキストを穴があくほど読み込んでください。言うまでもなく、講義内容についての質問はどんどんしてください。しかしながら、分からないことはまず学生同士で大いに考えあってください。ああでもない、こうでもないと考えをめぐらすことが理解へとつながります。

キーワード /Keywords

GDP GNI 名目と実質 金融 利子率 貨幣 金融政策 為替 租税 市場の失敗 失業

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
 この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
 経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版(最新年版(毎年出版されています))

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
 (【】は講義のキーワード)
 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【景気】
 4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
 6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
 8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
 10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】【国民負担率】
 12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】【予算】
 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 15回 まとめ
 (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後には各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学のはじめの一歩となる講義科目ですので講義内容をしっかりと理解して下さい。講義内容をしっかりと理解するためには講義に出席するだけでなく、指定されたテキストを穴があくほど読み込んでください。言うまでもなく、講義内容についての質問はどんどんしてください。しかしながら、分からないことはまず学生同士で大いに考えあってください。ああでもない、こうでもないと考えをめぐらすことが理解へとつながります。

キーワード /Keywords

GDP GNI 名目と実質 金融 利子率 貨幣 金融政策 為替 租税 市場の失敗 失業

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 日本的経営論特徴と課題【終身雇用】【年功制】【成果主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によりますが、学期中の小レポートの結果(10%)も加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の科目の基礎科目なので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 日本的経営論特徴と課題【終身雇用】【年功制】【成果主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によりますが、学期中の小レポートの結果(10%)も加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の科目の基礎科目なので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。

この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。ことに講義の前半2/3で株式会社制度の特徴を理解して、コーポレートガバナンスの問題を、後半1/3では持株会社の基本的な仕組みについて理解してもらいたい。

教科書 /Textbooks

細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房、2009年。

テキストは、各自で予め必ず用意してください。講義で毎回、使用する。また、数回、実施する小テストでは、教科書を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)やロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)および下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)〔○〕。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態と会社 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】
- 2回 企業形態の分布 【税務統計からみた法人企業の実態】
- 3回 私企業1 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】
- 4回 私企業2 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】
- 5回 私企業3 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】
- 6回 株式会社制度1 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業ガバナンス】
- 7回 株式会社制度2 【企業ファイナンス】【直接金融】【間接金融】
- 8回 株式会社制度3 【株式所有構造】【株主行動の変化】
- 9回 株式会社の国際比較1 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】
- 10回 株式会社の国際比較2 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】
- 11回 企業統治1 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】
- 12回 企業統治2 【取締役会の改革と会社経営者】
- 13回 持株会社の解禁 【独禁法】【企業集団】【持株会社】
- 14回 株式会社の社会的責任 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとしての小テスト...20%(この割合を100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、講義の際、レジュメを用意するが、レジュメだけにしがみつかない。②、現実に関心をもつこと。③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。④、自分にあった参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・会社法の会社・株式会社(上場会社)・会社機関・ガバナンス・株式会社の国際比較・持株会社解禁とそのブーム

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。
この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。ことに講義の前半2/3で株式会社制度の特徴を理解して、コーポレートガバナンスの問題を、後半1/3では持株会社の基本的な仕組みについて理解してもらいたい。

教科書 /Textbooks

細川孝・桜井徹編『転換期の株式会社』ミネルヴァ書房、2009年。
テキストは、各自で予め必ず用意してください。講義で毎回、使用する。また、数回、実施する小テストでは、教科書を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

佐久間信夫編『よくわかる企業論』ミネルヴァ書房(2006年)やロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)および下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)〔○〕。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態と会社 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】
- 2回 企業形態の分布 【税務統計からみた法人企業の実態】
- 3回 私企業1 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】
- 4回 私企業2 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】
- 5回 私企業3 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】
- 6回 株式会社制度1 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業ガバナンス】
- 7回 株式会社制度2 【企業ファイナンス】【直接金融】【間接金融】
- 8回 株式会社制度3 【株式所有構造】【株主行動の変化】
- 9回 株式会社の国際比較1 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】
- 10回 株式会社の国際比較2 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】
- 11回 企業統治1 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】
- 12回 企業統治2 【取締役会の改革と会社経営者】
- 13回 持株会社の解禁 【独禁法】【企業集団】【持株会社】
- 14回 株式会社の社会的責任 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとしての小テスト...20%(この割合を100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

①、講義の際、レジュメを用意するが、レジュメだけにしがみつかない。②、現実に関心をもつこと。③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。④、自分にあった参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・会社法の会社・株式会社(上場会社)・会社機関・ガバナンス・株式会社の国際比較・持株会社解禁とそのブーム

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
 - 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
 - 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
 - 4回 簿記の要素【収益】【費用】
 - 5回 取引と勘定
 - 6回 仕訳と転記【仕訳】
 - 7回 仕訳と転記【転記】
 - 8回 仕訳帳と元帳
 - 9回 試算表
 - 10回 精算表
 - 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
 - 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
 - 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
 - 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
 - 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
 - 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
 - 4回 簿記の要素【収益】【費用】
 - 5回 取引と勘定
 - 6回 仕訳と転記【仕訳】
 - 7回 仕訳と転記【転記】
 - 8回 仕訳帳と元帳
 - 9回 試算表
 - 10回 精算表
 - 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
 - 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
 - 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
 - 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 任 章 / NIN Akira / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

教科書 /Textbooks
 P.G.ホール『入門数理統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 森棟公夫『統計学入門』新世社

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 ガイダンス
 - 2 一様乱数
 - 3 点推定と区間推定
 - 4 点推定と区間推定の意味
 - 5 正規確率変数
 - 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
 - 7 標準化
 - 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
 - 9 割合pに関する仮説検定（準備）
 - 10 割合pに関する仮説検定（本体）
 - 11 割合pに関する仮説検定（考察）
 - 12 割合の差の検定
 - 13 片側検定
 - 14 推定と検定に関する標準問題 1
 - 15 推定と検定に関する標準問題 2

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テストの合計点で評価する(100%)
 。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords
 平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

統計学II 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義は統計学Iの受講を前提として、実際の統計解析の分野で多用される回帰分析を中心にして展開される。

教科書 /Textbooks
 P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 森棟公夫『統計学入門』新世社
 鍋谷清治、丸山文行、河田敬義『大学演習数理統計』裳華房(本格的な演習書)

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1 正規確率変数の平均 μ の推定と標本平均
 - 2 正規確率変数の標準偏差 σ の推定と標本標準偏差
 - 3 連続型確率変数の平均 μ の区間推定(大標本法)
 - 4 連続型確率変数の平均 μ の検定(大標本法)
 - 5 正規確率変数の平均 μ の区間推定(小標本法)
 - 6 正規確率変数の平均 μ の検定(小標本法)
 - 7 確率分布はヒストグラムで近似できる
 - 8 回帰分析1 イン트로ダクション
 - 9 回帰分析2 標本相関係数、標本共分散
 - 10 回帰分析3 最小自乗法
 - 11 回帰分析4 決定係数
 - 12 回帰分析5 σ^2 の推定、 t 変量
 - 13 回帰分析6 推定量の平均、 t 変量の分布
 - 14 回帰分析7 α 、 β に関する検定
 - 15 回帰分析8 回帰分析の実際

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テストの合計点によって評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提して行われる。

キーワード /Keywords
 連続型確率変数、平均、分散、回帰モデル、回帰係数、推定、検定

数学【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営や情報で使われる数量によるデータの変化は関数としてあらわされます。関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基礎的な計算方法を身につけます。この講義では、1次関数や2次関数からスタートし、関数と接線の関係や逆関数とグラフの関係を理解します。また、指数法則と対数法則をもとに指数関数と対数関数の性質を学習します。微分では、経済でよく使われる多項式関数、指数関数、対数関数の微分を理解し、微分に関する性質として関数の四則演算についてのルールや合成関数の微分計算を身につけます。さらに、合成関数や逆関数の微分公式と対数微分法を練習します。積分では、不定積分と定積分の概念と置換積分法などの計算練習を行います。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、渡辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「経済・経営系 数学概説」新世社、竹内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：関数の考え方と微分 【関数の極限】、【連続関数】
- 2回：関数の考え方と微分 【接線】、【導関数】、【線形性】
- 3回：指数関数と対数関数 【指数関数のグラフ】、
- 4回：指数関数と対数関数 【逆関数】、【対数関数のグラフ】
- 5回：導関数 【多項式の微分】、
- 5回：導関数 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】
- 7回：微分 【関数の和・差の微分】
- 8回：微分 【関数の積・商の微分】
- 9回：微分法 【合成関数の微分】、【対数微分】
- 10回：微分法 【逆関数の微分】、【曲線とグラフ】
- 11回：不定積分 【多項式的不定積分】
- 12回：不定積分 【指数関数・対数関数の不定積分】
- 13回：定積分 【多項式の定積分】
- 14回：定積分 【指数関数・対数関数の定積分】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

経営統計【昼】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

統計学は経営や情報において数値的データを扱う上での基本的な学問です。表やグラフを使い、経営のために必要なデータの統計学的分析方法と考え方を経済・経営・情報などの様々な例題とデータを通して身につけていきます。さらに、経営の数理モデルへの応用方法を学びます。この講義では、データの整理の仕方や平均、分散、標準偏差のどの基本的な性質を学びます。つぎに、確率計算の基礎と2項分布、一様分布、正規分布の扱い方を練習します。統計学の基礎である中心極限定理について学習し、各種の推定方法や検定方法などを経営などの例題を通して身につけます。

教科書 /Textbooks

「初等統計学」培風館、P.G.ポーエル著、浅井晃、村上正康訳、1700円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「統計学の基礎」培風館、J.C.ミラー著、村上正康訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現 【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率 【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表 【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布 【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布 【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出 【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定 【大標本法】
- 8回：推定 【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定 【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定 【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関 【相関係数】
- 12回：回帰分析 【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定 【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定 【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出 (毎回出題) ・ ・ 30%
 期末試験 ・ ・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は「数学」を履修していることは前提としていませんが、履修していれば「経営統計」がより深く理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

地域経済I【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報劉と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造と地域経済【経済地理学】【地域政策】
- 4回 地域構造の高度化【産業構造】
- 5回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 6回 工業化の進展②【高加工度化】
- 7回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 8回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 9回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 10回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 11回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 12回 製造業主導の経済発展【太平洋ベルト地帯】
- 13回 大都市主導の経済発展【東京一極集中】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題(「地域経済II」にむけて)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済II 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 今日の地域経済の変化について学び今後について見通す。
 1. 人口動態の変化と地域経済の今後について学ぶ。
 2. 情報化の進展の広範な影響と地域経済に引き起こされる変化について学ぶ。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 田村大樹『空間的情報劉と地域構造』原書房、2004年。
 藻谷浩介『デフレの正体』角川oneテーマ21、2010年。
 その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 今何が変わっているのか(講義の概要)
- 2回 経済発展と人口【地人口動態】
- 3回 戦後日本の人口構成の変化【生産年齢人口】
- 4回 デフレの正体と地域経済【高齢化社会】
- 5回 情報社会の捉え方【情報社会論】
- 6回 ちょっと面倒な情報社会論批判
- 7回 技術革新と経済発展【技術論】
- 8回 インターネットの衝撃【CN(コンピュータ・ネットワーク)】
- 9回 空間克服技術としてのCN【空間克服】
- 10回 金融市場と商品市場の変容【グローバル・マーケット】【電子商取引】
- 11回 労働市場の変容【格差社会】
- 12回 企業の変容
- 13回 CNと都市
- 14回 地域経済の行方
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 『地域経済I』、『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、不完全競争を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 部分均衡分析(1)【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 部分均衡分析(2)【自由貿易の利益】
- 4回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 5回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 8回 不完全競争と国際貿易(1)【独占市場】
- 9回 不完全競争と国際貿易(2)【ダンピング】【製品差別化】
- 10回 完全競争と貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 完全競争と貿易政策(2)【数量割当政策】【有効保護】
- 12回 不完全競争と貿易政策(1)【国内独占】
- 13回 不完全競争と貿易政策(2)【外国独占】
- 14回 不完全競争と貿易政策(3)【戦略的貿易政策】【幼稚産業保護】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(数回) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、不完全競争、貿易政策

国際経済論II 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際マクロの立場から、国際金融の基礎理論、為替レートの決定、マクロ経済政策を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論Iも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川英治『国際金融入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）
橋本優子他『国際金融論をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 国際収支表(1)【国民所得勘定】
- 3回 国際収支表(2)【経常収支】【資本収支】
- 4回 外国為替の基礎(1)【為替相場市場】【通貨制度】
- 5回 外国為替の基礎(2)【マーシャル＝ラーナー条件】【Jカーブ効果】
- 6回 外国為替取引(1)【直取引】【先渡取引】
- 7回 外国為替取引(2)【金利裁定】【通貨オプション】
- 8回 外国為替の決定理論(1)【アセット・アプローチ】
- 9回 外国為替の決定理論(2)【購買力平価】
- 10回 開放経済下の国民所得決定(1)【貿易乗数】
- 11回 開放経済下の国民所得決定(2)【需要の変化】
- 12回 開放経済下のマクロ経済政策(1)【マンデル＝フレミングモデル】【BP曲線】
- 13回 開放経済下のマクロ経済政策(2)【固定相場制】【財政政策】【金融政策】
- 14回 開放経済下のマクロ経済政策(3)【変動相場制】【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(回数) 40 % 期末試験 60 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
国際経済理論のロジックをしっかりと理解し、論理的思考力を身につけてほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論I」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

国際収支、外国為替、国民所得、開放経済下のマクロ経済政策

経営戦略【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
『ケースに学ぶ経営学[新版]』（東北大学経営学グループ著）有斐閣、2600円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史 1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第 3回 経営戦略論の議論の歴史 2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第 5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第 6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第 7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略 1【5フォース】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略 2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第 10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第 11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第 12回 経営戦略と組織 1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第 13回 経営戦略と組織 2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第 14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によるが、必要に応じて学期中の小レポートの結果(10%)を加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

産業組織論I【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。

2つの演習を行う。
1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
- 2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・利得行列・支配概念・ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
- 8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・ゲームツリー・サブゲーム完全ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
- 13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ベイジアンナッシュ均衡・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Industrial Organizationの日本語訳が産業組織論である。
Industryという言葉は、昔、『市場』や『取引』という意味を持っていたようです。
現代だと、産業組織論は、市場組織論(Market Organization)と呼ぶ方が相応しいのかもしれませんが。
講義では、消費者と企業が取引する市場に注目し、効率的な取引を行うことを考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Luis Cabral. Introduction to Industrial Organization. MIT Press. 2000.
David Besanko and Ronald Braeutigam. Microeconomics. Wiley. 4 edition. 2010.
Preston McAfee. Competitive Solutions: The Strategist's Toolkit. Princeton Press. 2005.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 産業組織論のコンセプト【背景の理解】
- 2-3回 ミクロ経済学の復習【費用・最適化】
- 4-5回 完全競争【ベンチマーク・余剰】
- 6-7回 寡占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 8-9回 独占と公共政策【余剰分析・公正取引委員会の仕事】
- 10回 カルテル【公正取引委員会の仕事】
- 11-12回 市場構造分析【極限定理・無限繰り返しゲーム】
- 13回 自然独占と差別価格【余剰】
- 14回 TyingとMixed Bundling
- 15回 標準化とネットワーク外部性

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

産業組織論I・ミクロ経済学の知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとする。

財政学Iは、現実の財政制度や事情についての説明を中心に行う。どのような財政のあり方が望ましいのかを、経済理論を用いて説明するのは財政学IIで行う。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
 「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
 井堀 利宏「新経済学ライブラリ7 財政学(第3版)」新世社 2006年 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】は講義のキーワード)
- 1回 イントロダクション(財政の3つの機能)
 - 2回 財政とは何か?(財政学の変遷)
 - 3回 日本の財政制度①(【予算制度】)
 - 4回 日本の財政制度②(【財政投融资】)
 - 5回 租税①(日本の【租税】制度)
 - 6回 公債①(日本の【公債】事情)
 - 7回 演習(これまでの復習)
 - 8回 地方財政①(【地方財政制度】)
 - 9回 地方財政②(【地方財政事情】)
 - 10回 日本の財政事情①(戦後日本【財政史】)
 - 11回 日本の財政事情②(現在の国の【財政事情】)
 - 12回 財政事情の国際比較
 - 13回 財政収支①(【財政収支】とは?)
 - 14回 財政収支②(【世代間の不公平】)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 50% レポート課題2つ... 50%(=25%×2)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

財政に関するニュースはほぼ毎日、ニュースで取り上げられるので、財政に関心を持つようにニュースなどをしっかり見て欲しい。そして、「公共経済学」も併せて履修するのが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

予算制度 租税 公債 地方財政制度 財政史 財政事情 財政収支 世代間の不公平

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 安岡 匡也 / Masaya Yasuoka / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

財政とは、広く政府の経済活動のことを指す。それは我々の生活の中で身近な存在である。そして、財政学とは政府の経済活動が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、財政の望ましい姿を検討する学問であると言える。本講義を通じて、財政の仕組みや政府の経済活動が、我々の生活にどのような影響を及ぼすのか、さらに現実の財政事情がどんな状態であるのかを説明する。そして、1人でも多くの人々が日本の財政問題に対して関心を持つことをねらいとしたい。

財政学IIでは、経済理論を用いて、財政制度が人々の行動にどのような影響を与えるのかを明らかにし、その上で社会にとって望ましい財政のあり方を説明する。

教科書 /Textbooks

小塩 隆士「コア・テキスト 財政学」新世社 2005年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「図説 日本の財政(各年度版)」東洋経済新報社 ○
 「図説 日本の税制(各年度版)」財経詳報社 ○
 井堀 利宏「新経済学ライブラリ7 財政学(第3版)」新世社 2006年 ○
 小塩 隆士「社会保障の経済学(第3版)」日本評論社 2005年 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】は講義のキーワード)
- 1回 インTRODクシヨN(財政学Iと経済理論のおさらい)
 - 2回 租税②(【租税理論】と日本の税制度の特徴について)
 - 3回 租税③(【負担】と転嫁)
 - 4回 公債②(【公債】の経済理論)
 - 5回 公共財①(【公共財】の最適供給)
 - 6回 公共財②(【投票】)
 - 7回 マクロ財政政策①(【減税政策】と【公共事業】)
 - 8回 マクロ財政政策②(【財政政策】が無効な場合)
 - 9回 演習(これまでの復習)
 - 10回 所得再分配
 - 11回 経済政策理論
 - 12回 社会保障制度①(【社会保障事情】)
 - 13回 社会保障制度②(【社会保障理論】)
 - 14回 最近の研究の動向について
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...50% レポート...50%(=25%×2)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の基礎知識を前提として進めるので、これらの科目を履修しておくこと、より理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

経済理論を扱うため、数学や計算を用いた講義となります(2回に1回程度)。また、高校レベルの数学である微分を用いることもありますが、微分を用いる計算については試験の範囲に含めません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では計算をよく行います。よく使う計算は中学レベルなのですが、慣れていないとできないものです。しかしながら、中学レベルの計算は日常では必ず役に立ちますので(お買い物をする時など)、計算が苦手だという人もこの講義で是非慣れて欲しいです。

キーワード /Keywords

課税 公債 公共財 投票 マクロ財政政策 所得再分配 経済政策 社会保障

人事管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを経々側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
 (上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公刊されています。)
 上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】、労使関係論の前半【企業別組合】
 - 11回 労使関係論の後半【団体交渉】、非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 専門職制度・研究開発技術者の人的資源管理【プロフェSSIONAL】【R&D】
 - 14回 最近の人的資源管理学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ、択一式問題演習

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよ。
 また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語はしないこと、無断で遅刻・退出をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってほしい。
 あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないであろう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずである。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれないが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえる。

人事管理論 【昼】

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

生産マネジメントA 【昼】

担当者名 /Instructor 北 真収 / Masanobu Kita / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

世界に誇る日本のモノづくりを支えるマネジメントについて、理論的・実証的に理解する。Q (品質管理)、C (原価管理)、D (工程管理) を中心としたオーソドックスな生産管理論を概説する。そして、欧米で台頭する新たな方法論も紹介しながら日本型生産管理の特徴と課題を考える。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

藤本隆宏著『生産マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年
 徳山博干他著『生産マネジメント』朝倉書店、2002年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 生産管理の考え方と歴史的発展過程 【フォードとテイラー】
- 2回 品質管理の概念 【設計品質】、【品質コスト】
- 3回 統計的品質管理 【管理図】
- 4回 品質管理の発展 【TQC】、【TQM】、【シックスシグマ】
- 5回 原価管理の概念 【損益分岐点】
- 6回 IEと原価管理 【生産性】、【TFP】
- 7回 工程管理 【生産計画】、【生産統制】
- 8回 日程計画 【大・中・小日程計画】
- 9回 生産計画 【MRP、ERP】
- 10回 JIT、制約条件理論 【TOC】
- 11回 工程設計、作業管理 【PQ分析】、【作業分析】、【動作分析】
- 12回 在庫管理 【定量発注、定期発注】
- 13回 サプライチェーンマネジメント 【SCM】
- 14回 生産管理とICT (情報通信技術) 【CPFR】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 ... 25 % 課題 ... 25 % 期末試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

品質やコスト、納期をイメージしながら、講義に臨むと同時に、配布資料はよく読んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生産マネジメントB 【昼】

担当者名 /Instructor 北 真収 / Masanobu Kita / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営工学は、日本では生産分野を中心に展開されてきたが、経営への適用にも注目して、その対象範囲の広がりを理解する。経営工学の代表的手法を概説した上で、それらの企業や行政現場への実際の応用について、演習問題を通して論理的に身につける。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

秋庭雅夫他『経営工学概論』朝倉書店、1988年
 辻 正重『経営工学総論』放送大学教育振興会、2004年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経営工学の考え方と歴史的発展過程
- 2回 戦略思考法1 【ゲーム論的思考】
- 3回 戦略思考法2 【ゲーム論的思考】
- 4回 合理的な課題分析手法1 【プロセス、大きさ、比較に着目】
- 5回 合理的な課題分析手法2 【プロセス、大きさ、比較に着目】
- 6回 線形計画法 【シンプレックス法】
- 7回 ネットワークモデル1 【PERT】
- 8回 ネットワークモデル2 【CPM】
- 9回 日程計画1 【山積み表】
- 10回 日程計画2 【ガントチャート】
- 11回 需要予測、在庫管理 【回帰分析】、【安全係数】
- 12回 ゲーム理論1 【純粋戦略】
- 13回 ゲーム理論2 【混合戦略】
- 14回 損益分岐点分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習状況 ... 25 % 課題 ... 25 % 期末試験 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基本的な分析手法はマスターできるように、講義に臨むとともに、適宜、演習問題にも取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【昼】

担当者名 /Instructor 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、コンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、コンピュータシステムの構築とは、単に人間が行っていた処理をコンピュータに代替させるのではなく、人間が持つ特性とコンピュータが持つ特性の両方を生かした新たなシステムを創造することである、ということを理解する。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組みや特性について学習する。また、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期に使用したEUC(エンドユーザコンピューティング)のテキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【バッチ処理】【TSS】【オンライン】【ファイル】
 - 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 - 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 - 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 - 5回 データ検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 - 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【グラフ】【ネットワーク】
 - 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 - 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジジョンテーブル】
 - 9回 コンピュータ内のデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 - 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 - 11回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【U-Japan計画】
 - 12回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【SaaS】
 - 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 - 14回 問題演習【暗号】【情報落ち】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 日常の授業への取り組み... 20% レポート... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

内容が広範囲にわたるので、自ら参考となる文献を探したり、Webで調査する等自己学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、専門用語が出てきます。授業中に十分に理解できなかった用語の意味などは、Webで調べることに努めてください。

キーワード /Keywords

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、（2007年11月）、1,800円（当時）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会计学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価について】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 資産について【資産概念の変化について】
- 12回 負債について【負債概念の変化について】
- 13回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 14回 会計のルール【企業会計原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』3版新世社、1,890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会、4,830円○
西澤健次『負債認識論』国元書房、2,415円○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 費用配分という考え方【期間損益】
- 4回 減価償却について【定額法】【定率法】
- 5回 引当金の会計(その1)【退職給付会計】
- 6回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 7回 負債概念について【退職給付会計】
- 8回 有価証券の会計【評価益】
- 9回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 10回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 11回 有価証券評価益と実現概念【原価】【時価】
- 12回 財務諸表の種類など【キャッシュフロー計算書】
- 13回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 14回 財務報告【金融商品取引法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論の講義をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングI【昼】

担当者名 隈本 覚 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんのプログラムを作成してもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プログラミングII (新JAVA) 【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Java(ジャバ)を用いて、プログラミングスキルを体得することを目指します。Javaプログラミングを通じて論理的思考の育成を目指します。また、グループワークを通じてシステムエンジニアとして不可欠なコミュニケーション能力を育成していきます。

教科書 /Textbooks

適宜、プリントを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(上)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング
 結城浩著 『[改訂第2版]Java言語プログラミングレッスン(下)』 2006年、ソフトバンクパブリッシング

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【】はキーワード
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 Java開発環境Eclipseの使い方について【JDK】【Eclipse】
 - 3回 プログラミングIの復習【オブジェクト】【クラス】【メソッド】
 - 4回 プログラミングIの復習【変数】【配列】
 - 5回 プログラミングIの復習【引数】【戻り値】
 - 6回 インスタンスメソッドとクラスメソッドについて
 - 7回 コンストラクターについて
 - 8回 ファイルの入出力【I/O】
 - 9回 画面の入出力【GUI】【Displayクラス】【Shellクラス】
 - 10回 各種画面部品1【AWT】【SWT】
 - 11回 各種画面部品2【AWT】【SWT】
 - 12回 グループワーク(設計)
 - 13回 グループワーク(開発)
 - 14回 コンテスト
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...40% 期末試験...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

他の科目との関連：必修科目「プログラミングI」取得後に履修すると効果的な学習ができます。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生、または、3年次以降に情報分野のゼミを履修することを希望する学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

Java Eclipse オブジェクト指向 SWT アプリケーション開発

データ構造【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 コンピュータで問題を解くためには、対象となるデータをコンピュータで扱いやすい形で表現することと、効率のよい処理手順を用いることが重要であることを理解する。本講義では、代表的なデータ構造の論理表現とコンピュータ内での表現（物理表現）について学習し、それぞれのデータ構造を生かした計算手順（アルゴリズム）について理解する。

教科書 /Textbooks
 プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○ 茨木俊秀著『アルゴリズムとデータ構造』昭晃堂

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 データとその構造【データ】【レコード】【リスト】【ポインタ】
 - 2回 リストの構造と表現【リスト】【抽象データ型】【構造体】【双方向リスト】
 - 3回 スタックの構造と表現【スタック】【後入れ先だし】【逆ポーランド記法】
 - 4回 キューの構造と表現【キュー】【先入れ先だし】【リングバッファ】
 - 5回 木(ツリー)の構造1【ツリー】【頂点】【辺】【根】【葉】【二分木】
 - 6回 木(ツリー)の構造2【トラバース】【構文木】【逆ポーランド記法】【二分木】
 - 7回 探索1【線形探索】【二分探索】
 - 8回 探索2【ハッシュ】【KMP法】【BM法】
 - 9回 探索3【二分探索木】
 - 10回 ソート法1【選択ソート】【バブルソート】【単純挿入法】【ヒープ】
 - 11回 ソート法2【クイックソート】【シェルソート】【マージソート】
 - 12回 グラフ1【グラフ】【隣接行列】
 - 13回 グラフ2【ダイクストラ法】
 - 14回 応用例【ハノイの塔】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 講義の中で、さまざまなアルゴリズムを解説するので、そのアルゴリズムを実現するプログラムを作成すると、より深く理解できる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords
 データ リスト スタック キュー ツリー 探索 ソート

データ解析【昼】

担当者名 /Instructor 中村 知靖 / NAKAMURA Tomoyasu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間の営みの中には様々な情報が行き交います。高度に情報が進んだ現代社会では、膨大な情報から自分にとって適切な情報を取捨選択し、それを読み取ることが必要です。このために役立つツールとして統計学があります。経営学を始め、実証的な手続きを取る社会科学では調査や実験から得られたデータを証拠として理論を構築します。その際に利用されるのが統計的方法です。この授業では、講義を通じてデータ解析に必要な統計に関する基本的な考え方を身につけ、統計ソフトウェア(SPSSまたはSAS)を利用した実習を通してデータ解析の習得してもらうことを目標としています。

教科書 /Textbooks

中村知靖・松井仁・前田忠彦(2006). 心理統計法への招待 サイエンス社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡部洋(編著)(2002). 心理統計の技法 福村出版
 足立浩平 2006 多変量データ解析法 ナカニシヤ出版
 南風原朝和(2002). 心理統計学の基礎 有斐閣
 山田剛史・村井潤一郎(2004) よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 データ解析とは：統計的方法，データ，尺度水準，統計ソフトウェアの使い方
- 2回 図表によるデータ要約：度数分布表，ヒストグラム
- 3回 数値によるデータ要約1：代表値（平均など）
- 4回 数値によるデータ要約2：散布度（分散など）
- 5回 2変量データの要約：相関図，相関係数
- 6回 確率の考え方：確率と確率分布
- 7回 確率から推測統計へ：正規分布と標本分布
- 8回 統計的仮説検定の考え方：検定統計量，有意水準，検定力
- 9回 統計的仮説検定の考え方2：1標本の検定を例にして
- 10回 2群の平均の差を比較する：2標本の検定
- 11回 3群以上の平均の差を比較する：1要因分散分析
- 12回 複雑な条件の組合せの平均の差を比較する：2要因分散分析
- 13回 変数を予測する：回帰分析
- 14回 分割表の分析：適合度の検定，独立性の検定
- 15回 まとめ：多変量解析概観

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート60%，日常の授業への取組（実習状況・質問シートへ記載・宿題）40%の割合で成績を総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

情報処理教室のシステムに慣れておくことが望ましいです。事前に，教科書や参考図書で予習をして受講すると授業内容が分かりやすいです。

履修上の注意 /Remarks

情報処理教室で統計ソフトウェアを用いた実習を行いますので，システムを利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また，USBメモリーを持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実習を行いますので，基本的に欠席をしないようにすること。

キーワード /Keywords

統計学 データ解析

データベース【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社（2006年1月）、2,394円（税込）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
 増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
 - 第2回：データベースシステム
 - 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
 - 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
 - 第5回：リレーショナルデータベース
 - 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
 - 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
 - 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
 - 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
 - 第10回：正規化とは【正規化】
 - 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
 - 第12回：データベース設計【データベース設計】
 - 第13回：データベース設計方法
 - 第14回：データベース設計評価
 - 第15回：まとめ
- (進行状況等により内容は変更になる場合があります。受講人数がコンピュータ教室に収容可能な場合はデータベースソフトの演習を実施します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありませんが、データベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

専門的で難易度は少し高めです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度的に単位取得のみを目的とした人には向いていません。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

システムデザイン 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 貴之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報システムの構築には、コンピュータの専門家である情報システム技術者だけではなく、コンピュータの一般利用者であるエンドユーザの協力が不可欠です。本授業では、システム構築の際に、エンドユーザの視点からシステムを評価し、よりよい提案ができるようにシステムの仕組みや問題点を理解し、改善していくのに必要な知識と技術を習得します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン、システム開発の流れ
- 2回 リサーチ、ベンチマーク
- 3回 ヒアリング、要求分析
- 4回 アイディア、企画立案
- 5回 プレゼンテーション
- 6回 UIとは
- 7回 UIルールと作法
- 8回 画面設計、フロー
- 9回 画面デザイン、デザインカンパ
- 10回 ペーパープロトタイプング
- 11回 システム設計
- 12回 実装方法、プロトタイプング
- 13回 評価、テスト
- 14回 総合課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「エンドユーザコンピューティング」や「データ処理」を既に受講した場合は、本授業がより理解しやすくなります。また、実際に作業する内容が多いため、正規の授業以外に多くの時間を必要とする可能性があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

要求分析、UI (ユーザインタフェース)、外部設計

情報管理【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ITの進展と共に情報が社会、経済環境に大きな影響を与え、個人、企業問わず情報の効率的に必要なデータを収集し、加工、管理し、戦略的に利用する技術は必要不可欠なものとなってきています。本講義では、データ収集とデータ分析を中心に学びます。具体的には、データの収集方法としてのCGI、さらにデータの加工、分析手法を統計処理ソフトを利用して学びます。

教科書 /Textbooks

講義の最初に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

古田たかし『はじめてのCGI&Perl』ソフトバンクパブリッシング
Rによる統計データ分析入門

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、CGIとは【CGI】
- 第2回：CGIの仕組み
- 第3回：CGI作成のためのPerl言語入門【Perl言語】【変数、配列】
- 第4回：CGI作成のためのPerl言語入門【条件分岐】【繰り返し】
- 第5回：CGI作成のためのPerl言語入門【ファイル操作】
- 第6回：CGI技術の応用【CGI】
- 第7回：CGIを用いたアンケートWebページ作成方法【アンケート】
- 第8回：その他のCGI応用
- 第9回：統計分析ソフトRの利用方法【統計ソフトR】
- 第10回：統計ソフトR利用の基礎
- 第11回：データの統計分析と可視化(グラフ作成)【統計処理】【可視化】
- 第12回：多変量解析手法によるデータ分析【回帰分析】
- 第13回：多変量解析手法によるデータ分析【分散分析】
- 第14回：多変量解析手法によるデータ分析【判別分析】
- 第15回：まとめ
(進行状況、受講者の希望等により内容は変更となる場合があります。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 課題・小テスト...40% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義ではPerl言語というプログラミング言語による簡単なプログラミングをします。PerlはJAVAに似ていますので、JAVAの文法を復習しておくとう理解し易いと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システム設計I【昼】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニク』、1989年、日科技連-○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

情報ネットワーク【昼】

担当者名 /Instructor 隈本 覚 / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

インターネットを支える基本的な仕組みや、技術について理解し、情報通信ネットワークがどのようにして動いているのかを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩波講座『インターネット』全6巻 岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 IPアドレスとドメインネーム【IPアドレス】と【ドメインネーム】【DNS】
- 2 回 インターネット接続【LAN】【WAN】
- 3 回 データ交換方式 1【回線交換方式】【パケット交換方式】
- 4 回 データ交換方式 2【プロトコル】【プロトコルの階層化】
- 5 回 PDUの処理【プロトコル】【PDU】
- 6 回 各層のプロトコル 1【トランスポート層】【TCP】【確認応答番号】
- 7 回 各層のプロトコル 2【フロー制御】【誤り制御】【UDP】
- 8 回 各層のプロトコル 3【データグラム】【IP】【IPアドレス】
- 9 回 各層のプロトコル 4【フレーム】
- 10 回 各層のプロトコル 5【物理層】
- 11 回 経路制御 1【経路制御】【IPアドレス】
- 12 回 経路制御 2【プライベートIPアドレス】
- 13 回 IPv6【IPv6】【NGN】
- 14 回 問題演習
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

あまり聞いたことがない用語がたくさん出てくるので、それらの意味は、講義中にも説明するが、自分でもきちんと調べて受講してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

IPアドレス ドメインネーム プロトコル

オペレーションズ・リサーチ【昼】

担当者名 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

オペレーションズ・リサーチは、最小の労力で最大の効果を挙げるための手段を考えるための方法の一つで、経営の場面においても、工程の管理や店、サービス機関における窓口の管理など様々な場面で利用されています。この授業では、オペレーションズ・リサーチの基礎について、実習も交えてなるべく実践的に講義します。

教科書 /Textbooks

岡太彬訓他著、オペレーションズ・リサーチ-経営科学入門、共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

齋藤芳正著、はじめてのOR、講談社ブルーバックス

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、ORとは。
- 2回 仕事を効率よく行うための工程管理【PERT】
- 3回 【PERT】の実習
- 4回 経済性を評価基準とした意思決定法【経済性工学】
- 5回 【経済性工学】の実習
- 6回 一次式を用いた資源の効率的利用法【線形計画法】
- 7回 【線形計画法】の実習
- 8回 競争状態における利得の最大化【ゲーム理論】
- 9回 【ゲーム理論】の実習
- 10回 店・サービス機関における窓口の管理【待ち行列理論】
- 11回 【待ち行列理論】の実習
- 12回 評価基準を用いた階層的な意思決定【AHP】
- 13回 【AHP】の実習
- 14回 質問受付など
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...70%、レポート...30%
ただし、欠席を減点対象とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータ教室にて、Microsoft Excelを用いた実習を行いますので、コンピュータ教室が利用できるようにIDとパスワードを確認しておいてください。また、256MB以上のUSBメモリを持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
 - 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
 - 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
 - 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
 - 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
 - 6回 社会福祉の思想【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
 - 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
 - 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
 - 9回 社会福祉の歴史(日本)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
 - 10回 社会福祉の歴史(日本)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
 - 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
 - 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
 - 13回 現代社会の変化と福祉政策【ワーキングプア】【社会的排除】【社会的包摂】
 - 14回 福祉政策の関連領域 【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めらるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中にその都度紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
- 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
- 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
- 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①
- 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②
- 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③
- 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価
- 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
- 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
- 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
- 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
- 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
- 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
- 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジユメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題点
- 第9回「医療保険」 医療と規制緩和
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
 毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

年金や医療について関心をもっておいってください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【昼】

担当者名 /Instructor 深谷 裕/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 福祉士養成講座編集委員会編（2008）『地域福祉論第4版』中央法規
 福祉士養成講座編集委員会編（2009）『地域福祉の理論と方法』中央法規
 牧里毎治（2007）『改訂版地域福祉論-住民自治と地域ケア・サービスのシステム化』日本放送出版協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的コード】
- 4～5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯、ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 7回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 8～9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 ゲストスピーカー
- 12回 行政と民間の協働2【ボランティア活動、民生委員、保護司、福祉ビジネス】
- 13回 ゲストスピーカー
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業態度30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
事前に指定する参考文献の講読。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 渡辺 良司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 社会保障や社会福祉の制度変革が進む中で、地域福祉の推進は、重要な課題となっている。
 授業では、地域福祉の実践現場での動向をもとに、推進に関わる機関、団体、人材の状況を把握し、福祉コミュニティ創造に向けて、住民や専門職が実際にどのような役割を果たしているのかを理解する。また、今後どのような関わりが必要かを考察する。

教科書 /Textbooks
 新・社会福祉士養成講座『地域福祉の理論と方法-地域福祉論』 中央法規出版、2009年3月、2,730円(出版当時)
 (必要に応じてプリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 『誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する』ミネルヴァ書房
 『北九州市発21世紀の地域づくり』中央法規出版
 『岐路にたつ大都市生涯学習』北樹出版
 『地域を拓いた人たち』北九州市社会福祉協議会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】 内はキーワード)
 第 1 回～第 2 回 社会福祉協議会の役割と実際【社会福祉協議会】【社会福祉法人】
 第 3 回～第 4 回 地域福祉の推進方法【ネットワーク】【住民参加】【地域組織】
 第 5 回～第 6 回 地域福祉の人材【ボランティア】【民生委員】【保護司】【住民参加型サービス】【NPO】
 第 7 回 ニーズ把握とコミュニティワーク【ニーズ】【コミュニティワーク】
 第 8 回～第 9 回 コミュニティソーシャルワークの方法【日常生活自立支援事業】【苦情解決】【第三者評価】
 第 10 回 当事者の組織化と自立生活支援【介護予防】【ホームレス支援】
 第 11 回 地域福祉計画の実際【地域福祉活動計画】【地域福祉計画】
 第 12 回 福祉教育の考え方と推進方法【社会福祉協力校】【体験学習】
 第 13 回 地域福祉の財源【共同募金】【地域福祉基金】
 第 14 回～第 15 回 事例研究

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業態度・平常点... 30%、 課題... 20%、 期末試験(レポート)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講にあたっては、自分の暮らしてきた町や北九州市の地域福祉の状況について、できるだけ情報収集して授業にのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

産業化をベースとして、近代化が成熟するとともに、人口構造の高齢化が社会現象として多くの課題をもたらすことになった。更には人口減少が始まり、人口転換が急速に進展すると予測されている。このような現状では人口高齢化を単なる社会問題として把握するにとどまらず、社会経済的視野に立脚した人間洞察ができるような視点を身につけることが要求される。高齢者に対する支援と介護保険制度 1 では高齢者の生活実態と社会情勢、人口構造、介護需要とともに、介護の概念や対象及び理念、制度・政策の歴史的経緯、介護保険法や老人福祉法等の理解を目的とする。さらに、行政組織や民間団体の役割、財政等の理解を促すよう講義を進める予定。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉小六法 ミネルヴァ書房2011年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回～第2回 講義の進め方について、現代社会と人口減少、少子・高齢化問題と必要な政策課題【人口転換】
- 第3回～第5回 高齢者の生活実態や社会関係及び高齢者の生活支援の課題【生活支援】
- 第6回～第7回 老人福祉の歴史的経緯【施設・居宅サービス】【ノーマリゼーション】
- 第8回～第9回 老人福祉の法律と制度【老人福祉】
- 第10回～第11回 介護保険制度の概要【介護保険、権利擁護】
- 第12回～第14回 行政組織や民間団体の役割、財政等【行財政、民間活動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 授業への参加(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【昼】

担当者名 石塚 優/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

高齢者に対する支援と介護保険制度2では、各論として介護保険制度や老人福祉制度等、及び関連する法制度について理解することをねらいとする。また、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方及び専門職としての人間観に基づく相談援助、認知症や週末期ケア等について理解を促す。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」 ミネルヴァ書房2011年版、須藤廣編著「看護と介護の社会学」明石書店
その他は講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【キーワード】
- 第1回～第2回 講義の進め方について、老人福祉制度と関連法【老人福祉】
 - 第3回～第4回 介護保険法と制度【介護保険】
 - 第5回～第6回 介護保険法における組織及び団体【組織及び団体の役割】
 - 第7回～第8回 介護専門職の役割と地域包括支援センター【地域包括】
 - 第9回～第10回 介護予防に関する専門技術及び、相談援助の方法【介護予防】
 - 第11回～第12回 認知症や週末期ケア、高齢者虐待等と権利擁護【介護過程、権利擁護】
 - 第13回～第14回 老人福祉関連分野の活動 - 住宅、環境整備、サービス団体・組織【民間活動】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験50% 授業態度20% 課題の提出(レポートなど)30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。
児童福祉の理念としての子どもの権利条約について学ぶ。

教科書 /Textbooks

- 「子どもたちは今」北九州版・子どもの人権レポート編集委員会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会福祉士養成講座「児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度」ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 児童福祉とは、子どものニーズと社会システム 【マズローのヒューマンニーズの階層】
- 2回 子どもの成長・発達 【アタッチメント】 【マザーリング】 【ソーシャルスキル】
- 3回 子どもの歴史と児童福祉の理念 【子ども理解の視点】
- 4回 子どもの権利条約 【能動的権利】 【受動的権利】 【子どもの意見表明権】
- 5回 子どもの権利条約【子どもオンブズパーソン】 【地方自治体子どもの権利条例】
- 6回 子どもの権利条約と児童福祉への影響 【エンゼルプラン】 【次世代育成事業】
- 7回～8回 児童虐待防止と児童相談所 【児童虐待防止法】
- 9回～10回 児童虐待とマルトリートメント 【親権】 【バタナリズム】
- 11回～15回 我国の子どもの権利をめぐる状況と課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布するレジユメを閉じる専用ファイルを準備すること。
単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士関連科目「児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」と合わせて学習すると総合的理解が得られる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度【昼】

専門科目

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日、児童と家庭の支援に関する法律・制度が著しく変化している。児童福祉施策では、子どもの福祉を支える家庭や親への支援などの重要性が認識され、社会福祉士養成のための教育課程においても、それらが強調された。本講義では、現代社会における児童家庭福祉問題に対応する児童家庭福祉に関する法制度、サービスについて理解する。また、主な児童福祉施設の活動については視聴覚教材などを用いることで、その実感が理解できるようにしたい。

教科書 /Textbooks

○社会福祉士養成テキストブック『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 児童家庭福祉を支える法制度【児童福祉法】【母子及び寡婦福祉法】
- 第2回 児童家庭福祉にかかわる組織・団体、児童福祉施設の種類と専門職【児童委員】
- 第3回 児童相談所の役割と他機関との連携【児童福祉司】【一時保護】【児童虐待】
- 第4回 児童健全育成と児童厚生施設【児童遊園】【児童館】
- 第5回 母子保健【リプロダクティブ・ヘルス・ライツ】【性的自立】【母体保護法】
- 第6回 障害児の福祉【重症心身障害】【発達障害】
- 第7回 保育所と幼稚園【幼保二元化】【認定子ども園】
- 第8回 夜間保育所・認可外保育所・学童保育【多様な保育ニーズ】【待機児童】
- 第9回 乳児院と児童養護施設【要養護児童】【児童家庭支援センター】
- 第10回 グループホーム、里親ケア【養育里親】【専門里親】
- 第11回 児童自立支援施設と少年非行【自立援助ホーム】【少年法】
- 第12回 ひとり親家庭と母子生活支援施設【母子指導員】【母子自立支援員】
- 第13回 DV防止法【ドメスティック・バイオレンス】【配偶者暴力相談支援センター】
- 第14回 婦人保護施設・売春防止法【婦人相談員】【要保護女子】【性暴力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業において配布するプリントなどを整理するファイルを準備しておくこと。児童福祉論と合わせて受講すればわかりやすい。単元ごとに配布する復習のプリントで自己学習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 障害をもつ人の自立と地域生活、施設利用などの問題を取り上げながら、権利保障とは何かについて検討する。また権利侵害の実態を紹介し、政府がつくる権利擁護システムの問題点や課題を整理し、あるべき権利擁護システムを検討する

教科書 /Textbooks
 小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 その都度、講義で紹介する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 受講上の注意と講義の総論
 - 2回 障害概念と障害者①【ICF】
 - 3回 障害概念と障害者②【身体障害、知的障害】
 - 4回 障害概念と障害者③【精神障害、内部障害等】
 - 5回 現代社会と障害者福祉理念①【ノーマライゼーション、インテグレーション】
 - 6回 現代社会と障害者福祉理念② - 理念の影響
 - 7回 現代社会と障害者福祉理念③ - 我が国障害者の生活標準
 - 8回 障害者福祉の法制度【障害者基本法と障害者計画】
 - 9回 障がいのある人と虐待①【虐待調査から見る現状】
 - 10回 障がいのある人と虐待②【虐待と親密圏】
 - 11回 障害者福祉のサービス体系① - 児童福祉法と障害児サービス体系
 - 12回 障害者福祉のサービス体系② - 身体障害者福祉法とサービス体系
 - 13回 障害者福祉のサービス体系③ - 知的障害者福祉法とサービス体系
 - 14回 障害者福祉のサービス体系④ - 精神保健福祉法とサービス体系
 - 15回 関連法とサービス体系、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。①障害者自立支援法の成立過程と法の具体的内容。②権利保障とは何かについて検討する。③また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久「障がいのある人の地域福祉政策と自立支援」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に指示

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
 - 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
 - 3回 相談援助の定義と構成要素1 【ソーシャルワークの概念】
 - 4回 相談援助の定義と構成要素2 【ソーシャルワークの構成要素】
 - 5回 相談援助の形成過程I1 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
 - 6回 相談援助の形成過程II2 【ソーシャルワークの発展期】
 - 7回 相談援助の形成過程II3 【ソーシャルワークの展開期】
 - 8回 相談援助の形成過程II4 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 9回 相談援助の理念I1 【ソーシャルワーカーと価値】
 - 10回 相談援助の理念I2 【ソーシャルワーク実践と価値】
 - 11回 相談援助の理念I3 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
 - 12回 相談援助の理念I4 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
 - 13回 相談援助の理念II1 【クライアントの尊厳と自己決定】
 - 14回 相談援助の理念II2 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
 - 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks
 社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 坂本 毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するということについて、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks
社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
講義時に随時紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
 - 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
 - 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
 - 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
 - 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
 - 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
 - 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
 - 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
 - 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
 - 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
 - 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
 - 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
 - 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks
本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

低所得者に対する支援と生活保護制度【昼】

担当者名 /Instructor 藤敷 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- 「ネットカフェ難民」「派遣切り」「年越し派遣村」など、現代日本では「貧困」が大きな社会問題となっている。しかし「貧困」問題は、近年発生したものではなく、昔から日本社会に存在していた。「貧困」は見ようとしなければ「見えない」のである。
本講義ではまず、「貧困」とは何か。「貧困」の実態を見つめ、その原因を探ることから始める。
- 日本において、人々を「貧困」から救うのは各低所得者に対する支援制度と生活保護法である。
特に生活保護法は社会保障、社会福祉の最後のセーフティネットである以上、福祉事務所のケースワーカーのみならず、福祉施設職員や、病院ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど社会福祉に携わるすべての職種が理解すべき重要な法である。
本講義では、「貧困」の実態を受けて、各低所得者に対する支援制度と生活保護法の仕組みを具体的なケースを通じて学ぶ。その際には、「生活保護運用の矛盾」も検討し、「貧困」問題を解決する責任はだれにあるのかを考えていく。

教科書 /Textbooks

保護のてびき平成23年度版(第一法規)を予定していますが、初回の授業で正式に伝達します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉六法、格差・貧困と生活保護(明石書店)、よくわかる公的扶助(ミネルバ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 貧困・低所得者問題とは
- 2 見えない貧困を見る
- 3 現代貧困の諸相
- 4 福祉国家と公的扶助
- 5 公的扶助の歴史(イギリス)
- 6 公的扶助の歴史(日本)
- 7 生活保護制度の原理と種類
- 8 生活保護基準
- 9 保護の機関と費用、被保護者の権利義務、不服申し立てと行政訴訟
- 10 生活保護の実施体制
- 11 生活保護における援助活動
- 12 被保護者の動向と課題
- 13 低所得・貧困層への他の政策
- 14 自立支援プログラム他
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他詳しい日程は講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

保健医療サービス【昼】

担当者名 /Instructor 来田 時子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- (1)保健、医療、介護、社会福祉の連携や統合されたサービスの提供・利用が考えられるように、保健医療サービスに関わる領域の知識を獲得し、理解すること。
- (2)疾病を契機にした生活困難や生活障害の状態にある人や家族に対して、保健医療サービスを活用したソーシャルワークの実際を理解すること。
- (3)保健医療サービスの現状を歴史の流れで理解をすること。
- (4)保健医療サービスの現状と歴史から、今後のサービスのあり方や社会資源の開発の課題を考える態度を身につけること。
- (5)保健医療サービスでのソーシャルワークの方法を理解すること

教科書 /Textbooks

「新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス」中央法規 ¥ 2 2 0 0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「社会福祉六法」(直近版)新日本法規
- 「社会保険の手引き」(直近版)社会保険研究所
- 「暮らしに役立つ制度のあらまし」(直近版)全国生活と健康を守る会
- 「生活保護手帳」2010年度版 中央法規

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 保健医療サービスと社会福祉
2. 医療保険制度概論
3. 医療保険制度～健康保険法
4. 医療保険制度～国民健康保険法
5. 医療保険制度～労働者災害保険法・公害健康被害補償法
6. 医療保険制度～診療報酬
7. 保健医療サービスとソーシャルワーク～病院
8. 保健医療サービスとソーシャルワーク～診療所
9. 保健医療サービスとソーシャルワーク～地域保健医療
10. 保健医療サービスにおける専門職の役割
11. 保健医療サービスにおける専門職のチームワーク
12. 関係者との連携と実際
13. 保健医療ソーシャルワーク論～概論
14. 保健医療ソーシャルワーク論～方法論
15. 保健医療ソーシャルワーク論～各論

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・50%
 日常の授業へのとりくみ・・・40%
 レポート・・・10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会保障制度、特に医療、介護制度の改革や変更がめまぐるしく行われていることや、社会生活の実際の中から学ぶことが大切なので、日ごろから新聞などを丹念に読み、保健医療サービスに関する記事などに注目しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特に医療は特殊な領域と言えます。分からないことはその場で聞いて、理解するようにしてください。

キーワード /Keywords

医療ソーシャルワーカー 連携 多職種 ケースカンファレンス ケースマネジメント 在宅医療

権利擁護と成年後見制度 【昼】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わりについて理解する。
- ・ 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む）について理解する。
- ・ 成年後見制度の実際について理解する。
- ・ 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【講義の主な柱】

- ① 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む）との関わり
- ② 成年後見制度
- ③ 日常生活自立支援事業
- ④ 成年後見制度利用支援事業
- ⑤ 権利擁護に係る専門職者、組織、団体の役割と実際
- ⑥ 権利擁護活動の実際

【講義テーマ・内容】

- 第1回目
オリエンテーション 全体を通しての講義内容の説明、講義の進め方など（小賀）
- 第2回目
権利擁護とは何か（小賀）
- 第3回目
権利擁護と関係諸法（弁護士）
- 第4回目
成年後見制度とは何か - 根拠法・仕組み・関係機関・団体など（弁護士）
- 第5回目
成年後見制度と弁護士の役割、活動（弁護士）
- 第6回目
権利擁護活動と自治体支援（自治体職員）
- 第7回目
権利擁護活動と社会福祉士の役割、活動（社会福祉士）
- 第8回目
日常生活自立支援事業（旧・地域福祉権利擁護事業）と社会福祉協議会（社協職員）
- 第9回目
成年後見制度と医師の役割、活動（医師）
- 第10回目
事例（成年後見制度と後見人①）（弁護士）
- 第11回目
事例（成年後見制度と後見人②）（社会福祉士）
- 第12回目
事例（成年後見制度と保佐・補助人②）（弁護士もしくは社会福祉士など）
- 第13回目
事例（日常生活自立支援事業①）（社協職員）
- 第14回目
事例（日常生活自立支援事業②）（社協職員）
- 第15回目
講義のまとめ

権利擁護と成年後見制度【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

コーディネーターの責任においてレポート(30%)および筆記試験(70%)を実施する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

多様な専門職者によって講義を構成するので、授業計画の内容に沿って事前学習をすること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理学概論【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不応、心理的援助を考察する。

教科書 /Textbooks
 適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で、適宜紹介する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
 - 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
 - 第3回 社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
 - 第4回 集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
 - 第5回 自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
 - 第6回 発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
 - 第7回 乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
 - 第8回 生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
 - 第9回 発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
 - 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
 - 第11回 パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
 - 第12回 パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
 - 第13回 不応の理解と援助①【発生機序】【防衛機制】【不安】
 - 第14回 不応の理解と援助②【心理アセスメント】【ラポール】【傾聴】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

老年心理学【昼】

担当者名 /Instructor 石塚 優/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 主として老年期の知能、記憶・学習・情報処理、パーソナリティと適応について老年期特有の変化の有無とその要因について社会関係も視野に入れて説明する。また、精神疾患や社会問題等を通して、老年期の理解と認識を促すことをねらいとする。

教科書 /Textbooks
 資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第1回 老年期とは - 多様性と共通性【個人差、文化・社会的老年期のとらえ方】
 第2回～第4回 老年期の知能【言語性能力、動作性能力】
 第5回～第7回 老年期の記憶・学習・情報処理【再認と再生、日常生活における記憶、注意力の分散】
 第8回～第10回 老年期の人格と適応【社会環境・社会通念・時代背景、成熟した人格、OldestOld】
 第11回～第12回 老年期の精神疾患【うつ、認知症】
 第13回～第14回 適応と生きがい【個人と社会】
 第15回 まとめとして - 社会問題としての扱われ方

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験 70% 授業態度 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 村上 太郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学では、教育の場における子どもの姿や教師の姿を心理学的側面からみていきます。子どもの学習過程について理解し、教師としての関わりについて学び、教師と子どもの人間関係についての考え方を身につけることを目標とします。講義を中心として、様々な例を通して具体的な関わりを考えることのできる機会を多く設ける予定です。質問や意見は、1回目の授業時に配布するフォローアップ・シートにて随時受け付けます。ぜひ活用してください。

教科書 /Textbooks

鎌原雅彦・竹綱誠一郎著「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ
毎回配布するプリントも併用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育心理学とは(ガイダンス)【心理学】【自己紹介】
- 2回 子供の発達【発達】【成熟】【学習】
- 3回 発達段階【発達課題】
- 4回 自己認識の発達【自己と他者】
- 5回 頭がいい、とは【知能】
- 6回 学習の仕組み(1)【記憶】【忘却】
- 7回 学習の仕組み(2)【学習】
- 8回 やる気【強化】【自己評価】
- 9回 教え方によって【教授方法】【効果】
- 10回 評価する【テスト】【絶対評価】【相対評価】
- 11回 学級という集団【同調行動】
- 12回 学級の中の人間関係【いじめ】【調査方法】
- 13回 個性とは【性格】
- 14回 カウンセリング・マインド【傾聴】【共感】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(ミニレポート含む)...30% 期末試験...70%

注:ミニレポートは毎回、講義中に記述してもらいます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当する部分を事前に読んでくると、本講義の理解がより容易になります。また、自分の小中学校時代の経験と結びつけながら講義を聴くことで、理解が深まります。質問や疑問は、フォローアップ・シートを活用して積極的に解消してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ心理学【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

従来、スポーツ心理学は、スポーツ選手の実力発揮を支援する心理学という意味で使われていた(狭義のスポーツ心理学)。しかし近年では、子どもから高齢者まで、すべての人が行う運動・スポーツにおける心理的効果も含まれるようになった(広義のスポーツ心理学)。そこで本講義では、競技力向上のためのメンタルトレーニングや運動・スポーツの心理的恩恵など、様々な領域について学習し、運動・スポーツ場面で心理面を支援する実践力を養うことを目指す。この講義では、教室内での簡単な実習など体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 ラボールの形成
 - 3回 競技スポーツの心理学① 【メンタルトレーニング】【質問紙による自己分析】
 - 4回 競技スポーツの心理学② 【心理的ゾーンによる自己分析】
 - 5回 競技スポーツの心理学③ 【動機づけ】【目標設定】
 - 6回 競技スポーツの心理学④ 【リラクゼーション】【集中力】【イメージ】
 - 7回 競技スポーツの心理学⑤ 【チームビルディング】【リーダーシップ】
 - 8回 競技スポーツの心理学⑥ 【スポーツ障害】【食行動異常】【キャリアトランジション】
 - 9回 メンタルトレーニングの実践 【スポーツメンタルトレーニング指導士】
 - 10回 健康スポーツの心理学① 【メンタルヘルス】【運動・スポーツの心理的恩恵】
 - 11回 健康スポーツの心理学② 【自己概念】【ボディ・イメージ】【パーソナリティ】
 - 12回 健康スポーツの心理学③ 【発育発達期】【心理的特徴】
 - 13回 健康スポーツの心理学④ 【成人期】【心理的特徴】
 - 14回 健康スポーツの心理学⑤ 【高齢者】【心理的特徴】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 60% 試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメをよく読み込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

対人心理学【昼】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
本講義では対人行動に関わるさまざまな心理的側面について話題とする。講義を中心としながら小規模な実験や調査を体験してもらい、基礎的な知識のみならず最近の研究結果も紹介する予定である。

教科書 /Textbooks
特に指定しない。必要な資料は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション
第2回	対人関係の心理に関する古典的研究の紹介I
第3回	対人関係の心理に関する古典的研究の紹介II
第4回	対人認知I
第5回	対人認知II
第6回	対人魅力I
第7回	対人魅力II
第8回	達成動機、親和動機
第9回	家族、性役割
第10回	組織行動、リーダーシップ
第11回	友人関係と孤独感
第12回	対人葛藤の効果
第13回	現代社会における対人心理の諸問題I
第14回	現代社会における対人心理の諸問題II
第15回	まとめと小テストの解説等

成績評価の方法 /Assessment Method
平常の学習状況... 50% 小テスト... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
図書館等で参考になる本を自主的に探しておくことが望ましい。他の心理学関連の授業を合わせて受講するとわかりやすい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年，心に関わる様々なアプローチが話題にされる。心理療法，セラピー，心の健康法などである。ここでは様々な社会場面で必要とされてきた「カウンセリング」についてを学ぶ。ここでいうカウンセリングとは「一人の人間が悩みや問題を抱えている。そしてその解決や整理の枠組みを望んでいる時に援助すること」ととらえて、福祉や教育などの場面での利用を想定して、カウンセリングの目的方法についての理論を学ぶ。同時に実際に現場で実践できるように実践的なスキルについても体験的に理解と体得を深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使わない。随時配布のプリント資料。紹介する参考書などを元にして学習をすすめる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業のねらい、計画…… 受講上の注意、[]キーワード
- 第2回 カウンセリングとは…… カウンセリングの定義・最近の推移・受講上の注意[定義]
- 第3回 カウンセリングの過程
- 第4回 カウンセリングの過程……事例を通して[事例性]
- 第5回 人格(パーソナリティ)理論・発達理論の基礎を学ぶ[人格テスト・発達理論]
- 第6回 ~9回 自分を知る
- 第10回 こころと健康1……うつ病など心の病について[うつ病]
- 第11回 こころと健康2……自己受容・自己開示・あるがままの心理療法[自己受容・共感]
- 第12回 ~14回様々な場所でのカウンセリング(応答を中心に)
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

随時提出のミニレポートと授業への取り組みの態度...40%、授業終了時のレポート60%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の抱える問題や自分のこれからの実践で予想される悩みを明確にする努力をして授業に臨んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション論【昼】

担当者名 /Instructor 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 コミュニケーションは、自分の意図を相手（人，モノ，機械）に理解してもらうことである。つまり、「わかる」ということがコミュニケーションの本質である。どうわかってもらうかは、対面の場合、メディアを介したコミュニケーション，機械とのコミュニケーションの場合でそれぞれに異なっている。この講義では、「わかる」という問題についてまず考え、メディアによるコミュニケーション，機械とのコミュニケーションについて心理学的に考察する。

教科書 /Textbooks
 資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○松尾太加志『コミュニケーションの心理学』ナカニシヤ出版
 ○西林克彦『わかったつもり』光文社
 ○吉井博明『情報化と現代社会（改訂版）』北樹出版
 ○加藤隆『認知インタフェース』オーム社
 ○海保博之・松尾太加志『キャリアアップのための発想支援の心理学』培風館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 コミュニケーションとは
- 3回 メンタルモデル
- 4回 上手なコミュニケーション
- 5回 スキーマによる対人認知
- 6回 ノンバーバルコミュニケーション
- 7回 対人距離
- 8回 メディアコミュニケーション
- 9回 携帯メールと人間関係
- 10回 CMC
- 11回 CMCの問題点
- 12回 ヒューマンインタフェース
- 13回 人と機械とのコミュニケーション
- 14回 ヒューマンインタフェースにおける人間の行動モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【昼】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks
毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
授業の中で適宜、紹介する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
 - 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
 - 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
 - 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
 - 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
 - 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
 - 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
 - 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
 - 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
 - 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
 - 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
 - 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
 - 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
 - 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
平素の学習状況(小テスト含む) ... 20% 試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霧山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

テキスト 「森田療法」岩井寛 著 講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を囲む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 ヒューマニスティック・セラピー他 【全体観】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 【とらわれ】
- 14回 治療設定と留意点 【とらわれの本質】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」についてもゲストを招いて学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 二六一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人体の構造と生理についての理解、臨床医学の概要。医療と介護、福祉の連携。医事法制と保険医療などの理解

教科書 /Textbooks

人体の構造と機能及び疾病 黒田研二・住居広工 ミネルヴァ書房 ¥2,600

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 医学のあゆみ・概説
- 2回 人体構造と機能(細胞・血液)
- 3回 人体構造と機能(呼吸器・消化器)
- 4回 人体構造と機能(消化器・物質代謝・泌尿器)
- 5回 人体構造と機能(循環器・支持器官)
- 6回 人体構造と機能(内分泌・支持器官)
- 7回 人体構造と機能(神経・感覚器)
- 8回 先天性疾病(ヒトの体ができるまで)
- 9回 感染症1
- 10回 感染症2
- 11回 神経疾患
- 12回 その他の疾患1
- 13回 その他の疾患2
- 14回 その他の疾患3
- 15回 まとめ

* 各授業において適当にビデオも取り入れる。

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 平素の授業態度(全欠席して試験のみは認めない)
2. 期末試験(持ち込みなし)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動論 【昼】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の中身とそれを取りまく社会状況について理解できるようになることを目的とする。また、自分が取り組んでいるボランティア活動について、振り返ることができる能力を培う。
地域ボランティア養成コースの必修である。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「ボランティア活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 ボランティア活動の戦後史
 - 4回～5回 ボランティア活動の現代史
 - 6回～7回 ボランティア活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 ボランティア活動の争点①
 - 11回～12回 ボランティア活動の争点②
 - 13回～14回 ボランティア活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では、テーマに即してレジュメや資料を配布する。VTRなどの視聴覚教材を用いることがある。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジュメを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動実践論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平/地域創生学群・伊野 憲治/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 ボランティア活動の本質をどう考えるか、授業の中で私たちがの言葉をつかむことを目標とする。適宜ゲストを招きながら、課題、思い、展望などを共有し、議論をしながら進めていく。地域ボランティア養成コースの必修である。

教科書 /Textbooks
 とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 ボランティア活動論の振り返り①
- 4回～5回 ボランティア活動論の振り返り②
- 6回～7回 ボランティア活動の争点
- 8回 中間まとめ
- 9回～14回 適宜ゲストを呼んで課題等を共有する(予定)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講者にも、ボランティア活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動運営論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平/地域創生学群・伊野 憲治/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 ボランティア活動を維持・発展させる上で基盤となるもの、つまり、組織づくり、運営方法、資金調達、制度の活用などについて学ぶ。適宜、現場の講師を招き、ディスカッションをしながら進めていく。

教科書 /Textbooks
 とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 事前学習I
- 3回 ボランティア活動の組織化について①
- 4回 ボランティア活動の組織化について②
- 5回 まとめとディスカッション
- 6回 事前学習II
- 7回 ボランティア活動団体の運営方法について①
- 8回 ボランティア活動団体の運営方法について②
- 9回 まとめとディスカッション
- 10回 事前学習III
- 11回 ボランティア活動の資金と制度について①
- 12回 ボランティア活動の資金と制度について②
- 13回 まとめとディスカッション
- 14回 ボランティア活動の維持と発展について
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講者に自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ指導論【昼】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群・君原 健二/特任教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的内容(ルール、マナー、エチケット)
- 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは
- 3回 スポーツ指導の心構え
- 4回 競技者育成プログラムの理念とは
- 5回 救急処置
- 6回 指導計画の立て方
- 7回 スポーツ活動と安全管理
- 8回 指導者の法的責任
- 9回 スポーツと人権
- 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
- 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
- 12回 これからのスポーツ振興の方向性
- 13回 部活動とスポーツ指導者
- 14回 日本武道の必要性
- 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度...70% レポート...30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ指導論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、障害と共に生きる者が増加し、生き方への支援のあり方が課題となっている。その一助を担う障害者スポーツは、受容体験をもたらすだけでなく、自己の可能性へ挑戦する機会を提供する場となる。本講義では、特に「障害とはなにか」「障害者スポーツの恩恵」「各障害におけるスポーツ」を軸に、障害者スポーツの意義や方法論を学習する。この講義では、自分で考える課題や他者との意見交換を行い発表するという体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス【アダプテッド・スポーツ】
 - 2回 障害とはなにか？【障害の定義】【バリア】
 - 3回 障害者スポーツ発展の歴史 【ノーマライゼーション】【インクルージョン】
 - 4回 障害者スポーツの身体的恩恵 【廃用症候群】【身体機能の向上】
 - 5回 障害者スポーツの心理・社会的恩恵① 【障害受容】【QOL】
 - 6回 障害者スポーツの心理・社会的恩恵② 【ソーシャル・サポート】
 - 7回 セラピューティック・レクリエーション 【余暇活用能力モデル】
 - 8回 障害者スポーツ指導員としての心構え 【指導者資格】
 - 9回 視覚・聴覚障害とスポーツ 【障害の種類や指導上の留意点】を学ぶ
 - 10回 肢体障害とスポーツ① - 切断、脳性マヒ - 【障害の種類や指導上の留意点】を学ぶ
 - 11回 肢体障害とスポーツ② - 脊髄損傷 - 【障害の種類や指導上の留意点】を学ぶ
 - 12回 知的障害・自閉症とスポーツ 【障害の種類や指導上の留意点】を学ぶ
 - 13回 障害者トップアスリート - パラリンピックの理解 - 【国際大会】【JPC】
 - 14回 障害者トップアスリート - サポートの実践 - 【メンタルトレーニング】【栄養】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 60% 試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回授業で配布するレジュメをよく読み込んでいくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア指導論【昼】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。
例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。また、総合型スポーツクラブである北九州スポーツクラブACEの取り組み行事などに積極的に参加し、市民のスポーツ活動の未来を考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツボランティアとは
- 2回 スポーツボランティアの目的
- 3回 地域スポーツを考える(1)
- 4回 地域スポーツを考える(2)
- 5回 スポーツイベントの運営(1)
- 6回 スポーツイベントの運営(2)
- 7回 スポーツイベントの計画と実践(1)
- 8回 スポーツイベントの計画と実践(2)
- 9回 中高年者とスポーツ(1)
- 10回 中高年者とスポーツ(2)
- 11回 女性とスポーツ
- 12回 小学生のスポーツ活動
- 13回 小学生のスポーツ実践
- 14回 障がい者スポーツの支援(1)
- 15回 障がい者スポーツの支援(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度...70% レポート...30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア各論【昼】

担当者名 /Instructor 上村 英樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

講義では、スポーツボランティアとして、子供から高齢者までのスポーツ活動を支援していく上で必要となる様々な知識を学んでいく。
 また、北九州市総合型地域スポーツクラブを運営するNPO法人の健康づくり・スポーツイベントの企画、立案、運営に参加することで、実体験を通して実践力を身につけていく。
 特に、個々の指導力や企画力を高めるため指導カリキュラムや企画力提案書作成に取り組む。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。授業時に随時資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 スポーツボランティアのタイプ、現状と事例【分類】【現状把握】
- 3回 スポーツボランティアの公的役割について【社会的役割】
- 4回 総合型地域スポーツクラブの現状と課題【総合型地域スポーツクラブ】
- 5回 各世代(ジュニア~シニア)のスポーツ【各世代】
- 6回 健康づくり・スポーツイベントの企画・立案①【企画力】【ニーズとシーズ】
- 7回 健康づくり・スポーツイベントの企画・立案②【企画力】【危機管理】
- 8回 ジュニアスポーツ計画の作成①【ジュニアスポーツ】
- 9回 ジュニアスポーツ計画の作成②【ジュニアスポーツ】
- 10回 シニア体カアップ事業計画の作成①【シニア】
- 11回 シニア体カアップ事業計画の作成②【シニア】
- 12回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成①【市民参加】
- 13回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成②【市民参加】
- 14回 市民参加型のスポーツイベント計画の作成③【市民参加】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 50% 受講態度... 20% レポート... 30%
 (遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ各論【昼】

担当者名 /Instructor 内田 若希/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 障害者スポーツ指導員とは、障害者が体を鍛えたり、運動・スポーツを楽しむ支援を行ったりするために、障害に応じた適切な指導をする専門家である。本講義では、障害者スポーツ指導員に必要な各論について論じる。特に、全国障害者スポーツ大会の概要やクラス分け、競技に使用される補装具と基礎知識、ドーピング問題など幅広く学習する。

教科書 /Textbooks
 必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	肢体障害とは
3回	視覚障害とは
4回	聴覚障害とは
5回	脳血管障害・内部障害とは
6回	精神障害とは
7回	知的発達障害とは
8～9回	アダプテッド・スポーツの理解 - ルールと道具 -
10回	全国障害者スポーツ大会 - 歴史と目的 -
11回	全国障害者スポーツ大会 - 選手団とコーチのあり方 -
12～13回	全国障害者スポーツ大会 - 競技内容と障害区分 -
14回	国内大会・国際大会におけるドーピングコントロール
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 60% 試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各回授業で配布するレジユメをよく読み込んでいくこと。
 「障害者スポーツ指導論」を受講済みであることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

身体適応論 【昼】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 熱中症の予防
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 運動と肥満
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 バイオメカニクス
- 7回 運動と神経系
- 8回 生理的限界と心理的限界
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と呼吸系
- 12回 運動と疲労
- 13回 運動への行動変容(1)
- 14回 運動への行動変容(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

身体スポーツ論【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持、増進、あるいは競技力を高めるために、ある程度の体力向上は必要である。ただ単にジョギングをしたり、筋力トレーニングをすれば十分であるというわけにはいかない。逆に過度になり過ぎ障害を起こすケースも少なくない。ここでは、身体発達や運動神経・運動機能の過程を調べ、幼児期からの成長段階に合わせた遊び環境や競技成績を上げるための練習やトレーニング、食事法、メンタル面などについて勉強する。

教科書 /Textbooks

授業中にプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 体力の考え方について【身体的要素・精神的要素】、【運動の必要性】
 - 3回 体力の加齢変化について、自己体力の認識と今後の運動
 - 4回 スポーツ成績を上げるための要因【体力の三次元】、【生理的限界・心理的限界】
 - 5回 運動神経について【運動センス】
 - 6回 " 【遺伝】
 - 7回 運動発達の段階について【幼児期】、【児童期】
 - 8回 " 【運動軸】、【調整能力】
 - 9回 " 【思春期】、【成熟期】
 - 10回 発達段階におけるトレーニング【ジュニア期のトレーニング】
 - 11回 筋線維の種類と特性
 - 12回 平衡性の相関について(多目的ホールで実施)
 - 13回 スポーツ栄養について【グリコーゲン】
 - 14回 スポーツ指導【コーチング】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からスポーツに興味をもって、特集番組やニュース、新聞や雑誌など、意識的にスポーツに関わりを持つことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、運動やスポーツ活動からの視点だが、スポーツ経験のない学生は日常生活行動と重ねたり結びつけたりしながら受講すると理解しやすい。
現在、部活動で頑張っている学生については、授業の中で一つでも普段の練習に役に立つものが見つかれば嬉しいです。

キーワード /Keywords

講義全体のキーワード
【運動神経】、【幼児期から児童期の遊び環境】
【アスリート】、【競技スポーツ】

トレーニング論【昼】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「体力を向上させたい、パワーをつけたい」などという言葉をよく耳にする。しかし、体力という言葉には多くの要素が含まれ、病気に耐えることや冷静に行動することなども広い意味での体力である。
この講義は、特に「筋力・持久力・瞬発力・柔軟性・調整力」の5つの要素をバランスよくレベルを高めていくことを目的としている。今や健康を月謝を払って買う時代になり、ジムに通う学生も多く、健康への関心が高まっている中で、週に1回では十分とは言えない頻度ではあるが、各自にあわせた授業を楽しく行う。尚、遅刻は認めないので自信のない人は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 クールダウン
- 3回 形態測定・各種測定
- 4回 柔軟性・立位体前屈
- 5回 筋力・ベンチプレス
- 6回 パワー・垂直跳び
- 7回 スピード・10mダッシュ
- 8回 敏捷性・Tテスト
- 9回 体重とウォーキング1
- 10回 体重とウォーキング2
- 11回 体重とジョギング
- 12回 脈拍とランニング
- 13回 体幹のトレーニングとは
- 14回 トレーニングと栄養
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※主に実技を体育館2階、トレーニング場で行う。
トレーニングウェア、室内シューズ、ノート筆記用具は毎回持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康科学【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康とは、人間の幸福にとって、もっとも重要なことのひとつである。健康であるということは、人々がそれぞれの人生を豊かに過ごすための基本的条件であるといえる。
本講義では、健康とはどういう状態か。また、それを保持増進するためにはどうしたらいいのかということに主眼をおき、自分自身のライフスタイルと健康について考える。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康の概念
- 3回 健康指標
- 4回 健康観の変遷
- 5回 栄養・食生活と健康
- 6回 食育
- 7回 身体活動・運動と健康
- 8回 休養・こころの健康づくりと健康
- 9回 睡眠
- 10回 タバコ・アルコールと健康
- 11回 ヘルスプロモーション
- 12回 産業保健(1) VDT作業
- 13回 産業保健(2) 腰痛予防
- 14回 産業保健(3) メンタルヘルス
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「身体適応論」とあわせて受講すれば、健康の保持増進・運動の効果について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康教育、ライフスタイル

社会調査の基礎【昼】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

適切な方法論にそった社会調査とその分析結果は、社会に生きる人々の全体的な意識や問題意識を把握することができる。本講義では、社会調査の基礎について学ぶことを目的とする。社会調査についての基礎的な概念の理解や、調査にあたって適切な方法論を選択するための問題設定について学びながら、実際の資料を用いての分析も試みる。

教科書 /Textbooks

大谷信介(共編),1999,『社会調査へのアプローチ：論理と方法』 ミネルヴァ書房
佐藤郁也,2002,『フィールドワークの技法』 新曜社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安田三郎,1960,『社会調査ハンドブック』 有斐閣
Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (共編),2006,『質的研究ハンドブック第1巻・第2巻』 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 社会調査とは何か
- 02回 量的調査—アンケート調査の実際 【アンケート調査】
- 03回 量的調査—アンケート調査の実際 【測定尺度】
- 04回 量的調査—アンケート調査の実際 【調査統計】
- 05回 度数分布【階級】【相対度数分布】
- 06回 分散と標準偏差【平均】【分散】
- 07回 分散と標準偏差【標準偏差】
- 08回 分散と標準偏差【信頼区間】
- 09回 分散と標準偏差のまとめ・小テスト
- 10回 相関関係【単相関係数の推定・検定】 t 検定【母平均の検定】【対応あり・なし】
- 11回 カイ2乗検定【帰無仮説】【有意水準】
- 12回 分散分析【分散分析表】【F分布】【主効果】【交互作用】
- 13回 質的調査—フィールドワークとは何か【フィールドワーク】
- 14回 フィールドワークの方法論【参与観察】【インタビュー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20% 小テスト・・・30% 期末試験・・・50%
5回以上の欠席があった場合は、課題提出及び期末試験の受験資格を失うものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

耳慣れない言葉が毎回出てきますので、都度習熟の上で次の講義に望んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【昼】

担当者名 /Instructor 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。
 そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。
 しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。
 そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6～8 ケースワークの諸過程
- 9～10 面接技法
- 11～14 事例演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【昼】

担当者名 /Instructor 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソーシャルグループワークは、ソーシャルワーカーが、グループメンバーの相互作用やプログラム活動を意図的に活用することによって、グループの発達ひいてはメンバー1人ひとりの成長や問題解決を援助する技術である。ソーシャルグループワークの歴史の変遷、原則、展開方法について概観すると共に、演習によって集団の力動を体験することによって、グループワークを展開するために必要となる実践的な援助技術の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

教科書 使用しない
授業時にレジユメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 新・ 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II」中央法規出版 2730円
- ・ グループワーク論 ミネルヴァ書房 大塚達雄・ 硯川真旬・ 黒木保博 2310円
- ・ グループワーク 勁草書房 大利一雄 2400円
- ・ グループワークの専門技術 中央法規出版 黒木保博、横山穰、水野良也、岩間伸之 2625円

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ソーシャルグループワークを学ぶために
- 2回 人と人が関わることの意義とかかわりがもたらすもの
- 3回 人間の発達に果たす集団の役割
- 4回 「集団という場」で働く不思議な力
- 5回 リーダーシップの構造と機能【ソーシャルワーカーに求められるリーダーシップ】
- 6回 グループワークの歴史、定義、原則
- 7回 ソーシャルワーカーの自己覚知
- 8回 グループワークの構成要素
- 9回 グループワークの展開過程1 【準備期におけるワーカーの役割と技術】
- 10回 グループワークの展開過程2 【開始期におけるワーカーの役割と技術】
- 11回 グループワークの展開過程3 【作業期におけるワーカーの役割と技術】
- 12回 グループワークの展開過程4 【終結・ 移行期におけるワーカーの役割と技術】
- 13回 セルフヘルプグループのもつ力とその活用方法
- 14回 ソーシャルワーカーの自己活用のために 【ソーシャルワーカー自身のエンパワメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・ 50% 日常の授業への取り組み・・・ 30% 課題・・・ 20%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、様々なワークやディスカッションを用いて参加体験型で行う予定です。受講者の授業への積極的参加を希望します。

キーワード /Keywords

グループダイナミクス、シェアードリーダーシップ、相互援助システム、自己覚知、エンパワメント

相談援助の理論と方法3 【昼】

担当者名 藤田 博久 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

次の4つの狙いにより授業を構成する。

1. 構造改革、貧困と格差の拡大、分権改革を軸とする関連政策動向（大状況）の分析を行う。
2. 社会問題、政策主体、社会運動の視座から、技術論の前提となる地域社会・地域福祉の現状と課題についての認識を深める。
3. コミュニティワーク（コミュニティ・オーガニゼーション）の全体像について理解を深める。
4. 調査、計画、組織化に係る技術と事例について学ぶ。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献として、調査報告書、計画書、実践報告書の抜粋資料を必要に応じて配布・紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 地域福祉のパラダイム
- 2回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(1)【住民自治】
- 3回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(2)【社会関係資本】
- 4回 地域福祉の基盤としてのコミュニティ(3)【自治基本条例】
- 5回 ローカルマニフェスト
- 6回 社会福祉援助技術に関する用語の整理
- 7回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(1)【概念】【原理】【理論の問題点】
- 8回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(2)【過程】
- 9回 コミュニティ・オーガニゼーションの要点(3)【組織化に関する原則】【専門職の役割】
- 10回 地域福祉の調査(1)【アクションリサーチの設計】
- 11回 地域福祉の調査(2)【集計結果の分析】
- 12回 社会運動(当事者運動)を進める手法
- 13回 朝日訴訟、障害者自立支援法違憲訴訟と平和的生存権
- 14回 社会的孤立とこの課題への取組み
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度... 50% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レジュメを事前に読むこと(全体像を把握することが重要)。講義のメモを丹念にとること。不明な点などについては、その都度質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。

キーワード /Keywords

コミュニティ・ソーシャルワーク ソーシャルアクション 無縁社会 つながりの資産 権利擁護

福祉行財政と福祉計画【昼】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規（2009年3月）2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版（2009年4月）

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 福祉行財政と福祉計画I【福祉制度】
 - 2回 福祉行財政と福祉計画II【戦後社会福祉制度】
 - 3回 福祉行政I【行政の骨格】【社会福祉と法制度】
 - 4回 福祉行政II【福祉行政の組織】【社会福祉基礎構造】
 - 5回 福祉財政I【財政理論】【公共財】
 - 6回 福祉財政II【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
 - 7回 福祉財政III【地方自治体の財政と民生費の動向】
 - 8回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割【相談過程と体制】【地域相談システム】
 - 9回 福祉行財政まとめ
 - 10回 福祉計画の目的と意義【福祉援助】
 - 11回 福祉計画の論理と技法I【福祉計画の視点と過程】
 - 12回 福祉計画の論理と技法II【ニーズ把握】【評価】【住民参加】
 - 13回 福祉計画の実際I【老人福祉計画】【介護保険事業計画】
 - 14回 福祉計画の実際II【障害者・生涯福祉計画】【次世代育成支援行動計画】【地域福祉計画】
 - 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況（小テスト・中間まとめ含む）... 60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 テキストを講義前に読んでおくこと。また、新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政についての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【昼】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地の小さな運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換する時代となった。本科目では公的介護保険の動向も視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学習する。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第2版」 ISBN974-4-8058-3258-5

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営のベースである理念・使命を理解しながら、福祉ニーズとサービスの提供、そしてそれを支える具体的な福祉施設の経営を理解する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-①現代社会における社会保障制度の課題、②社会保障の概念や対象、理念についての理解、③社会保障の歴史的展開、④社会保障制度の体系、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。
国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ⑦ 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時多数紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の小レポート(30点) + 課題(20点) + 期末試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航 (1853) から55年体制の成立 (1955) までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説する。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』(ミネルヴァ書房)、○小林道彦『桂太郎』(ミネルヴァ書房)、○岡義武『山県有朋』(岩波新書)、○岡義武『近衛文麿』(岩波新書)、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 不平等条約と条約改正【維新の三傑】
- 第3回 自由民権運動と朝鮮問題【伊藤博文】
- 第4回 日清戦争【陸奥宗光】
- 第5回 日露戦争【山県有朋】
- 第6回 大正政変 - 国家経営構想の分裂 - 【桂太郎】
- 第7回 21カ条要求【大隈重信】【孫文】
- 第8回 原敬と協調外交【原敬】
- 第9回 二大政党制と外交政策【加藤高明】
- 第10回 政党政治と満州事変【浜口雄幸】
- 第11回 2・26事件と日中戦争【近衛文麿】
- 第12回 破滅への道 - 太平洋戦争 - 【東条英機】【吉田茂】
- 第13回 戦後改革【マッカーサー】
- 第14回 55年体制の成立【自民党】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族を問う【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちが共同生活を営んでいる社会の最小単位である家族、信頼のおけるかけがえのない存在であるこの家族に今何が起きているのか。迷走し、混迷する家族の実像から、現代の家族が抱える問題点を明らかにしてみようと思っています。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 開講にあたって-問題の出発点-家族とは？
- 2回 家族の機能
- 3回 ハードウェアとしての家族
- 4回 システムとしての家族①
- 5回 システムとしての家族②
- 6回 システムとしての家族③
- 7回 システムとしての家族④
- 8回 現代家族の課題-夫婦①
- 9回 現代家族の課題-夫婦②
- 10回 現代家族の課題-親子①
- 11回 現代家族の課題-親子②
- 12回 現代家族の課題-親子③
- 13回 現代家族の課題-家族の危機
- 14回 現代家族の課題-家族モデル
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 10% 期末試験... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布するレジュメに紹介した参考文献、図書館所蔵の関連図書を読み込むと理解を深めることができます。講義ノートを作成するよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

人間と文化【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いだろう。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。

グローバル化が進んだ現在でも、地域によって家族・親族関係のありかた、信仰のありかた、経済活動に関する考え方は大きく異なる。本講義では、(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学一年生という受講者が現在考えている「文化」を、世界各地の文化のありかたを参照することで相対化し、身の回りの現代社会について考察するひとつの手段を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
作道伸介(編)2008『近代化のフィールドワーク』東信堂
宮島喬(編)2000『講座社会学7 文化』東京大学出版会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：グローバルでローカルな世界を想像するために
- 第2回 異文化の「発見」：文化を考察する視点について
- 第3回 文化の基礎としての環境との<共生>
- 第4・5回 経済活動にみる文化：贈与と交換から地域通貨まで
- 第6回 資本主義の受容と貧困
- 第7回 開発の現場における「文化の差異」
- 第8・9回 個人と集団：生殖医療の時代に家族・親族関係を考える
- 第10回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第11回 ジェンダー
- 第12・13回 日常生活の中の儀礼からみえる世界観
- 第14回 宗教・呪術・占いの機能
- 第15回 まとめ：グローバル化のなかのローカルな文化と普遍的価値観

成績評価の方法 /Assessment Method

エッセイによる授業貢献20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次回の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「人間と文化」では、文化について生活に密着した側面に注目しています。来年度に2年次対象の「文化と政治」を受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、環境、共同体、社会関係

ことばの科学【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』 大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音声と音韻
- 第4回 連濁・鼻濁音
- 第5回 ことばの単位(2)：語
- 第6回 語の基本：成り立ち・構造・意味
- 第7回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第8回 言葉の単位(3)：文
- 第9回 動詞の自他
- 第10回 日本語と英語の受動態
- 第11回 数量詞
- 第12回 代名詞：「彼」「彼女」「自分」「自分自身」
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養としての平和学 【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 皆さんがこれまで漠然と認識してきた「戦争」や「平和」という既成概念を改めて真剣に問い返して、戦争アレルギーに基づく思考停止的反戦主義や現実性に乏しい理想主義的平和主義を廃し、現実的な平和思考を養うことを目的とします。一言で言えば「平和とは何か」がテーマです。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～5回 問題提起、戦争の定義
- 6回～8回 平和の定義、積極平和論
- 9回～11回 日本の平和主義
- 12回～13回 正戦論(正義の戦争はあるか)
- 14回 二重結果の原則
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (1) 【官僚制】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (2) 【物象化】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (3) 【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか? (4) 【分業体制】
- 6回 生活世界論のはじまり(1) 【近代科学と現象学】
- 7回 生活世界論のはじまり(2) 【フッサールの近代批判】
- 8回 確認テストとその解説
- 9回 生活世界論のひろがり(1) 【アーレント、人と思想】
- 10回 生活世界論のひろがり(2) 【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1) 【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2) 【古代ギリシャにおける政治】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1) 【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2) 【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第8回に予定している内容確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。この場合、成績評価はE判定となる。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、単位取得のためには相当な努力と学習意欲が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための人生のその時期、その時期での適切なストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション，受講上の注意，講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体の行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分なりの心の健康法について、自覚して取り組んでいる実践や考え方を自分なりに整理して授業に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【夜】

担当者名 /Instructor 内田 若希 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の身体とのつきあい方を身につけ、心身ともに健康なライフスタイルの維持・獲得に向けて、理論の学習と実習を行う。なお、実習では、既存のルールにとらわれない誰でも楽しむことのできる運動を取り入れ、生涯にわたる健康の自己管理能力を養うことを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】 はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 (講義) 運動と身体の健康【生活習慣病】【運動基準・指針】
- 3回 (実習) ウォーキングと至適運動強度
- 4回 (講義) 運動と心の健康【ストレス社会】【コーピング】
- 5回 (実習) コミュニケーションを楽しむ①(ふうせんバレー)
- 6回 (実習) コミュニケーションを楽しむ②(ソフトバレー)
- 7回 (講義) 運動の継続化を目指して【行動変容】
- 8回～9回 (実習) 生活に役立つテーピング・キネシオテープ実習
- 10回 (実習) 子どもが楽しめる運動(レクリエーション)
- 11回 (実習) 中高年が楽しめる運動(バドミントン)
- 12回 (実習) 高齢者が楽しめる運動(軽スポーツ)
- 13回～14回 (講義) 健康でステキな人生を送るために
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会調査（主に量的調査）の基本的な考え方と技法を習得する。調査法を学ぶ場合、統計ソフトが使えるようになることよりも、基本的な「考え方」の方が重要である。たとえば、「あることを主張するためにはどのようなデータを用い、どのような事実が観察される必要があるか」を考えることである。その上で、質問文の作り方、調査票の構成、サンプリング、データファイル作成、単純集計、記述統計量の計算、検定、クロス表の作成など、基本的な分析技法について学ぶ。なお、パソコン教室を使う関係上、教室定員に応じて受講者数調整を行う可能性がある。

教科書 /Textbooks

『社会調査法入門』、盛山和夫著、有斐閣、2004

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ガイドブック社会調査（第2版）』、森岡清志編著、日本評論社、2007
 - 『新版 ライフヒストリーを学ぶ人のために』、谷富夫編著、世界思想社、2008
- その他、授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 何のための社会調査か
- 第2回 量的調査と質的調査
- 第3回 調査と研究の進め方
- 第4回 社会調査を企画する
- 第5回 ワーディングと調査票の作成（1）
- 第6回 ワーディングと調査票の作成（2）
- 第7回 ワーディングと調査票の作成（3）
- 第8回 サンプリング
- 第9回 調査の実施とデータファイルの作成（1）
- 第10回 調査の実施とデータファイルの作成（2）
- 第11回 分布と統計量
- 第12回 検定の考え方
- 第13回 クロス集計
- 第14回 相関係数
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 40% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読んでくること。
 「統計を読む・統計をつくる」（1学期）と合わせて受講することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、バドミントンの実技を通して、各自がたてたスキルアップの目標とその到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 バドミントンの基礎(1) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 3回 バドミントンの基礎(2) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 4回 バドミントンの基礎(3) フライト(ハイクリアー・ドロップ・ヘアピンなど)
- 5回 バドミントンの基礎(4) サーブ(ロング・ショート)
- 6回 バドミントンの基礎(5) スマッシュ
- 7回 バドミントンの基礎(6) ルールの習得(シングルス)
- 8回 バドミントンの応用(7) ルールの習得(ダブルス)
- 9回 バドミントンの応用(1) フォーメーション
- 10回 バドミントンの応用(2) ゲーム展開
- 11回 シングルスゲーム(1)
- 12回 シングルスゲーム(2)
- 13回 ダブルスゲーム(1)
- 14回 ダブルスゲーム(2)
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装と体育館シューズを準備すること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみや成り立ちを正しく理解し、地球規模でのバランス感覚を養っていく必要がある。

この授業の目標は、現在の地球のしくみと地球史を正しく理解することを通して、地球と人間との関係はどうあるべきかについて、自ら判断し考えることができるようになることである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(NHKブックス, 日本放送協会), 1071頁
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861頁
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 凍りついた地球【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 80%, 日常の授業への取り組み: 10%, 小テスト・ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 /Instructor 伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【フロイト1】
- 9回 精神分析の思想(2)【フロイト2】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン1】
- 11回 精神分析の思想(4)【メラニー・クライン2】
- 12回 フェミニズムの思想(1)【第一波】
- 13回 フェミニズムの思想(2)【第二波】
- 14回 フェミニズムの思想(3)【現代】
- 15回 総括と補足

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末レポート... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末レポート提出の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回にテスト(第3回~第6回の内容確認)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。なお、このテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。
授業内で指示する課題内容から外れたレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは即座に0点となる。

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / Hisakazu Nakamichi / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

かつて「危険な思想」であった民主主義は、今やすべてのものを正当化するレトリックとなり、きわめて形式的なものとなっている。そこで、本講義では、民主主義に関する議論を活性化するためのいくつかの素材、論点、概念などを提示し、「民主主義とは何か」を問い直してみたい。

教科書 /Textbooks

レジュメの配布を基本とするが、S・シャピロ『民主主義論の現状』（慶応義塾大学出版会、2010年）（O）も多く用いる。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィ』(日本経済評論社、2003年)(O)
J・リンズほか『大統領制民主主義の失敗』(南窓社、2003年)(O)
L・ダイヤモンドほか『シベリアン・コントロールとデモクラシー』(刃水書房、2006年)(O)
中道『政治思想のデッサン』(ミネルヴァ書房、2006年)(O)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 開講の辞・グローバル化とデモクラシー【第三の波】【市民社会】
第2-3回 「デモス」と「クラティア」について【イソノミア】【イセゴリア】【イソモイリア】
第4-5回 二つの民主主義伝統について【G・セイバイン】【自由】【平等】
第6-7回 近代市民革命と自由民主主義について【C・シュミット】【自由主義】【民主主義】
第8-9回 現代民主主義の諸類型【エリート主義】【参加民主主義】【共生の民主主義論】
第10-11回 議院内閣制民主主義と大統領制民主主義について【政治的安定性】【首相公選制】
第12-13回 民主主義批判の思想について【全体主義】【ポスト・デモクラシー】
第14回 デモクラシーの徹底化について【C・ムフ】【多様性】【複数性】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義への積極的取組考慮、小テストによる問題の解説と添削、レポート任意提出可、定期試験と講義への積極的取組などで総合評価
講義への積極的取組・・・10%、小テスト...10% レポート(任意) 20% 試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布したレジュメに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問い直す機会としたい。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題について、その事例を説明できる。
4. 自分自身と人権との関わりが理解できる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『不思議な力 夜間中学』（宇多出版企画発行）
『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 自分にとっての人権課題
- 2 「人権とは何か」
- 3 「人権獲得の歴史」
- 4 「世界人権宣言採択の歴史的経緯と意義」
- 5 「部落問題について」
- 6 「部落差別の事例と当事者の声」
- 7 「在日外国人と人権課題」
- 8 「在日コリアンについて」
- 9 「ハンセン病とは、元患者の事例」
- 10 「識字問題～読み書きができないことがもたらす人権侵害」
- 11 「教育と人権～教育を受ける権利が保障されていない人たちの状況」
- 12 「障害者の立場からみる人権課題」
- 13 「戦争と人権 / 女性と戦争」
- 14 「アジアの人権状況」
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

授業中の私語は厳禁

人権論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身がもつ「学ぶ権利」を十分認識して取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、なぜ「男は仕事、女は家事・育児・介護」は自然な役割だと思われているのか、なぜ男女の賃金格差があるのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか-そのような日常的な「当たり前」をジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（牟田和恵編）大阪大学出版会 2,520円
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『岩波女性学事典』（井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編）岩波書店 4,830円
『フェミニズム理論辞典』（マギー・ハム著）明石書店 7,140円
R.W. Connell, Gender: Short Introduction, Polity, 2003 .

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

- 1回 日本語とジェンダー-日本の戦後から現代までの歌謡曲【女言葉・男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別役割分業】
- 5回 ジェンダー家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャルな関係】【性のダブル・スタンダード】
- 7回 学校教育の今昔-学園ものTVドラマの系譜【ジェンダー・トラッキング】【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-米映画『フローズン・リバー』【シングル・マザー】【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【家族経営協定】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-比映画『ケア・ギバー』【移住労働】【性別分業の再配置】
- 14回 テートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼン...30%、レポート...30%、期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書と資料を事前に読んでおくこと。
ワークショップのプレゼンでは、パワーポイントを使用するので、プレゼンおよびPPT作成スキルを身につけておくこと。PPTは8枚にまとめること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メディア表現、ジェンダー不平等な法制度の改正、日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「グローバル化」

北九州学【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この科目は、地域社会の発見学です。私たちの大学のある北九州、この地域の歴史や伝統文化を知り、人々の暮らしや風土に根ざした心を理解し、ものづくりやまちづくりへの取り組みを確認してみようと思います。北九州の発見を通じて、生活するためのヒント、他の文化とつながる知恵や未来への発展可能性を開く手がかりを得ようというものです。本年度は、「北九州の政治行政」を講義の主なテーマとします。講義全体のキーワードは『知っとーと！？北九州？？？』です。

教科書 /Textbooks

使用しません。毎回レジュメと資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、その都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 北九州の歴史-小倉藩の治世
- 3回 北九州の歴史-小倉の五街道
- 4回 北九州の歴史-軍都小倉
- 5回 北九州市誕生
- 6回 北九州の政治
- 7回 北九州の住民自治
- 8回 北九州の教育行政
- 9回 北九州の交通行政
- 10回 北九州の環境行政
- 11回 北九州の安全対策
- 12回 北九州の福祉行政
- 13回 北九州のスポーツ行政
- 14回 北九州の観光行政
- 15回 まとめ

* 毎回ゲストをお招きして、各テーマについてお話を伺います。上記の内容は一応の予定です。現在検討中です。講義内容の詳細は開講時に配布します。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み... 10% 課題... 10% 期末のレポート... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中にノートをしっかりつけてください。

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は、かのアジア太平洋戦争に敗北した。その後の日本は、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。その後、欧米から日本の経営とも賞賛された日本の企業社会であるが、そのピーク＝破壊たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用（＝ライフタイム・コミットメント、広義には職場共同体感）・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液状化して剥き出しの資本制経済の荒波にさらされている。日く、ワーキングプア・ネットカフェ難民・格差から貧困。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義（マーケット型資本主義）路線。すなわち市場＝マーケット万能路線である。そこでは、市場から脱落・排除（彼女／彼らはこれを退出という）された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである。

これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものが、こうした人々を支えるセーフティネットをもっていたと判断される。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである。

そうすると行き着くところ、社会というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないものだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ことに格差と貧困に関わるテーマを扱った雑誌『世界』・岩波新書等の最新の文献。國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房（2009年）・見田宗介（真木悠介）の社会学入門に関する文献は一冊、用意したい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家的生産様式)。【社会認識】
- 2回 同上
- 3回 【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】
現代社会の物質代謝＝商品による商品の生産。現代社会の物質代謝と再生産＝商品流通(C-M-C)による社会の再生産→この商品流通から、ふたつのタイプが見いだされる。→C-M-C(私たち)とM-C-M(資本家)。私たちと資本家は、商品流通のレベルでは仲良く相対しているかのようだ。この市民社会＝市民法レベルでの社会の再生産とその実態(秘密)。
- 4、5回 同上
- 6回 【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】 市民社会の歴史的創出＝本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たるM-C-Mでの剰余価値の生産。資本家と労働者。
- 7、8、9回 同上
- 10回 【現代社会における二者闘争性(白と黒)】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】
市民社会と階級関係の二者闘争性。セーフティネット装置＝福祉国家。戦後のケインズ政策。
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 福祉国家の行き詰まりから、資本主義の原点回帰へ。新自由主義の台頭。【新自由主義】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【現代社会における二者闘争性（白と黒）】【労働組合】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】

現代社会と倫理【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 3回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 4回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 5回 現代における人命の価値(4)【完全義務と不完全義務】
- 6回 現代における人命の価値(5)【自己意識】、【FLO】
- 7回 小テスト+解説
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【種差別】
- 10回 現代における差別の問題(3)【間接的功利主義】
- 11回 現代における公平性の意義(1)【共有地の悲劇】、【救命ボート倫理】
- 12回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 13回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 14回 現代における公平性の意義(4)【ケイバビリテイ】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要、より詳しい参考文献の紹介は初回に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、今年度より持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となる。
また、それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が要求される。この方式変更に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 功利主義 義務論 公平性

現代の国際情勢【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を、ポストコロナリズムという現代思想の問題提起に沿って考察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロナリズム』知の攻略、思想読本4 (作品社、2003) 2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要
- 2～3回 なぜ今、ポストコロナリズム七日(1)(2)
- 4回 第IV部の総論 姜尚中論文
- 5回 第II部の総論 本橋哲也論文
- 6回 第II部の「近代」 松葉祥一論文
- 7回 第II部の「性・文化」 竹村・毛利論文
- 8回 第II部の「日本」 小森陽一論文
- 9回 第II部の「第三世界」 小倉英敬論文
- 10回 第II部の「国家」 榎田竜蔵論文
- 11回 第III部の1、 朴一・村井寛志論文
- 12回 第III部の2、 趙慶喜論文
- 13回 第III部の3、 高橋哲也論文
- 14回 第III部の4、 野村・鄭論文
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告レジュメ1回(10%)とレポート3回(90%、1回10%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書に登場する概念、理論について自主的に勉強すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【夜】

担当者名 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

国際社会の性質を簡単に紹介した上で、国連を中心として、国際機構が世界の安全保障において、どんな役割を有しているのかを考えることが目的です。現代社会の理解には、それまでの歴史的展開の理解が不可欠であると考えますので、時系列的に古い話から、徐々に現代にテーマを移してゆくようにします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。各テーマごとにレジュメ(説明プリント)を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第3回 国際機構の定義～「国際」とは何か？ 国際機構とは何か？ 主権国家とは何か
- 第4回～第5回 国際機構の歴史～国際機構の誕生、国際連盟の画期性、国際連盟の欠陥
- 第6回～第8回 国際連合の成立～国際連合の創設過程、国際連合の成立
- 第9回～第10回 国際連合の展開I～国連軍、安保理の機能不全
- 第11回～第12回 国際連合の展開II～日本の国連加盟、途上国の台頭、中国の代表権問題
- 第13回 冷戦終結と国連～冷戦終結による変化、変化への対応、成功と失敗
- 第14回 国際安全保障の展開～国際社会が協力して安全保障をし始めたのはいつ？なぜ？国連の安全保障の特徴
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス（統治）」の意味を世界各地の国や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループ・ワークを通じて回答を出してもらいます。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 「開発と統治」をはじめるにあたって		担当：三宅
2回 民主化問題を考える視座(1)	【民主化問題】	担当：伊野
3回 民主化問題を考える視座(2)		担当：伊野
4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめぐる	【ミャンマー】	担当：伊野
5回 援助と民主主義：バングラデシュの事例	【援助】	担当：チョウドリ・三宅
6回 選挙を通して見たバングラデシュの政治活動	【バングラデシュ】	担当：チョウドリ・三宅
7回 途上国と一村一品運動	【一村一品運動】	担当：チョウドリ・三宅
8回 グラミン銀行と地域社会のガバナンスの変化	【グラミン銀行】	担当：チョウドリ・三宅
9回 1970年代の韓国の開発と民主化運動	【韓国】	担当：申
10回 韓国：1990年代以降の民主化と環境政策	【環境政策】	担当：申
11回 滞在経験を通して感じた米国のガバナンス	【米国】	担当：申
12回 地域社会から見たガバナンス	【地域社会】	担当：三宅
13回 日本の子ども会を取り巻く環境	【子ども会】	担当：三宅
14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク		担当：指名教員
15回 まとめ		担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題の提出 ... 30 % 試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 子供会 グループ・ワーク

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

なし。活字史料や、パワーポイントで投影した映像史料を適宜コピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『日本評伝選・桂太郎』、○『日本外交年表並主要文書』上・下

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 西南戦争
- 第3回 日清戦争
- 第4回 日露戦争
- 第5回 第一次世界大戦とシベリア出兵
- 第6回 山東出兵(1)
- 第7回 山東出兵(2)
- 第8回 満州事変(1)
- 第9回 満州事変(2)
- 第10回 日中戦争(1)
- 第12回 日中戦争(2)
- 第13回 太平洋戦争(1)
- 第14回 太平洋戦争(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「ただ聴くだけ」という受講態度は許されない。講義前に最低限高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と農村の生活文化史【夜】

担当者名 /Instructor 福間 裕爾 / Yuji FUKUMA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

自由で豊かな暮らしを求めて、人々が都市への集住を強めた20世紀。各地で都市化が進み、農村も相応の変化を強いられてきた。これを「向都離村」という言葉で説明することがあり、都市集住がすべてバラ色ではなかったことを示してきた。にもかかわらず、この傾向は現代においても未だに続いている。果たして、人々を幻惑する都市の魅力とは何か、また農村から都市へと移動する人々が直面した困惑と持ち帰った文化的価値とは何か。

この講義では、都市から農村を見ていくことで、両者のダイナミズムやそのなかに秘められた人々を相対化する技法を考える。また、文献等に残ることが少ない生活の営みをどのように整理し、現場のなかでいかに問題を発見し理論化するか、というフィールドワークの基本にも触れることができる内容としたい。何気ない日常に焦点をあて、そのなかから理論を析出するおもしろさを伝えたい。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は用いない。必要な資料はプリントで適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 「都市の誘惑」 ガイダンス
- 第2回 「都市と農村 / 都会と田舎」 都市と農村のイメージ
- 第3回 「都市の言葉と話芸の誕生」 言葉から都市と農村を見る
- 第4回 「都会という感覚」 都会の指標としての祭礼
- 第5回 「都会のハビトゥス1」 出会いと社交の技法
- 第6回 「都会のハビトゥス2」 結集の理法
- 第7回 「都会のハビトゥス3」 不文律の妙
- 第8回 「都会人の気質」
- 第9回 「三つ子の魂、百まで」 ある日本画家の原風景
- 第10回 「都市の人生と漁村」 人と物の交流と人生儀礼
- 第11回 「都鄙連続論」 都市と農村の繋がりを考える方法
- 第12回 「都鄙連続論の検証」 山笠に見る文化伝播
- 第13回 「都市の再生産」
- 第14回 「都市と農村の身体性」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートまたは試験 80% 授業中の小レポート等20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「話を聞く」ことを重視する。しっかり授業を聞き、十分にノートをとること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 新村昭雄(文)、三宅博之(法)、乗口眞一郎、山崎勇治

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の人物を中心として講義することによって学生に知ってもらうことを目的とする。なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。

4人の教員が、日本・アメリカ・インド・英国の代表的な人物について、その人物が生きた歴史と時代について語る。はじめに、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道(Bushido)が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。

江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰(アイヌや南方諸島に残る)や弥生信仰に代わって、聖徳太子(厩戸皇子)は仏教を大和(やまと)の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が繁栄したのか。

次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)について。次に今や中国とともに、次世代を握るインドの話である。まず、マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史について語る。「ガンディ」の映画を鑑賞したのち、マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?について考える。

最後は、世界大学ランキング1位を維持し続けているケンブリッジ大学を擁する英国について、「湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター」「世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ」「『イギリス病』を救った鉄の女、M.サッチャー」について語る。

教科書 /Textbooks

各回講義の資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。
山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国—産業革命からサッチャー改革まで>—(ミネルヴァ書房、2008年6月)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの歴史の中からテーマを厳選し、講義をする

- 第1回 はじめに。「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と幕末・明治維新
- 第2回 上杉鷹山と儒教的経営
- 第3回 保科正之と江戸幕府
- 第4回 親鸞と平安・鎌倉時代
- 第5回 聖徳太子と飛鳥・奈良時代
- 第6回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
- 第7回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
- 第8回 歴代大統領とその素顔(リンカーン、ケネディー、クリントン大統領)
- 第9回 マハトマ・ガンディの生きた時代背景の考察=イギリス植民地史
- 第10回 「ガンディ」の映画鑑賞
- 第11回 マハトマ・ガンディのこだわり=なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか?
- 第12回 明治維新を側面から支援したスコットランド人、トーマス・グラバー
- 第13回 湯布院のモデルとなった湖水地方のベアトリクス・ポター
- 第14回 世界恐慌を救ったケンブリッジ大学のM・ケインズ
- 第15回 「イギリス病」を救った鉄の女、M.サッチャー—総まとめ—

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(30%)とレポート(70%)により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で取り上げるテーマや人物に関して、自伝や歴史書を図書館等で読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ラスト・サムライ】【武士道】【幕末・明治維新】【壊滅的な藩の財政を立て直した】【儒教的経営とは】【江戸幕府の礎を築いた】家光の弟・保科正之【民衆に根ざした仏教】【平安・鎌倉時代】【一七条の憲法】【聖徳太子(厩戸皇子)】【飛鳥時代】【オバマ大統領】【ノーベル平和賞】【奴隷解放運動の歴史】【アメリカ歴代大統領】【マハトマ・ガンディ】【イギリス植民地史】【なぜインド人は手紡ぎ車を自身で回すのか】【ベアトリクス・ポター】【湖水地方】【湯布院】【ケインズと世界恐慌】【サッチャー】【英国病】

エンドユーザコンピューティング 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、エンドユーザの立場から、職場や家庭、大学等の様々な環境において必要不可欠な情報に関する技術や知識を習得し、コンピュータを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- 情報社会におけるエンドユーザの役割を説明できるようになります。
- Webページを閲覧する際に、そのページの作成元や信頼度を判断する基準を理解できるようになります。
- データベースとはどのようなものか具体的な例に基づいて説明することができるようになります。

教科書 /Textbooks

なし。特に指定はしません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エンドユーザコンピューティングを学ぶために【エンドユーザ】
- 2回 コンピュータ内部のデータ表現【2進数】【ビット・バイト】【文字コード】
- 3回 ハードウェア【CPU】【メモリ】【ハードディスク】【フラグメンテーション】
- 4回 ソフトウェア【OS】【拡張子】
- 5回 ネットワークの仕組み【サーバ】【LAN】【IPアドレス】【ドメイン名】
- 6回 情報システムの利用者としての心得(1)【PDCA】【パスワード】
- 7回 情報システムの利用者としての心得(2)【リスク分析】
- 8回 情報システムの利用者としての心得・まとめ
- 9回 情報セキュリティ対策(1)【コンピュータウイルス】【Windows Update】【スパイウェア】【ファイアウォール】
- 10回 情報セキュリティ対策(2)【SSL】【クッキー】
- 11回 情報セキュリティ対策・まとめ
- 12回 データベースの基礎(1)【正規化】【主キー】
- 13回 データベースの基礎(2)【SQL】
- 14回 データベースの基礎・まとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。ただし、授業内容を大幅に変更することはありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

情報分野の専門用語を数多く学習していきます。あまり興味のない人にとっては、慣れない専門用語がたくさんあるかもしれません。授業中の説明を1度聞いただけで理解できると考えずに、毎回、しっかりと復習をしてください。そして、わからない事があれば、授業中に質問してください。

キーワード /Keywords

エンドユーザ、情報セキュリティ、データベース

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%、積極的な授業参加(タイピング、電子メール送受信、情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作(キーボードで文字を入力する、マウス操作など)ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のような項目を身につけることができます：

- タッチタイピングや見やすい表の作成ができるようになります。
- 本学が提供しているグループウェア、Webメールなどのネットワーク環境を使いこなし、ルールを守ったメールの送受信ができるようになります。
- ネットワークを正しく安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基本的な知識を習得することができます。
- 表計算ソフトを使ったデータ処理、グラフ作成ができるようになります。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境を知る【ID】【パスワード】【グループウェア】
- 2回 文字入力を正確に行う【タッチタイピング】
- 3回 ネットワークコミュニケーションの技法を知る【電子メール】【SSL通信】
- 4回 ネットワークの光と影を知る【情報倫理】【著作権】【個人情報保護】
- 5回 きれいな表を作る【セル】【シート】【書式】【ページ設定】【印刷プレビュー】
- 6回 計算式を作る【セルの参照】【コピー】【ペースト】
- 7回 いろいろなグラフを作る【グラフ】
- 8回 グラフをカスタマイズする【グラフ編集】
- 9回 基本的な関数を利用する【関数】【引数】
- 10回 さまざまな関数を利用する【関数の挿入】
- 11回 表計算演習1【表・グラフ作成】
- 12回 表計算演習2【条件分岐】【ソート】
- 13回 表計算演習3【表の参照】
- 14回 総合課題に取り組む
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50%，積極的な授業参加（タイピング，電子メール送受信，情報倫理の理解等を含む）... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作（キーボードで文字を入力する，マウス操作など）ができるようになっておくとう受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度，情報システムの状況によっては，「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので，タイピングやマウス操作が苦手な人は自ら練習する姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

ビジネス英語I【夜】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will learn how to properly write business emails and letters.

教科書 /Textbooks

『Email English』 (Paul Emmerson編 Macmillan Education出版社 ¥1,951)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Formal or informal?
- 3 回Key phrases
- 4 回Opening and closing
- 5 回Information, action, help
- 6 回Giving news
- 7 回Internal messages
- 8 回Attachments
- 9 回Arranging a meeting
- 1 0 回Invitations and directions
- 1 1 回Negotiating a project
- 1 2 回Checking understanding
- 1 3 回Verb forms
- 1 4 回Comparisons
- 1 5 回Sentence structure

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 学期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck in 2011-12!

キーワード /Keywords

ビジネスレター

ビジネス英語II 【夜】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	群 1年				
対象入学年度 /Year of School Entrance	2000		2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
											○	○	○

授業の概要 /Course Description

Students will learn how to properly write business emails and letters.

教科書 /Textbooks

『Email English』 (Paul Emmerson編 Macmillan Education出版社 ¥1,951)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student presentations - summer holidays
- 2 回 Common mistakes?
- 3 回 Punctuation and spelling
- 4 回 Customers and suppliers
- 5 回 Inquiries and orders
- 6 回 Discussing and agreeing terms
- 7 回 Asking for payment
- 8 回 Describing business trends
- 9 回 Complaints
- 1 0 回 Report structure and key phrases
- 1 1 回 Linking words and relative clauses
- 1 2 回 Being direct and brief
- 1 3 回 Being indirect and polite
- 1 4 回 Being friendly
- 1 5 回 Job application

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 学期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy communicating in English. Good luck in 2011-12!

キーワード /Keywords

ビジネスレター

ビジネス英語III 【夜】

担当者名 /Instructor ジョセフ・ディレンシュナイダー / Joseph Dilenschneider / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 群 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize, support and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥ 1995 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Unit 1: "Good Speeches, Good Speakers"; introduction to speech-presentation format
- 2 回 Outlining/using a dictionary/identifying purposes/ why stress and intonation matter
- 3 回 Unit 2 "Introduce Yourself!"; elements of the introduction; making eye contact
- 4 回 Present progressive verb forms; describing; First speech presentation
- 5 回 Unit 3: "Someone you should know"; maintaining posture; descriptive details; modals for advice and ability;
- 6 回 Second speech presentation/ student evaluation and questions
- 7 回 Unit 4: "Have you ever been there?"; using gestures, brainstorming and clustering; listening for stress; present perfect verb form;
- 8 回 Third speech presentation/ student evaluation and questions
- 9 回 Unit 5: "How to make a spectacular dish!"; enunciating, transitions & connectors; talking about process; strong adjectives
- 1 0 回 Fourth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 1 回 Unit 6: "Let me tell you what happened..."; projecting; audience analysis; informing; intonation for listing; past progressive verb form; Fifth speech presentation
- 1 2 回 Unit 7: "In the world today..."; pacing; selecting details: facts & opinions; talking about current events; simple connectors
- 1 3 回 Sixth speech presentation/ student evaluation and questions
- 1 4 回 Unit 8: "Cause & Consequence"; explaining causes; stress for emphasis; structures for cause and effect
- 1 5 回 Seventh speech presentation/ student evaluation and questions/Video feedback ; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%
Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 群2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

The objectives of this course are to develop students' skills and strategies for public speaking and to help students organize, support and present their opinions.

教科書 /Textbooks

Dynamic Presentations Michael Hood (Longman Kirihara) ¥ 1995 (税込み)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both a English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Impromptu summer vacation speeches; introduction to Unit 9: "What dreams may come..."
- 2 回 Unit 9: "What dreams may come..."; repetition; explaining reasons; future plans; expressing future time
- 3 回 Eighth speech presentation/ student questions and evaluations
- 4 回 Unit 10: "For example..."; using examples; patterns of organization; comparison & contrast; emphasis on content words
- 5 回 Ninth speech presentation/ student questions and evaluations
- 6 回 Unit 11: "Make a stand, Hold your ground!"; active voice; patterns of organization; speech rules for stress; persuading; active and passive verbs
- 7 回 Tenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 8 回 Unit 12: "Measuring solutions, Solving problems"; the 'rule of three'; evaluating evidence; persuading; conditionals;
- 9 回 Eleventh speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 0 回 Unit 13: "Lies and Statistics...; appealing to character; creating visual aids; predicting stress; modals for logical conclusions
- 1 1 回 Twelfth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 2 回 Unit 14: "Picture this!"; appealing to emotion; using quotations; presenting a position; reported speech
- 1 3 回 Thirteenth speech presentation/ student questions and evaluations
- 1 4 回 Unit 16: "In conclusion..."; elements of the conclusion; persuading; policy presentation; rhetorical questions; expressing necessity;
- 1 5 回 Fourteenth speech presentation/ student questions and evaluations/Video feedback; まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Speech Presentations: 100%

Continual assessment through homework completion, participation, and speech presentations.. There is a strict attendance policy for this class: more than one absence during a semester may result in the student failing the course.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

READ English books to increase your English vocabulary, write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation wherever you can. Watch English movies, listen to English music and create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域学入門【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 佐木 隆三 他 地域創生学群教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域には複合的な問題が存在し、地域の再生と創造に対する一元的な解決方法はありません。このため、自分の専門や興味・関心とは異なる分野における地域の具体的な課題と、その課題に対する取り組みについて理解し、幅広い視野を身につけることが重要です。

地域学入門では、地域とは何か、総合的理解とは何かといった、地域を学ぶにあつての基本的概念、理論的背景を学習します。あわせて、地域の抱える具体的な課題と市民の関わり方について、その概略を理解します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域とは何か
- 2回 地域の総合的な理解
- 3回 地域学入門の考え方
- 4回 地域創生とマネジメント①
- 5回 地域創生とマネジメント②
- 6回 地域創生とマネジメント③
- 7回 地域創生とマネジメント④
- 8回 地域創生とボランティア①
- 9回 地域創生とボランティア②
- 10回 地域創生と文学
- 11回 地域創生と情報
- 12回 地域創生と福祉①
- 13回 地域創生と福祉②
- 14回 地域創生と福祉③
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題の達成度 ... 50% レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な視点から地域について説明を行います。柔軟かつ幅広い視野を得るべく、学習をすすめてください。授業中にディスカッションの時間を設けます。積極的な発言を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ論【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 今日、コミュニティは単に特定の場所や集団と同一視することができず、一つの理念で説明もできない用語といえる。社会学的視点による伝統的なコミュニティ(近隣社会、小規模な町、空間的に限定される地域社会や特定の小規模集団を基礎にした社会組織)以外にも、文化的に規定される集団やイデオロギーの視点からのコミュニティ論も存在する。また、社会・文化・政治・テクノロジー等や、ポストモダン、グローバリゼーション、インターネット等の社会情勢の変化も加味する社会理論的立場もある。そのため伝統的コミュニティと今日的解釈を通してコミュニティを理解することをねらいとする。

教科書 /Textbooks
 資料配布による

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：社会、地域社会、コミュニティについて
- 第2回 今日の地域社会について
- 第3回 地域社会の変化と今日の地域生活①社会環境的研究と精神的健康
- 第4回 地域社会の変化と今日の地域生活②地域における人間関係
- 第5回 伝統的コミュニティの概念
- 第6回 コミュニティの概念の多様性
- 第7回 コミュニティ調査研究①
- 第8回 コミュニティ調査研究②
- 第9回 文化的・イデオロギーの視点からのコミュニティ【多文化主義】
- 第10回 関係性の多様化とコミュニティ：ネットワークコミュニティ、バーチャル・コミュニティ
- 第11回 社会関係資本としてのコミュニティ
- 第12回 関係性の変化と地域における教育
- 第13回 調査結果に見る地域における関係性の変化と地域活動
- 第14回 コミュニティ再生への希求と郷愁
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業への参加(課題・レポート提出等) 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動概論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北九州社会論 【夜】

担当者名 /Instructor 神山 和久/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、北九州地域の社会状況について幅広く学び地域理解を深めるとともに、地域が抱えるさまざまな問題点について、発生の背景や取り組みについて共に考えていきます。具体的には、北九州市の生い立ち、都市環境や産業の姿、行政施策の今と昔について学び、また消費生活に関する諸問題やまちづくり事例などについても紹介、解説します。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。各回、授業の中で資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 都市とはなにか、そして北九州市の紹介
 - 2回 北九州市の生い立ち 【地域論】 【市勢要覧】
 - 3回 北九州市の地域政策の歴史 【マスタープラン】
 - 4回 北九州地域の産業と人物、今と昔 【北九州を彩った先人たち】
 - 5回 統計でみる産業構造と北九州 【事業所統計】
 - 6回 統計でみる北九州の商圈 【消費者行動】
 - 7回 北九州市の住みよさ評価① 【相対性】 【都市間比較】
 - 8回 北九州市の住みよさ評価② 【フルセット都市】 【都市間比較】
 - 9回 北九州市の住みよさ評価③ 【居住地選好】 【人口移動】
 - 10回 市民力によるまちづくり 【住みよさと市民意識】 【ソーシャルマーケティング】
 - 11回 都市間連携とまちづくり 【関門連携】
 - 12回 消費者行動と社会の関係性 【不合理な消費者】 【ヒューリスティクス】
 - 13回 北九州市民のまちづくり評価① 【新しいまちづくり】
 - 14回 北九州市民のまちづくり評価② 【市政評価】
 - 15回 まとめ
- (ゲスト講師をお招きし、まちづくり、ヒトづくりの具体的、実践的な授業を予定しています)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30% 期末レポート(ミニレポート含む)ト... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

主として、「北九州を知らない、だから詳しく知りたい」学生を対象としています。日頃から北九州情報に注目しておいてください。それが皆さん自身の予習となります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア形成論【夜】

担当者名 真鍋 和博/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

現代の社会で仕事をするということは、単にマニュアル化された仕事をこなすのではなく、課題解決型の仕事が求められています。その手順は以下ようになります。

- ①様々な利害が複雑に絡み合う中で、課題や問題点を正確に把握する。
- ②その課題や問題点を引き起こしている原因を突き止める。
- ③その原因を取り除くために最適な解決策を考える。
- ④解決策を実践する。
- ⑤実践した解決策が効果があったかどうかを振り返り、評価する。

このようなプロセスを踏まない、単なる「思いつき」では課題や問題点が解決されないことが多いです。この授業では、課題や問題点を正確に把握するための思考法や、解決策を導き出すための手法について学びます。

学生の皆さんの中には、何かのイベントを企画したり、多くの人と協働することも多いと思います。また、社会人学生の皆さんは、普段の仕事で課題や問題点を抱えていらっしゃると思います。そのような皆さんに、即実践できるようなスキルを身につけていただきたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『ロジカルシンキングのノウハウ・ドウハウ』野口吉昭編 PHP 研究所
- 『知的複眼思考法』荻谷剛彦著 講談社文庫
- 『MBAクリティカルシンキング』GMI 著 ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 ロジカルシンキング(1)【論理的思考とは】
- 3回 ロジカルシンキング(2)【演繹法】
- 4回 ロジカルシンキング(3)【帰納法】
- 5回 フレームワークシンキング(1)【フレームワーク】
- 6回 フレームワークシンキング(2)【ロジックツリー】
- 7回 フレームワークシンキング(3)【マトリックス】
- 8回 クリティカルシンキング(1)【批判的思考とは】
- 9回 クリティカルシンキング(2)【複眼的にみる】
- 10回 クリティカルシンキング(3)【データの見方】
- 11回 ディスカッションの方法(1)【ブレインストーミング】
- 12回 ディスカッションの方法(2)【KJ法】
- 13回 ディスカッションの方法(3)【マインドマップ】
- 14回 思考法を実践する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 授業の成果物...25% レポート...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

解決策が分からない、どのように課題や問題点を考えていいか分からない、などの自分自身問題を想定して授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キャリア形成論 【夜】

キーワード /Keywords

システム活用 【夜】

担当者名 廣渡 栄寿/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 本授業では、職場内の情報化の推進役として、業務における問題点の発見や改善策の立案ができ、さらにはシステムの構築や運用にあたっての指導、活用推進ができるようなコンピュータに関する知識を習得します。

教科書 /Textbooks
 『情報処理教科書 ITパスポート』（芦屋 広太著）翔泳社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修丈他著）FOM出版

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 企業と法務
 - 3回 経営戦略
 - 4回 システム戦略
 - 5回 開発技術
 - 6回 プロジェクトマネジメント
 - 7回 サービスマネジメント
 - 8回 基礎理論
 - 9回 コンピュータシステム
 - 10回 マルチメディア
 - 11回 ヒューマンインターフェース
 - 12回 データベース
 - 13回 ネットワーク
 - 14回 セキュリティ
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 レポート ... 30%
 授業中に実施する小テスト ... 30%
 日常の授業への取り組み ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 授業開始前に、「データ処理」と「エンドユーザコンピューティング」の授業内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks
 ほぼ毎週、レポートを提出してもらいます。そのレポートに基づいた質疑応答を繰り返しながら、授業を展開します。きちんと理解しているか、ほぼ毎回、小テストを実施します。しっかりとした予習と復習が必要です。
 また、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画や授業内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり計画【夜】

担当者名 片岡 寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義の基本的なテーマは、まちづくりに関する基本的な事項や様々な手法を知ることです。講義では、都市計画に関する重要事項について比較的広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説します。講義を通して、都市計画の体系や手法を学びつつ、まちづくりとは何かを皆で考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。(適宜、資料を配付します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店
 - 都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社
- その他、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【都市について考える】
- 2回 都市計画の概念と社会的役割【都市計画の概念】
- 3回 歴史上の都市計画・都市デザイン【都市計画史】
- 4回 都市計画の法体系と都市の基本計画【法体系】
- 5回 土地利用の概念【土地利用】
- 6回 土地利用計画の実現【土地利用】
- 7回 再開発の概念と手法【再開発】
- 8回 都市の再開発事例【再開発】
- 9回 都市景観【景観】
- 10回 都市デザイン【都市デザイン】
- 11回 都市の交通計画【都市交通】
- 12回 住環境整備の手法と事例【住環境整備】
- 13回 都市計画の支援ツール【都市解析】
- 14回 都市調査【都市解析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくになし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 A 【夜】

担当者名 伊野 憲治 他 地域創生学群教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Aは、地域創生学群での学習や実習を行う際に必要な知識や技術、マナーを習得することを目標とします。また、この演習を通じて、地域創生学群において学習を進めていく上での心構えを身に付けたり、将来に対する目標や自分の進むべき道を模索していきます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【一般的な心構え】、【指導的実習】
- 2回 学生生活プランニング ①【目標設定と共有】
- 3回 学生生活プランニング ②【ポートフォリオ指導】
- 4回 マナー ①【社会人・学生としてのマナー】
- 5回 マナー ②【調査・実習・校外活動におけるマナー】
- 6回 マナー ③【情報機器の操作におけるマナー】
- 7回 デザイン技法【チラシ・ポスターの作り方】
- 8回 文書作成 ①【エッセイの書き方】
- 9回 文書作成 ②【調査書・実践報告書の書き方】
- 10回 文書作成 ③【レポートの書き方】
- 11回 文書作成 ④【実践レポートの書き方】
- 12回 テーマごとのディスカッション
- 13回 学生生活プランニング ③【自己の学習管理と目標の見つめなおし】
- 14回 演習・実習の振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、土曜日や日曜日などの正規の授業時間外に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。詳しくは、第1回目の授業のときに説明します。遅刻・欠席をしないこと。どうしても遅刻・欠席せざる得ない場合は、事前に、担当教員に連絡をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 深谷 裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 ・ 地域創生基礎演習Bは、基礎演習Aで学んだことの一部を実際に活用する。
 ・ 地域にある社会資源を知るとともに、それが必要とされる背景（社会問題）について理解する。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。発表者により資料が配布されることがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業中に、適宜お知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション；グループ分け、報告の方法、注意点、授業の進め方
 2回～14回 予備調査、訪問見学、資料作成、報告
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度・・・50%
 積極的な演習への参加（指導的実習への取り組みを含む）・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外（土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む）に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介/地域創生学群

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

各受講生が「生涯発達の視点から、心の育ちの面白さや複雑さを理解する」ことを目標とする。やり方としては、地域創生基礎演習Aで学んだことを基盤にして、自分の興味と関心のあるテーマを生涯発達の視点から考えられる基礎力の養成をめざす。各自がテキストの自分の担当個所についてまとめて、それを軸に受講者同士及び担当者との議論によって内容を深めていくという方法を取りながら学びを深めたい。

教科書 /Textbooks

「こころの旅」神谷美恵子著，みすず書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「自我同一性」エリクソン，E．H．著 小此木啓吾訳，誠信書房(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、分担決めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(自己開示シートの記載と発表。メンバーの関心事を知る。)
- 3回 生涯発達の視点について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Cに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

まる

成績評価の方法 /Assessment Method

受講状況、及び課題レポート ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の担当する箇所の発表レジメを授業前に担当教師までに提出のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 神山 和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

1学期の地域創生基礎演習Aで、基礎的な知的生産の方法や調査マナーに接したことを踏まえてこの演習では、すべてのメンバーが「消費者経済」について広く基礎素養を高めることを目指します。このため、初歩の経済学に関する文献によって各自に「報告テーマ」を割り当てます。テーマごとに担当者に発表してもらい、毎回、皆で議論しながら消費者力を身につけていきます。

教科書 /Textbooks

最初の講義で説明します。補足資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 アプローチの方法
- 2回～ 4回 「題材」の設定と分担、【消費経済】、【インセンティブ】、【消費者力】
- 5回～ 14回 発表とディスカッションその①～その⑩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

受講生自らが積極的にプレゼンテーションを行います。準備を怠らないようお願いいたします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミはある意味、みなさんの心のプラットフォームとも言えます。たがいに譲り、たがいに助け合う、互譲互助の精神で臨みましょう。

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習の基本的なテーマは、「まちを好きになること」「まちに対して興味を持つこと」「まちを知ること」です。それらの点に主眼を置きつつ、2年生以降、まちづくりについて学んでいく上で必要となる基本的な事項や心構えについて理解すること、今後、取り組んでみたいテーマについて皆で話し合い、皆で考えることが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～4回 わが町を紹介する【調査】【プレゼン】
- 5回 地域に関わるプロに学ぶ【マネジメント】
- 6～8回 実習に関する報告【振り返り】
- 9～11回 グループディスカッション
- 12～14回 街角スナップ写真をもとにまちの魅力を探る【フィールドワーク】【景観】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【夜】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 受講生どうしのコミュニケーションや議論を深め、それを通じて演習の中で学んでいく上での基礎固めを行う。特定の問題意識にとらわれず、視野を広げ、それをクラス内で共有することが目的である。

教科書 /Textbooks
 適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 インTRODakシヨン(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、グループ分けetc.)
 2回~14回 文献や映像などを使った問題提起と議論(講師が指定する場合もある)
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度... 50%
 積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講生各自にプレゼンテーションを行ってもらう予定である。講義とは異なり、受講生自身の参加が重要である。
 2年次以降に地域創生実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【夜】

担当者名 中島 俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域福祉のコースでは、地域における介護や子育て支援や人権文化の促進など、個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献できる人材の養成を目指している。基礎演習Cにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には「勇気づけの家族コミュニケーション」(アドラー心理学)という心理学的概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「続アドラー心理学トークンセミナー 勇気づけの家族コミュニケーション」野田俊作著, アニマ21

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「アドラー心理学トークンセミナー 第二部 共同体」野田俊作著, アニマ21

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担決めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(自己課題の開示。メンバーそれぞれの関心事を知る。)
- 3回 家族コミュニケーションについて(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと, 気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと, 気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Dに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の担当箇所の発表内容は配布資料として作成して事前に担当教師まで提出のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【夜】

担当者名 神山 和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次の地域創生基礎演習Bで、「消費者」の行動について広く問題意識を高めることを目指しました。地域創生基礎演習Cでは、行動経済学に関する文献によって各自に「報告テーマ」を割り当てます。そのテーマごとに担当者に発表してもらい、毎回、皆で議論しながら消費者行動や生活者力を身に付けていきます。
これとは別に、地域創生実習Iを受講している皆さんの活動についても、この基礎演習Cで報告してもらい、皆で議論していきます。地域活動の実践と振り返りを重ねながら今後の皆さんの活動に活かしましょう。

教科書 /Textbooks

最初の講義で説明します。補足資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「行動経済学」に関するアプローチの方法
- 2回～ 4回 「題材」の設定と分担、【バイアス】、【ヒューリスティック】、【消費者力】
- 5回～ 14回 発表とディスカッションその①～その⑩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生のより自主的な運営を目指します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「まちについて調べてみる」「まちに対する理解を深める」ことです。様々な地域におけるまちづくりの事例について学びながら、自らテーマを設定し、まちに関する様々な事項について調べることを通して、まちに対する理解を深め、主体的に取り組む姿勢を養うことが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～3回 実習の報告と振り返り【振り返り】
- 4回 今年の活動計画について【計画】
- 5～14回 まちづくりの成功事例を調べて発表する【まちづくり】【文献・データ収集】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習C 【夜】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

1年次の地域創生基礎演習Bでやってきたことを踏まえ、さらに問題意識の裾野を広げることを目的とする。とくに受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。また適宜、地域創生実習Iの振り返りを行う場合もある。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インタロダクション(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、グループ分けetc.)
- 2回~14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度...50% 積極的な演習への参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらう。1年次に引き続き、受講生の参加が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【夜】

担当者名 中島 俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理・メンタルヘルスに関する理論の一つを基礎から応用までをガッチリ学ぶ。地域において個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献するには自分のメンタルを健康にする方法と内容について学ばねばならない。基礎演習Dにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には「あるがまま」(森田療法)という心理療法の概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「森田療法のすべてがわかる本」北西憲二監修，講談社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「神経質の本態と療法」森田正馬著，白揚社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担決めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(メンタル面での自己課題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
- 3回 メンタルにおけるタフさ「あるがまま」について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと，気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと，気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Dに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前の予習を行うこと。必ず当日の予定学習箇所は一読して自分の疑問点や課題を把握しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【夜】

担当者名 神山 和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Cの内容を発展させるため、引き続き基礎演習Dにおいても、行動経済学に関する文献によって各自に「報告テーマ」を割り当てます。テーマごとに担当者に発表してもらい、毎回、皆で議論しながら生活者力を身につけていきます。2年次後半でもあり、特に、自らの報告スタイルに少しでも自信がもてるようなプレゼンテーションを期待しています。
これとは別に、地域創生実習Iを受講する皆さんの活動についても、継続してこの基礎演習Dで報告してもらい皆で議論していきます。
なお、3年次以降の地域創生演習に備え、「卒業論文」や「卒業実践報告」に向けたテーマ決めについても取り組みます。

教科書 /Textbooks

最初の講義で説明します。補足資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回～ 4回 「題材」の再設定と分担、【行動経済学】、【プロスペクト理論】【実習報告】
- 5回～ 14回 発表とディスカッションその①～その⑩
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生のより自主的な参加と、いっそう充実したゼミ運営を目指します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【夜】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この演習の基本的なテーマは、「色々なまちと比較してみる」「まちに対する理解を深める」ことです。様々なまちとの比較を通して自分のまちを客観視することを学び、まちに対する理解をさらに深めること、3年次以降、本格的に地域の調査を始める上で必要となる基本的な事項について学ぶことが、この演習の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～4回 実習に関する報告【振り返り】
- 5～6回 グループディスカッション【職業】
- 7～12回 調査結果の報告【データ収集】【分析】
- 13～14回 実習に関する報告【振り返り】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習D 【夜】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

引き続き地域創生基礎演習Cでやってきたことを踏まえ、問題意識の裾野を広げることを目的とする。とくに受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。また適宜、地域創生実習Iの振り返りを行う場合もある。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インロダクション(講師の自己紹介、受講生の自己紹介、グループ分けetc.)
- 2回~14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50% 積極的な演習への参加... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらう。1年次に引き続き、受講生の参加が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 1 【夜】

担当者名 石塚 優/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することをねらいとする。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。
 授業の特徴としては、①具体的な事例を体系的にとりあげること(社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレスなど)②個別指導並びにグループワークを通して、実技指導(ロールプレイング等)を行うことを挙げることができる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 必要に応じて紹介する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 第2回 ソーシャルワーカーとは専門職か？
 - 第3回 価値観について知る
 - 第4回 人間の平等と尊厳、個性の尊重
 - 第5回 自己実現と社会正義
 - 第6回 受容・利益の優先・自己決定
 - 第7回 プライバシーと秘密保持
 - 第8回 組織への倫理責任
 - 第9回 地域社会への倫理責任
 - 第10回 倫理的ディレンマ
 - 第11回 「インテーク その1」－出会いの場面
 - 第12回 「インテーク その1」－語らいの場面(共感)
 - 第13回 「インテーク その1」－語らいの場面(核心)
 - 第14回 「インテーク その2」－出会いと語らい
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業態度 ... 50% 受講状況 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回、面接練習をするため、必ず自分の担当日までに、面接場面を録画しておく

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 1 【夜】

担当者名 深谷 裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として 概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。
 授業の特徴として、①具体的な事例を体系的にとりあげること（社会的排除、虐待、家庭内暴力、低所得者、ホームレスなど）②個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行うことが、挙げられます。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 2回 ソーシャルワーカーとは専門職か？
 - 3回 価値観について知る
 - 4回 人間の平等と尊厳、個性の尊重
 - 5回 自己実現と社会正義
 - 6回 受容・利益の優先・自己決定
 - 7回 プライバシーと秘密保持
 - 8回 組織への倫理責任
 - 9回 地域社会への倫理責任
 - 10回 倫理的ディレンマ
 - 11回 「インテーク その1」－出会いの場面
 - 12回 「インテーク その1」－語らいの場面（共感）
 - 13回 「インテーク その1」－語らいの場面（核心）
 - 14回 「インテーク その2」－出会いと語らい
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回、面接練習をします。必ず自分の担当日までに、面接場면을録画しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 2 【夜】

担当者名 石塚 優/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
相談援助演習 1 引き続き、2 では社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することをねらいとする。また、専門的援助技術として 概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行う。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
必要に応じて紹介する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第 1 回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 第 2 回 「クライアント理解（アセスメント）」その 1
 - 第 3 回 「クライアント理解（アセスメント）」その 2 医学モデルとストレングス視点
 - 第 4 回 「クライアント理解（アセスメント）」その 3 エコロジカル視点
 - 第 5 回 「プランニング」その 1 プランの作成
 - 第 6 回 「プランニング」その 2 プランのねらいと効果予測の明確化
 - 第 7 回 「インターベンション（介入）」その 1 クライアントへの働きかけ
 - 第 8 回 「インターベンション（介入）」その 2 クライアントの環境への働きかけ
 - 第 9 回 「インターベンション（介入）」SSTを学ぶ
 - 第 10 回 「モニタリング」その 1
 - 第 11 回 「モニタリング」その 2
 - 第 12 回 「効果測定」その 1
 - 第 13 回 「効果測定」その 2
 - 第 14 回 支援の終結
 - 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業態度 ... 50% 受講状況 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
毎回の面接練習に備えて、必ず自分の担当日までに、面接場面を録画しておく

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 2 【夜】

担当者名 深谷 裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助演習 1 に引き続き、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレーイング等）を行います。また、ゼミ合宿を通して、特定課題についての理解を深めます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
- 2回 「クライアント理解（アセスメント）」その1（アウトリーチを含む）
- 3回 「クライアント理解（アセスメント）」その2 医学モデルとストレングス視点
- 4回 「クライアント理解（アセスメント）」その3 エコロジカル視点
- 5回 「プランニング」その1 プランの作成（チームアプローチ、社会資源の活用）
- 6回 「プランニング」その2 プランのねらいと効果予測の明確化
- 7回 「インターベンション（介入）」その1 クライアントへの働きかけ（ネットワーキング）
- 8回 「インターベンション（介入）」その2 クライアントの環境への働きかけ
- 9回 「インターベンション（介入）」SSTを学ぶ
- 10回 「モニタリング」その1
- 11回 「モニタリング」その2
- 12回 「効果測定」その1
- 13回 「効果測定」その2
- 14回 支援の終結
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、面接練習をします。必ず自分の担当日までに、面接場面を録画しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 3 【夜】

担当者名 石塚 優/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
相談援助演習 3 は、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することをねらいとしている。また、専門的援助技術として、概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行い、グループワークとコミュニティワークを中心に学習する。

教科書 /Textbooks
特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション：授業の進め方、留意点、面接練習のためのグループ分け
- 第 2 回 グループワーク①準備期
- 第 3 回 グループワーク②開始期
- 第 4 回 グループワーク③作業期
- 第 5 回 グループワーク④終結期
- 第 6 回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション①地域の問題に気づく
- 第 7 回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション②地域調査・分析①
- 第 8 回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション③地域調査・分析②
- 第 9 回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション④地域福祉の計画と実施
- 第 10 回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション⑤ネットワーキング
- 第 11 回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション⑥社会資源の調整と開発
- 第 12 回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション⑦活動の評価
- 第 13 回 実践事例検討①
- 第 14 回 実践事例検討②
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 50%
演習への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
毎回の面接練習の準備として、自分の担当日までに面接場面を録画し授業の際に持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 3 【夜】

担当者名 深谷 裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。とくにグループワークとコミュニティ・ワークについて中心に学びます。
 なお、ゼミ合宿を通して、特定課題についての理解を深めます。

教科書 /Textbooks
 とくに指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 - 2回 グループワーク① - 準備期
 - 3回 グループワーク② - 開始期
 - 4回 グループワーク③ - 作業期
 - 5回 グループワーク④ - 終結期
 - 6回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域の問題に気づく）
 - 7回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域調査・分析①）
 - 8回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域調査・分析②）
 - 9回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（地域福祉の計画と実施）
 - 10回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（ネットワークング）
 - 11回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（社会資源の調整と開発）
 - 12回 コミュニティワーク&ソーシャルアクション（活動の評価）
 - 13回 実践事例検討①
 - 14回 実践事例検討②
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回、面接練習をします。必ず自分の担当日までに、面接場面を録画し授業の際に持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 4 【夜】

担当者名 石塚 優/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 相談援助演習 4 では、実習中の個別的体験を一般化することにより、相談援助に係る実践的な知識と技術として習得することをねらいとする。また、専門的援助技術として概念化し体系立ることができる能力を養う。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行う。

教科書 /Textbooks
 特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 第 1 回 オリエンテーション：授業の進め方の説明、留意点、面接練習のためのグループ分け
 第 2 ～ 14 回 実践事例（検討と一般化）
 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 50%
 演習への参加度 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回行う面接練習の準備として、自分の担当日までに面接場면을録画し、授業の際に持参する。実習中にかかわった事例や取り組みについての報告に備えて、担当日までにまとめる（プライバシーに十分な配慮をすること）。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助演習 4 【夜】

担当者名 深谷 裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 実習中の個別的な体験を一般化し、相談援助に係る実践的な知識と技術として習得することがねらいです。また、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養います。個別指導並びにグループワークを通して、実技指導（ロールプレイング等）を行います。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 オリエンテーション；授業の進め方の説明、注意点、面接練習のためのグループ分け
 2～14回 実践事例
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 毎回、面接練習をします。必ず自分の担当日までに面接場面を録画し授業の際に持参してください。また、実習中に自分がかかわった事例や取り組みについて報告をしてもらいますので、プライバシーに十分配慮しながら、担当日までにまとめて来て下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助実習指導 1 【夜】

担当者名
/Instructor

坂本 毅啓/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 実習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の3点をねらいとする。
 ①相談援助実習の意義について理解する。
 ②相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。
 ③社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習の意義
- 2.相談援助実習先の理解① 【相談援助実習が可能な機関施設の紹介・説明】
- 3.相談援助実習先の理解② 【高齢者保健福祉分野①】
- 4.相談援助実習先の理解③ 【高齢者保健福祉分野②】
- 5.相談援助実習先の理解④ 【障害福祉分野】
- 6.相談援助実習先の理解⑤ 【福祉事務所・社会福祉協議会等】
- 7.相談援助実習先の理解⑥ 【独立型社会福祉士事務所・医療機関】
- 8.相談援助実習先の決定① 【希望聴取と実習配属】
- 9.相談援助実習先の決定② 【希望聴取と実習配属】
- 10.相談援助実習先の決定③ 【希望聴取と実習配属】
- 11.相談援助実習先の決定④ 【契約書・個人調書(履歴書)等書類の作成】
- 12.相談援助実習先の理解⑦ 【配属先実習分野・機関施設の利用者理解】
- 13.相談援助実習先の理解⑧ 【配属先の根拠・関連法令、運営・経営に関する理解】
- 14.相談援助実習先の理解⑨ 【配属先実習機関施設のある地域に関する理解】
- 15.相談援助実習先の理解⑩ 【配属先実習分野・機関施設の業務理解】
- 16.相談援助実習に向けて 【実習に向けての不安・課題についての話し合い、自己学習計画】
- 17.相談援助実習先の理解⑪ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解①】
- 18.相談援助実習先の理解⑫ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解②】
- 19.相談援助実習先の理解⑬ 【配属先実習分野・機関施設の相談援助業務理解③】
- 20.実習計画の作成① 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 21.実習計画の作成② 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 22.実習計画の作成③ 【実習目標・達成課題・実習計画の作成】
- 23.実習先事前訪問① 【事前訪問の目的、方法、内容等についての説明】
- 24.実習先事前訪問② 【事前訪問の内容確認】
- 25.実習記録ノートの理解① 【ノートの意義、書き方、取り扱い等に関する説明】
- 26.実習記録ノートの理解② 【ノートの書き方演習】
- 27.巡回指導の理解 【巡回指導の目的と内容・担当教員面接】
- 28.倫理・守秘義務等の理解 【倫理綱領・義務規定・個人情報保護法】
- 29.相談援助実習に向けて最終確認 【事故/緊急時対応など】
- 30.実習知識・能力評価 【学習した内容に関する評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題(50点)+期末レポート(50点)=100点
 なお、なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導2」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれかが1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

相談援助実習指導 1 【夜】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目（高齢者保健福祉分野であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」）を履修しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。

- ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
- ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導2」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現場実習に向けた準備科目です。実習で困らないように、しっかりとサポートしていきます。一緒にがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助

相談援助実習指導 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓/地域創生学群

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のための教育カリキュラムによって、内容が構成される科目である。したがって、以下の2点をねらいとする。
 ①社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
 ②具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。

教科書 /Textbooks

社団法人日本社会福祉士養成校協会：監修、白澤政和・米本秀仁：編集『社会福祉士 相談援助実習』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.相談援助実習を終えて
- 2.相談援助実習の振り返り① 【グループワーク、個別面談】
- 3.相談援助実習の振り返り② 【 " " 】
- 4.相談援助実習の振り返り③ 【 " " 】
- 5.相談援助実習の振り返り④ 【 " " 】
- 6.相談援助実習の振り返り⑤ 【 " " 】
- 7.相談援助実習の振り返り⑥ 【実習報告会に向けての準備、実習総括レポートの作成】
- 8.相談援助実習の振り返り⑦ 【 " " 】
- 9.相談援助実習の振り返り⑧ 【 " " 】
- 10.相談援助実習の振り返り⑨ 【 " " 】
- 11.相談援助実習の振り返り⑩ 【 " " 】
- 12.相談援助実習の振り返り⑪ 【 " " 】
- 13.相談援助実習の振り返り⑫ 【 " " 】
- 14.相談援助実習の振り返り⑬ 【 " " 】
- 15.実習報告会の開催 【実習報告、全体総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題(50点) + 期末レポート(50点) = 100点
 なお、なお、本科目は「相談援助実習」及び「相談援助実習指導1」との連携科目であり、いずれかのみでの単位認定は行わない。そのため、本科目の評価が合格点に達していても、連携科目のいずれか1つでも不合格となると、連動して3つの科目を全て不合格点として扱う。また、その逆もあり得る。詳細については講義時に説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

社会福祉士国家試験受験資格取得のための重要な科目です。あらかじめ、「現代社会と福祉」、「相談援助の基盤と専門職」については必ず履修済みであること。それ以外にも、希望する実習分野に関する科目(例えば高齢者保健福祉分野を希望する場合であれば「高齢者に対する支援と介護保険制度」)を履修しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目である。したがって、次の2点を履修する前提条件とする。
 ①社会福祉士国家試験受験資格を取得する意志があること。
 ②同年度に「相談援助実習」及び「相談援助実習指導1」を履修登録すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現場実習を終えて、学んだことをふりかえる仕上げの科目です。実習で学んだことを磨き、自分の宝物にしてください。一緒にがんばって行きましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、相談援助

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 中島 俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで地域福祉のコースでは、地域における様々な問題に対して関心を払い、個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献できる人材の養成を目指してきた。地域創生演習Aにおいては、このための実践的理論をさらに補強、会得することをねらいとする。具体的には「共同体」（アドラー心理学）という心理学的概念について学ぶ。

教科書 /Textbooks

「アドラー心理学トークンセミナー 第二部 共同体」野田俊作著，アニマ21

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担当決めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(自己課題の開示。メンバーそれぞれの関心事を知る。)
- 3回 共同体について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当個所発表と討議①(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 5回 担当個所発表と討議②(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 6回 担当個所発表と討議③(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 7回 担当個所発表と討議④(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 8回 担当個所発表と討議⑤(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 9回 担当個所発表と討議⑥(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 10回 担当個所発表と討議⑦(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 11回 担当個所発表と討議⑧(自分の担当個所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Bに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当個所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところは深く掘り下げて自己の学び方の基礎を構築してもらいたいと思う。

3年次以降に地域創生実習IIを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に実習に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に卒業研究を目指しての個別の学習テーマが与えられることがあります。

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

自分の担当箇所の発表内容は配布資料として作成して事前に担当教師まで提出のこと。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%

積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の担当箇所の発表内容は配布資料として作成して事前に担当教師まで提出のこと。

地域創生演習 A 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 神山 和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 これまでの基礎演習の成果をふまえ、各自が、より実践的・具体的な研究テーマを設定する。資料収集、ヒアリング、実験など可能なアプローチを皆で議論しながら展開する。4年次の卒論等に向けた中間報告の前期と位置づける。

教科書 /Textbooks
 最初の演習で紹介する。補足資料は適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 スケジュール発表
 2回～14回 「題材」の設定と分担発表 【行動経済学】 【まちづくり実践】 【地域調査】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 積極的な演習への参加 ...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 担当発表の準備とは別に、自ら設定した研究テーマの取り組みのため、「まちづくり調査」をしてもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 片岡 寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この演習の基本的なテーマは、「地域の特色や課題を整理してみる」「様々な要素間の因果関係について考える」ことです。4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告に向けた第一歩として、様々な統計データを収集したり、フィールドワークによる調査結果をまとめたりするなど、地域について様々な側面からアプローチして、地域の課題や特色について、各自が主体的に考えることがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks

使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2回 テーマの設定【問題意識の明確化】
- 3～4回 実習活動に関する報告【振り返り】
- 5～8回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 9回 特別講師【ディスカッション】
- 10～14回 各自が設定したテーマに関する報告2【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次までの演習や実習の内容を振り返った上で、4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告において、どんなことをテーマとして取り組んでいきたいか、各自が事前にしっかりと考えておいて下さい。(その内容について、第2回のテーマ設定で発表してもらいます。)
正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

2年次の地域創生基礎演習C・Dでやってきたことを踏まえ、さらに問題意識の定着を図ることを目的とする。受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。課題についての調査プランの作成をめざす。

教科書 /Textbooks

適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回～14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらう。2年次に引き続き、受講生の参加が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習 A 【夜】

担当者名 小野 憲昭/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

わたしたちの日常の財産取引と家族関係を規律する基本的な法律である民法の基礎を学ぶとともに、生きた法律である判例を通じて、法律がこの世の中でどのように運用されているのかを知り、民法が理想とする人間関係のあるべき姿と一緒に考えたいと思っています。

教科書 /Textbooks

我妻栄著遠藤浩＝良永和隆補訂『民法〔第8版〕』勁草書房 2007年 2,200円を使用します。その他、必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-民法の学び方
- 2回 文献検索の方法
- 3回 事例研究の方法
- 4回 判例研究の方法
- 5回 研究報告と討論
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組み課題の達成度・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、「民法概論I」、「民法概論II」、「民法総則」、「物権法」、「家族法」をすでに受講した場合は、本演習により、理解がより深いものになります。
六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。十分に準備して積極的に報告や討論に参加していただきたいと思っています。

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 中島 俊介/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理・メンタルヘルスに関する理論の一つをより深めて学ぶ。地域において個人がより健康で幸福に生きていけるような「福祉の価値」の実現に貢献するには自分のもとより他者を支援して地域のメンタルをより健康にする方法と内容について学ばねばならない。地域創生演習Bにおいては、このための実践的理論の一つを会得することをねらいとする。具体的には森田療法をより深く学ぶ。

教科書 /Textbooks

「神経質の本態と療法」森田正馬著 白揚社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(分担決めetc.)
- 2回 ウォーミングアップ(メンタル面での自己課題の開示。メンバーそれぞれの課題を知る。)
- 3回 森田療法について(学ぶ意義の理解と共有。)
- 4回 担当箇所発表と討議①(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 5回 担当箇所発表と討議②(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 6回 担当箇所発表と討議③(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 7回 担当箇所発表と討議④(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 8回 担当箇所発表と討議⑤(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 9回 担当箇所発表と討議⑥(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 10回 担当箇所発表と討議⑦(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 11回 担当箇所発表と討議⑧(自分の担当箇所を発表する。議論する)
- 12回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 13回 全体討議を通して考えたこと、気づいたことについて議論する。
- 14回 演習Bに向けての議論と展望を得る
- 15回 まとめ

上記に示すように担当箇所発表と討議が重要である。テキストだけにとどまらず、関連した文献や自己の体験を踏まえて議論に参加してもらいたい。広くそして興味のあるところはさらに深く掘り下げてもらいたいと思う。

3年次以降に地域創生実習IIを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に実習に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に卒業研究を目指しての個別の学習テーマが与えられることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前の予習を行うこと。必ず当日の予定学習箇所は一読して自分の疑問点や課題を把握しておくこと。

地域創生演習B 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 神山 和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 地域創生演習Aの進捗をふまえ、引き続き、受講生の決めた主体的なテーマに関し、その研究結果を皆で議論する。4年次の卒論等へ受けたより具体的な成果をあげることを目指す。

教科書 /Textbooks
 適宜紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介し、補足資料も配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	創生演習Aの振り返り
2回～14回	「題材」の設定と分担発表 【行動経済学】 【まちづくり調査】
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度	...	50%
積極的な演習への参加	...	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 受講生のより自主的・積極的な運営を期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 片岡 寛之/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
この演習の基本的なテーマは、「地域の特色や課題を整理してみる」「様々な要素間の因果関係について考える」ことです。4年次の卒業論文もしくは卒業実践報告に向けて、自分なりの地域に対する問題意識をもとに、関連する様々な要素について調べることでその要因を探るとともに、その解決方法について各自が考えることがこの演習の目的です。

教科書 /Textbooks
特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜指示する、もしくは資料を配付します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【目標の共有】
- 2～4回 実習活動に関する報告【振り返り】
- 5～8回 各自が設定したテーマに関する報告1【調査分析】【発表】
- 9回 特別講師【ディスカッション】
- 10～14回 各自が設定したテーマに関する報告2【調査分析】【発表】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。また、上記テーマに関連して、正規の授業時間外(土曜日や日曜日を含む)にフィールドワークなどの調査活動を実施することがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
引き続き地域創生演習Aでやってきたことを踏まえ、問題意識の定着を図ることを目的とする。とくに受講生自身が課題を設定し、資料を集め、調べたことを報告するというスタイルを重視する。1学期に作成した調査プランの実施を試みる。

教科書 /Textbooks
適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
1回 イントロダクション
2回～14回 受講生自身の課題設定にもとづいた報告と議論
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
受講生自身で、資料を用意し、プレゼンテーションを行ってもらう。1学期に引き続き、受講生の参加が重要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生演習B 【夜】

担当者名 小野 憲昭/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

わたしたちの日常の財産取引と家族関係を規律する基本的な法律である民法の基礎を学ぶとともに、生きた法律である判例を通じて、法律がこの世の中でどのように運用されているのかを知り、民法が理想とする人間関係のあるべき姿と一緒に考えたいと思っています。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 判例・文献検索の方法
- 3回 判例研究の方法-判例の読み方
- 4回 判例研究の方法-判例のまとめ方
- 5回 判例研究の方法-判例研究の仕方
- 6回 研究報告と討論
- 7回 研究報告と討論
- 8回 研究報告と討論
- 9回 研究報告と討論
- 10回 研究報告と討論
- 11回 研究報告と討論
- 12回 研究報告と討論
- 13回 研究報告と討論
- 14回 研究報告と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度・・・50% レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」、「民法概論I」、「民法概論II」、「民法総則」、「物権法」、「家族法」をすでに受講した場合は、本演習により、理解がより深いものになります。
六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律学の勉強は、生きた法律問題を自分で考え、主体的に取り組むのでなければ効果は上がりません。十分に準備して積極的に報告や討論に参加していただきたいと思っています。

キーワード /Keywords

地域コーディネート論【夜】

担当者名 西田 心平/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地域を舞台とした人と人との様々な関わり合いを、「コーディネート」という視点からとらえ直す。分かりやすい事例を1つ1つ授業の中で検討していきながら、「コーディネートする」とはどういうことが、みんなで考える。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「コーディネート」という視座について
 - 2回 地域社会の変化について①
 - 3回 地域社会の変化について②
 - 4回 地域社会の変化について③
 - 5回 地域社会の変化について④
 - 6回 中間まとめと課題提起
 - 7回 課題の実施
 - 8回 地域再生とコーディネート
 - 9回 福祉とコーディネート
 - 10回 まちづくりとコーディネート
 - 11回 受講生からの提起①
 - 12回 受講生からの提起②
 - 13回 地域の「私」「公」「共」①
 - 14回 地域の「私」「公」「共」①
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では、テーマに即してレジюмеや資料を配布する。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジюмеを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域調査論 【夜】

担当者名 神山 和久/地域創生学群
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義は、地域社会で起こる事象を対象として、地域の問題発見とその主体的な解決のため実施される「地域調査」について、より実践的な知識を習得することがねらいです。

このため、具体的に調査結果がどのように報告され活用されるのかについても詳しく解説します。主な内容は、「まちづくり」を基調テーマとし、継続的に実施される行政世論調査や消費者の意識と行動調査などを取り上げる予定です。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業の前に資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考文献を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに -地域調査はなぜ必要か
- 2回 調査の分類-調査方法はたくさんあるけれど
- 3回 統計資料から読めること-データを見て考えよう【官庁統計】
- 4回 データ読み取りに際しての注意事項①【基準値のあやまり】【少数の法則】
- 5回 データ読み取りに際しての注意事項②【人間的なあやまり】【ヒューリスティクス】
- 6回 世論調査について① - 質問文作成の要領と注意点【ステレオタイプ】
- 7回 世論調査について② - 質問文作成ルールの復習【レポート】
- 8回 世論調査について③ - 質問文のあやまりとその限界
- 9回 世論調査について④ - 調査実施手順【RDD】
- 10回 地域調査事例とその読み方①【まちづくり調査事例】
- 11回 地域調査事例とその読み方②【標本適合度】
- 12回 地域調査事例とその読み方③【重要度・満足度調査】
- 13回 地域調査事例とその読み方④【検定】【順位法】
- 14回 地域調査事例とその読み方⑤【多変量解析】【因子分析】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 期末レポート(ミニレポート含む)...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業のなかで小テストを行います。また、実際にデータ分析(電卓使用)してもらったこともあります

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【夜】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科
 狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識
- 3回 第1回講演会
- 4回 福祉NPO(1)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(2)-社会福祉法人
- 7回 第3回講演会
- 8回 環境NPO(1)
- 9回 第4回講演会
- 10回 環境NPO(2)
- 11回 第5回講演会
- 12回 まちづくりNPO(1)
- 13回 第6回講演会
- 14回 まちづくりNPO(2)
- 15回 講義のまとめおよびレポートについての説明

成績評価の方法 /Assessment Method

出席(授業貢献) ... 50 % レポート... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、環境NPO、まちづくりNPO

地方自治論【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、幅広く地方自治についての基礎理解をめざす。

教科書 /Textbooks

山本隆・難波利光・森裕亮『ローカルガバナンスと地方行財政』（2008年）ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業のガイダンス
- 2回 地方自治の理念【地方自治とは】
- 3回 自治体首長と中央地方関係①【明治・大正時代の地方自治史】
- 4回 自治体首長と中央地方関係②【機関委任事務のしくみ】
- 5回 自治体首長と中央地方関係③【首長と議会】【二元代表制】
- 6回 自治体首長と中央地方関係④【中央地方関係】
- 7回 自治体首長と中央地方関係⑤【地方分権改革】【法定受託事務】
- 8回 自治体広域化と地方自治①【自治体の規模論】
- 9回 自治体広域化と地方自治②【市町村合併】
- 10回 自治体広域化と地方自治③【自治体内分権】
- 11回 地方財政と地方自治①【地方財政の基礎編】
- 12回 地方財政と地方自治②【地方債の役割】
- 13回 地方財政と地方自治③【各地の財政改革と住民参加】
- 14回 これからの地方自治【パートナーシップ】【住民自治】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100% (試験といっても、講義で習得した知識のみならず、日頃からの政治行政に対する観察力、そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。日本行政論をとっておくとより理解が深まる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権

福祉政策論【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理（行政計画、政策評価、人事・組織・予算管理）など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 自治体間の保険料格差
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化）
- 第9回 「児童福祉」 男女共同参画をめぐる議論
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第12回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第13回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第14回 「利用者保護制度」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%
 毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点から2点程度減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

介護や障害者福祉に関心を持っておいください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

景観まちづくり論【夜】

担当者名 /Instructor 片岡 寛之/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義の基本的なテーマは、「景観」と「まちづくり」です。景観まちづくりの思想や法制度について様々な視点から学び、各地の事例についてレビューすることで、景観を通じたまちづくりのあり方、景観まちづくりの本質について考えることが、この講義の目的です。

教科書 /Textbooks
 使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 日本建築学会 著『まちづくり教科書 第8巻 景観まちづくり』
 日本建築学会 編『景観法活用ガイド 市民と自治体による実践的景観づくりのために』
 日本建築学会 著『まちづくりデザインのプロセス』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 都市の景観について【景観】【調査指標】
- 3回 都市デザインの進め方①【都市】【デザイン】
- 4回 都市デザインの進め方②【都市】【デザイン】
- 5回 都市デザインの進め方③【都市】【デザイン】
- 6回 景観法について①【景観】【法制度】
- 7回 景観法について②【景観】【法制度】
- 8回 景観法について③【景観】【法制度】
- 9回 特別講師による講義【設計】【都市美】
- 10回 景観法による景観まちづくり①【法制度】
- 11回 景観法による景観まちづくり②【法制度】
- 12回 事例紹介とレビュー
- 13回 事例紹介とレビュー
- 14回 意見発表会
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義中に取り組む課題の達成度 ... 50%
 期末試験もしくはレポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 とくになし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

まちづくり実践論【夜】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 3年 /3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

地方分権・地域主権社会においては、市民、コミュニティ、各種団体、企業、行政・議会等、地域の多様な主体がそれぞれの役割を担って「まちづくり」に参画する新しい地域経営の仕組みづくりと、その実践が必要です。この授業では、現在の「まちづくり」を取り巻く諸状況や課題を踏まえた上で、今後の地域経営のあり方や地域の各主体が果たすべき役割等について事例研究を交え学んでいきます。それを通じ、履修者が今後「まちづくり」を実践していくにあたっての必要となる多様な視点ならびに応用力を涵養することを目指します。

※「まちづくり」という用語は、学問分野あるいは使用する人によって多様な使い方が行われています。本授業では、都市や地域にとって必要で、多様な主体によって形づくられているハード・ソフト両面を対象に、幅広い観点で「まちづくり」をとらえていきます。

教科書 /Textbooks

使用しません。適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『自治体のアウトソーシング』（今井照 著）学陽書房
 - 『まちづくりの実践』（田村明 著）岩波書店（岩波新書615）
 - 『市民参加と合意形成』（原科幸彦 編著）学芸出版社
- その他、適宜授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 新しい地域経営を巡る動き
- 3回 PPP（公民連携）の手法と課題
- 4回 事例① PPP（公民連携）によるソフト事業
- 5回 事例② PPP（公民連携）によるハード整備・運営
- 6回 市民協働・参加型まちづくりの手法と課題
- 7回 事例③ プロスポーツとまちづくり
- 8回 事例④ 観光とまちづくり
- 9回 事例⑤ 安全・安心とまちづくり（1）
- 10回 事例⑥ 安全・安心とまちづくり（2）
- 11回 まちづくりに関する合意形成の手法と課題
- 12回 事例⑦ 新しい合意形成の試み
- 13回 コミュニティ・ビジネス（1）
- 14回 コミュニティ・ビジネス（2）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・平常点（授業への積極的参加）30%
- ・レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特にありません。

履修上の注意 /Remarks

日頃から「まちづくり」へ幅広い関心を持ち、自分なりに情報収集や考察を行うよう意識してください。なお、本授業は講義を中心に進めますが、履修者による発表・討議を行うことも想定しています（履修者数に応じ進め方を決定）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業はよりよいまちづくり実践活動を行うための視点や知識を教室で学ぶことを目的としています。履修者が授業中に直接「まち」に出て、授業内で直接的に実践活動を行うものではない点に留意してください。

キーワード /Keywords

PPP（公民連携） 市民協働 参加型まちづくり 合意形成

ものづくりマネジメント論【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

工業先進国であるわが国の「ものづくりの現場」が、どのようなしくみで、どのようなことを行い、利益を産み出しているのか、ものづくりの基本を「管理（工場管理）の視点」から学びます。

また、円高や地域経済統合、新興国の台頭など、ビジネス環境が目まぐるしく変化する中で、わが国のものづくりがどのように変貌していかうとしているのか、一緒に考えます。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメ及びプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ものづくりとは【製造業の機能と経営環境】
- 2回 生産システム【生産形態】
- 3回 生産管理【生産方式】
- 4回 " 【生産計画】
- 5回 " 【生産統制】
- 6回 品質管理【品質管理手法】
- 7回 " 【標準化】【ISO9000s】
- 8回 原価管理【原価計算】
- 9回 " 【コストダウン】
- 10回 外注管理、購買管理、在庫管理
- 11回 設備管理、レイアウト管理
- 12回 組織間連携【販売vs.生産】【製品設計vs.生産】
- 13回 グローバル化と情報化【SCM：サプライチェーンマネジメント】
- 14回 環境マネジメント【CSR：企業の社会的責任】【ISO14000s】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト・課題含む）... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日頃からものづくりに関心を持って下さい。
 (例、身近な製品がどうやって作られているのか、興味を持って考えてみる)
 (例、新聞・雑誌・TVなどのメディアを通じて、ものづくり企業に関する情報を収集する)

履修上の注意 /Remarks

ものづくりマネジメント論 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

技術立国「日本」の繁栄を牽引してきたものづくりの現場が大きく変わろうとしています。円高を契機に、ものづくりの現場が海外へ移転しつつあります。このことは雇用を喪失させ、ひいては技術・技能を弱体化させ、その結果、日本の国力が衰退の一途を辿ることになります。この機会にもものづくりについて考えてみませんか？

キーワード /Keywords

法学総論【夜】

担当者名 徳永 達哉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、契約中心の法化社会へ移行しつつある現代社会において必要とされている基本的な法的知識を理解することを目標とします。また、法学についての基本的な考え方を習得することも講義のねらいとします。講義では、日常的な事例を挙げて説明します。日常生活が如何に法に密接に結びついているかを理解してもらいたいと思います。

教科書 /Textbooks

六法 (出版社の指定はありません)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

法律用語辞典 (出版社の指定はありません)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 法学を学ぶにあたって「闘争」を意識する。
- 2回 社会規範について、法と道徳との違い。
- 3回 法源、六法、法令の調べ方と読み方。
- 4回 判例の調べ方と読み方。
- 5回 裁判制度と法曹
- 6回 民事訴訟と刑事訴訟
- 7回 裁判員制度
- 8回 経済生活と法1 (民法と契約の種類)
- 9回 経済生活と法2 (契約と債務不履行)
- 10回 経済生活と法3 (民法の意思表示)
- 11回 経済生活と法4 (クーリングオフ)
- 12回 家族と法
- 13回 国家と法1 (社会契約としての公法)
- 14回 国家と法2 (人権と国家権力)
- 15回 国家と法3 (違憲審査権)

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度(20%) + 知識の確認課題(40%) + レポート課題(40%)を総合的に評価します。
※受講態度は減点方式で評価します。私語・途中入退室・携帯電話など講義妨害行為を広く減点対象としております。講義の1回目で詳細を解説し9回目に再度確認します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義は教科書に則して進めますが、情報量が非常に多いです。耳慣れない用語は予め辞書などで調べておいてください。
受講後に気になる用語があれば必ず辞書などで再確認してください。

履修上の注意 /Remarks

範囲が広いため講義の速度が速いです。一瞬でも聞き逃しますと講義について来れなくなりますので、集中力を切らさないようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学総論【夜】

キーワード /Keywords

憲法人権論 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①
- 第12回 社会権②
- 第13回 人身の自由
- 第14回 参政権
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会法総論 【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

今日の社会生活は、基礎法である民法だけでなく、それに加えて広範な社会法によって規律されている。現代社会法は、労働法、社会保障法、衛生法などの法分野を包摂し、日本国憲法25条の生存権の具体化と関連の深い法分野である。近年の経済社会の変動を背景にして、福祉国家の発展のために、社会法に寄せられる国民の期待には大きなものがある。この授業では、人権が尊重される民主的な福祉社会、安心して暮らせる豊かな社会、相互の尊重で支えられる共生社会ないし包摂的社会など、現代社会における人々の社会生活の向上のために、社会法が果たしている役割と、そのために開発されてきた社会法独自の法的方法およびそれぞれの法分野の特徴を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

ワープロで作成したテキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

河野正輝他編「社会保障論」法律文化社、浜村彰他著「ベーシック労働法」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会法とは
- 2回 市民法から社会法へ 近代法の変容と社会立法の発生 [工場法、救貧法、労働者保険]
- 3回 近代法原理と20世紀的憲法 [契約自由、市場原理、公共の福祉]
- 4回 社会法の意義と役割 [朝日訴訟、労働権、社会保障制度審議会勧告]
- 5回 社会法の体系と法的特徴 [公的規制、公的給付、特別私法]
- 6回 福祉国家の公法と私法の社会性 [積極国家、民法1条、社会サービスの法律関係]
- 7回 現代社会と貧困 [ワーキングプア、見えない貧困、非正規労働者、ホームレス]
- 8回 労働法の体系と目的 [労働条件の最低基準、団結権]
- 9回 所得保障法の体系と目的 [生活費の保障、特別費用の保障]
- 10回 社会サービス法の体系と目的 [医療・介護・福祉サービス]
- 11回 衛生法の体系と目的 [医事法、予防衛生、環境衛生]
- 12回 社会権の保護と救済 [権利擁護、審査請求、労働審判]
- 13回 経済社会的背景の転換と社会法の変容 [規制緩和、給付削減]
- 14回 諸外国の社会法改革の動向 [アクティベーション、プライベートイゼーション]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講前に参考文献の関係箇所を一読しておく、講義内容が解りやすい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法と犯罪I【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法と犯罪I・II」においては、犯罪の発生から、捜査、公判（裁判）を経て、刑の執行（刑務所への収容など）に至る刑事司法過程の全体を概観することを目的としている。この意味で、この科目を、刑事法、すなわち法学の専門科目である刑法（刑法総論・刑法各論）、刑事訴訟法、犯罪者処遇法、犯罪学（本学法学部での提供科目名は、これと異なることに注意されたい。）などの入門科目と位置づけている。

「法と犯罪I」においては、犯罪と刑罰に関する法である「刑法」を概説する。刑法学の課題は、どのような行為が犯罪として刑罰という重大な不利益を科されるのか、あるいはどのような行為であれば犯罪とはされないのかという、犯罪の根拠と限界とを明らかにし、犯罪の成否に関する判断基準（規範）を定立することにある。具体的事例をもとにして、刑法解釈論における基本的テーマを取り上げて考察していく。

教科書 /Textbooks

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』4版（有斐閣・2010.03）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山中敬一『刑法概説I総論』（成文堂・2008.10）
- 山中敬一『刑法概説II各論』（成文堂・2008.10）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1回 ガイダンス、犯罪論の基本構造
- 2回 刑罰論
- 3回 人の生命・身体に対する罪
- 4回 財産罪(1)
- 5回 財産罪(2)
- 6回 社会的法益に対する罪
- 7回 国家的法益に対する罪
- 8回 罪刑法定主義、構成要件論
- 9回 違法論・責任論
- 10回 実行行為と未遂罪、不作為犯
- 11回 因果関係論
- 12回 緊急行為（正当防衛・緊急避難）
- 13回 故意・過失、錯誤
- 14回 正犯と共犯
- 15回 間接正犯と共同正犯

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 100%
 随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義を受講した後に、「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」、「刑事司法政策I・II」を受講することを勧める。また、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

履修上の注意 /Remarks

テキストの該当箇所を熟読して講義に臨むこと。

法と犯罪I【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゆっくり、丁寧に、しかし着実に学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法入門 刑法 刑法総論 刑法各論

法と犯罪II【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「法と犯罪II」においては、犯罪の発生から、捜査、公判（裁判）を経て、刑の執行（刑務所への収容など）に至る刑事司法過程の全体を概観することを目的としている。この意味で、この科目を、刑事法、すなわち法学の専門科目である刑法（刑法総論・刑法各論）、刑事訴訟法、犯罪者処遇法、犯罪学（本学法学部での提供科目名は、これと異なることに注意されたい。）などの入門科目と位置づけている。

「法と犯罪II」においては、捜査と公判（裁判）に関する法である「刑事訴訟法」と、刑の執行に関わる問題を扱う「犯罪者処遇法」を概説する。逮捕・勾留、捜索・押収といった、被疑者・被告人の身柄の確保及び証拠の収集・保全という捜査活動を規律する手続と、検察官の主張が証拠により立証されているのかを確認する公判（裁判）を規律する手続を概説することが、刑事訴訟法の課題である。そして、有罪が確定した者に対して、どのようにして刑罰という不利益を科していくことになるのかを検討するのが犯罪者処遇法の課題である。具体的事例をもとにして、基本的テーマを取り上げて考察していく。

教科書 /Textbooks

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』4版（有斐閣・2010.03）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○田口守一『刑事訴訟法』5版（弘文堂・2009.3）
 ○守山正 / 安部哲夫（編著）『ビギナーズ刑事政策』（成文堂・2008.06）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※履修者の理解度その他の理由により進捗状況が前後することがある。

- 1回 ガイダンス、刑事司法過程の全体構造（犯罪の発生から刑罰の執行まで）
- 2回 刑事訴訟法の基礎（刑事訴訟の2つのタイプ、刑法と刑事訴訟法の関係）
- 3回 刑事訴訟法を規律する基本原理（プライバシー原理、弾劾主義、無罪推定の原則、当事者主義とか）
- 4回 捜査の基礎(1)逮捕・勾留、取調
- 5回 捜査の基礎(2)捜索・押収、鑑定
- 6回 捜査の基礎(3)新しい捜査方法
- 7回 公訴の提起、訴追裁量の規律
- 8回 証拠調手続と証拠法則
- 9回 自白法則
- 10回 裁判と上訴・再審
- 11回 犯罪者処遇の基礎
- 12回 犯罪予防と刑事制裁（刑罰と保安処分）
- 13回 施設内処遇・社会内処遇
- 14回 犯罪被害者の支援
- 15回 修復的司法

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート... 100%
 随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストの該当箇所を熟読して講義に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

この講義を受講した後に、「刑法犯罪論」、「刑法犯罪各論I・II」、「刑事訴訟法総論・各論」、「犯罪学」、「刑事司法政策I・II」を受講することを勧める。また、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧める。

法と犯罪II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゆっくり、丁寧に、しかし着実に学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

刑事法入門 刑事訴訟法 刑事政策 犯罪者処遇法 犯罪学 刑事学

憲法機構論 【夜】

担当者名 /Instructor 植木 淳 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における統治機構の構造について概説するとともに、そのことを通じて現代日本の政治システムについても検討する。1946年の日本国憲法制定によって、「国民主権」を基調とする政治体制が選択されたとはいえ、「民主主義」あるいは「権力分立」の理想型は一樣なものではない。更には、現実の社会・経済・文化的要素も政治実践の在り方に大きな影響を与えうる。本講義では、日本国憲法における民主主義制度を、理論と実践との関連を意識しながら概説していく。講義全体のキーワードは【民主主義】と【権力分立】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法(第4版)』(岩波書店・2007年)
- 長谷部恭男『憲法(第4版)』(新世社・2008年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 統治総論① - 統治機構総論
- 第2回 統治総論② - 民主主義の歴史
- 第3回 統治総論③ - 立憲主義の展開
- 第4回 統治総論④ - 日本憲法史
- 第5回 国民主権と象徴天皇制
- 第6回 国会(立法権)① - 国会・議院の構成
- 第7回 国会(立法権)② - 国会・議院の権限
- 第8回 内閣(行政権)① - 内閣制度と行政権
- 第9回 内閣(行政権)② - 行政システムの変貌
- 第10回 裁判所(司法権)① - 司法権の範囲と限界
- 第11回 裁判所(司法権)② - 裁判所制度と違憲審査制
- 第12回 選挙制度・政党制度 - 選挙制度改革と政党国家化
- 第13回 地方自治 - 地方自治制度の根幹と展開
- 第14回 総括
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法総論【夜】

担当者名 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

テーマ「行政を規律する法システムの基本原理」

今日の行政の活動はわれわれの生活の隅々にまで及び、われえあれの生活自体もまた行政の活動に大きく依存している。そのような行政の活動を規律する法システムとしての行政法の基本原則について学ぶことがこの講義の内容である、具体的には、法律による行政統制の基本原則、行政の組織と機関、行政の活動過程の統制、行政活動における市民(私人)の権利保障、行政活動の実効性を確保する手段等がその内容である。

教科書 /Textbooks

手島孝他編『新基本行政法学』(2011年予定、法律文化社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 塩野宏他編『行政判例百選I(第五版)』(2006年、有斐閣)
- 同上『行政判例百選II(第五版)』(同上)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 第1回 行政法とはどのようなものか | 第16回 行政行為・行政処分の意義 |
| 2回 行政法の成立とその構造 | 17回 行政行為・行政処分の効力 |
| 3回 行政法の法源 | 18回 行政行為・行政処分の瑕疵 |
| 4回 行政法の法源(その2) | 19回 行政契約 |
| 5回 法律による行政の原理 | 20回 行政指導 |
| 6回 法律による行政の原理(その2) | 21回 行政計画 |
| 7回 行政手続法 | 22回 行政調査 |
| 8回 行政手続法(その2) | 23回 行政活動の実効性確保手段の意義 |
| 9回 行政主体の意義と種類 | 24回 行政上の強制執行 |
| 10回 行政機関 | 25回 行政罰 |
| 11回 行政組織 | 26回 即時強制 |
| 12回 権限の委任と代理 | 27回 その他の手段 |
| 13回 行政機関相互の関係 | 28回~30回 まとめ |
| 14回 行政の行為形式論 | |
| 15回 行政立法 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験90% 課題10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

行政法は応用的科目であるから、憲法、民法、刑法を履修していること(履修中を含む。)が望ましい。専門科目であるから、当然ながら、予習・復習がないと理解は困難である。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論は、国家補償法、行政訴訟法、地方自治法等の他の行政法科目を履修するために必要不可欠な科目である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

家族法 【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

家族法（親族法・相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思いがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。

教科書 /Textbooks

木幡文徳他著『講説親族法・相続法[第2版]』不磨書房 / 信山社（2007年8月）3,000円、水野紀子他編著『家族法判例百選（第7版）』有斐閣（2008年10月）2,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○泉久雄『親族法』有斐閣 3,500円、○中川善之助＝泉久雄『相続法[第4版]』有斐閣 6,000円、○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』法律文化社 3,800円、○二宮周平『家族法〔第2版〕』新世社 3,100円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
- 2回 婚姻制度①【婚姻】【婚約】【内縁】
- 3回 婚姻制度②【婚姻】【婚約】【内縁】
- 4回 婚姻制度③【婚姻】【婚約】【内縁】
- 5回 離婚制度①【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 6回 離婚制度②【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 7回 離婚制度③【協議離婚】【裁判離婚】【財産分与】
- 8回 親子制度①【実子】【養子】【親権】【後見】
- 9回 親子制度②【実子】【養子】【親権】【後見】
- 10回 親子制度③【実子】【養子】【親権】【後見】
- 11回 扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
- 12回 法定相続制度①【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 13回 法定相続制度②【相続人】【相続分】【遺産分割】
- 14回 遺言相続制度【遺言】【遺言執行】【遺留分】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「法律の読み方」「民法総則」、「物権法」を既に履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。「債権総論」と併せて受講することをお勧めします。講義には必ず六法を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

会社法I【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Iでは、会社における意思決定の仕組みや経営の監督に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 会社法総論(1)【個人企業】【組合】【法人】
- 3回 会社法総論(2)【合名会社】【合資会社】【合同会社】【株式会社】
- 4回 会社法総論(3)【株式会社の基本構造】
- 5回 株式会社の機関(1)【株主総会(1)】
- 6回 株式会社の機関(2)【株主総会(2)】
- 7回 株式会社の機関(3)【代表取締役と取締役会(1)】
- 8回 株式会社の機関(4)【代表取締役と取締役会(2)】
- 9回 株式会社の機関(5)【監査役】【会計監査人】
- 10回 株式会社の機関(6)【委員会設置会社】
- 11回 株式会社の機関(7)【善管注意義務と忠実義務】【利益相反取引】【役員報酬】
- 12回 株式会社の機関(8)【役員等の会社に対する責任】
- 13回 株式会社の機関(9)【役員等の第三者に対する責任】
- 14回 株式会社の機関(10)【株主代表訴訟】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、会社法IIも受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会社法Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 高橋 衛 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

会社法は、会社の組織や運営の基本的な枠組みを規定しており、会社の誕生から消滅に至るまで、会社という形態を利用してビジネスを行う場合に従わなければならない様々なルールを定めています。会社法Ⅱでは、企業の資金調達や会計、M&A等の会社の財務面に関わる法制度を中心に説明します。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社の資金調達(1) 【株式の種類】
- 3回 株式会社の資金調達(2) 【株式の譲渡】 【自己株式】
- 4回 株式会社の資金調達(3) 【株式の発行】
- 5回 株式会社の資金調達(4) 【株式発行の瑕疵】
- 6回 株式会社の資金調達(5) 【新株予約権】
- 7回 株式会社の資金調達(6) 【新株予約権発行の瑕疵】
- 8回 株式会社の資金調達(7) 【社債】
- 9回 株式会社の計算(1) 【貸借対照表】 【損益計算書】
- 10回 株式会社の計算(2) 【剰余金の配当】
- 11回 株式会社の計算(3) 【資本金の減少】 【財務構成の変更】
- 12回 株式会社の組織再編(1) 【概要】 【事業譲渡】
- 13回 株式会社の組織再編(2) 【合併】 【会社分割】
- 14回 株式会社の組織再編(3) 【株式交換】 【株式移転】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

会社法全体を理解するために、まず会社法Ⅰから受講することを勧めます。
また、法律科目では民法の財産法部分(民法総則、債権法等)、経済科目ではファイナンスや会計関連の科目を受講しておく(又は同時受講する)と効果的に学習できると思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 経済学の基礎の1つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指す。また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築く。

教科書 /Textbooks
 適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社、2005年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：イントロダクション
 なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方（仮定の役割、モデル分析）
- 2回：グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3-5回：相互依存と交易について(1)【仮定とモデル】【フロー循環図】【生産可能性】
- 6-7回：相互依存と交易について(2) 【絶対優位】【比較優位】
- 8-9回：需要と供給 (1) 【市場と競争】【需要の弾力性】【シフト要因】
- 10-11回：需要と供給 (2) 【供給の弾力性】【シフト要因】
- 12-13回：市場均衡について 【価格】【均衡】
- 14-15回：経済学再考 【市場メカニズムの働き】【比較静学】

成績評価の方法 /Assessment Method
 各担当教員の評価方法に従う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。
 1回 インTRODクシヨN (マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 2・3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】【国民所得の三面等価】
 4・5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】【名目と実質】
 6・7回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】【利子率】
 8・9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】【金融政策】【為替】
 10・11回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】【財政】
 12・13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】【財政政策】
 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 15回 まとめ
 (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 西村 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

私たちは、企業をはじめ、学校、政府、地方自治体など、必ず何らかの組織に属して生きています。よって、組織のマネジメント、すなわち組織をいかに経営するかは、社会にとっても、また私たち自身の生き方にとっても非常に重要なテーマであると言えます。マネジメントを学ぶことは、自分の生活とかけ離れた理論を学ぶということではなく、現代社会に生きる私たちにとって不可欠な、重要な考え方を学ぶことなのです。

本講義では、経営学やマネジメントの基本的な考え方を知り、自らが生きている組織や社会のマネジメントに興味をもてるようになること、そして、自身が所属する組織において、少しでもマネジメントの考え方を活かしていくことができるようになることを目標として学んでいきます。

教科書 /Textbooks

『ひとりで学べる経営学』（三戸 浩・池内 秀巳・勝部 伸夫 著）文真堂 1,900円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『管理とは何か』（三戸 公著）文真堂 4,200円、
- 『経営学100年の思想』（宮田 矢八郎 著）ダイヤモンド 3,200円、
- 『はじめて学ぶ経営学』（中野 裕治・貞松 茂・勝部 伸夫・嵯峨 一郎 編）ミネルヴァ書房 2,800円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と企業
- 2回 企業における所有と支配について
- 3回 古典的管理論に基づくマネジメント(1) 【科学的管理と管理過程】
- 4回 古典的管理論に基づくマネジメント(2) 【ヒューマン・リレーションズ】
- 5回 マネジメントの新次元
- 6回 意思決定論的マネジメント
- 7回 人間性への方向を示すマネジメント論
- 8回 現代管理論の展開
- 9回 コンフリクトのマネジメント
- 10回 マネジメントにおける創造性
- 11回 日本の経営について
- 12回 グローバル化とマネジメント
- 13回 企業の社会的責任について
- 14回 これからの社会が求めるマネジメント
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(提出物、受講態度)...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたっては、テキストをしっかりと読んでおいてください。
また、各回の授業で配布するレジュメを導入として、学習を深めていってください。
専門教育科目の「企業論基礎」「経営組織論」とあわせて受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は禁止します。
自ら学ぶ姿勢を大切にしてください。

マネジメント論基礎【夜】

キーワード /Keywords

企業と社会 組織と管理 人と組織 相違性(異質性) 科学と経験

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、主として企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。
 受講生は「これからの企業に何が求められ、企業はそれにどのように対応しているか」を学ぶことになります。
 本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。

教科書 /Textbooks

『現代企業論の基礎』（佐久間信夫編著 学文社 ¥2,800+税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(本講義および企業論についての概要説明)
- 2回 企業とは何かI【企業の定義】、【企業の本質】
- 3回 企業とは何かII【企業の目的】、【企業は誰のものか】
- 4回 現代企業の諸形態I【企業形態】
- 5回 現代企業の諸形態II【持分会社】、【株式会社】
- 6回 株式会社の発展I【東インド会社】、【資本の証券化】
- 7回 株式会社の発展II【経営者支配】、【企業統治】
- 8回 企業結合の諸形態【企業連合】、【トラスト】、【コンツェルン】、【M&A】
- 9回 日本の会社機関と企業統治【日本の企業統治】、【委員会設置会社】
- 10回 企業統治の国際比較I、【米国の企業統治】
- 11回 企業統治の国際比較II、【ドイツの企業統治】
- 12回 企業に求められる21世紀型CSR【企業と社会】、【CSR】
- 13回 企業の環境経営【環境マネジメント・システム】
- 14回 SRIの広がりとその課題。【SRI(社会的責任投資)】、【CSR】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む) ... 20% 期末試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学や会社法関連の科目を受講しておくこと、本講義の理解が一層深まるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術打である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(1) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(1) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート20% 平素の学習状況10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学I【夜】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済現象を数量的に分析するためには経済学の理論とともに統計学の知識が必要不可欠である。本講義では統計学の基本的な考え方（推定、検定）を様々な例題をもとにして詳しく解説していく。

教科書 /Textbooks

P.G.ホーエル『入門数理統計学』培風館

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

森棟公夫『統計学入門』新世社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 一様乱数
- 3 点推定と区間推定
- 4 点推定と区間推定の意味
- 5 正規確率変数
- 6 首相を支持する人の数(N)をランダムサンプル数(n)で割ると正規確率変数になる
- 7 標準化
- 8 確率分布はヒストグラムで近似できる
- 9 割合pに関する仮説検定（準備）
- 10 割合pに関する仮説検定（本体）
- 11 割合pに関する仮説検定（考察）
- 12 割合の差の検定
- 13 片側検定
- 14 推定と検定に関する標準問題 1
- 15 推定と検定に関する標準問題 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストの合計点で評価する(100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ノートパソコンを持っている学生はSASをインストールして、講義に持参することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習支援フォルダに、各回の講義を受講する前に予習すべき課題を掲載する予定である。必ず、予習しておくように。なお、講義は予習をしていることを前提に行われる。

キーワード /Keywords

平均、分散、統計的推定、統計的検定、正規分布、一様分布

数学【夜】

担当者名 /Instructor 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経営や情報で使われる数量によるデータの変化は関数としてあらわされます。関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基礎的な計算方法を身につけます。この講義では、1次関数や2次関数からスタートし、関数と接線の関係や逆関数とグラフの関係を理解します。また、指数法則と対数法則をもとに指数関数と対数関数の性質を学習します。微分では、経済でよく使われる多項式関数、指数関数、対数関数の微分を理解し、微分に関する性質として関数の四則演算についてのルールや合成関数の微分計算を身につけます。さらに、合成関数や逆関数の微分公式と対数微分法を練習します。積分では、不定積分と定積分の概念と置換積分法などの計算練習を行います。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、渡辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「経済・経営系 数学概説」新世社、竹内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：関数の考え方と微分 【関数の極限】、【連続関数】
- 2回：関数の考え方と微分 【接線】、【導関数】、【線形性】
- 3回：指数関数と対数関数 【指数関数のグラフ】、
- 4回：指数関数と対数関数 【逆関数】、【対数関数のグラフ】
- 5回：導関数 【多項式の微分】、
- 5回：導関数 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】
- 7回：微分 【関数の和・差の微分】
- 8回：微分 【関数の積・商の微分】
- 9回：微分法 【合成関数の微分】、【対数微分】
- 10回：微分法 【逆関数の微分】、【曲線とグラフ】
- 11回：不定積分 【多項式的不定積分】
- 12回：不定積分 【指数関数・対数関数の不定積分】
- 13回：定積分 【多項式の定積分】
- 14回：定積分 【指数関数・対数関数の定積分】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出 (毎回出題)・・・ 30%
 期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

地域経済I【夜】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

1. 地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
2. 地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
3. 戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報劉と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域経済とは(講義の概要)
- 2回 地域構造論概説【地域構造】
- 3回 地域構造と地域経済【経済地理学】【地域政策】
- 4回 地域構造の高度化【産業構造】
- 5回 工業化の進展①【重化学工業化】
- 6回 工業化の進展②【高加工度化】
- 7回 第3次産業の拡大①【サービス経済化】
- 8回 第3次産業の拡大②【情報化】
- 9回 企業内分業の進展①【大企業の台頭】
- 10回 企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
- 11回 企業内分業の進展③【都市システム】
- 12回 製造業主導の経済発展【太平洋ベルト地帯】
- 13回 大都市主導の経済発展【東京一極集中】
- 14回 地域経済をめぐる今日の諸問題(「地域経済II」にむけて)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニレポート ... 15% 期末試験 ... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『経済地理学I,II』を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は『地域経済II』『地域政策』の基礎となっている。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融論I【夜】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

バブル経済とその崩壊から平成不況、また現在まで、「金融」に関する諸事情は日本経済の大きな問題として取り扱われており、その知識への需要は高まりを見せている。金融論I(および「金融論II」)では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、日本の金融制度を概観しながら、その特徴を把握し、わが国の金融制度の長所・短所を踏まえ、今後の金融のあり方を学習する。金融論Iでは、特に、金融市場、家計、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

教科書 /Textbooks

藤原・家森編著『金融論入門』中央経済社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 金融とは
- 2回 金融市場の基礎知識【短期金融市場】【長期金融市場】
- 3回 家計の金融活動【資産選択】
- 4回 家計の金融活動【負債】
- 5回 企業の金融活動【MM定理】
- 6回 企業の金融活動【株式による資金調達】【負債による資金調達】
- 7回 わが国の銀行【銀行の業務】【銀行と類似した金融機関】
- 8回 わが国の銀行【メインバンクシステム】
- 9回 金融仲介の理論【情報の非対称性】【逆選択】【モラルハザード】
- 10回 金融仲介の理論【債務超過問題】【出資契約】【債務契約】
- 11回 貨幣について【貨幣の役割】【マネーサプライ】
- 12回 中央銀行について【中央銀行の役割】【中央銀行の独立性】
- 13回 ブルーデンス政策【銀行業の規制】【破綻処理】
- 14回 マクロ金融政策【金融政策の手段】
- 15回 マクロ金融政策【金融政策の波及経路】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストまたは宿題 ... 30% 期末試験 ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学・マクロ経済学の知識があると内容が理解しやすい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、海外直接投資、経済・通貨統合など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済論の習得が必要不可欠である。国際経済論は、ミクロ経済学の応用分野である国際貿易論とマクロ経済学の応用分野である国際金融論から構成されている。本講義では、国際ミクロの立場から、国際貿易の基礎理論、貿易政策の効果、不完全競争を中心に説明を進める。

教科書 /Textbooks

大川昌幸『コア・テキスト国際経済学』（新世社）
なお、国際経済論IIも上記のテキストを使用する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

石川城太他『国際経済学をつかむ』（有斐閣）
石井安憲他『入門・国際経済学』（有斐閣）
浦田秀次郎『国際経済学入門（経済学入門シリーズ）』（日経文庫）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 部分均衡分析(1)【消費者余剰】【生産者余剰】
- 3回 部分均衡分析(2)【自由貿易の利益】
- 4回 リカード・モデル(1)【絶対優位】【比較優位】
- 5回 リカード・モデル(2)【貿易パターン】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(1)【要素賦存】【要素集約度】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル(2)【リプチンスキー定理】【ストルパー＝サミュエルソン定理】
- 8回 不完全競争と国際貿易(1)【独占市場】
- 9回 不完全競争と国際貿易(2)【ダンピング】【製品差別化】
- 10回 完全競争と貿易政策(1)【関税政策】、【補助金政策】
- 11回 完全競争と貿易政策(2)【数量割当政策】【有効保護】
- 12回 不完全競争と貿易政策(1)【国内独占】
- 13回 不完全競争と貿易政策(2)【外国独占】
- 14回 不完全競争と貿易政策(3)【戦略的貿易政策】【幼稚産業保護】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出(数回) 40% 期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論II」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

自由貿易、不完全競争、貿易政策

経営戦略【夜】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論を体系的に示すとともに、事例研究を行います。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますが、事例の検討に使用するため、以下の文献をテキスト（必携本）に指定します。
『ケースに学ぶ経営学[新版]』（東北大学経営学グループ著）有斐閣、2600円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求-』有斐閣、1997年。(○)
井上善海・佐久間信夫編『よく分かる経営戦略論』ミネルヴァ書房、2008年。
石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第 2回 経営戦略論の議論の歴史1【成熟化とイノベーション】、【多角化の戦略】
- 第3回 経営戦略論の議論の歴史2【競争の戦略】、【プロセス戦略論】、【RBV】
- 第 4回 ドメインの定義【事業構造の転換】、【ドメインギャップ】
- 第5回 事業ポートフォリオの選択【関連・非関連型】、【シナジー効果】、【コアコンピタンス】
- 第6回 新規事業分野への進出【社内ベンチャー】、【提携】、【M&A】
- 第7回 プロダクトポートフォリオマネジメント【PLC】、【経験曲線】、【マトリックス】
- 第 8回 競争の戦略1【5フォースズ】、【基本戦略】、【バリューチェーン】。
- 第 9回 競争の戦略2【市場地位】、【リーダー】、【チャレンジャー】、【ニッチャー】、【フォロアー】
- 第10回 事例研究【競争戦略】、【差別化】、【ビジネス・モデル】
- 第11回 戦略と企業間関係【サプライチェーン】、【ビジネスシステム】【アライアンス】
- 第12回 経営戦略と組織1【組織形態】、【事業部性】、【マトリックス組織】
- 第13回 経営戦略と組織2【組織革新】、【組織学習】【知識創造】。
- 第14回 事例研究【組織文化】、【組織構造】、【インセンティブシステム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として学期末試験の結果(90%)によるが、必要に応じて学期中の小レポートの結果(10%)を加味します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「マネジメント論基礎」で受講した内容を復習しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

産業組織論I【夜】

担当者名 後藤 宇生 / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

初歩的なゲーム理論とその応用の紹介を行う。
寡占のような経済現象に限らず、様々な分野の分析を行う予定。
2つの演習を行う。1つは、道具の操作性を高める演習。もう1つは、学生自ら、興味のある経済現象を選択し、分析を行う演習。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 『ゼミナール・ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2008年。
岡田章 『ゲーム理論・入門-人間社会の理解のために』有斐閣、2008年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 産業組織論(経済学)とゲーム理論【背景の理解】
2-7回 戦略形・均衡概念とその応用【静学・利得行列・支配概念・ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
8-12回 展開形・均衡概念とその応用【動学・ゲームツリー・サブゲーム完全ナッシュ均衡・数量競争・価格競争】
13-15回 不完備情報・均衡概念とその応用【情報・ベイジアンナッシュ均衡・ネットワーク財】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 5% 試験 95%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ミクロ経済学の基礎知識を前提とする。
事前にミクロ経済学の講義を受講すること。または、自習をおこなうこと。(他学部受講生も同様)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事管理論【夜】

担当者名 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら説明を行ないます。

教科書 /Textbooks

奥林康司編著(2010)『入門人的資源管理(改訂版)』中央経済社。(2,940円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Bratton, J & Gold, J (2003) Human Resource Management : Theory and Practice, Macmillan.
(上記著書の翻訳書として上林憲雄・原口恭彦・三崎秀央・森田雅也監訳(2009)『人的資源管理-理論と実践-(第3版)』文真堂が公刊されています。)
上林憲雄・森田雅也・厨子直之(2010)『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション、人事管理論へのプロローグ
 - 2回 企業経営と人的資源管理【企業経営】【人的資源】
 - 3回 組織のなかの人間行動【モチベーション】【リーダーシップ】
 - 4回 職務と組織の設計【分業】【調整】
 - 5回 人事等級制度【職能資格制度】【職務等級制度】
 - 6回 雇用管理【終身雇用】【雇用の流動化】
 - 7回 キャリア開発・人材育成【キャリア】【OJT】
 - 8回 人事考課制度【人事考課】【目標管理】
 - 9回 賃金制度【年功賃金】【成果主義賃金】
 - 10回 福利厚生制度【カフェテリア・プラン】、労使関係論の前半【企業別組合】
 - 11回 労使関係論の後半【団体交渉】、非正規従業員と人材ポートフォリオ【非正社員】
 - 12回 女性労働者と高齢労働者の問題【ダイバーシティ】【再雇用制度】
 - 13回 専門職制度・研究開発技術者の人的資源管理【プロフェSSIONAL】【R&D】
 - 14回 最近の人的資源管理学説【戦略的人的資源管理論】
 - 15回 まとめ、択一式問題演習

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0% (出席は不定期に取り、単位の修得条件とする) 期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「経営学入門」と「マネジメント基礎論」で学習した内容を復習しておくことよ。
また、教科書に沿って講義を進めるので、事前に教科書を一読することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語はしないこと、無断で遅刻・退席をしないこと、携帯電話の電源はオフにすること、これらは講義を聴くうえでの最低限のマナーであるから必ず守ってほしい。
あと教科書は「改訂版」を使用するので、「初版」ではなくこちらを持参されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生諸君はアルバイトを除いて企業のなかで本格的に働いたことはないであろう。しかし、企業内の人事制度を正確に理解しておくことは、自身の就職活動で企業を選ぶ際にも有用な知識になりうるはずである。本科目は一見抽象的な理論科目に思えるかもしれないが、実は企業経営の現実に根ざした科目であるといえる。
なお、本科目は経営学の一分科目ではあるが、それほど専門的知識は必要としないため、地域創生学群や法学部などの学生の受講も十分に可能である。

人事管理論 【夜】

キーワード /Keywords

経営学、企業、組織、人的資源管理

中小企業論 【夜】

担当者名 /Instructor 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

中小企業が経済社会に果たしている役割は、1985年のボン・サミット宣言でもみられたように、先進諸国が等しく注目しているところである。また外資によって急速に経済成長した東アジアや、社会主義体制が瓦解し経済再建を模索しているロシアでも、中小企業育成の必要性から、わが国の中小企業施策を懸命に研究している。わが国の従業者数の8割を占め、地方経済の担い手ともなっている中小企業をめぐる様々な問題を、ミクロ経済学や経営学、マーケティング等の理論に依拠しながら分析し、総合的に対策を考えていくことを、本コースの目的とする。

教科書 /Textbooks

6月頃発売予定の中小企業庁編「2011年版中小企業白書」経済産業調査会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊吹・坂本編著「現代企業の成長戦略」同文館
佐藤芳雄編「ワークブック・中小企業論」有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 わが国中小企業の現状
 - 第4回 中小企業の基本問題 【二重構造論】
 - 第5回 中小企業の経済理論 【最適規模論】 【独占・寡占理論】
 - 第6回 下請関係と流通系列化 【工場制下請】 【問屋制下請】 【流通系列化】
 - 第7回 地場産業問題 【構造転換】
 - 第8回 ケース演習
 - 第9回 "
 - 第10回 中小商業問題 【サービス経済化】 【大店立地法】
 - 第11回 革新的中小企業論 【無制限労働供給理論】
 - 第12回 「中小企業白書」のポイント整理
 - 第13回 "
 - 第14回 "
 - 第15回 まとめ
- 適宜、中小企業論関連のビデオを見せたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験は行わないが、中小企業に関する論文形式のレポートを課す。
出席・課題等の平常点・・・30% 期末レポート・・・70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

無

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【夜】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義の目標は、様々な環境問題について理解すること、またそれらの問題について経済学の視点から検討できるようになることです。

教科書 /Textbooks
 プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 栗山・馬奈木、『環境経済学をつかむ』有斐閣 (2008)
 時政・藪田・今泉・有吉編、『環境と資源の経済学』勁草書房 (2007) ○
 日引 聡、有村俊秀、『入門 環境経済学』、中公新書 (2002) ○
 マンキュー、『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』(第2版) 東洋経済新報社 (2005) ○
 R. K.ターナー他、『環境経済学入門』、東洋経済新報社 (2001) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：環境問題と環境経済学
- 2回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
- 4回 環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
- 5回 なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
- 6回 なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
- 7回 経済学の視点からの環境政策(1) 【直接規制】
- 8回 経済学の視点からの環境政策(2) 【経済的手段】
- 9回 地球温暖化の経済分析 【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
- 10回 廃棄物問題の経済分析 【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
- 11回 資源管理の経済分析 【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
- 12回 経済発展と環境 【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネッツ曲線】
- 13回 グローバル経済と環境 【国際環境協定】、【比較優位】
- 14回 環境評価 【支払意思額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
- 15回 まとめ・復習

成績評価の方法 /Assessment Method
 課題...10%、期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。
 ミクロ経済学、マクロ経済学を事前に学習していることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コンピュータシステム【夜】

担当者名 /Instructor 泉 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 この講義では、コンピュータシステムの歴史を振り返りながら、企業や個人でのコンピュータ利用方法の変遷や技術進歩について学ぶ。また、単にコンピュータを使うのではなく、コンピュータシステムの本質を理解することを目的とする。そのために、各種問題解決技法やコンピュータの仕組み、これからのコンピュータシステムについても解説する。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】はキーワード)
 1回 情報技術の進展とコンピュータ利用の変化【ファイル】【ユーザインタフェース】
 2回 通信技術とコンピュータの融合の進展【LAN】【TCP/IP】【インターネット】
 3回 企業環境の変化とコンピュータ利用の進展【MIS】【DSS】【SIS】【SCM】
 4回 セキュリティ対策の変化【コンピュータ設置基準】【セキュリティポリシー】
 5回 データ検索【論理演算】【集合演算】【検索エンジン】
 6回 問題解決のプロセスと対象世界のモデル化【システム分析】【DFD】
 7回 問題解決のためのモデル(その1)【PERT】【クリティカルパス】
 8回 問題解決のためのモデル(その2)【フローチャート】【デジコンテーブル】
 9回 コンピュータでのデータ表現と計算【2進数】【誤差】
 10回 問題演習【条件分岐】【PERT】
 11回 これからのコンピュータ【クラウドコンピューティング】【SaaS】
 12回 市民生活とコンピュータ【電子自治体】【E-Japan計画】【i-Japan計画】
 13回 身の回りの情報技術やメディア【携帯端末】【電子マネー】【画像認識】
 14回 問題演習【暗号】【情報落ち】
 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 内容が広範囲にわたるので、自己学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIでは、さらに会計固有の問題を深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

教科書 /Textbooks

永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社、(2010年11月)、1,890円(当時)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計(会计学)とは何か?【経済活動】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【売却時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 棚卸資産会計【売上原価について】
- 9回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 10回 原価と時価【有用性】
- 11回 資産について【資産概念の変化について】
- 12回 負債について【負債概念の変化について】
- 13回 財務会計の基礎【発生主義会計】
- 14回 会計のルール【企業会計原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む) ... 20% 課題... 20% 期末試験... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

『簿記論』を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データベース【夜】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

データベースとは、大量のデータを効率的に蓄積し、複数のユーザ（人やコンピュータプログラム）により、データが有効に活用されることを目的としたものです。本講義では、まず、データベースの仕組みを示し、その後、データモデル、リレーショナルデータベースについて解説をします。さらに、SQLによるデータの問い合わせ法、データ正規化手法、データベース管理システムについて学び、データベースの設計、利用方法を身に付けることを目標とします。

教科書 /Textbooks

谷尻 かおり『これだけはおさえないデータベース基礎の基礎-設計と運用の基本からSQLの書き方まで』技術評論社（2006年1月）、2,394円（税込）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

根本和史「データモデリング基礎講座」翔泳社
 増永良文「リレーショナルデータベースの基礎」オーム社 - データモデル編 -

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、データベースとは【データベース】
 - 第2回：データベースシステム
 - 第3回：ファイルとデータベース【ファイル】
 - 第4回：リレーショナルデータベースとは【リレーショナルデータベース】
 - 第5回：リレーショナルデータベース
 - 第6回：Microsoft Accessの利用方法【Access】
 - 第7回：データベースに必要な集合演算【集合演算】
 - 第8回：ERモデルとは【ERモデル】
 - 第9回：データベース言語SQLとは【SQL】
 - 第10回：正規化とは【正規化】
 - 第11回：正規化理論【第1正規化】【第2正規化】【第3正規化】
 - 第12回：データベース設計【データベース設計】
 - 第13回：データベース設計方法
 - 第14回：データベース設計評価
 - 第15回：まとめ
- (進行状況等により内容は変更になる場合があります。受講人数がコンピュータ教室に収容可能な場合はデータベースソフトの演習を実施します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み...20% 小テスト・課題...30% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備は必要ありませんが、データベースの利用技術よりも、仕組み、設計が中心になります。

履修上の注意 /Remarks

専門的で難易度は少し高めです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度的に単位取得のみを目的とした人には向いていません。データベースに興味があり、しっかりと勉強をしたい人向けです。

キーワード /Keywords

システム設計I【夜】

担当者名 /Instructor 平山 克己 / Katsumi Hirayama / 経営情報学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では企業で日々実際に行われている問題を実践的に解決する能力を身に付けてもらうことを目標とし、情報処理資格試験に出題される内容についても触れる。また、表計算ソフトなど安価な分析ソフトが普及した現在、企業では日常的に経営状態を分析、評価、活用している。そこで、グループ演習では、表計算ソフトを用いて、実践的な問題に対して様々な分析を行う。

教科書 /Textbooks

平山克己著『あほ賢システムのおはなし』2009年SCC

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川喜田二郎著 『発想法-続KJ法の展開と応用-』、1970年、中公新書○
大村 平著 『ORのはなし -経営意思決定のテクニック』、1989年、日科技連-○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】 はキーワード)
- 1回 システムについて【人工的なシステムと企業システム】
 - 2回 問題解決手法について【KJ法】【ブレインストーミング】
 - 3回 システム分析とは
 - 4回 グループ演習 問題解決手法【KJ法】
 - 5回 定量的な問題分析手法について【ヒストグラム】
 - 6回 Excelによる定量的分析1【クロス集計】【Excelピボットテーブル】
 - 7回 Excelによる定量的分析2【品質管理】【QC七つ道具】
 - 8回 Excelによる定量的分析3【散布図】【相関係数】
 - 9回 回帰分析【回帰分析】
 - 10回 統計分析【統計手法】【特性要因図】
 - 11回 企業におけるシステム分析【情報処理資格試験】【クラスター分析】
 - 12回 企業におけるシステム分析【ER図】【DFD】
 - 13回 グループ演習(データ処理)
 - 14回 グループ演習(発表)
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% 期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この科目履修後に、「システム設計II」とあわせて受講すれば理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

学習支援ホルダーを利用するので、グループウェアのユーザ登録が必要です。
講義にあたって、テキストを予め読み込んで分からない点を質問すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

IT関連企業に就職を考えている学生の登竜門となる講義にしたいと考えています。

キーワード /Keywords

システム システム分析 問題解決法 品質管理 IT 情報処理資格試験 表計算 データ解析

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
 - 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
 - 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
 - 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
 - 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
 - 6回 社会福祉の思想の独自性と重要性【ロールズの正義論】【センの潜在能力理論】
 - 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
 - 8回 社会福祉の歴史（イギリス）【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
 - 9回 社会福祉の歴史（日本 - 戦前から高度経済成長まで）【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】
 - 10回 社会福祉の歴史（日本 - 福祉元年以降）【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
 - 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
 - 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
 - 13回 現代社会の変化と福祉政策【ワーキングプア】【社会的排除】【社会的包摂】
 - 14回 福祉政策の関連領域 【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況（小テスト・宿題など）... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉2【夜】

担当者名 深谷 裕/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会福祉士養成講座編集委員会編（2009）『4 現代社会と福祉-社会福祉原論』中央法規（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要①【目的概念、実体概念、L字型構造】
- 2回 福祉政策の概要②【倫理要綱、専門職】
- 3回 福祉政策における必要と資源【ニード、社会資源マップ】
- 4～5回 福祉政策の主体と手法【福祉レジーム、NPM】
- 6～7回 福祉政策の関連領域【保健医療、住宅政策、教育、雇用】
- 8～9回 社会福祉制度の体系【社会政策、社会福祉法、社会福祉基礎構造改革】
- 10回 福祉サービスの供給【福祉多元主義、指定管理者制度】
- 11～12回 福祉政策の国際比較
- 13回 福祉サービスと援助活動【バイステック、ストレングス、エンパワメント】
- 14回 福祉政策の課題と展望【ノーマライゼーション、インクルージョン】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の小テスト ... 50% 期末試験 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の内容について、翌週の授業開始時に小テストを行うので、復習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域福祉の理論と方法 1 【夜】

担当者名 /Instructor 深谷 裕/地域創生学群

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

福祉士養成講座編集委員会編（2008）『地域福祉論第4版』中央法規
 福祉士養成講座編集委員会編（2009）『地域福祉の理論と方法』中央法規
 牧里毎治（2007）『改訂版地域福祉論-住民自治と地域ケア・サービスのシステム化』日本放送出版協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的コード】
- 4～5回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯、ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 7回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 8～9回 コミュニティソーシャルワークの方法【ケアマネジメント】
- 10回 行政と民間の協働1【地域福祉計画、社会福祉協議会、社会福祉法人】
- 11回 ゲストスピーカー
- 12回 行政と民間の協働2【ボランティア活動、民生委員、保護司、福祉ビジネス】
- 13回 ゲストスピーカー
- 14回 地域福祉の推進と福祉教育【福祉教育、在宅サービス】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度30% 期末試験70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に指定する参考文献の講読。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

障がいのある人の自立を支援する観点から、働く、住まう、余暇を楽しむなど生き生きと暮らすことが可能となるような社会の仕組みが求められてきた。障害者自立支援法がどのような役割を果たしてきたのかを、地域生活、施設利用などでの問題を取り上げながら、以下の点について吟味する。①障害者自立支援法の成立過程と法の具体的内容。②権利保障とは何かについて検討する。③また障害をもつ人たちが、地域で生きていくための諸条件を整理し、権利擁護システムを含めた、地域支援システムのあり方を検討する。④さらにはこれまでタブー視されてきた障害者の性を取り上げ、社会福祉援助の中にジェンダーや女性保護、性交に矮小化されることのない生と性の視点がどのように位置づいているのかについて考察する。

教科書 /Textbooks

小賀 久「障がいのある人の地域福祉政策と自立支援」法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、講義で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 受講上の諸注意と総論
- 2回 障害者施策の現状と課題① 【自立支援】
- 3回 障害者施策の現状と課題② 【地域生活】
- 4回 障害者施策の現状と課題③ 【ケアマネージメント】
- 5回 権利擁護システム① 【成年後見制度】
- 6回 権利擁護システム② 【地域福祉権利擁護・日常生活支援】
- 7回 権利擁護システム③ 【虐待・不適切な行為とオンブズ活動】
- 8回 障害者福祉実践の到達点と課題① 【労働支援】
- 9回 障害者福祉実践の到達点と課題② 【生活支援】
- 10回 障害者福祉実践の到達点と課題③ 【家族支援】
- 11回 障害者福祉のこれから① 【障害者介護】
- 12回 障害者福祉のこれから② 【施設解体】
- 13回 障害者福祉のこれから③ 【地域生活支援】
- 14回 障害者福祉のこれから④ 【性の支援】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義レジュメ・資料および参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓/地域創生学群

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基盤と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
- 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
- 3回 相談援助の定義と構成要素① 【ソーシャルワークの概念】
- 4回 相談援助の定義と構成要素② 【ソーシャルワークの構成要素】
- 5回 相談援助の形成過程I① 【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
- 6回 相談援助の形成過程II② 【ソーシャルワークの発展期】
- 7回 相談援助の形成過程II③ 【ソーシャルワークの展開期】
- 8回 相談援助の形成過程II④ 【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 9回 相談援助の理念I① 【ソーシャルワーカーと価値】
- 10回 相談援助の理念I② 【ソーシャルワーク実践と価値】
- 11回 相談援助の理念I③ 【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
- 12回 相談援助の理念I④ 【ソーシャルワーカー倫理綱領】
- 13回 相談援助の理念II① 【クライアントの尊厳と自己決定】
- 14回 相談援助の理念II② 【ノーマライゼーションと社会的包摂】
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 坂本 毅啓/地域創生学群
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するということについて、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に随時紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ① 【専門職倫理】、【倫理綱領】
- 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ② 【倫理的ジレンマ】
- 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像① 【総合的かつ包括的な相談援助】
- 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像② 【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
- 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論① 【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
- 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論② 【GSの特質】、【基礎理論】
- 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲① 【相談援助専門職の概念】
- 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲② 【相談援助専門職の範囲】
- 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能① 【予防機能】
- 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能② 【新しいニーズへの対応機能】
- 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能③ 【総合的支援機能】
- 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能④ 【権利擁護機能】
- 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能⑤ 【社会資源開発機能】
- 14回 地域創生とソーシャルワーカー 【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の〜1」での学習内容を復習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の〜1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の〜1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords

相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

介護概論 1 【夜】

担当者名 /Instructor 因 利恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 織間 修 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は世界に類のない超高齢社会に突入しました。
元気な高齢者が増える一方で要介護者も増えていっています。
今や介護は国民的課題となりました。
ソーシャルワークの課題の中に介護が大きく比重を占めるようになっていきます。
効果的なソーシャルワークを行うためにこの科目を学ぶ意義があります。

教科書 /Textbooks

中央法規出版 福祉士養成講座編集委員会編集 社会福祉士養成講座 14 「介護概論」 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

介護技術 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義 介護を学ぶ意義、介護を取り巻く状況
- 2回 講義 介護福祉士と社会福祉士、介護支援専門員の理解と役割
- 3回 講義 ノーマライゼーション、自立支援、介護予防
- 4回 講義 高齢者の特性、介護サービスを利用する人の理解
- 5回 講義・演習 介護とコミュニケーション
- 6回 講義 居住環境の整備
- 7回 講義 わが国の介護制度、関連職種連携
- 8回 講義・演習 多重問題家族のビデオから問題点の整理を行なう
- 9回 講義・演習 介護過程を理解する。アセスメントについて
- 10回 介護技術 介護技術とは ボディメカニクスの理解
- 11回 介護技術 安全で快適な居住環境を整える(ベッドメイキング等)
- 12回 介護技術 ベッド上での移動介助
- 13回 講義 観察、褥瘡予防と安眠への援助
- 14回 介護技術 着脱の介助
- 15回 まとめ 前期の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 80% レポート評価 10% 授業意欲 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

介護に関するマスコミ報道に興味を持ち、授業と連動させ自分の考えをまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

介護技術演習日は技術のできる服装をしてくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

介護概論で学ぶことは将来の業務や家族の介護、地域の支えあい等で必ず役に立ちます。
楽しい授業になるよう努めます。

キーワード /Keywords

介護を取り巻く状況 要介護者の理解 自立支援 ソーシャルワーカーに必要とされる技術

介護概論 2 【夜】

担当者名 /Instructor 因 利恵 / 北方キャンパス 非常勤講師, 織間 修 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本は世界に類のない超高齢社会に突入しました。
元気な高齢者が増える一方で要介護者も増えていっています。
今や介護は国民的課題となりました。
ソーシャルワークの課題の中に介護が大きく比重を占めるようになっていきます。
効果的なソーシャルワークを行うためにこの科目を学ぶ意義があります。

教科書 /Textbooks

中央法規出版 福祉士養成講座編集委員会編集 社会福祉士養成講座 14 「介護概論」 2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

介護技術 ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義 介護を学ぶ意義、介護を取り巻く状況の確認
- 2回 講義 生活援助と自立支援について考える
- 3回 講義 福祉用具の活用について
- 4回 講義 医療・看護ニーズのある利用者の観察と介護
- 5回 講義・演習 介護における記録と報告
- 6回 介護技術 移動、移乗の技術(ベッドから車椅子、車椅子走行介助)
- 7回 講義 認知症の理解
- 8回 介護技術 視覚障害者の介助
- 9回 講義・演習 介護過程の展開I
- 10回 講義・演習 介護過程の展開II
- 11回 介護技術 排泄の介助
- 12回 介護技術 食事の介助
- 13回 講義 介護サービスについて(施設・在宅)
- 14回 介護技術 歩行介助
- 15回 まとめ 後期の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 80% レポート評価 10% 授業意欲 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

マスクミ等を通して介護状況を把握し授業と連動させること

履修上の注意 /Remarks

介護技術の授業は演習のできる服装をしてくること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

介護とソーシャルワークは関連領域を担う関係であることを授業を通して理解して欲しい

キーワード /Keywords

ボディメカニクス 快適な介護環境づくり 介護サービス利用者の理解 介護技術とは

低所得者に対する支援と生活保護制度【夜】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ワーキングプア、ネットカフェ難民、多重債務者、DV、児童虐待、自殺、過労死、孤独死、派遣切り、ホームレス、家庭と地域社会の崩壊など、近年の国民生活の状況を見ると、多様で新しい形態の貧困と生活不安を抱えるに至っているといわなければならない。国民の生活困窮の解消と生存権の保障に取り組む諸制度について以下の目的に従って講義を行う。

1. 生存権とそれを保障する公的制度の意義について理解する。
2. 生活保護法制度および生活保護に係る他の法制度について理解する。
3. 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。
4. 低所得階層の生活実態とこれをとりまく社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。
5. 社会経済的背景の動向と公的扶助の展望について考察する。

教科書 /Textbooks

岩田正美、杉村宏、岡部卓「公的扶助論」ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田 正美著「現代の貧困」ちくま新書
 社会保障法学会編「ホームレス施策と社会保険の現代的課題」法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 生存権と福祉国家における公的扶助の意義と役割
2. 貧困問題の歴史と現代的貧困
3. 世界および日本における公的扶助の歴史
4. 生活保護の基本原則と実施上の原則
5. 生活保護法による保護の種類・範囲・方法
6. 生活保護基準と生活保護制度の運用
7. 生活保護の実施機関、保護施設、財源
8. 生活保護行政の体系と福祉事務所の活動、被保護者の権利
9. 生活保護における援助活動、保健医療、労働政策など関連機関・専門職との連携
10. 非保護層の動向と課題、生活保護費と保護率の動向
11. 母子世帯と児童扶養手当制度
12. 生活福祉資金貸付制度と他の低所得政策
13. ホームレス自立支援政策の概要
14. 低所得・貧困層に対する自立支援プログラムの目的、実際と課題
15. まとめ-生活保護制度と公的扶助制度の改革の展望

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習 ... 50 % 試験またはレポート ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代の貧困問題と社会問題について各自自分なりに調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

権利擁護と成年後見制度【夜】

担当者名 /Instructor 河原 一雅 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

知的障害や精神疾患あるいは認知症等のため判断能力に問題がある人の日常生活を支える仕組みの現状と課題を学ぶ。本人の権利擁護のために介護保険法・障害者自立支援法により提供される福祉サービスや権利侵害から本人の生活を守る日常生活支援事業、成年後見制度などといった財産管理能力を補完する制度等、福祉職に不可欠な法的問題について知識を深めることを目的とします。

教科書 /Textbooks

福祉臨床シリーズ編集委員会編「権利擁護と成年後見制度」(弘文堂)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「社会福祉小六法」(ミネルバ書房編集部編)もしくは同種のもので可

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 エピローグ
- 2回 民法1(権利能力と行為能力)
- 3回 民法2(契約の自由とその修正)
- 4回 民法3(親族と扶養)
- 5回 民法4(相続)
- 6回 福祉サービス・措置から契約へ
- 7回 介護保険法の仕組み
- 8回 自立支援法の仕組み
- 9回 成年後見制度1(後見・保佐・補助)
- 10回 成年後見制度2(任意後見)
- 11回 後見人の仕事とその限界
- 12回 日常生活自立支援事業
- 13回 虐待防止
- 14回 あるべき権利擁護
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 期末試験...75%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

法律への違和感をなくすため、毎回の講義で各自法律の条文を見てもらうこととなりますので、「社会福祉小六法」を毎回持参していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

観光社会学【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義においては、社会学の枠組みから、現代における典型的なイメージ消費としての観光現象について、観光客、観光地住民双方の視点から批判的に分析する。旅行や、観光地のあり方に対し批判的に関心を持つ学生の参加を期待する。本講義は「観光」についての評価から距離を持った立場で講義を進めるので、観光地にいかにか集客すべきかといった、直接的に「役に立つ」テーマ（客観的旅行情報は提供するが）は扱わない。

教科書 /Textbooks

須藤廣『観光化する社会-観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

須藤廣、遠藤英樹『観光社会学-ツーリズム研究の冒険的試み』明石書店、2005年
安村克己他『観光社会文化論講義』くんぶる、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 イントロダクション
 - 2回 【観光】とは何か(観光文化の構造、及び場所の消費としての観光について)
 - 3回 観光の歴史①前近代(「【伊勢参り】」)
 - 4回 観光の歴史②近代・現代(【修学旅行】の起源から現代観光まで)
 - 5回 「イメージ消費地」としての【ハワイ】(ハワイ観光の表象はだれがどのように作ったのか)
 - 6回 映画『ブルーハワイ』『ハワイの夜』『ハワイの若大将』からハワイの観光表象を分析する
 - 7回 ハワイ観光の発展をとおしてみる、【観光表象】、観光客、観光業者、観光地住民との関係
 - 8回 イメージ消費としての観光地とその問題点①タイのカヤン族(首長族)の観光化
 - 9回 イメージ消費としての観光地とその問題点②門司港
 - 10回 イメージ消費としての観光地とその問題点③湯布院
 - 11回 イメージ消費としての観光地とその問題点④ベトナムのモン族、中国チベット族の観光化
 - 12回 内発的な観光表現の可能性と限界①ハワイモロカイ島住民の「反対運動的」観光地づくり
 - 13回 内発的な観光表現の可能性と限界②ブータン王国の「制限された」観光地づくり
 - 14回 【バックパッカー・ツーリズム】のパラドクス(ヒッピーから「深夜特急」、「あいのり」)
 - 15回 【デイズニー化】する社会の【リアリティ】及びまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の感想、小テストとレポート(書籍やウェブサイトからのコピペ等不正行為は小さなものでも厳禁、0点となります)
出席10%、小テスト30%、レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期間だけの授業では扱いきれないほどの多くの内容を詰め込んで行うので、授業をさぼると理解不能になります。なるべく休まないように。授業内容に積極的に関わり、情報提供してくれる学生歓迎。
バックパッキング情報も随時提供するので、バックパッカー経験者(予定者)の授業参加歓迎。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ひとの誕生から乳児期、幼児期、児童期、青年期までの人間の発達を概観し、各発達段階における特徴的なテーマを通して人間の発達に関する心理学的理解を深める。
 それと同時に、その発達の過程で生じてくる障害の発生機序について、発達障害、知的障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解を築いていく。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とは何か
- 第2回 胎児期【生まれるまでの子どもの発達過程】
- 第3回 誕生と新生児期
- 第4回 赤ちゃんの知覚能力
- 第5回 学習能力と行動習慣の獲得
- 第6回 運動発達と相互的やり取りの基盤
- 第7回 愛着の機能と発達
- 第8回 愛着の個人差と世代間伝達
- 第9回 共同注意と言語発達
- 第10回 他者の心を理解する【心の理論】
- 第11回 児童期における社会性の発達
- 第12回 思春期・青年期の発達【自我同一性、モラトリアム】
- 第13回 成人期から老年期の発達【家族形成、人生の終焉】
- 第14回 発達障害の発生機序について【発達障害、知的障害を中心に】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

カウンセリング論【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年，心に関わる様々なアプローチが話題にされる。心理療法，セラピー，心の健康法などである。ここでは様々な社会場面で必要とされてきた「カウンセリング」についてを学ぶ。ここでいうカウンセリングとは「一人の人間が悩みや問題を抱えている。そしてその解決や整理の枠組みを望んでいる時に援助すること」ととらえて、福祉や教育などの場面での利用を想定して、カウンセリングの目的方法についての理論を学ぶ。同時に実際に現場で実践できるように実践的なスキルについても体験的に理解と体得を深めていく。

教科書 /Textbooks

テキストは特に使わない。随時配布のプリント資料。紹介する参考書などを元にして学習をすすめる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業のねらい、計画…… 受講上の注意[]キーワード
- 第2回 カウンセリングとは…… カウンセリングの定義・最近の推移・受講上の注意[定義]
- 第3回 カウンセリングの過程
- 第4回 カウンセリングの過程……事例を通して[事例性]
- 第5回 人格(パーソナリティ)理論・発達理論の基礎を学ぶ[人格テスト・発達理論]
- 第6回 ~9回 自分を知る
- 第10回 心と健康1……うつ病など心の病について[うつ病]
- 第11回 心と健康2……自己受容・自己開示・あるがままの心理療法[自己受容・共感]
- 第12回 ~14回様々な場所でのカウンセリング(応答を中心に)
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

随時提出のミニレポートと授業への取り組みの態度...40%、授業終了時のレポート60%で評価する。
 授業に対する準備事項
 /Preparation for the Class 自分の抱える問題や自分のこれからの実践で予想される悩みを明確にする努力をして授業に臨んでもらいたい。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の抱える問題や自分のこれからの実践で予想される悩みを明確にする努力をして授業に臨んでもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 本講義は、Eriksonの漸成理論に準拠し、人間の各発達段階における発達課題と不適応の関係を概観しながら、不適応のメカニズム、発達援助のあり方について考究する。その際、実践に即した理解を深めるために、事例を紹介しながら進める予定である。

教科書 /Textbooks
 毎回、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の中で適宜、紹介する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 第1回 オリエンテーション：臨床心理学とは何か
 - 第2回 乳児期の発達課題と不適応：理論編【基本的信頼感】【愛着】
 - 第3回 乳児期の発達課題と不適応：事例編①【発達障害】
 - 第4回 乳児期の発達課題と不適応：事例編②【関係性障害】【親・乳幼児心理療法】
 - 第5回 幼児期の発達課題と不適応：理論編【自律性】【積極性】
 - 第6回 幼児期の発達課題と不適応：事例編【母子分離】
 - 第7回 児童期の発達課題と不適応：理論編【勤勉性】【箱庭療法】
 - 第8回 児童期の発達課題と不適応：事例編【遊戯療法】【自尊心】
 - 第9回 青年期の発達課題と不適応：理論編【自我同一性】【友人関係】
 - 第10回 青年期の発達課題と不適応：事例編【過食症】【同一性拡散】
 - 第11回 壮年期の発達課題と不適応：理論編【生殖性】【中年期心性】
 - 第12回 壮年期の発達課題と不適応：事例編【自我同一性の再体制化】
 - 第13回 老年期の発達課題と不適応：理論編【統合】【抑うつ】
 - 第14回 老年期の発達課題と不適応：事例編【心気症】【不定愁訴】
 - 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平素の学習状況(小テスト含む) ... 20% 試験 ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 本講義を受講前に「心理学概論」を受講しておくことを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

心理療法論 【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介/地域創生学群

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

心理療法は学ぶことも教えることも難しい領域であるとされる。それは学ぶ者と教える者それ自身の人間性が大きく問われるからである。それ故、「心理療法に従事する人間は、いつも深い羞恥心と、へり下った態度をとること...これこそ心理療法の真の成功の秘密なのである」(霧山徳爾)といわれるのである。本講義は、心理療法に関する主要な各学派を概観しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、森田療法を中心に学習を進める。独創的な学説にふれることにより心理療法全般への展望と理解が広がり同時に自己のメンタルヘルスにも興味を持ってもらいたい。キーワードは【森田療法】である。

教科書 /Textbooks

「森田療法」岩井寛 著 講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)

- 1回 心理療法の基礎問題
心理療法を困む問題 ・ 心理療法を学ぶ目的【傷つけざること第一なり】
- 2回 心理療法家としての心構え ・ 心理療法と発達理論 【発達理論】
- 3回 心理療法の歴史 【フロイト】
- 4回 心理療法の技法論 精神分析, ユング心理学【東洋の人間観】
- 5回 ヒューマニスティック・セラピー他 【全体観】
- 6回 森田療法とその主要理論 【あるがまま】【生の欲望】
- 7回から10回 森田療法とその基礎理論 【感情の法則】【目的本位】
- 11回から13回 森田療法の実際 【とらわれ】
- 14回 治療設定と留意点 【とらわれの本質】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート及び課題提出の内容...50% 授業と勉学への熱意...30% 毎回の授業態度...20%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

森田療法以外の心理療法として、現在ひろくおこなわれている「認知行動療法」についてもゲストを招いて学ぶ予定である、自分でも事前に調べて概略をつかんでいること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

リハビリテーション論【夜】

担当者名 /Instructor 増本 賢治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 リハビリテーション・運動療法は、スポーツ選手から高齢者まで、様々な体力レベルの集団において実施されている。本講義では、体力医学的な視点から、リハビリテーション・運動療法に関する意義、考え方および方法論などについて具体的に解説する。その結果、本講義内容に関する知識・理解を深めるとともに、多角的な視野を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義中に、参考・引用文献を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	リハビリテーションとは
3回	運動生理学の基礎
4回	運動処方の実際
5回	筋力の科学：頭脳的なコンディショニング
6回	スポーツ障害
7回	障害者スポーツとドーピング
8回	下肢の障害のリハビリテーション
9回	歩行とランニングの生体力学
10回	腰部障害のリハビリテーション
11回	水中リハビリテーション
12回	高齢者のリハビリテーション
13回	高齢者の転倒・骨折予防
14回	最近の研究の動向
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 講義への参加度 (60%) および試験 (40%) で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人体の構造と機能及び疾病 【夜】

担当者名 /Instructor 村田 直子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

健康と疾病、医療と医学、医療制度、現代医療の抱える諸問題、さらに現在トピックスとなっている疾患や医療関連の諸問題について解説する。

教科書 /Textbooks

『人体の構造と機能及び疾病』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	人の成長と発達：身体の発達、精神の発達、老化
2回	身体構造の概要：身体の仕組み、人体部位の名称
3回	心身機能の概要：各器官等の構造と機能、主な症状とその意味、高齢者の症状の特徴
4回	健康の概念：WHO、人口動態、QOL、健康増進と疾病予防
5～7回	疾病の概要：生活習慣病・メタボリックシンドローム、がん、感染症、 神経・精神疾患、先天性・精神疾患、難病、高齢者と疾患
8～9回	障害の概要：身体障害、発達障害、精神障害、その他
10～11回	保健医療対策の現状：生活習慣病予防、がん対策、感染症対策、精神保健福祉対策、 難病対策、母子保健対策、自立支援医療、臓器移植
12回	リハビリテーションの概要
13回	医事法制の概要
14回	保健、医療、福祉機関及び専門職の連携のあり方
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 25% 課題レポート... 25% 期末試験... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義で配布する資料に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

医学一般 2 【夜】

担当者名 /Instructor 非常勤講師 松尾 和枝 他

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 保健と医療、介護を取り巻く地域の現状、並びに福祉の制度や関連組織との連携と協働の現状と課題を理解する。多様な分野の講師により、事例を基に具体的な地域保健・福祉の活動について検討する。

教科書 /Textbooks
 授業の際、レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業の際、適宜、紹介します。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回：地域保健・医療・福祉の課題と現状
 - 2回：北九州市の保健・医療・福祉の体制-北九州方式の特徴-
 - 3回：妊産婦に対する地域保健活動の現状と課題
 - 4回：成人女性に対する地域保健活動の現状と課題 (DV、不妊他)
 - 5回：乳幼児期の地域保健活動の現状と課題
 - 6回：乳幼児期の問題事例への対応 (虐待、療育相談ケース等)
 - 7回：精神に関する地域保健活動の現状と課題
 - 8回：精神障害者をサポートする地域保健福祉のネットワーク
 - 9回：企業におけるメンタルヘルス対策の現状と課題
 - 10回：多問題を有する (生活困窮者、母子家庭他) に対する地域保健活動の現状と課題
 - 11回：高齢者に対する地域保健活動の現状と課題
 - 12回：特定高齢者に対する地域保健活動の現状と課題
 - 13回：介護保険制度の現状と課題
 - 14回：高齢者の問題事例への対応 (認知症、虐待他)
 - 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 学期末のレポート 70% 授業出席 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 授業には、市民の目線で参画し、具体的、実践的に、地域の保健・医療・福祉の課題を自分の問題として検討してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティスポーツ論【夜】

担当者名 /Instructor 中西 純司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

[授業のねらい]

地域社会における生涯スポーツ、すなわち地域スポーツの振興方策についての基本的な理解を促すとともに、具体的なスポーツ事業の計画方法や組織の在り方について、スポーツ経営管理学的な観点から学習する。また、地域住民の参加（参画）とスポーツ（文化）行政の協働による地域スポーツ経営の構造と過程についても理解を深める。

[主要な学習内容]

本授業では、スポーツ振興による「新しい公共」の形成を担う総合型地域スポーツクラブの現代的意味・必要性、及びその創設方法やクラブマネジメント方法などについて理解することが主な学習内容である。

[到達目標]

学生は、本授業を学習することによって、地域スポーツ振興のコーディネーターとして、以下のようなことを身に付けることができる。

1. 生涯スポーツ社会とは何かについて説明できるようになる。
2. スポーツ振興上の課題と地域生活の課題について理解し、説明することができるようになる。
3. スポーツ振興の必要性和「新しい公共」の形成について説明することができるようになる。
4. スポーツ行政の役割とそのしくみについて説明することができるようになる。
5. 地域社会の変革型社会運動としての「総合型地域スポーツクラブ」の必要性について説明することができるようになる。
6. クラブマネージャーに必要な知識・技術を習得できる。

教科書 /Textbooks

総合型地域スポーツクラブ育成協議会編著『総合型地域スポーツクラブマネージャー養成テキスト<普及版>』（ぎょうせい、2005）（資料等については、必要に応じて、配布する予定である）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本体育・スポーツ経営学会編「テキスト総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店、2002）
 黒須充・水上博司編著「ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店、2002）
 山口泰雄著「地域を変えた総合型地域スポーツクラブ」（大修館書店、2006）
 黒須充監訳「ドイツに学ぶスポーツクラブの発展と社会公益性」（創文企画、2010）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のような内容と計画で授業を行う。

1. オリエンテーション：学習の目的、内容、方法（授業方法や成績評価方法など）
2. ヨーロッパのスポーツクラブに学ぶ：クラブの原点【Club】【クラブ】【倶楽部】
3. わが国の地域スポーツの現状と問題点【地域スポーツ経営】【地域コミュニティ】
4. 地域スポーツ経営の構造と対象及び領域【地域スポーツ経営】【スポーツ事業】【資源獲得】
5. 地域社会におけるスポーツ施設の現状と課題【学校開放】【公共スポーツ施設】【師弟管理者制度】
6. 地域スポーツ指導者の養成【体育指導委員】【有資格指導者】【(財)日本体育協会】
7. スポーツ（文化）行政における協働概念とその仕組み【スポーツ行政】【住民組織】【民間団体】
8. わが国のスポーツ振興政策の考え方とその策定【スポーツ振興基本計画】【スポーツ立国戦略】
9. 地域住民主導型の地域スポーツ経営とは？【住民組織づくり】【地域住民組織】【総合型地域スポーツクラブ構想と市民参加型まちづくり】
10. 地域スポーツ振興の基盤と事例研究【総合型地域スポーツクラブの育成】【コミュニティスクール】
11. 総合型地域スポーツクラブ構想の現代的意味と必要性【「新しい公共」の形成】【共助】
12. 地域コミュニティを創る「総合型地域スポーツクラブ」の育成方法【クラブづくりのステップ】
13. 総合型地域スポーツクラブのマネジメント【自主運営】【運営委員会組織】【受益者負担】【自主財源】【拠点施設の確保】
14. 総合型地域スポーツクラブと学校との連携・融合【学校部活動】【学校体育】
15. まとめ：「新しい公共」の形成を担う地域スポーツ経営とは何か【地域-学校スポーツ経営】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験、平素の学習状況・授業態度及び授業中の課題レポートの総合点で評価する。それぞれの割合は以下の通りである。
 定期試験：50%、平素の学習状況・授業態度：30%、授業中の課題レポート点：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

生涯スポーツの現状や地域社会の現状について、インターネット等を通じて事前に情報収集しておいてください。

コミュニティスポーツ論【夜】

履修上の注意 /Remarks

指定された教科書の購入を受講条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるとともに，地域社会やスポーツに興味・関心があることが大切ですので，集中して受講すること。

キーワード /Keywords

生涯スポーツ社会 豊かなスポーツライフ スポーツ振興 人づくり・地域づくり・まちづくり
新しい公共 総合型地域スポーツクラブ

身体適応論 【夜】

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

人間は、生きていく上で様々な環境に適応しながら生活をしている。その適応能も年齢や体力などによって異なる。その適応能を高め、健康を保持増進する手段として運動が有用である。本講義では、運動と身体適応能に着目し、その効果などについて理解を深め、個人の健康管理・健康教育のための知識を得ることを目的とする。講義全体のキーワードは、運動適応・運動と健康体力である。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 熱中症の予防
- 3回 運動とエネルギー代謝
- 4回 運動と肥満
- 5回 運動と骨格筋
- 6回 バイオメカニクス
- 7回 運動と神経系
- 8回 生理的限界と心理的限界
- 9回 運動と血圧
- 10回 運動と骨粗鬆症
- 11回 運動と呼吸系
- 12回 運動と疲労
- 13回 運動への行動変容(1)
- 14回 運動への行動変容(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストなど) ... 40% 期末試験 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「健康科学」とあわせて受講すれば、健康管理、健康教育について、さらに理解を深めることができる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

健康管理、体力、運動適応

トレーニング論【夜】

担当者名 徳永 政夫/地域創生学群
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

「体力を向上させたい、パワーをつけたい」などという言葉をよく耳にする。しかし、体力という言葉には多くの要素が含まれ、病気に耐えることや冷静に行動することなども広い意味での体力である。
この講義は、特に「筋力・持久力・瞬発力・柔軟性・調整力」の5つの要素をバランスよくレベルを高めていくことを目的としている。今や健康を月謝を払って買う時代になり、ジムに通う学生も多く、健康への関心が高まっている中で、週に1回では十分とは言えない頻度ではあるが、各自にあわせた授業を楽しく行う。尚、遅刻は認めないので自信のない人は受講しないでください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ウォーミングアップ
- 2回 クールダウン
- 3回 形態測定・各種測定
- 4回 柔軟性・立位体前屈
- 5回 筋力・ベンチプレス
- 6回 パワー・垂直跳び
- 7回 スピード・10mダッシュ
- 8回 敏捷性・Tテスト
- 9回 体重とウォーキング1
- 10回 体重とウォーキング2
- 11回 体重とジョギング
- 12回 脈拍とランニング
- 13回 体幹のトレーニングとは
- 14回 トレーニングと栄養
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※主に実技を体育館2階、トレーニング場で行う。
トレーニングウェア、室内シューズ、ノート筆記用具は毎回持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査の基礎【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

適切な方法論にそった社会調査とその分析結果は、社会に生きる人々の全体的な意識や問題意識を把握することができる。本講義では、社会調査の基礎について学ぶことを目的とする。社会調査についての基礎的な概念の理解や、調査にあたって適切な方法論を選択するための問題設定について学びながら、実際の資料を用いての分析も試みる。

教科書 /Textbooks

大谷信介(共編),1999,『社会調査へのアプローチ：論理と方法』 ミネルヴァ書房
佐藤郁也,2002,『フィールドワークの技法』 新曜社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

安田三郎,1960,『社会調査ハンドブック』 有斐閣
Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (共編),2006,『質的研究ハンドブック第1巻・第2巻』 北大路書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 01回 社会調査とは何か
- 02回 量的調査—アンケート調査の実際 【アンケート調査】
- 03回 量的調査—アンケート調査の実際 【測定尺度】
- 04回 量的調査—アンケート調査の実際 【調査統計】
- 05回 度数分布【階級】【相対度数分布】
- 06回 分散と標準偏差【平均】【分散】
- 07回 分散と標準偏差【標準偏差】
- 08回 分散と標準偏差【信頼区間】
- 09回 分散と標準偏差のまとめ・小テスト
- 10回 相関関係【単相関係数の推定・検定】 t 検定【母平均の検定】【対応あり・なし】
- 11回 カイ2乗検定【帰無仮説】【有意水準】
- 12回 分散分析【分散分析表】【F分布】【主効果】【交互作用】
- 13回 質的調査—フィールドワークとは何か【フィールドワーク】
- 14回 フィールドワークの方法論【参与観察】【インタビュー】
- 15回 まとめと試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・20% 小テスト・・・30% 期末試験・・・50%
5回以上の欠席があった場合は、課題提出及び期末試験の受験資格を失うものとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

耳慣れない言葉が毎回出てきますので、都度習熟の上で次の講義に望んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 1 【夜】

担当者名 /Instructor 藤藪 貴治 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

みなさんが目指す社会福祉の仕事としては、生活保護のケースワーカー、児童福祉司、児童養護施設職員、高齢者福祉施設職員、ケアマネジャー、病院ソーシャルワーカーなどが考えられる。
 そこで実践される社会福祉援助技術のほとんどが、個別援助技術であるケースワークである。
 しかし、ケースワークとは「人々とその環境との間に、個々別々に意識的にもたらされる調整を通じて、人格の発達をはかる諸過程（リッチモンド）」と定義されるように、漠然としていてイメージを掴みにくい。社会福祉関連法の学習と比べても、相談援助を書籍に記載される理論だけで把握するのは困難である。
 そこで、本講座では、生活保護のケースワークを中心に、具体的な事例演習を行うことにより、ケースワーク、個別援助の進め方を考えていく。

教科書 /Textbooks

福祉事務所ソーシャルワーカー必携-生活保護における社会福祉実践（全国社会福祉協議会）を予定していますが、正式には初回の授業でお伝えします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で伝達します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ケースワークとは何か
- 2 ケースワークの原則
- 3 ケースワークを必要とする人々とは
- 4 ケースワークの実践モデル
- 5 ケースワークのアプローチ
- 6～8 ケースワークの諸過程
- 9～10 面接技法
- 11～14 事例演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% 期末テスト...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

その他具体的な日程は、講義中に知らせる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の理論と方法 2 【夜】

担当者名 /Instructor 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

ソーシャルグループワークは、ソーシャルワーカーが、グループメンバーの相互作用やプログラム活動を意図的に活用することによって、グループの発達ひいてはメンバー1人ひとりの成長や問題解決を援助する技術である。ソーシャルグループワークの歴史の変遷、原則、展開方法について概観すると共に、演習によって集団の力動を体験することによって、グループワークを展開するために必要となる実践的な援助技術の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない
適宜レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法II 中央法規出版 2730円
- ・ グループワーク論 ミネルヴァ書房 大塚達雄・ 硯川真旬・ 黒木保博 2310円
- ・ グループワーク 勁草書房 大利一雄 2400円
- ・ グループワークの専門技術 中央法規出版 黒木保博、横山穰、水野良也、岩間伸之 2625円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス ソーシャルグループワークを学ぶために
- 2回 人と人が関わることの意義とかわりがもたらすもの
- 3回 人間の発達に果たす集団の役割
- 4回 「集団という場」で働く不思議な力
- 5回 リーダーシップの構造と機能【ソーシャルワーカーに求められるリーダーシップ】
- 6回 グループワークの歴史、定義、原則
- 7回 ソーシャルワーカーの自己覚知
- 8回 グループワークの構成要素
- 9回 グループワークの展開過程1 【準備期におけるワーカーの役割と技術】
- 10回 グループワークの展開過程2 【開始期におけるワーカーの役割と技術】
- 11回 グループワークの展開過程3 【作業期におけるワーカーの役割と技術】
- 12回 グループワークの展開過程4 【終結・移行期におけるワーカーの役割と技術】
- 13回 セルフヘルプグループのもつ力とその活用方法
- 14回 ソーシャルワーカーの自己活用のために 【ソーシャルワーカー自身のエンパワメント】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・50% 日常の授業への取り組み・・・30% 課題・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義は、様々なワークやディスカッションを用いて参加体験型で行う予定です。受講者の授業への積極的参加を希望します。

キーワード /Keywords

グループダイナミクス、シェアードリーダーシップ、相互援助システム、自己覚知、エンパワメント

福祉行財政と福祉計画【夜】

担当者名 /Instructor 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description
 現代の社会福祉サービスや支援は、国が基本的な政策の方向たて、市町村が住民により近い視点からベースとし、行政担当者とサービス利用者である住民及び事業者が参加して福祉計画を実施することが求められている。そこで、本授業では、社会福祉の実践を支える制度的な枠組みである福祉行財政と福祉計画について概説する。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会『福祉行財政と福祉計画』中央法規（2009年3月）2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 坂本忠次『現代社会福祉行財政-社会保障をどうするか-』大学教育出版（2009年4月）

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 福祉行財政と福祉計画I【福祉制度】
 - 2回 福祉行財政と福祉計画II【戦後社会福祉制度】
 - 3回 福祉行政I【行政の骨格】【社会福祉と法制度】
 - 4回 福祉行政II【福祉行政の組織】【社会福祉基礎構造】
 - 5回 福祉財政I【財政理論】【公共財】
 - 6回 福祉財政II【一般会計予算と社会保障関係費の動向】
 - 7回 福祉財政III【地方自治体の財政と民生費の動向】
 - 8回 福祉行政の組織・団体と専門職の役割【相談過程と体制】【地域相談システム】
 - 9回 福祉行財政まとめ
 - 10回 福祉計画の目的と意義【福祉援助】
 - 11回 福祉計画の論理と技法I【福祉計画の視点と過程】
 - 12回 福祉計画の論理と技法II【ニーズ把握】【評価】【住民参加】
 - 13回 福祉計画の実際I【老人福祉計画】【介護保険事業計画】
 - 14回 福祉計画の実際II【障害者・生涯福祉計画】【次世代育成支援行動計画】【地域福祉計画】
 - 15回 福祉計画まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況（小テスト・中間まとめ含む）... 60% 期末試験... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 テキストを講義前に読んでおくこと。また、新聞等のメディアを通して福祉問題、財政、行政についての現状認識を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉サービスの組織と経営【夜】

担当者名 /Instructor 中園 紀明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

これまで日本の福祉サービスの提供は手厚い施設整備費補助と措置費による裁量の余地の小さな運営がモデルとなっていた。しかし、特に90年代以降、少子高齢化の影響は、公的給付総額の拡大や多様な福祉ニーズへの対応、認知症高齢者の増加等、規制改革とともに新たな福祉経営に転換する時代となった。本科目では公的介護保険の動向も視野に入れながら21世紀型の福祉経営について学習する。

教科書 /Textbooks

「福祉サービスの組織と経営 第2版」 ISBN974-4-8058-3258-5

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉サービスとは何か。福祉サービスの変遷
- 2回 福祉サービスの提供と制度の役割
- 3回 法人の基本形態とガバナンス
- 4回 社会福祉法人による経営の現状
- 5回 特定非営利活動法人(NPO)の特徴
- 6回 福祉施設経営戦略の基礎
- 7回 事業計画の策定と実行評価
- 8回 福祉施設におけるサービスの質の向上
- 9回 集団の力学理論(組織構造)
- 10回 福祉施設の管理運営の方法
- 11回 福祉施設のサービスの質の評価
- 12回 福祉施設のリスクマネジメント
- 13回 福祉施設の苦情など対応
- 14回 福祉施設における人事・労務管理
- 15回 福祉施設における人材育成

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% 平常の学習状況 20% 課題 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営のベースである理念・使命を理解しながら、福祉ニーズとサービスの提供、そしてそれを支える具体的な福祉施設の経営を理解する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会保障【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓/地域創生学群

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
										○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス-1現代社会における社会保障制度の課題、2社会保障の概念や対象、理念についての理解、3社会保障の歴史的展開、4社会保障制度の体系、5年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、6諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。

教科書 /Textbooks

成清美治・真鍋顕久編著『イントロダクションシリーズ7 社会保障』学文社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会保障制度の概要
- 第2回 現代社会における社会保障制度の課題
- 第3回 欧米における社会保障制度の歴史的展開
- 第4回 日本における社会保障の歴史的展開
- 第5回 社会保障の財源と費用
- 第6回 社会保険と社会扶助の関係
- 第7回 公的保険制度と民間保険制度の関係
- 第8回 社会保障制度の体系1-年金、医療、介護、労災
- 第9回 社会保障制度の体系2-雇用、社会福祉、
- 第10回 社会保障制度の体系3-生活保護、家族手当
- 第11回 年金保険制度の具体的内容
- 第12回 医療保険制度の具体的内容
- 第13回 諸外国の社会保障制度 1【北欧諸国、ドイツ】
- 第14回 諸外国の社会保障制度 2【イギリス、アメリカ】
- 第15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時の小レポート(30点)+課題(20点)+期末試験(50点)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現在において自分が加入している、もしくは家族が加入している社会保険(年金、医療、介護、雇用)について、ホームページや区役所の資料、入門解説書等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士国家試験受験資格取得のシラバスに基づいていますが、教養として受講される学生も大歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会状況が不安定になるほど、社会保障の役割は大きくなります。現代だからこそ、社会保障はどうあるべきなのか、そして社会福祉学の立場から見て社会保障の望ましい姿について、考えてみたいと思います。そのために、まずは身近な社会保険から知ってみましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉士、社会保障、社会政策、年金、医療、介護、雇用